

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第534集

矢盛遺跡第12・13次発掘調査報告書

盛岡南新都市土地地区画整理事業関連遺跡調査

2009

独)都市再生機構岩手都市開発事務所
盛岡市都市整備部盛岡南整備課
財)岩手県文化振興事業団

矢盛遺跡第12・13次発掘調査報告書

盛岡南新都市土地区画整理事業関連遺跡調査

序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を越す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、盛岡南新都市土地区画整理事業に関連して平成19年度に発掘調査された盛岡市矢盛遺跡第12・13次調査の成果をまとめたものです。

今回の調査では、縄文時代のフラスコ状の穴、落とし穴、平安時代の溝跡も発見されていますが、主として発見されたのは中近世です。

昨年(第10・11次調査区)の隣接地に相当し、中近世(16世紀中心)の居館跡、集落跡の全貌が明らかになりました。

一辺40～50mの歪んだ方形(五角形に近い)に堀を巡らせた居館があり、その南側には阿じ垣の集落が見られます。集落は、遺跡の南限となる現在の堰に沿って西に広がるようです。また、居館跡や建物跡も、この堀に軸に沿っているようです。居館の主については不明ですが、「飯岡新田」村の領主の可能性が高いです。

本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました盛岡市都市整備部盛岡南整備課、盛岡市教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

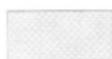
平成21年2月

財団法人 岩手県文化振興事業団

理事長 武田 牧雄

例 言

- 1 本報告書は、岩手県盛岡市飯岡新田4地割6-2ほかには所在する矢盛遺跡第12・13次発掘調査の結果を取録したものである。
- 2 今回の調査は、盛岡南新都市土地区画整理事業に伴う事前の発掘調査である。
調査は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課と独立行政法人都市再生機構岩手都市開発事務所および盛岡市都市整備部盛岡南整備課の協議を経て、動岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが担当した。
- 3 岩手県遺跡台帳に登録される遺跡番号は、LE26-0139である。
- 4 調査回数、発掘調査期間、担当者、調査面積、委託者、遺跡略号は次の通りである(詳細は第Ⅲ章)。
第12次 平成19年5月1日～11月29日/金子昭彦・千葉正彦・村木 敬・小林弘卓
18,343㎡/盛岡市/IYM-07-12
第13次 平成19年7月2日～11月1日/千葉正彦/1,040㎡/独立行政法人都市再生機構
IYM-07-13
- 5 室内整理期間と担当者は、次の通りである(詳細は、本文第Ⅲ章)。
第12次 平成19年11月1日～平成20年3月31日/金子昭彦・千葉正彦・小林弘卓
第13次 平成19年12月3日～12月14日/千葉正彦
- 6 執筆分担は次のとおりである。第Ⅳ章の2は藤田 祐、4・6は小林弘卓、第Ⅰ～Ⅱ章(Ⅰ章は委託者の原稿を元に作成)、第Ⅳ章5の(3)・第Ⅵ章(1)を千葉正彦、それ以外は金子が担当した。
- 7 遺構名は、盛岡市教育委員会の命名方法に準拠した。略号は以下の通り、番号は三桁で付け、第11次調査からの続き番号である。RB→掘立柱建物跡、RD→土坑、RE→竪穴建物跡、RF→カマド状遺構、RG→堀・溝跡、RI→井戸跡。
- 8 柱穴群の平面実測、遺物の分析・鑑定・保存処理は、次の機関に委託した。
柱穴群の平面実測：㈱シン技術コンサル、石質鑑定：花崗岩研究会、炭化材樹種同定：木炭協会、樹種同定：古代の森研究会、種子分析同定・火山灰分析同定：バリノ・サーヴェイ株式会社、木・鉄製品保存処理：岩手県立博物館
- 9 報告書作成にあたり、次の方々にご協力・御指導いただいた(敬称略)。
小林 克(秋田県埋蔵文化財センター)、室野秀文・菊地幸裕・今野公顕(盛岡市教育委員会)
- 10 調査成果はこれまでに現地公開資料や略報(「平成19年度発掘調査報告書」)に発表してきたが、本書の内容が優先するものである。
- 11 調査で得られた一切の資料は、岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。
- 12 遺構等の平面位置は、平面直角座標第X系を利用している(座標値は第4図参照)。座標値は、日本測地系に基づく。基準杭は、当方の希望の場所に委託者に設置していただいた。
- 13 土層の色調は、『新版標準土色帖』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修)を参考にした。
- 14 凡例は、下記に示した。遺構図版内のpは土器、sは石を示す。
- 15 参考文献は、それぞれの章、節、項の後に記している。



グライ化



焼土



灰の範囲

目 次

I 調査に至る経過	1
II 立地と環境	1
1 位置・地形・調査範囲	1
2 基本層序	4
3 調査履歴と周辺の遺跡	6
III 調査・整理の方法	10
1 野外調査	10
2 案内整理と報告書の作成	12
IV 遺 構	13
1 全体概要	13
(1) 調査位置・調査区・調査体制	13
(2) 調査結果・微地形・遺構	13
2 最北 区	14
(1) 概 要	14
(2) 遺 構	14
3 北 北 区	15
4 北 南 区	16
(1) 概 要	16
(2) 遺 構	16
5 中 央 区	17
(1) 概 要	17
(2) 竪穴建物跡	19
(3) 柱穴群・掘立柱建物跡・柱穴列	47
(4) 井戸跡	75
(5) 土 坑	90
(6) カマド状遺構	95
(7) 堀 跡	96
(8) 溝 跡	98
6 南 区	138

V	遺物	139
1	土師器・土師質土器	139
2	須恵器	140
3	陶器	140
4	磁器	140
5	土製品	141
6	石器・石製品	141
7	木製品	142
8	鉄製品	142
9	銭貨	142
10	その他自然遺物	142
VI	考察	147
1	掘立柱建物跡	147
2	中近世の矢盛遺跡	150
VII	まとめ	153
VIII	自然科学的分析	154
1	矢盛遺跡第12次調査区で検出された火山灰の分析調査	154
2	矢盛遺跡より出土した木製品の樹種	157
3	矢盛遺跡第12次調査区出土種実遺体の同定調査	159
	報告書抄録	236

表 目 次

新田遺構名対応表……………	目次の後	第2表 柱穴一覧表……………	55
第1表 欠盛遺跡の調査履歴……………	6	第3表 掘立柱建物跡一覧……………	147

図 版 目 次

第1図 遺跡の位置……………	2	第36図 柱穴群(10)……………	66
第2図 遺跡現況地形……………	3	第37図 掘立柱建物・柱列 位置図……………	67
第3図 地形分類……………	4	第38図 RI3020……………	68
第4図 調査範囲……………	5	第39図 RI021・022・024・025……………	69
第5図 周辺の遺跡……………	7	第40図 RI023・026~028……………	70
第6図 中世遺跡の分布……………	9	第41図 RI029~033……………	71
第7図 最北区遺構配置図……………	14	第42図 RI034・038……………	72
第8図 RD141土坑……………	14	第43図 RI039~044……………	73
第9図 北南区遺構配置図……………	16	第44図 RI012~014, RC004~006……………	74
第10図 RD117土坑……………	16	第45図 RI010井戸跡……………	101
第11図 北北区・中央区の地形・試掘トレンチ……………	31	第46図 RI011・014・029井戸跡……………	102
第12図 中央区遺構配置図……………	32	第47図 RI016・035井戸跡……………	103
第13図 中央区遺構名称(柱穴類のぞく)……………	33	第48図 RI018・019(1)・ 020(1)・021井戸跡……………	104
第14図 RE005竪穴建物跡……………	34	第49図 RI019(2)・020(2)井戸跡……………	105
第15図 RE007竪穴建物跡……………	35	第50図 RI022(2)~024(1)井戸跡……………	106
第16図 RE008竪穴建物跡……………	36	第51図 RI024(2)~026(1)井戸跡……………	107
第17図 RE009竪穴建物跡……………	37	第52図 RI026(2)~028井戸跡……………	108
第18図 RE010・011竪穴建物跡……………	38	第53図 RI030・031(1)・032(1)井戸跡……………	109
第19図 RE012・013竪穴建物跡……………	39	第54図 RI031(2)・032(2)井戸跡……………	110
第20図 RE014・015竪穴建物跡……………	40	第55図 RI033・034井戸跡……………	111
第21図 RE016竪穴建物跡……………	41	第56図 RI036(1)~040(1)井戸跡……………	112
第22図 RE017竪穴建物跡……………	42	第57図 RI036(2)~040(2)井戸跡……………	113
第23図 RE018竪穴建物跡……………	43	第58図 RI041・042(1)井戸跡……………	114
第24図 RE019竪穴建物跡……………	44	第59図 RI042(2)~044井戸跡……………	115
第25図 RE020竪穴建物跡……………	45	第60図 RI045・046井戸跡……………	116
第26図 RE021竪穴建物跡……………	46	第61図 RI047・048(1)井戸跡……………	117
第27図 柱穴群(1)……………	58	第62図 RI048(2)・049・050井戸跡……………	118
第28図 柱穴群(2)……………	59	第63図 RI051~053(1)井戸跡……………	119
第29図 柱穴群(3)……………	60	第64図 RI053(2)・054井戸跡……………	120
第30図 柱穴群(4)……………	61	第65図 RI055井戸跡……………	121
第31図 柱穴群(5)……………	61	第66図 RD118~122上坑……………	122
第32図 柱穴群(6)……………	62	第67図 RD123~125上坑……………	123
第33図 柱穴群(7)……………	63	第68図 RD126~130上坑……………	124
第34図 柱穴群(8)……………	64	第69図 RD131~136上坑……………	125
第35図 柱穴群(9)……………	65		

第70図	RD137～140土坑	126	第80図	RG040溝跡	136
第71図	RF002・003カマド状遺構	127	第81図	遺構内遺物集成図	137
第72図	RF004～006カマド状遺構	128	第82図	南区調査位置	138
第73図	RG015・016堀跡(1)	129	第83図	土師器、土師質土器、須恵器、陶器	143
第74図	RG015・016堀跡(2)	130	第84図	磁器、木製品	144
第75図	RG017・041・042溝跡	131	第85図	鉄製品	145
第76図	RG025溝跡	132	第86図	石器、石製品、銭貨	146
第77図	RG034溝跡	133	第87図	掘立柱建物形態分類	148
第78図	RG036・038(1)・043・044溝跡	134	第88図	掘立柱建物配置	149
第79図	RG038(2)溝跡	135	第89図	中央区の調査結果と現在の地形	152

写真図版目次

写真図版1	遺跡透景	163	写真図版24	RE015(2)・ RE016(1)竪穴建物跡	186
写真図版2	最北区	164	写真図版25	RE016竪穴建物跡(2)	187
写真図版3	北北区	165	写真図版26	RE017竪穴建物跡(1)	188
写真図版4	北南区・南区(1)	166	写真図版27	RE017(2)・RE018竪穴建物跡	189
写真図版5	北南区・南区(2)	167	写真図版28	RF019竪穴建物跡(1)	190
写真図版6	中央区全景・調査前風景	168	写真図版29	RE019竪穴建物跡(2)	191
写真図版7	中央区調査状況	169	写真図版30	RE020竪穴建物跡(1)	192
写真図版8	中央区柱穴群	170	写真図版31	RE020(2)・ RE021(1)竪穴建物跡	193
写真図版9	RB020・021	171	写真図版32	RE021竪穴建物跡(2)・ RI010井戸跡	194
写真図版10	RB022・203	172	写真図版33	RI011・014・016井戸跡	195
写真図版11	RB024・柱穴群	173	写真図版34	RI018・019井戸跡	196
写真図版12	RB030・033	174	写真図版35	RI020～023井戸跡	197
写真図版13	RB043・044	175	写真図版36	RI024～026井戸跡	198
写真図版14	RE005竪穴建物跡(1)	176	写真図版37	RI027～029井戸跡	199
写真図版15	RE005(2)・ RE007(1)竪穴建物跡	177	写真図版38	RI030～033井戸跡	200
写真図版16	RE007(2)・ RE008(1)竪穴建物跡	178	写真図版39	RI034～036井戸跡	201
写真図版17	RE008(2)・ RE009(1)竪穴建物跡	179	写真図版40	RI037・038・040井戸跡	202
写真図版18	RE009(2)・RE010竪穴建物跡	180	写真図版41	RI039・041井戸跡	203
写真図版19	RE010(2)・ RE011(1)竪穴建物跡	181	写真図版42	RI042～045井戸跡	204
写真図版20	RE011(2)・RE012竪穴建物跡	182	写真図版43	RI046～049井戸跡	205
写真図版21	RE013竪穴建物跡(1)	183	写真図版44	RI050～052井戸跡	206
写真図版22	RE013(2)・ RE014(1)竪穴建物跡	184	写真図版45	RI053～055(1)井戸跡	207
写真図版23	RE014(2)・ RE015(1)竪穴建物跡	185	写真図版46	RI055井戸跡(2)・ RD118～120土坑	208
			写真図版47	RD121～124土坑	209
			写真図版48	RD125～127土坑	210

写真図版49	RD128～130土坑	211	写真図版61	RG038 (2)、RG040 (1) 溝跡	223
写真図版50	RD131～134土坑	212	写真図版62	RG040 (2) 溝跡	224
写真図版51	RD135～138土坑	213	写真図版63	RG040 (3)、	
写真図版52	RD139・140土坑、			041、042 (1) 溝跡	225
	RF002カマド状遺構	214	写真図版64	RG042 (2)～044溝跡	226
写真図版53	RF003・004カマド状遺構	215	写真図版65	調査状況ほか (1)	227
写真図版54	RF005・006カマド状遺構、		写真図版66	調査状況ほか (2)	228
	中央区地形	216	写真図版67	土師器、須恵器	229
写真図版55	RG015堀跡 (1)	217	写真図版68	陶器、磁器 (1)	230
写真図版56	RG015堀跡 (2)	218	写真図版69	磁器 (2)、石器、石製品	231
写真図版57	RG015 (3)、RG016堀跡 (1)	219	写真図版70	土製品、錢貨、木製品 (1)	232
写真図版58	RG016堀跡 (2)、RG017溝跡	220	写真図版71	木製品 (2)	233
写真図版59	RG025・034溝跡	221	写真図版72	木製品 (3)、鉄製品 (1)	234
写真図版60	RG036・038溝跡 (1)	222	写真図版73	鉄製品 (2)	235

新旧遺構名対応表

・ 竪穴建物跡

第1号	RE019
第2号	RE018
第3号	RE017
第4号	RE016
第5号	RE020
第6号	RE021
7A4号	RE005
8a6号	RE007

第9号	RE010
第10号	RE009
第11号	RE008
第12号	RE012
第13号	RE011
第14号	RE014
第15号	RE013
第16号	RE015

・ 土坑

第1号	RD119
第2号	RD140
第3号	RD120
第4号	RD128
第5号	RD129
第6号	RD118
第7号	RD121
第8号	RD122

第9号	RD138
N10号	RD139
第11号	RD133
第12号	RD131
第13号	RD125
第14号	RD136
第15号	RD132
第16号	RD137

第17号	RD135
第18号	RD134
第19号	RD124
B-1号	RD117
陥し穴	RD141
第14号	RE014
第15号	RE013
第16号	RE015

・ 井戸跡

第1号	RI018
第2号	RI025
第3号	RI023
第4号	RI024
第5号	RI019
第6号	RI020
第7号	RI027
第8号	RI028
第9号	RI022

第10号	RI054
第11号	RI046
第12号	RI055
第13号	RI045
第14号	RI047
第15号	RI029
第16号	RI011
第17号	RI021
第18号	RI033

第19号	RI010
第20号	RI030
第21号	RI031
第22号	RI032
第23号	RI026
第24号	RI014
第25号	RI050
第26号	RI049
第27号	RI062

第28号	RI053
第29号	RI048
第30号	RI044
第31号	RI035
第32号	RI041
第33号	RI042
第34号	RI016
第35号	RI036
第36号	RI037

第37号	RI038
第38号	RI039
第39号	RI040
第40号	RI051
第41号	RI034
第42号	RI043

・ カマド状遺構

第1号	RI018
第2号	RI025
第3号	RI023
第4号	RI024
第5号	RI019

・ 堀跡

第1号	RI018
第2号	RI019

・ 溝跡

第1号	RG040
2a号	RG041
3b号	RG017
第4号	RG038
第5号	RG043
第6号	RG044
第7号	RD130

土坑

第8号	RG042
第9号	RD127
第10号	RD126
第11号	RG025
第12号	RD123
4b号	RG036、38
第14号	RD034

土坑

土坑

土坑

土坑

I 調査に至る経過

盛岡南新都市土地区画整理事業は、平成2年9月に岩手県、盛岡市、旧都南村の三者が地域振興整備公団（現独立行政法人都市再生機構）に対して事業要請を行い、これを受けて公団が実施計画を作成した。その結果、平成3年度から平成22年度までの20年間を事業予定期間とし、面積約313haを対象とした土地区画整理事業が実施されることとなった。

この間、事業の対象地域に係わる埋蔵文化財の取扱についても協議が重ねられ、盛岡市教育委員会が試掘を行い、調査を必要とする範囲を確定した上で、財団法人文化振興事業団の受託事業として、当埋蔵文化財センターが本調査を行っている。

矢盛遺跡第12・13次調査については、岩手県教育委員会が盛岡市と協議の結果、平成19年度の事業として確定した。第12次調査は盛岡市都市整備部委託分の18,348㎡を対象として平成19年5月1日から11月29日まで、第13次調査は独立行政法人都市再生機構委託分の1,040㎡を対象として同年7月2日から11月1日まで実施することとなった。

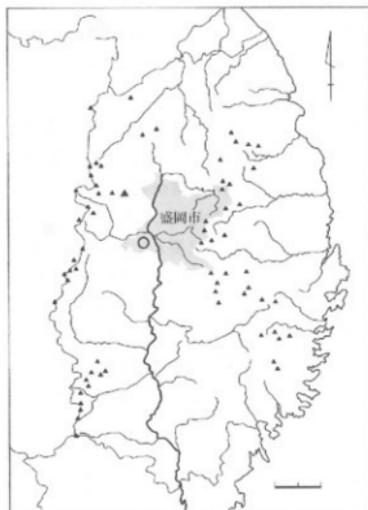
II 立地と環境

1 位置・地形・調査範囲

位置（第1・2図） 矢盛遺跡は岩手県盛岡市の南西部「飯岡新田4地割」および「向中野字野原」に所在し、東日本旅客鉄道東北線盛岡駅の南方約3km、北緯39度40分20～30秒、東経141度08分00～08秒付近、平石川右岸の沖積段丘面および旧河道に立地している。盛岡市は岩手県の県庁所在地である。現在の盛岡市は平成18年1月、北に隣接する岩手郡玉山村との合併により成立したもので、総面積は886.47km²、平成18年10月時点で総人口300,164人である。市域の主要部分は、北西の岩手山（2,038m）・北東の鉾神山（1,124m）・南東の早池峰山（1,913m）といった山稜に囲まれた北上盆地末端部にあたり、北上川とその支流である零石川・中津川・梁川との合流点付近に広がる平野部である。遺跡が所在する飯岡新田・向中野地区は盛岡市の南西部にあり、今回の調査原因となった「盛岡南新都市土地区画事業」による大規模開発が進行中で、その景観を著しく変貌させている。

地形（第3図） 平石川以北においては岩手山から供給される火山性碎屑物・火山灰により中位の段丘面（砂礫段丘Ⅱ）・火山灰砂台地が発達しているのに対して、矢盛遺跡が位置する平石川以南・北上川以西では零石川の頻繁な流路変遷とその下刻・堆積作用により低位の沖積段丘面（砂礫段丘Ⅲ）が形成されている。低位段丘面には零石川の河道変遷にともなう大きくは4期にわたる旧河道が確認され、さらに小河川の河道痕跡も網目状に入組んで小規模な微高地を形成している。当地域の古代遺跡の多くはこの微高地上に立地している。旧河道は今回の調査区でも2条確認されている。

調査範囲（第2・4図） 岩手県教育委員会の「遺跡情報検索システム」や盛岡市教育委員会作成の遺跡地図（2000年版）等を参照すると、遺跡の範囲は第1次調査が行われた現・岩手県工業技術センター付近を西端とし、北辺は第3～6次調査区付近の段丘縁、東は盛岡スコール高校実習農場、南辺は農業用水路により区切られた南北300m・東西470m・外周1.24kmの範囲で、総面積約0.1km²と推定されている。なお遺跡範囲は現時点で変更され、当初の括りよりも東側に範囲拡大されている（第2図）。遺跡の現況は宅地・更地（公共住宅



1:25000 数値地図〔盛岡〕「日誌」



第1図 遺跡の位置



第2図 遺跡現況地形

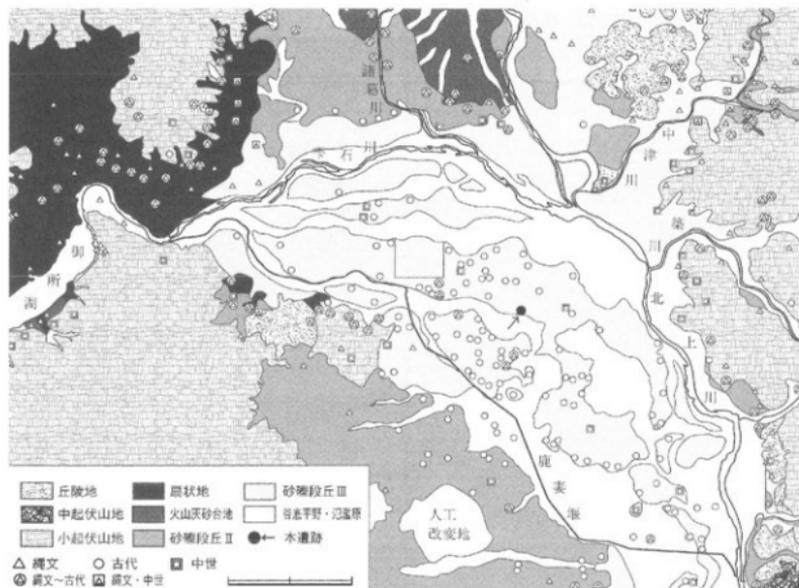
跡地)・休耕田・畑地などで、標高は約122~125mである。今回の調査区は遺跡範囲全体で見れば中央から南部にあたる。調査区は前回までの調査終了部分、存置区域(非開発区域)、道路や水路の存在などにより5区に分かれる。このうち中央区は前年度調査された第10・11次調査区に隣接している。現況はそれぞれ、最北区は宅地、北北区・北南区は休耕田と畑地、中央区は畑地・休耕田および宅地、南区は休耕田である。

2 基本層序

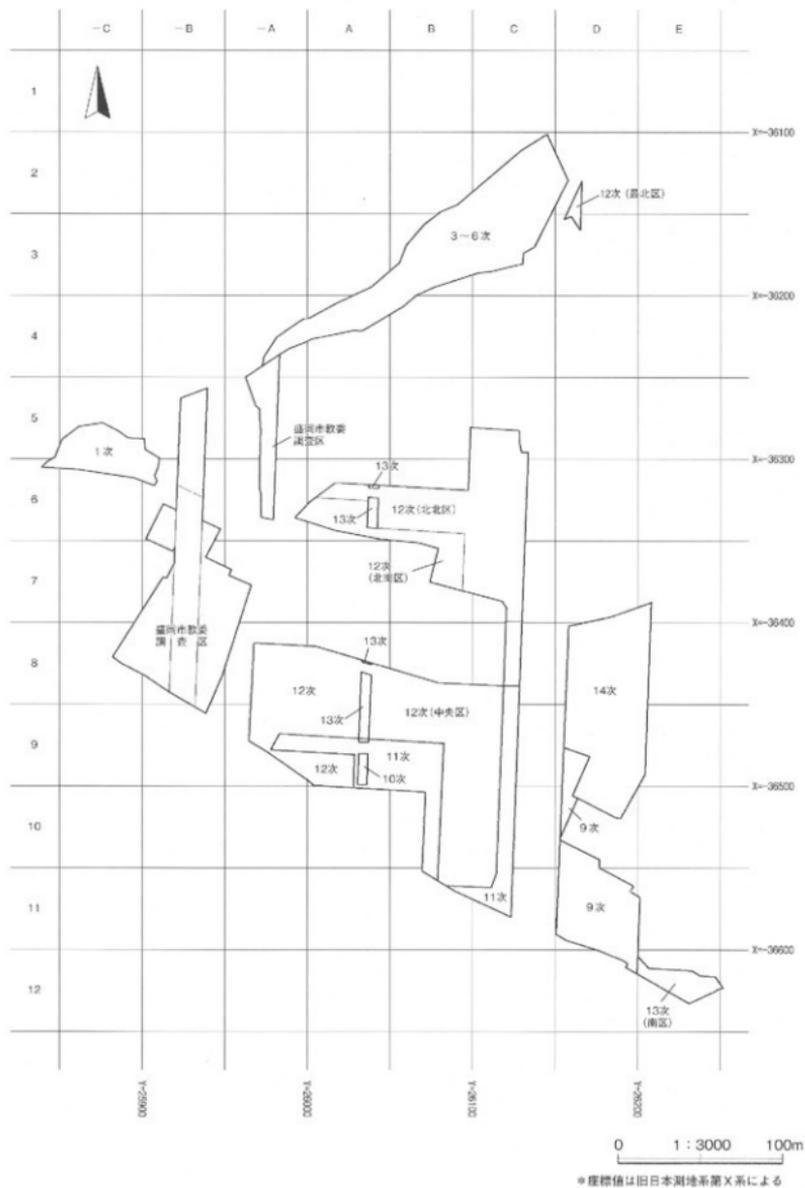
本遺跡の立地する低位段丘では、前述のとおり砂礫層を基底として、その上位を水成シルト層、現表土が覆っている。当地域の層序は基本的には上述ようになるが、今次調査区では概ね次のような土層堆積の様相を示している。

I層	暗褐色土	現表土、耕作土。層厚20~30cm。
I-II層	暗褐色土	II層よりくすんだ灰色。層厚0~20cm。遺構検出面(中世)。
II層	黒褐色土	クロボク土。旧河道で厚く、層厚0~40cm。遺構検出面。
III層	暗褐色土	漸移層。層厚0~20cm。遺構検出面。
IV層	黄褐色土	粘土質だが地点により砂質。層厚30~40cm。最終の遺構検出面。
V層	黄褐色砂礫	地点により黒褐色を呈する。上位は砂、下位は礫。層厚不明。

調査区は現況ではあまり起伏のない平坦な地形であるが、実際には微高地と旧河道部分からなっており、旧河道(湿地)の埋没と微高地上面の削平の所産である。もともと微高地だった部分では後世の削平によりI層直下でIV層やV層が露出する場合が多い一方、旧河道の落ち込み部分ではI-II層~III層が厚く残存しているなど、その層序は一様ではない。



第3図 地形分類



第4図 調査範囲

3 調査履歴と周辺の遺跡

調査履歴（第4図）平成4年以降、盛岡南新区市区画整理事業対象範囲の遺跡群について盛岡市教育委員会と当センターがそれぞれ調査を実施しており、矢盛遺跡については試掘調査も含めて、昨年度までに合計11次の調査が行われた。また今回の12・13次調査と並行して14次調査が行われている。そのうち、当センターが担当した調査の範囲を第4図に、概要を第1表に示した。遺跡範囲の中で見れば、第1次は遺跡の西側、第3～6次調査は北端部分、第9～11・14次では南～南東部分を対象としている。検出遺構の内容は、縄文時代・古代（平安時代）・中世～近世のものがあるが、遺構数では縄文時代の陥し穴が卓越しており、矢盛遺跡のこれまでの調査主体は縄文時代の斧場だったといえる。

第1表 矢盛遺跡の調査履歴

次数	年度	調査面積	位置・状況	標高	検出遺構	出土遺物	文献
1	1992	1,200㎡	遺跡西側の低高地、畑地・宅地。盛岡工業団地センターへの侵入路部分。	124m	古代：墓穴10坑（10世～11期） 古代瓦葺：土坑1 時期不明：溝跡1	土師器、須恵器、鉄製品	206頁
3	2002	1,560㎡	遺跡北端部の残瓦跡。	122m	縄文：陥し穴13 遺構：網文柱礎物3・井戸1 時期不明：土坑2	中世陶器（磁鉢、瓦器・土師器、木製品	451頁
4	2002	1,440㎡		122m	縄文：陥し穴14 遺構：井戸1 時期不明：土坑4・井戸1	木製品（井戸縁材等）	423頁
5	2004	180㎡	遺跡北端部の段丘西端部、第3・4次の内訳調査地。	122m	縄文：陥し穴3 時期不明：土坑3、溝跡2、柱穴1	土師器片	469頁
6	2004	3,289㎡	遺跡西側の段丘西端部、第3・4次の内訳調査地。	122m	縄文：陥し穴6 時期不明：土坑2、5穴状1・溝跡1・井戸跡1	縄文土師、土師器・須恵器、近世陶器、瓦葺	488頁
9	2006	5,059㎡	遺跡の西側調査地。	122m	古代：溝跡2 時代不明：網文柱礎物2・土坑2・溝跡3・柱穴1・柱穴201	土師器・須恵器、陶磁器	508頁
10	2006	147㎡	遺跡の南～南東部分、林野区。	123m	中世（16世紀代）：陥し穴遺物6、礎石建物14、井戸跡13、土坑19、溝跡2、遺跡跡1、土師器1、惣外器1、溝跡2、柱穴	中世：陶磁器（土）、鉄製品（刀子・釘・銅）、木製品（曲げ物類）	516頁
11	2006	3,601㎡	9次調査区の内訳調査地、遺跡南東部、林野区、畑地。	121m	縄文：陥し穴2 時期不明：土坑2、溝跡4、網文柱礎物1、井戸跡1・2、土坑1、柱穴10	縄文土師器類	523頁
14	2007	7,147㎡	9次調査区の内訳調査地、遺跡南東部、林野区、畑地。	121m	縄文：陥し穴2 時期不明：土坑2、溝跡4、網文柱礎物1、井戸跡1・2、土坑1、柱穴10	縄文土師器類	523頁

周辺の遺跡（第5・6図）北上川西岸・雫石川南岸の低位段丘面には、縄文時代～中・近世の多数の遺跡が確認されているが、主体は微高地上に立地する古代の遺跡である。（第5図、第2表）

縄文時代の遺跡は当地域では少ない。竪穴住居跡は本宮熊堂A、台太郎、細谷地で確認されており、ともに晩期である。また、本遺跡のほか、細谷地、稲荷、本宮熊堂B、鬼柳A、等で陥し穴群が検出されている。

古代の遺跡は多数確認されている。集落遺跡としては、台太郎、細谷地、飯岡才川、向中野館、野古A、本宮熊堂B、飯岡沢田、鬼柳A、南仙北、等において8～10世紀代の竪穴住居跡が多数検出されており、総数1000棟を超える。また、飯岡才川と飯岡沢田では、葬儀に係る遺構（古墳や円形周溝）が検出されており、墓域だったことが判明している。

今回調査の主体時期である中世～近世初期については、時代背景を踏まえて、少し範囲を広げて見ることにする。前回調査報告でも述べられているが、中世の盛岡周辺の情勢について簡単に触れておく。文治5年（1189）の奥州藤原氏の滅亡後、陸奥国では関東御家人が地頭に任ぜられ、現在の盛岡市周辺を含む岩手郡は工藤氏、志和郡は足利氏〔斯波氏〕、糠部郡は北条氏の支配地となった。14世紀、鎌倉幕府の滅亡、南北朝動乱の余波は陸奥にも及んだ。この時期、糠部郡では北条氏の地頭代、郡奉行を務めた南部氏が台頭する一方、室町幕府管領職を世襲する斯波氏が「斯波御所」と尊称され、志和郡高水寺城に拠って勢力を誇った。本遺跡のある半石川以南の盛岡市南西部は、天正14年頃までは斯波氏一族・家臣の猪谷氏、飯岡氏、太田氏らが割拠し、斯波御所の勢力下にあったと推測されるが、文字



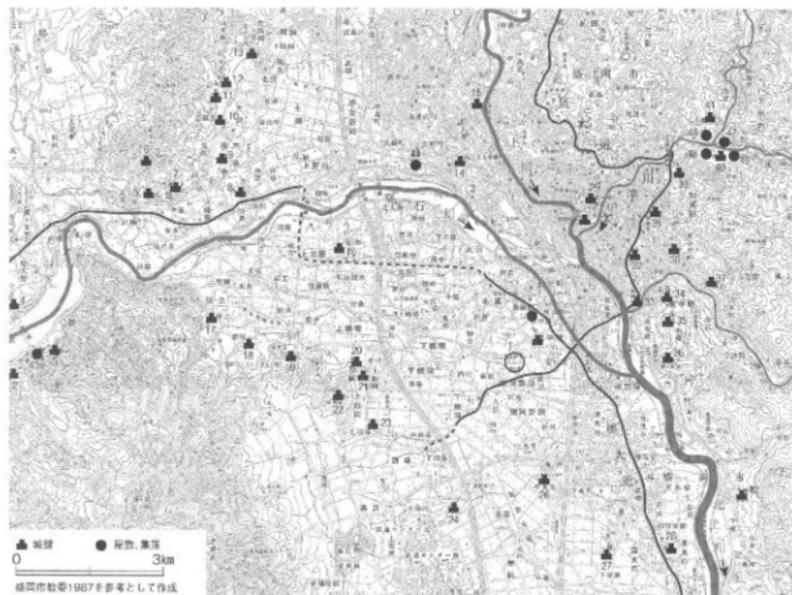
遺跡名	時代・後世遺構	出土遺物
1 次 塚	縄文 竊穴。平安 竊穴住居。中世 瓦筒・碓石(板)、竊穴建物、縄文柱礎物、舟(等)、古瓦・竊穴柱礎物。	土師器、須恵器、陶磁器、木製品。
2 大宮北	古代: 竊穴住居、溝	
3 大宮	中世: 大溝(厨敷?)	かわらけ。
4 小 塚	古代: 竊穴住、瓦葺・竊立柱礎物	
5 宮 沢	古代: 溝	
6 鬼 塚 A	古代: 竊穴住居 瓦葺・竊立柱礎物	土師器、須恵器。
7 鬼 塚 B	古代	
8 鬼 塚 C	古代	
9 堀 河	古代: 竊穴住居	
10 本宮屋敷A	縄文: 竊穴住居	縄文土器(晩期)。
11 本宮屋敷B	縄文: 竊穴。 古代: 竊穴住、竊立柱礎物	縄文土器、土師器、須恵器、土製品。
12 野 吉 B	古代: 溝	
13 野 吉 A	古代: 竊穴住居、竊立柱礎物	
14 坂河天日	古代: 古墳部、竊穴住居	須生土器、土師器、須恵器。
15 坂河才月	縄文: 竊穴。奈良: 古墳部。平安: 竊穴住居、竊立柱礎物、河形溝渠、瓦葺・土橋等。	土師器、須恵器。
16 台 太郎	古代: 竊穴住居。中世: 大黒回廊(13世紀末)、礎、真河堀籠、程塚? (12世紀)。	土師器、須恵器、須生土器、小銅器。
17 向中野塚	古代: 竊穴住居。 中世: 平塚、礎。	土師器、須恵器、木製品。
18 堀 谷 池	縄文: 竊穴住居。古代: 竊穴住居、瓦葺・土片葺部。	縄文土器(晩期)、土師器、須恵器、菅笠脚輪部。

遺跡名	時代・後世遺構	出土遺物
19 青 輪 北	縄文: 竊穴 古代: 竊穴住居 中世: 溝	縄文土器、土師器、須恵器。
20 向中野塚	古代	
21 夕 覚	古代	
22 古 塚	古代	
23 フ久根1	縄文・古代	
24 高 塚 敷 1	古代	
25 高 塚 敷 2	古代	
26 西	古代	
27 溝 沢 丁	古代	
28 溝 沢 丁	古代	
29 飯河林崎1	古代: 竊穴住居、竊立柱礎物	判形瓦
30 西 村	古代: 竊穴住居。中世: 礎部?	須生土器
31 中 塚 敷	古代	
32 西 日 A	古代	
33 西 日 田	縄文: 土坑、竊穴。古代:	
34 西 日 B	古代	
35 二 又	古代: 竊穴住居、溝	
36 上 塚 敷 1	縄文・古代	
37 水 門	古代	
38 小 塚	古代	

第5図 周辺の遺跡

史料が乏しく詳しい状況は不明である。この両勢力の狭間において、志和郡・岩手郡では河村氏、厨川氏、滝石氏らの新興中領主らが自立の動きを示していた。15世紀末、奥州も戦国争乱の時代に入り、三戸を拠点とし北奥羽の盟主となった三戸南部氏の勢力が岩手郡にまで拡大している。天正10年(1582)、三戸南部の家督を相続した南部信直は、岩手郡滝石を攻略し、次いで天正16年(1588)には高水寺城を攻略して斯波御所を滅ぼした。かくして三戸南部氏は岩手・志和郡を支配地としたが、一方で大浦氏の離反により津軽地方を奪われた。津軽を失ったことで南部氏の領地は馬淵川・北上川流域が中心となり、居城を三戸からより南方へと移す必要が生じた。天正19年(1591)の九戸の乱が鎮定されると、南部氏配下の福士氏の支配地であり、水陸交通の要衝かつ穀倉地帯であった岩手郡不來方に、「盛岡城」の普請が開始される。盛岡城は1593年頃から築城が開始され、完成したのは実に1633年のことである。以来、盛岡は江戸時代をとおして南部10万石の城下として発展した。藩政時代、当地域には「飯岡通」「向中野見前通」が置かれ、代官所直轄地となった。16世紀末、鹿妻穴堰が開削され、平石川から澁淵用水が安定して供給されるようになるが、当地域における新田開発が進行したのはこのころと推測される。

当地域の中世遺跡の分布を見る(第6図、第3表)。該期遺跡はその性格から、城館跡、屋敷・集落跡、塚域・祭祀跡、等に分類できる。まず、城館跡(館跡)は当地域にも多数存在しているが、丘陵・山地に立地するもの、周囲との比高差の少ない段丘面上に立地するものとに分かれる。前者はいわゆる山城・平山城であり、猪去館、猪去八幡館、飯岡館、飯岡山館、小和田館などがあり、軍事拠点の性格の強いものである。猪去館は斯波一族の猪去斯波氏の依拠した館とされる。一方、後者は平城とよばれるもので、地域支配の拠点としての性格が強いものと推測される。太田館や向中野館(北館・南館)は後者であり、ともに飯岡館に拠る飯岡氏の支配拠点であったとされている。向中野北館については、これまで8次に及ぶ調査が行われており、空堀と土橋により区画された曲輪が確認されている。屋敷跡・集落跡としては稲荷町遺跡、繁三遺跡、台太郎遺跡がある。稲荷町遺跡では径300mの範囲を空堀が区画しており、その内部に掘立建物17棟で構成される集落が確認された。出土遺物(かわかけや深美深陶器)から12世紀代と推測されている。繁三遺跡は沢内街道に面する台地上に立地する15世紀代の屋敷跡である。溝による区画内に、庇・縁をもち間仕切りされた主屋建物と、長屋風の付属屋、堅穴遺構が配置されており、空町時代の領主屋敷と推測されている。このような環濠屋敷(豪族居館)は他に浅岸地区の落合・栗師社脇・環根などでも見られる。台太郎遺跡では堀によって区画した内部に大形の掘立建物配置されており、出土遺物から鎌倉時代の在地領主の居館跡と推測されている。墓域は台太郎で300基以上の土壇墓群が検出されている。13世紀後半～15世紀代の共同墓地と推測されている。また、祭祀跡としては経塚がある。本遺跡の周辺では台太郎で深美深小形壺が、内村で常滑産大甕が出土しており、経塚の可能性が指摘されている。また、ほぼ確実に経塚とされるものとしては、深美産壺が出土した一本松経塚(盛岡市繁)、常滑産三筋文壺が出土した湯壺経塚(盛岡市湯沢)がある。上記以外の該期遺跡としては街道跡がある。現在周知されている街道跡には、奥州道中(奥州街道)、秋田街道、志和街道(稲荷街道)などがあるが、いずれも藩政期に整備された近世の街道である。紫波町方面から北上する奥州道中は、盛岡市川久保までほぼ現在の国道4号に重なり合い、川久保で西に折れて、仙北町から現明治橋付近で北上川を渡って盛岡城下を経由して北へと延びている。近世の奥州道中に先行する中世期の「奥大道」については、その道筋が異なっており、現市街地東～北側の山裾に沿って北へと延びていたようである。室野秀文氏によれば、この奥大道から分岐して南西へと向かう街道が存在しており、本遺跡南側隣接地付近を通っていたらしい。この街道は西の奥羽山系の山裾に沿って紫波方面(志和稲荷?)へと南下するルートと推測される。本遺跡前回調査において、側溝をとまう道路遺構が居館から南へと続いていること



名称	遺構・遺物	城主等
1 矢野 堀	堀、堀穴建物、井戸、竪立柱建物。	
2 障子堀	「障子堀」。堀、平場、土塁。	障子氏
3 藤の堀	堀、堀切、平場、土塁。	田口氏?
4 善城堀	平場。	
5 八幡西堀	平場、堀切。	
6 舟通山堀		
7 八幡堀	兵衛。平場、馬車路、堀、土塁。	
8 大塚堀	堀、竪立柱建物、堀組。	大塚氏
9 参勤の森堀		
10 エゾ堀	平場。	
11 藤本堀		
12 大沢堀	平場、大池、堀、土塁。	
13 藤敷堀	礎石組、堀。	藤土氏
14 里 堀	12-16世紀。竪、竪立柱建物跡、平場、両組跡。	土庫氏(河内氏)
15 安達堀	影川堀。16世紀。平場、堀、堀跡。	工藤氏光
16 太郎堀	堀、土塁。	太郎氏
17 堀八幡堀	堀、平場。	
18 藤土堀	堀、平場、土塁、竪立柱建物。	藤土新流氏
19 小和田堀	堀、平場、土塁。	
20 月見堀		
21 飯岡堀	堀、平場、土塁。	飯岡氏
22 飯岡山堀		
23 日輪堀	小池、堀、平場。	岩倉常太郎
24 火 堀	二重堀。	杉山一学
25 北 堀	岡中野堀。堀、平場、土塁。	北野文七
26 南 堀	岡中野堀。	南野文七
28 水井堀	柱礎。	水井某男

名称	遺構・遺物	城主等
27 見前堀	土塁、堀、竪立柱建物。	見前右兵衛→目戸内藤
28 古 堀	堀、土塁。	
29 藤 堀	北堀。近世徳川城の自由堀部分。	藤土重善
30 法 堀	東堀。近世徳川城の本丸-三九付迄。	堀土重善
31 花 堀	「花堀跡」。平場。	三土氏?
32 中野堀		中野源次
33 新山堀		
34 藤西堀		藤西氏
35 安達堀	平場、堀池跡。	
36 藤十森堀	堀+森堀。堀、平場、土塁。	
37 仁込田堀	平場、堀。	仁込田忠常
38 藤本堀		
39 藤子十堀	平場、堀跡。	
40 上村堀	18世紀の小湊川城跡。大江、竪立柱建物。及世の遺構残存。	浅野氏
41 虎ヶ木堀	堀、平場、堀。	
42 平代森堀	堀、土庫、遺産物。	平代森善哉
43 藤田遺跡	大溝。竪立柱建物。	
44 藤岡町	12世紀の礎石。空堀、土塁。竪立柱建物跡。かわらけ、白磁、青瓦など	
45 台 堀	13世紀末の遺構(北条式問津?)。大溝(明水堀)。竪立柱建物、溝、柱礎?。かわらけ。	
46 藤 合	遺構・遺産物(12世紀後半)。遺構(明水堀)。竪立柱建物、溝、柱礎。かわらけ、青瓦、瓦、瓦葺きなど。	
47 藤田社跡	東西跡(12世紀後半)。	
48 前 野	東西跡(12世紀後半)。竪立柱建物、堀穴建物、溝、柱礎?。かわらけ。	
49 藤 塚	東西跡。竪立柱建物、堀穴建物。かわらけ、青瓦、瓦、瓦葺きなど。	

第6図 中世遺跡の分布

が確認されている。この街道へと連結するものかもしれない。

引用・参考文献

- 岩手県 1972 『岩手県史 第3巻 中世篇下』(復刻版)
北上市立博物館 2000 『和賀一族の興亡(総集編)』
室野秀文 2008 『遺跡からみた盛岡の歴史 中世・近世』盛岡市遺跡の学び館セミナー資料
盛岡市 1978 『盛岡市史 復刻版 第1巻』
盛岡市遺跡の学び館 2005 『乱世を駆けぬけた武将たち』第2回企画展解説図録

Ⅲ 調査・整理の方法

1 野外調査

(a) 調査経過(第4図)

調査面積は、最北区(機構171㎡)、北北区(市約5,400㎡+機構121㎡)、北南区(市1,594㎡+機構34㎡)、中央区(市約11,349㎡+機構248㎡)、南区(機構637㎡)で、市分18,343㎡、都市再生機構分1,040+171(細谷地遺跡カウント分)㎡である。当初は、市分13,024㎡、機構分369+171㎡だったので、大幅に増加している。

調査区は、委託者ごとにも分かれる(第4図)。盛岡市委託分が第12次調査区、独立行政法人都市再生機構(以下、都市再生機構、あるいは機構)第13次調査区となる。第12次調査区は宅地分、第13次調査区は道路分を主体とするため、前者は広く、後者は狭く細長い(第4図)。最北区と南区は、第13次のみ、北区と中央区は、広い第12次調査区の中央付近に南北に延びる細い第13次調査区がある。

調査は主として二班で行い、金子・千葉調査員+作業員約25名と村木・小林調査員+作業員約18名で、仮に前者を1班、後者を2班とすると、2班は10月9日(火)~31日(水)のみ調査に加わり、北北区と中央区は1班、北南区と南区を2班が担当した。最北区は、細谷地遺跡の方が近いということで、同遺跡調査班の藤田調査員が作業員数名と7月前半に調査した。北北区の調査期間は、5月1日(火)~31日(木)、中央区は、ほぼ6月1日(金)~11月29日(木)である。

5月1日(火)北北区調査開始。7日(月)~18日(金)重機による粗掘り(Ⅲ層下部~Ⅳ層上面まで)。今年度予算をかなり多く確保したことから調査面積を大幅に増加することになり、そのための打ち合わせが21日(月)に、県教育委員会と委託者、当センターで現場プレハブにおいて持たれた。その結果、中央区に約3,000㎡と南区が追加、さらに後に北南区が追加されている。北北区は、削平が著しく遺構が全く確認できずに5月いっぱい終了し(6月7日終了確認)、中央区に移った。

6月1日(金)~7月13日(金)、新人作業員9名増加(その後は別の調査班に6名移ったが新人だけではない)。7月前半は、人力の粗掘りにより遺構の検出状況を確認(詳細は本書Ⅳ章5)、この結果を受けて、重機による粗掘りを6月13日(水)~27日(木)に行った。この時点では北端は入れず、また排上の関係で南東端は残したのだが、それでも広大なため、最盛期にはパワーショベル0.45が2台、キャリアダンプ5t4台稼働した。雨が少なかったため乾燥して土ほりがひどく、重機を使って水をまくなど苦労した。作業員は、6月後半は南西部、7月上旬は東部Ⅱ層面の検出。

7月中旬から、粗掘り・検出を行う男性班、柱穴の確認・精査を行う柱穴班、その他班の三班に分かれて調査を行い(詳細は本書Ⅳ章5)、柱穴の平面実測は外部委託した(後述)。残っていた南東端の重機に

よる粗掘りを7月19日(木)～24日(火)に、立木や煙などの関係で入れなかった北端部は、10月9日(火)～16日(火)に行った(多くの直径1mを超える抜根含む)。10月は2班も調査に加わったが、北南区は北区の続きの旧河道を検出、南区はカクランがひどく、早めに終了。

9月17日(月)は記録的な大雨で調査区は膝上まで冠水し、18日(火)は作業休止、復旧は、細谷地遺跡の作業員の援助を受けても4日かかった。9月29日(土)は現地説明会を開催し(中央区のみ)、参加約80名。夏の間あれほど悩まされていた井戸の湧水は、船刈りを控えて堰の水が減少し、やがて止まると、全くなくなり、今度は水洗簡易トイレや道具洗いの水にも事欠くようになった。

ここまで比較的順調だったが、10月末になって中央区西端を検出したところ、それまでなかった遺構の著しい重複が認められ(詳細は本書Ⅳ章5)、11月の作業を非常に困難なものにした。さらに、これまでよい天気が続き水不足で困っていたのだが、11月になると、1日(木)、8日(木)、12日(月)、15日(木)と雨が続くようになり、自力での調査終了がおぼつかなくなると、11月後半は、他の調査員、細谷地遺跡の作業員の大幅な支援を受けることとなった。また、このころから予算の執行状況を強く意識せざるを得なくなり、この点も頭を悩ますこととなった。

11月19日(月)からは急に冷え雨が降るようになり、22日(木)にはこの時期には珍しい大雪となった。それでも、26日(月)以降は天候に恵まれ、何とか29日(木)午前までに全ての遺構精査を終え午後には機材を搬出して調査終了となった。11月1日(木)には、中央区の上の急ぐ部分(写真図版6)、北南区、南区の終了確認(県、市教育委員会、委託者出席)、28日(水)中央区残りの終了確認(同)、航空写真撮影(北南区、南区は10月31日に撮影)が行われた。

(b) グリッドについて

盛岡市教育委員会の指示に従った。平面直角座標(第X系)に合わせ、大グリッドは50×50mのメッシュで、東西方向に西からA、B、Cのアルファベット、南北方向には北から1、2、3のアラビア数字を付し、1A、1B等と呼称した(第4図)。座標値は、第4図に記したが、数値は日本測地系である。小グリッドは、大グリッドを25等分し、南北方向に北から1、2、3のアラビア数字、東西方向には西からa、b、cのアルファベットをつけ(第13図参照)、1A1a等と呼称した。

(c) 遺構の名称について

遺構名も、盛岡市教育委員会に準じている。略号は以下の通りで、番号は二桁で付け、第11次調査からの続き番号である。RE→竪穴建物跡、RB→掘立柱建物跡、RC→柱穴列、RD→土坑、RI→井戸跡、RF→カマド状遺構、RG→堀、溝跡。

野外では第〇号住居跡、第〇号土坑のように作業順に便宜的に名前を付け、報告時に全て付け直した。新旧遺構名対応表は、日次の次に示したので参照いただきたい。

(d) 中央区柱穴群の調査方法および平面実測の委託について

中央区は前年度の続きであり、多数の柱穴の検出が予想された。柱穴の並びから掘立柱建物跡の構成を考えなければならぬが、調査終了後に行うと柱穴の取りこぼしがあっても対応できない。現地でも図化を平行しながら確認する必要があるが、そうすると調査に多人な時間がかかる。そこで、調査員1名をほぼ柱穴専従とし、作業員は掘立柱建物跡の構成を考えるのに負担にならない程度の約5名をつけ、柱穴調査専とした。そして、時間がかかる平面実測については外部委託とし、入札の結果株式会社技術コンサルが受託し、ラジコンヘリコプターによる写真測量を行った。当初、検出後と精査後の二回の図化を予定し、現に南西部は検出後に図化したのだが(7月18日)、手算的に二回ずつは難しいと言われ、また予想より柱穴が少なく柱穴同士の重複は稀なことから、精査後の1回とし、東部を10月23日(火)、西～中央部を11月28日(水)に行った。

図化は、縮尺1/50、1/100の柱穴平面図のほか、他の遺構平面図、前年度の遺構配置図を合成して縮尺1/500の遺構配置図も作成してもらった。

(e) 調査方針

途中で調査面積の増加がしばしば行われ、なかなか終了までを見送せなかったことから、ダメ押しはできないものと判断し、検出が1回のみの場合では、通常より深くIV層上面以下まで下けている。

(f) 気象ほかの調査条件について

5月の連休に桜が満開になった年である。5～6月は少雨で、乾燥し土ほこりに悩まされた。6月中旬からは暑さも加わり、28℃を超えた日が10日あった(うち30℃以上4日)。6月末の梅雨入り後も、暑さと少雨傾向は続き、8月も同様であったが、35℃を超える酷暑は盆休み中のみだったのは幸いである。調査区内に陽を遮るものがなかったので、大きめのテントを二つ特別に借りることにした(写真図版31)。9月も暑さは続いたが(4、20、21日は30℃以上)、雨も定期的に降るようになった。17日(月)は祝日であったが、百年に1度の記録的豪雨で、中央区は完全に水没し、復旧に4日かかった(写真図版7)。10月は、穏やかな日が続いたが、再び少雨傾向となり、堰の水も稲刈りで止められ、洗いに苦労した。11月は、中旬以降降水が多くなり、さらに急に冷え、22日(木)は真冬日で、この時期には珍しい大雪となった(写真図版7)。下旬は再び好天に恵まれた。

土は、特に検出しづらかったり、掘りにくかったということはない。他の問題点としては、事務所から調査区が遠く、移動に時間がかかったこと(5分以上のところも)、夏季井戸の湧水に困り、秋季洗い水に困った程度である(写真図版34～37)。

(g) 遺構の精査、遺物の取り上げについて

発掘時には、基本的には層ごとに掘り上げ、遺物も層ごとに取り上げているが、時間がなくて一括した場合があり、また層に変化がなくて識別しにくかった場合には一括せざるを得なかった。残りの良い土器や、床・底面出土遺物は、出土状況を図や写真等で記録したが、該当例は少ない。

(h) 遺構等の実測について

平面図は、基本的には一般的な簡易遺り方で縮尺1/20で作成したが、大きな遺構や調査範囲については、光波トランシットによる測距(平板実測の測定の部分を光波測量で行ったのに相当)を基に小縮尺で図化している。

2 室内整理と報告書の作成

整理作業は、平成19年11月1日(木)～平成20年3月31日(月)、調査員約2名、作業員2～3名で行った。11月末まで野外作業を行っていたため本格的に整理に入ったのは12月以降である。作業員のうち1名は、全くの初心者であったため、11～12月アルバム整理、12月下旬一部遺構トレース、1～2月は入力等諸作業、3月は遺構写真図版、図版本貼り、もう1名は、1月まで遺物実測、拓本、2月前半遺物トレース、後半～3月上旬遺構トレース、3月下旬遺物、遺構図版復貼りを行った。

中央区の図面整理についてはIV章5参照。遺構内出土の遺物もV章に掲載している(遺構内遺物集成図はIV章第81図に)。その他、体裁、整理方針や方法については、金子(1998)参照。

引用・参考文献

金子昭彦 1998 『歴史文化財センターの考古学』【紀要】XVII 栃野子県文化振興事業団歴史文化財センター

IV 遺 構

1 全 体 概 要

(1) 調査位置・調査区・調査体制

調査区は、最北区、北北区、北南区、中央区、南区に分かれる(第41図)。最北区は遺跡の北端、中央区南端と南区は、南端に位置する。今回の主な調査区は、東西に広がる遺跡のほぼ中央の南半分は南北方向のトレンチを入れた形になる。トレンチは、中央に調査除外地を含むためコ字状を呈す。

最北区と南区は飛び地で過年度までの調査の残り、北北区と北南区は一連のもので(北区と総称)、中央区とは東端で細く繋がっているが、実際には、中央区と北区の間を舗装道路が横切っており、周囲の遺構検出状況から道路下は調査を割愛したので、離れる。中央区は、前年度調査区(第10・11次調査区)の隣接地に相当する。

北区を北北区と北南区に分けているのは、調査担当者が異なるためである。調査は、当初最北区と北北区、中央区、南区だけの予定であった。それが、予算等の関係で北南区等が追加となり、北南区と南区は、別動班(村木、小林調査員)が調査することになったのである。さらに、最北区は、遺跡の北端に位置し、今回の調査区からは遠く離れ、むしろ今年度の細谷地遺跡の調査区に隣接するため、細谷地遺跡調査班(藤田調査員)が担当することになった。したがって、担当者別にすれば、最北区、北北区と中央区、北南区と南区の三つに分けられる。

(2) 調査結果・微地形・遺構

遺跡は、複雑に入り組む自然堤防状の段丘とその周囲の低地からなっており、最北区、南区はほぼ低地に相当する。北区は、北側が段丘上で中央に埋没沢(旧河道)が北西から南西に走り、南東隅は再び段丘上となる(中央区北側の段丘)。ただし、両側の段丘とも大きく削平されている。中央区は、北側に東西に連なる比較的大きな段丘があるため、北端は段丘上に位置するが、大部分は低地である。

最北区では、陥し穴状遺構(RD141土坑)が1基検出されているが、遺物は出土していない。

北北区と南区では、遺構は検出されていない。南区では、遺物も出土していない。

北南区では、時期不明の土坑(RD117土坑)が1基検出されている。北北区も含めた北区では、遺物は比較的多く出土しており、須忠器破片、陶磁器片が見られた。削平された部分あるいは南側の調査区外となる段丘上に該期の集落跡が存在する可能性が高い。

中央区は、今回の主体となる調査区で、中近世の居館跡および集落跡が検出されたが、縄文時代と思われる袋状土坑も3基発見された。居館と集落は、遺跡の南限である堰に沿う。

なお、最北区の陥し穴状遺構は、隣接する矢盛遺跡第6次調査区と一連のものであろう。これらの陥し穴は、規模の大きな旧河道に沿って構築され、この旧河道は隣接する細谷地遺跡に延び、やはり同様に陥し穴が検出されていて、その数は両遺跡を合わせると70基以上にもなる。

以下、調査区ごとに、その概要と検出遺構について記載していく。なお、最北区の土坑名が今回の調査で一番最後の番号になっているのは、調査回数ごとに遺構名を付けることになっており(それも12→13次の順番で)、第13次調査区に相当する土坑2基の中で、第12次調査区土坑との連続性を重視した結果、飛び地から検出された最北区の陥し穴状遺構が最後になってしまったためである。

2 最北区

(1) 概要

調査面積171㎡(都市再生機構分)。最北区は8月3日～8月8日までを調査期間とした。調査区は全体的に平坦であるが、南側から北側に向かってゆるやかに下へ傾斜している。隣接する調査区を目安に重機による粗掘りの後、遺構検出を行った。調査区内からは縄文時代と考えられる陥し穴状遺構(RD141土坑)が1基検出された。土坑からは遺物や逆茂木などの痕跡も一切、確認されなかった。なお、調査区内からは遺物が確認されなかった。

(2) 遺構

RD141土坑(第8図、写真図版2)

<位置・検出状況>調査区北側の2D21i周辺に位置する。IV層上面、黒褐色をした細長いシミとして確認した。

<重複関係>なし。<図・精査状況>あっている。

<埋土>6層に分かれる。黒～褐色土が主体をなし、上層と下層にそれぞれ黒色及び褐色土、中層に黒褐色土がみられる。上層、下層、中層の順に粘性としまりが弱くなる。下層の埋土は上層に比べ、水分を多く含む。自然堆積と思われる。<長軸方向>N-19°-W

<平面形・規模>規模は開口部径386×83cm、底部径312×17cmである。平面形は長楕円形をなすが、両端にややふくらみをもつ。<断面形・深さ>約74cm。

<壁・底>V層が底面となる。縦断面の形状は両端の下半が大きくオーバーハングする。

<出土遺物>なし。

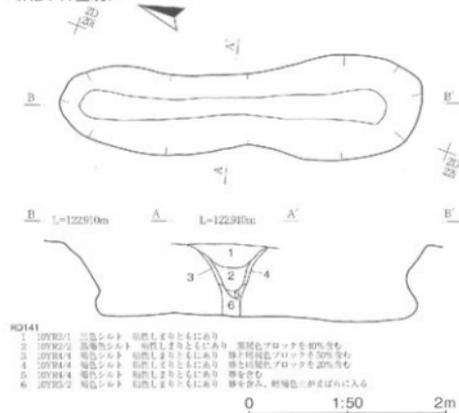
<時期>不明。遺構の立地や埋土の堆積状況、過去の調査状況から縄文時代の陥し穴と考えられる。

<最北区>



第7図 最北区遺構配置図

<RD141土坑>



第8図 RD141土坑

3 北 北 区

(a) 概 要

調査面積、市分約5,400㎡+都市再生機構分121㎡。調査区の現況は、水田と休耕田(畑)であった。調査期間、5月1日(火)～6月5日(火)。5月1日(火)に試掘トレンチを入れ、7日(月)～18日(金)重機による表土剥ぎ、8日(火)～検出+カクラン除去で、6月はダメ押しとして南端のカクラン除去を行い、カクランの下にも遺構は残っていないことが分かった。5月28日(月)基準杭設置、その後平面図記録。土山の土が周辺民家に飛ばないように、ネットやシートを随時かけた。

(b) 基本土層とそこからわかること

I層厚20～30cm。II層クロボク土:0～40(旧河道部分)cm。III層漸移層で0～20cm。IV層:黄褐色土で0～不明。高い部分では砂質。V層:黄褐色(黒褐色部分も)砂礫層で層厚不明。

今回の調査区では、低地部分ではII層とIII層の違いがはっきりしない地点が多く、クロボク土の発達が弱いことを指摘できる。すなわち、人為による関与があまりなかったことが推測され、少なくとも低地部分の古代においては調査結果をほぼ事実として捉えることができよう。なお、調査区南西側の水田は、水が抜けにくい田として有名だったようである。

(c) 現況と微地形

第11図に示したように、北西から南東に向かって旧河道が認められる。この旧河道は、北西部では茫洋と広がっているが、南東部では深く谷を刻む(最深部で約80cm)。ただし、II層ではほぼ埋まっていることから、平安時代には既に埋没していたようである。

これはど顕著でないが、調査区北端にも落ち込みが認められる。調査範囲が狭いのではっきりしないが、この北側がこの地域で最も高く現集落を形成していることから考えて、北東から南西に向かって旧河道に繋がる後背湿地状を呈していると推測される。

旧河道と後背湿地?との間(中央西端)は、高かったようである。ただし、耕作時の改変で砂礫層まで平らに削られてしまっているので、どの程度高かったのか不明である。

また、この微高地の中央よりやや北寄りには、東から西の旧河道に向かう雨裂が認められた。

旧河道の南側にも微高地が認められるが、こちらもIV層まで平らに削られてしまっている。この微高地は、そのまま今回宅地移転外(調査除外)とされた現集落が載る地形である。

後背湿地?、雨裂とも、旧河道同様II層でほぼ埋まっていることから、平安時代には埋没していたようで、削平された部分がかどの程度高かったのかわからないが、それ以外は比較的なだらかな地形が広がっていたものと推測される。

(d) 検出遺構・出土遺物

近世末～現代と思われる水田時あぜ道と水路のみである。第11図の雨裂北側の東西方向に延びるものとその北側の北東から南西に延びるものの二列が相当する。

平安時代の須恵器破片(第83図7)、近世以降の陶器片(第83図2～9)、磁器片(第84図2～5)が、表土から出土した。また、調査範囲外では土師器片が耕作土に紛れているのを確認している。

(e) 調 査 成 果

調査区中央と南端は大きく削平されており、本来ここは高まりを形成していた。表土から平安時代の遺物が出土することから、この高まりには該期の遺構が存在していた可能性がある。また、近世以降の陶磁器片は、調査区南北西側の現在集落となっている部分からの流れ込みの可能性が高い。

4 北南区

(1) 概要

調査面積、市分1,594㎡+都市再生機構分34㎡。10月9日より調査を開始した。調査区の南東部のみ平坦な段丘上にあるが、ほとんどの部分はこれより一段低位となる旧河道内にあたる。現況はこれに相応し、前者は畑地、後者は水田となっている。

すでに終了している北北区を目安に、重機により粗掘りを行い、その後遺構検出を行った。多くのプランが検出されたが、明瞭なものはほとんどなく、現況に起因するカクラン蚕が大半を占めた。結果、この区域で確認された遺構は土坑1基のみで、遺物の出土量も極めて少量であった。

(2) 遺構

RD117土坑(第10図、写真図版4)

<位置・検出状況>調査区南西部、6 A 21 g・22 gグリッドに位置する。IV層上面にて、黒褐色土の明瞭なプランとして検出。

<重複>なし。

<埋土>黒褐色土の上位層と黒色土の低位層に分けられる。自然堆積と思われる。

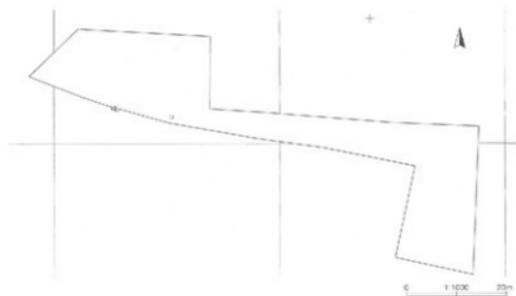
<平面形・規模>開口部約80×65cmの楕円形。

<断面形・深さ>楕形。約30cm。

<壁・底>壁はIV層、底は礫が多く見られるV層で凹凸がある。

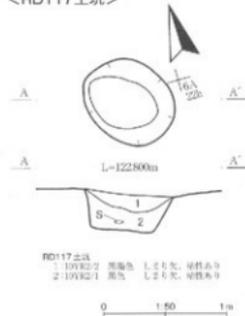
<出土遺物>なし。

<時期>不明。



第9図 北南区遺構配置図

<RD117土坑>



第10図 RD117土坑

5 中央区

(1) 概要

(a) 調査結果概要

調査面積、市分約11,349㎡+都市再生機構分248㎡。調査期間、6月6日(水)～11月29日(木)。

検出された遺構は、縄文時代のフラスコ状土坑3基、平安時代の溝跡1条、中近世の竪穴建物跡16棟、カマド状遺構5基、焼土2基、掘立柱建物跡17棟、柱穴850個、井戸跡42基、土坑17基、堀跡2条、溝跡12条である。土坑、溝跡には平安時代のもが含まれている可能性がある。

凡例は、本書冒頭の例言下にある。遺構出土遺物は、第IV章の後に遺構ごとの集成図を掲げたが(第81図)、遺物自体の詳細は第V章を参照(番号は共通)。遺構名称は、野外で仮番号を付け(第○号住居など。○には数字が入り、精査順に番号を付けた)、報告書では、例言に示した盛岡市教育委員会の方法に則って付け直した(第III章で詳述)。平面図と断面図の照合等の図面点検は、現地で行った。合わない場合は計り直したが、どうしても合わない場合は、そのままに本文<図・精査状況>にその旨記した。ただし、1/20の縮尺で1mm(原寸で2cm、報告書で0.5mm)以内の違いは誤差範囲とし、特にふれていない。本文中の深さは、検出面からの深さである。その他、第III章参照。

(b) 調査区内の現況・層序・微地形

調査区の現況とカクラン。大部分は、水田とその休耕田(畑がほとんどだが一部荒地も)だったが、第11図西の弧状に示した“削平”ラインより西側に、中古車販売所があり、それを造成する際に水田の土を入れ替え盛り上げたため、IV層あるいはそれ以下まで大きく削平されている。また、段丘の南端は、その南側低地にある水田に田面を合わせるため削平され(第11図)、特に西半分は大きくIV層以下まで削平されている。東半分もIV層上面くらいまでは削られている。

調査区の現況(層序)。前年度の調査区に囲まれた南西部は、表土(表土も削平)直下IV層という状態にあった。北側の段丘上も、削平されて表土直下IV層(第11図)。その南側、R G 015堀跡が回る辺りまでの幅で、北側の段丘岸(第11図)とほぼ平行に埋没沢(旧河道)があり(写真図版55、65)、II層が顕著に残っていたが、地点による違いが大きい。西端で40cm程度、東端では40cmを超える地点もあったが、概して浅く20cm程度のところが多い。R G 015堀区画内のR I 026井戸跡付近では、後世の改変によるものかII層が薄く数センチである(I-II層はある)。II層は、調査区中央南北に延びる谷部分にも認められた。埋没沢の一部、R E 017～019竪穴建物跡などが集中する地点では、I-II層も10cm程度の厚さで認められた。埋没沢の南にある南東部分は、特に大きな削平は受けていないようだが、II層の発達が弱く、III層と区別できない淡い色の土がほとんどである。

調査区南限を画する堰は、おそらく広い旧河道に沿って作られており、この方向がこの付近の地形の軸となる。北区と中央区の間は集落となっており、これがほぼそのまま東西に連なる幅約50mに及ぶ自然堤防状の段丘となる。第2図の調査区に囲まれた白抜きの部分が段丘に相当する。北限は、西側から途中まではほぼ調査区境のとおりである(第2図)。調査区は途中で南に向きを変えるが、崖線はそのまますすぐほぼ畦道の通りに東へ向かう。南限。西端は、この地域の幹線道路に接した河北公民館の南側から始まる(調査区境のとおりである)。おそらく、そのまま西側の集落に続くのであろう。東限は、公民館の近くにある水路にほぼ沿って、その2～3m南側を進むが、水路がより北側にそれていくのに対し、崖線はより南にある。現集落の家屋の南側に、正方形に近い大きな区画の田が見えるが、この田の北側の畦道をそのまま隣、さらに隣の田の北側の畦道を東に向かう(実際に

は2～3m南側)。南側の崖線は、第11図D段に示している。北側と同様、崖線の南側には旧河道が認められる(写真図版7.55)。調査区東端では約80cmも黒土(Ⅱ層)が堆積しており、水がつきやすかった。ただし、段丘の西側は大きく削平されていることもあって、旧河道も不明瞭である。

また調査区の中央付近に南北に延びる谷が存在する。それは、第2図の第13次調査区(集落内道路予定地、第4図参照)にはほぼ相当し(より広いが)、調査対象外となった現集落の中央付近に続く。調査区中央に井戸跡が南北に連なる地点があるが(第12～13図)、ここが、谷のほぼ両端となる。

(c) 調査方法・経過

盛岡市教育委員会による試掘トレンチの跡が確認されたが(第11図)、実際にはもっと長かったようである。気象条件以外の調査に苦労した点等。当初、地権者の都合等で宅地に近い部分は調査に入れず、この部分(第11図「後で下げた範囲」)は、作物の収穫後10月9日(火)以後に入った。夏季は井戸跡の湧水がひどく苦勞し、8月末の最盛期にはエンジンポンプ10台稼働したが、堰の水が10月初めに落とされた後は全くなり、逆に洗い水等に苦勞した。調査の終盤(10月末)になって西端で井戸跡の激しい重複が検出され、自力では期間内に終了できなくなった。

検出方法。中世の遺物を包含する層は、Ⅰ-Ⅱ層で、当時掘られた穴も基本的にはこの土で埋まるのだが、穴を掘るために掘り起こした土で再び埋まることも多く、筋縄ではいかない。前年度調査区との境、10Bグリッドの角部分(第12図)を掘ごとに人力で下げ検出してみたところ、Ⅰ-Ⅱ層中では遺構は確認できなかったが、Ⅱ層中では覆土によっては遺構が確認できることがわかった。たまたま、ここにRE019堅穴遺物跡があり、黄褐色土のブロックを持つ特徴的な土であるため確認できたのである。堅穴遺物跡など、浅い遺構はⅣ層上面まで下げてしまうとなくなってしまう恐れがある(現にRE016、017は、消失していたであろう)。そこで、旧河道を中心にしたⅡ層が顕著に残っている地点では、Ⅱ層中とⅣ層上面の2回検出することとし、重機による粗掘りはⅡ層上面でとどめた。その他の地点では、Ⅲ層まで剥ぎ、Ⅳ層上面で1回検出しただけである。ただし、遺構のプランが把握できない場合には何度もクリーニングしている。また、最初からダメ押しする余裕がないと判断し、検出面を通常より下げている(Ⅲ層ではなくⅣ層上面まで下げた)。

調査体制。前年度の調査結果から、おびただしい数の柱穴の発見が予想された。掘立柱建物跡の構成を考える必要があるが、その作業は、作業員の指示等ほかの作業と併行しながらではなかなか難しい。そこで、調査員2名のうち1名がその作業にほぼ専従することとし、作業員も二班に分かれて、「柱穴」班は必要最低限の5名前後をあて、残りの作業を調査員1名と作業員20名前後で担当した。さらに、柱穴類の平面実測は時間がかかることから業者に委託することとした。

調査経過。重機による粗掘は、大部分を6月11日～27日(パワーショベル2、キャリアダンプ4台)、排土の関係で残してあった南東端を7月19日～24日午前、北側の調査に入らなかった部分(抜根含む)を10月9日～16日に行った。作業員は、6月前半の試掘、後半の南西部を中心にした検出の後、三班に分かれ、男性班(10名)は、7月はⅡ層面での検出、8月は東半のⅡ層除去・Ⅳ層面検出、9～10月は西半の同じ作業、11月は残りの二班に振り分け土運び中心。柱穴班(前述、約5名)は、7月後半～8月南西部、9月以降南東端から反時計まわりで西端へ。その他班(約10名)は、7～8月はⅡ層面検出された遺構(9A南東～9B付近)、9月は南西部、10月以降南東端→中央→西端→北端。堀跡は、一部9～10月にトレンチを入れたが、完掘は11月後半に。最後に掘った北端～北東部は、予想通り大きく削平され遺構はほとんどなかったが、西端は大きな誤算で、それまでほとんどなかった井戸跡の激しい重複が見られ、また溝跡とも重複しており、この時点で既に10月末だったため、堀跡は、細谷地遺跡調査班その他の援助(11月下旬)で何とか完掘することができた。

(2) 竪穴建物跡(第14~26図・第81図、写真図版14~32・67・70)

16棟(005・007は前年度調査の続き)検出され、007以外は積極的な根拠はないが、いずれも中世後半の可能性が高い。出土位置の欄の住居の後のQ1~4は、竪穴を4等分した区画を意味し、土層ベルトを基準に、北西区画が1、北東が2、南西が3、南東が4になる。

概要。構造と軸方向から二つに分けられる。一つはR G 015堀跡の軸方向と平行あるいは直交するもので、方形基調、周溝あるいは柱穴が規則正しくめぐるもの、もう一つは、R G 015堀跡の軸方向とは関係なく、不整形で、基本的に柱穴を持たないものである。後者は014・015・020・021の4棟が相当、前者はそれ以外の12棟が相当する。前者は住居や作業場、後者は倉庫などであろうか。

前者は入口様の張り出し部を持つものがほとんどだが、016には認められなかった。張り出し部に柱穴を伴いそうなのがある(005・008・009・013)。005は硬化面が続き、より入りやすい。016と017には焼土があり、罎炉裏か。008と009は、床面直上に灰が出土。008・010・016は、“日隠し状”施設があった可能性あり。カマド状遺構は、木類が集中する南西方向に偏し関連が窺われる。

出土遺物は、両類に認められ、013の刀と刀子、014の焼粘土塊、016の鉄釘と焼粘土塊、019の不明鉄製品と焼粘土塊、021の陶器片と鉄釘などがある。015と019は炭化材(クリ)が出土。

前年度は6棟確認されたが、002は時期不明とされ今年度は続きが確認できなかった。残りの5棟は、今年度と同様二種類に分けられる。003(004も?)が不整形類に含められ、今年度の020・021と隣接するが、平面形はより整って軸方向もR G 015堀跡にはほぼ沿う。003床面から不明鉄製品出土。

二カ年の分布を見ると、不整形類は、堀区画内の入口付近と西側の集中区、整形類は、堀区画内北側と西側の集中区に偏る(第12~13図)。

RE 005竪穴建物跡(第14図、写真図版14・15)

<位置・検出状況>中央区南西、9 A15g~16h付近に位置する。北に隣接する第11次調査区の続きになる。ほぼIV層まで削平されていたようで、黒褐色土ではっきり確認された。

<重複関係>ないと思われるが、柱穴に含めた中に本遺構に帰属しないものが含まれている可能性がある。張り出し部の両側に認められる2個は、当初張り出し部より新しいと考えていたが、竪穴内のものと対になっているように見えたので、思い直した。また、昨年度調査した範囲でも、中央とその南東の2個は「本遺構に伴わないかもしれない」(助岩手県文化振興事業団 2008 : p.26)。

<図・精査状況>一つの遺構を別々に調査したため、“合わない”点がある。西側の壁溝の続きは今年度見つけることができなかった。東側の壁溝は、いずれかの時に水糸のラインがずれていたようで、プランが不整合である。

<平面形・規模>長方形の長軸方向の一辺である東壁がそのまま南側に張り出す形。長軸5.1m、短軸3.95mに張り出し部分の長さ約1.3mが加わる。軸方向はN-22°-E。

<覆土>四つに分けているが、色調以外はほとんど同じであり、下半の3~4層は明らかに人為堆積である。3層は、前回の4層に相当する可能性があるが(助岩手県文化振興事業団 2008 : 第121図)、それ以外はすべて前回の2層に相当しそうである。

<床面・掘り方・貼床>地山をそのまま床としている。IV層というより細粒の砂(V)層。図に示したように張り出し部に接続するように硬化面が認められた。ダメ押しで断ち割ってみたが、掘り方は確認できなかった。

<壁・壁溝>壁は、下部2cmは細粒の砂(V)層、その上IV層。前述のようにカクランが多く認められた。

壁溝は、前年度範囲ではどの壁にも確認されたが、今年は東壁にしか確認できず、そのため西壁は前年度との齟齬を生じている。

＜柱穴＞今年度範囲で8個確認したが、前述のように張り出し部の2個は本遺構に伴わない可能性もある。柱穴1・4・7は深く、8も深めだが、他は浅く柱穴とするにはやや躊躇する。前年度と合わせてみると、壁に沿うものが主体であることに気づく。壁から離れて中央付近縦方向にも並んでいるように見えるが、この部分に相当する穴は、壁に接するものを除いて、いずれも浅いことが気になる（前年度も同様）。

＜張り出し部＞南壁西部にあり、西壁がそのまま張り出す形である。底は凹んでおり軟らかい。4個の柱穴に囲まれ、また硬化面への連続性など、“出入口”と見なすのにふさわしい構造をしている。

＜その他の付属施設＞検出されなかった。

＜遺物＞なし。前回もなし。

＜時期＞前年度も、「遺構の形態や本遺跡の状況から中世後半（16世紀頃）と考えている」（p.26）。

引用文献

60岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2008 『矢違遺跡第10・11次・向中野館遺跡第9次・台太郎遺跡第58次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第516集

RE007竪穴建物跡（第15・81図、写真図版15・16）

＜位置・検出状況＞中央区南西、9-A15x～9-A15b付近に位置する。北に隣接する第11次調査区の続きになる。検出面が汚れていて大きく下げたため、前年度と符合しない点が多い。

＜重複関係＞東側張り出し部を中心に、RG037溝跡と重複。この溝は最近の畦道であり、底付近の形状がはっきりしなかったため、今年度は図化を省略した。南壁中央付近の柱穴は、壁を壊して構築しているようで、本遺構とは別の新しい柱穴である可能性が高い。また、これと同じ程度の規模と深さを持つ柱穴8も、別遺構である可能性が高い。

＜図・精査状況＞一つの遺構を別々に調査したため、“合わない”点が多々ある。その原因は、今年度、前述のように検出面が前年度より低かったことと、そのため覆土が非常に浅くなり、さらに床が細粒の砂（V）層で見極めづらく下げやすかったため、さらには、覆土にその再堆積の6層などもあったせいで、大幅に掘りすぎってしまった点が多い。

＜平面形・規模＞正方形に近いが、やや東西方向が長い。その長軸方向の一辺である北壁がそのまま東側に張り出す形。長軸5m、短軸4.4mに張り出し部分の長さ約1.5mが加わる。軸方向はE-24°-S。

＜覆土＞黄褐色土の混じり少なく、黒褐色土の単層に近いが、東西方向の両端に黄褐色土の多い部分がある。また、一部下部に砂の汚れ再堆積あり（6層）。基本的には前年度の所見に合致する。

＜床面・掘り方・貼床＞V層細粒砂層を床とし、掘りすぎなかった土層ベルト下を見ると、床面らしく凹凸がある。大部分を掘りすぎているが、貼床、掘り方は確認できなかった。

＜壁・壁溝＞壁は、一部砂質IV層、大部分V層細粒砂層。前年度はほぼ一周周溝が確認されているが、前述のように今回は下げすぎたため検出できなかった。

＜柱穴＞壁に沿ってと、床中央に長軸方向に沿って並ぶ。柱穴8は、上述のように別遺構の可能性が高い。柱穴4・5・7には柱痕跡が認められた。なお、前年度調査区床面中央に溝らしきものが認め

られるが、記載がなく詳細は不明である。

<張り出し部>上面にR G037という畦道があって汚れていたためか、今年度検出面を大きく下げたせいでなくなってしまったのか、前年度と今年度の範囲が大きく合わない。

<その他の付属施設>検出されなかった。

<遺物>張り出し部の検出面で、洪武通寶が出土(第15・81図)。発見時に既に位置を動かしていたので、縮尺の大きな図は作成しなかった。出土位置は検出面ではあるが、上述のように非常に床面に近い(床面から上に9cm)。

<時期>出土遺物などから、中世後半と思われる。今回出土遺物から時期幅が限定されるほぼ唯一の遺構である。

RE008竪穴建物跡(第16図、写真図版16・17)

<位置・検出状況>中央区南西、9 A17k~191付近に位置する。IV層面黒褐色土で明瞭に検出。

<重複関係>西寄り、竪穴と同じ軸方向に現代の畦道が走る(第2図参照)。周囲には掘立柱建物跡の柱穴が認められる。「別柱穴」と記したものは明らかに異なる遺構だが(新旧は不明)、本遺構の柱穴とした中にも、その仲間が含まれている可能性はなくはない。

<平面形・規模>竪穴自体は3.3×3.24mの正方形に近く、南辺の中央付近に0.8m程度の張り出し部がつく。軸方向はN-28°-E。

<覆土>砂質IV層ブロックの量によって部分的に違って見えるが、ほぼ単層。周溝部分は下に落ち込むが、周溝自体は別の土で覆われている。竪穴南東部に小規模な灰の山が認められた(第16図)。ほぼ単層で灰に竪穴覆土の黒褐色土が混じる。10YR5/1褐色灰色、砂、炭化物混じる。中央付近が最大厚で約10cm。

<床面・掘り方・貼り床>基本的にはIV層だが、竪穴北西隅が凹んでいるため、一部粗砂V層が露出している。土層観察用十字ベルトに沿ってトレンチを入れたが、貼床も掘り方も確認できなかった。

<壁・壁溝>壁はIV層。北壁から西壁に掛けて「J」状に周溝が認められる。

<柱穴>基本的には壁に沿って巡るが、周溝が存在する部分では少ない。他の竪穴建物跡に比べて全体的に深いのが特徴である。柱穴底は、V層粗砂である。

<張り出し部>南壁の中央より西側に検出されたが、現代の畦道によってカクランされ、よくわからない。

<その他の付属施設>本遺構に関係するか不明だが、竪穴南東隅から1mほど離れて「目隠し」のように「J」状に溝状の土坑が認められる(第13図RD126・127土坑)。RE010竪穴建物跡と同様、張り出し部を巡るような位置にあるので、何らかの関連が窺われる。また、RD127土坑を切ってRF002カマド状遺構がある。

<遺物>なし。

<時期>類例と本遺跡の調査結果全体から、中世後半と推測される。

RE009竪穴建物跡(第17図、写真図版17・18)

<位置・検出状況>中央区南西、9 A18a~19c付近に位置する。IV層面黒褐色土で明瞭に検出。

<重複関係>掘立柱建物跡に切られる(第17図「別柱穴」)。これらの柱穴は、規模も深さもしっかりしていて、本竪穴の柱穴とは明瞭に区別される。また、南東隅に風倒木による黒土があったこともあり(写真図版17下)、調査時には覆土中に焼土ブロックが混じっているものとしてしまったが、調査

後に堅穴の覆土中にカマド状遺構があったのだと気づいた(RF006)。堅穴南壁の段状の部分が相当する(第17図)。

<図・精査状況>調査中9月17日(月)の記録的豪雨があり、完全に水没してしまった。そのため掘り残してあった灰の山(後述)が泥水を浴び、クリーニングの際大分なくなってしまった。

<平面形・規模>堅穴自体は3.4×3mの正方形に近く(RF006の段部分を除く)、東辺の中央付近に1m程度の張り出し部がつく。軸方向はE-28°S。

<覆土>黄褐色土の含有が比較的多く、その割合で分けられるが、黒褐色土の単層に近い。床面北東部分に灰の山(炭化物含む)が出土した(第17図)。上述の理由により詳細な記録はない。

<床面・掘り方・貼り床>一部細砂V層だが、大部分は砂質IV層。掘り方、貼り床は確認できなかった。

<壁・壁溝>一部細砂V層だが、大部分は砂質IV層。壁溝として確認されたのは北壁だけだが、柱穴1~6や15~17のような小柱穴や南壁の上場が連続する柱穴は壁溝の一部として捉えて良いのかも知れない。

<柱穴>壁際に並んではいるが、他の堅穴建物跡に比べ“主柱穴”状のものがはっきりしている。柱穴8と10・7と14・20と19が対になって上屋を支えるのではなかろうか。ただし深いと言えるのは、8と10・14?と19だけである。なお、柱穴12と13は、張り出し部に関係するのではないかと考えている。また、柱穴14は、本堅穴を精査する前に、既に“柱穴群”の一部として掘られていたものである。

<張り出し部>先端を別遺構の柱穴で壊されているので不明瞭だが、東壁の南寄りには100×85cm程度の小判形の張り出し部が認められた。他の床面とは特に変わった様子は認められず、図のように覆土も同じである。上述のように、柱穴12と13は、張り出し部に伴う施設の可能性がある。

<遺物>なし。

<時期>類例と本遺跡の調査結果全体から、中世後半と推測される。

RE010堅穴建物跡(第18図、写真図版18・19)

<位置・検出状況>中央区南西、9-Λ20w~21y付近に位置する。ほぼ遺跡南限にある。削平されており、IV~V(砂)層下面で検出した。畦道や水田時のカクランでプランははやーとしていたが、何とかならとれ、張り出し部から堅穴建物跡と推測した。ただし、汚れを除去するために検出面をかなり下げている。

<重複関係>掘立柱建物跡らしい柱穴と重複。新旧関係は不明瞭だが、本遺構の方が古い可能性が高い。覆土が浅く、水田時の改変で汚れていて、よくわからない部分がある。北西隅を現代の畦道が縦断していた。

<図・精査状況>A-A'断面、冠水時に抜かれたのかA'のセクション・ポイント合わない。断面実測時に測り間違ったのか、A'側の上場合わない。B-B'断面、B'側の柱穴、完掘時上場掘り広がったせいか、合わない。

<平面形・規模>方形を基調とするが、不整形である。検出状況が悪かったことによる掘り間違いの可能性が疑われるが、柱穴もその方向に沿っているので間違いないと思う。北辺が南辺に比べて顕著に長く、台形のような形をし、さらに東辺に張り出し部が付く。“上底”(南辺)約2.85m、“下底”(北辺)3.8m程度、“高さ”(東辺)約3.3mで、張り出し部が約0.8m東に延びる。軸方向はE-21°S。

<覆土>上述のように検出面をかなり下げたせいで、非常に浅い。壁際に砂の汚れ際堆積層(6層)が一部認められるが、基本的には単層(5層)である。所々水田の土が混じる。

<床面・掘り方・貼り床>砂質のIV層がほとんどだが、一部細粒砂(V)層の地点もある。トレンチ

を入れたが、貼り床も掘り方も確認できなかった。なお、床下数cmで粗砂層、20～30cmで砂礫層になる。

<壁・壁溝>壁は、砂質IV層。壁溝は部分的にしか検出できなかった。

<柱穴>全て壁に沿う。柱穴1と10は他と比べて深く、掘立柱建物跡の柱穴の可能性もあるかもしれない。

<張り出し部>北壁がそのまま張り出すのか、東壁の北寄りの部分が張り出すのか、途中で柱穴が重複して不明だが、1.2×0.8mの丸みを帯びた三角形状に東側に張り出す。他の床面と特に変わった様子はなく、覆土も同じである。

<その他の付属施設>関係するかどうか不明だが、北側、RE009壁穴建物からの目を遮るように、張り出し部の北側に溝状のRD130土坑がある(第18図)。また、北壁の北側にRF005カマド状遺構が認められた。

<遺物>なし。

<時期>類例と本遺跡の調査結果全体から、中世後半と推測される。

RE011壁穴建物跡(第18図、写真図版19～20)

<位置・検出状況>中央区南西、9-A7～10i付近に位置する。西側の調査範囲外に大部分が続く。IV層中黒褐色土で明瞭に検出。周囲は、商店を建てるために盛土する際土を入れ替えていたため、IV層まで削られていた。

<重複関係>掘立柱建物跡等の柱穴群から離れており、ないと思われる。耕作時によるものか、所々カクランがある(第18図)。

<平面形・規模>大部分が西側の調査範囲外に続くため、不明。

<覆土>削平されているため、浅い。ほぼ単層で、よくある黄褐色土泥じりの黒褐色土である。

<床面・掘り方・貼り床>IV層。耕作痕が黒く点々とみられる。覆土断面に沿ってトレンチを入れてみたが、掘り方や貼り床は認められなかった。

<壁・壁溝>壁は、IV層。壁溝は部分的に認められた。

<柱穴>主として壁に沿って認められたが、調査範囲に限られるため、不明な点が多い。

<張り出し部>調査した範囲には認められなかった。

<遺物>なし。

<時期>類例と本遺跡の調査結果全体から、中世後半と推測される。

RE012壁穴建物跡(第19図、写真図版20)

<位置・検出状況>中央区西端、9-A7p～10q付近に位置する。IV層中、黒褐色土で検出。周囲は、商店を建てるために盛土する際土を入れ替えていたため、IV層まで削られており、特に東半は深くV(砂)層まで掘られていた。ただし、柱穴は残っているので、全景を推測することはできる。

<重複関係>周側に柱穴群が認められ、重複している可能性もある。

<平面形・規模>柱穴等の残存部分から判断すると、5.5×3.7m程度の隅丸長方形か。軸方向はE-21°-S。

<覆土>残存部分は、IV層ブロックの含む量で、壁際と中央の二層に分けられた。

<床面・掘り方・貼り床>IV層を床とし、耕作時のカクラン多い。トレンチを入れたが、掘り方、貼り床は確認できなかった。床下2～5cmで砂層が始まる。

<壁・壁溝>壁も、残っている部分はIV層。床面残存部分の一部に壁溝が確認されたが、それほど顕

著ではない。

<柱穴>基本的に壁に沿うが、一列中央に並ぶようである。十分な深さがあったのは、柱穴1・2・5・8・16・21で、3も深めだった。16には柱痕跡が認められた。

<張り出し部>東側の大部分が削られているせいか、確認できなかった。

<遺物>なし。

<時期>類例と本遺跡の調査結果全体から、中世後半と推測される。

RE013 竪穴建物跡 (第19・81図、写真図版21・22)

<位置・検出状況>中央区南端、9-A3r-5s付近に位置する。IV層で、重機で表土を剥いでいる際黒褐色土で明瞭に検出。周囲は、商店を建てるために盛土する際土を入れ替えていたため、IV層まで削られていた。

<重複関係>RB038掘立柱建物跡と重複。第19図柱穴10が、これに相当するが、本竪穴建物跡の柱穴と重複している可能性もある。新旧関係は不明。なお、柱穴8は、調査時に水田時のカクランのように思われたが、それらしい場所があり、元々柱穴だったところに水田のカクランが重なっていただけなのかも知れない。

<図・精査状況>精査時、冠水や積雪、霜降が繰り返され、遺構に悪影響を与えていたかも知れない。

<平面形・規模>約3×3mの正方形の東辺に約1mの張り出し部が東側に延びる。軸方向はE-30°-S。

<覆土>10層より上が覆土となる(第19図)。基本的な色調の違いや混じり方によって細かく分かれるが、基本的にはよくある“霜降り状”の上である。

<床面・掘り方・貼り床>床面らしきものは汚れており不審に思われたので、サブトレンチを入れてみた(第19図10層)。その結果、耕作時のカクランによって汚れているのだと判断された。砂質のIV層というか、砂がシルト化したような感じで、耕作時の黒ボツ(稲株痕?)あり。サブトレンチを最後にさらに深く掘り下げてみたが、掘り方も貼り床も確認できなかった。

<壁・壁溝>壁も、砂質のIV層というか、砂がシルト化したような感じ。北辺、南辺を中心に部分的に壁溝が認められた。床面は、全体的に、特に竪穴南側は下げすぎており、壁溝は、検出面がむしろ底といった感じであった。壁溝は、底?がグライ化していてテラテラと光沢を持つ。

<柱穴>基本的に壁に沿って並ぶが、“柱穴”8も、柱穴である可能性がある。

<張り出し部>東壁の北寄りに約1×0.8mの不整隅丸長方形の張り出し部を持つ。床面からはスロープ気味に若干上がっている。覆土も若干異なっている(第19図)。柱穴9と11は、この張り出し部に伴うのかも知れない。

<遺物>鉄製品が2点、土層観察用のベルト中から出土した(第81図)。1は、刀子で、3層下部から、ほぼ水平に、床面から3cmの高さで出土した(写真図版22)。2は、刀で、4層中から、床面からの高さが南東端7cm、北西端5cmと、わずかに北西方向に傾いて出土した。錆で大きく膨らみ、現地では何物かわからなかった(写真図版22)。

<時期>出土遺物と類例、本遺跡の調査結果全体から、中世後半と推測される。

RE014 竪穴建物跡 (第20図、写真図版22・23・70)

<位置・検出状況>中央区南端、8-A23-25t付近に位置する。夏ころ盛岡市教育委員会のトレンチをクリーニングした際にIV層中黒褐色土で明確に確認。しかし、この付近の精査は、10月下旬になっ

てしまい、周囲は汚れてすっかり失念し、大きな礫や近代?の陶磁器片の出土からカクランに見え、大きく下げすぎてしまい、ほぼ床しか残っていなかった。

<重複関係>周囲に柱穴群が認められる。竪穴内のもの一応“柱穴”として扱ったが、その不自然な配置から別物と考えた方が良さそうである。特に柱穴4と5(第20図)は、周囲の穴によく似ていて、その可能性が高く、5は竪穴を壊している。

<図・精査状況>A-A'断面のA'側の上場、完掘時掘り広がったため、断面図と平面図合わない。

<平面形・規模>4×2.5m程度の不整形円形か。軸方向は、N-S。

<覆土>ほとんど残っておらず、南端のI-II層に似た土のみ。

<床面・掘り方・貼り床>IV~V層を床とし、耕作痕(稲株?)の多数の黒ボツあり。トレンチを入れてみたが、掘り方、貼り床は確認できなかった。

<壁・壁溝>壁は、IV~V層で、耕作痕(稲株?)の多数の黒ボツあり。壁溝は認められなかった。

<柱穴>上述のように、柱穴4・5は、周囲の柱穴群とよく似るので、別物であろう。柱穴1と2は、本遺構に伴う可能性もあるが、構造的に屋根をかけるのはむずかしいであろう。ただし、十分な深さがあり、また両方とも柱痕跡が認められた。

<張り出し部>確認できなかった。

<遺物>焼粘土塊が出土している(写真図版70)。検出面ではあるが、検出状況を考えれば、床面上の可能性が高い。ただし、本遺構に伴うかどうかは定かではない。また、周囲から近現代の陶磁器片が出土していた。

<時期・所見>類例、本遺跡の調査結果全体から、中世後半の可能性はあるが、形・構造、軸方向が他の竪穴建物跡と大きく異なることを考えれば、より新しい可能性もなくはない。

RE015竪穴建物跡(第20図、写真図版23・24)

<位置・検出状況>中央区西端、9-A1v~2w付近に位置する。IV層中黒褐色土で明瞭に検出。

<重複関係>柱穴群と重複するが(第28図)、新旧関係は不明。柱穴としたものも(第20図)、別遺構の可能性もなくはない。すぐ東側にRD136土坑、南側にRG038溝跡がある。

<図・精査状況>A-A'断面、上場完掘時掘り広がって合わない。B-B'断面、B'のセクションポイント、途中で抜かれたのか、合わない。

<平面形・規模>約3.9×2.8mの歪んだ隅丸長方形の東壁中央付近に約0.8m程度の張り出し部を持つ。軸方向はE-20°-S。

<覆土>4層より上が覆土(第20図)。張り出し部だけやや異なるが、他は黄褐色土混じりの黒褐色土で、ほぼ単層である。

<床面・掘り方・貼り床>床は、IV層を貼ったものである(第20図)。耕作時(稲株?)の黒ボツが認められるが、他よりさらに汚れている。柔らかくて床らしくなく、はっきりしないので、下まで下げて確認した。その結果、張り出し部付近では窪んで、掘り方状のものを持つことがわかった。この部分ではIV層土を厚く貼っている。最後は、断面図より深く下げたが、この下はIV層であることを確認した。

<壁・壁溝>壁は、耕作痕で汚れたIV層。壁溝は確認されなかった。

<柱穴>柱穴2は“耕作痕”であるという記録が残っているが、断面図からはそうは思われぬ(第20図)。いずれも、それなりの深さを持つが、構造的に屋根を支えられるかどうか。

<張り出し部>不整形で、あまりそれらしくなく、擬似現象の可能性も残すが、東壁の中央付近に0.8

×0.7m程度の不整形の張り出し部を持つ。堅穴床面より窪んでいて、手前に掘り方らしきものを持つ。
 <遺物>南西部4層上面(床面)からほぼ水平の状態では炭化材が出土した(第20図)。クリとの同定結果を得ている。

<時期・所見>張り出し部はそれらしくなく、床や壁の状態は、RE020・021に近い。ただし、軸方向は、一般的な堅穴建物跡とはほぼ同じである。類例、本遺跡の調査結果全体から、中世後半の可能性がある。

RE016堅穴建物跡(第21・81図、写真図版24・25・67・70)

<位置・検出状況>中央区中央、9B8i~11k付近に位置する。Ⅱ層中、灰色がかった覆土で確認したが、西半分は、現代の畦道により不明瞭であった。

<重複関係>柱穴群と重複するが(第33図)、新旧関係は不明。

<図・精査状況>堅穴内焼土C-C'のセクションポイントC'がずれてて平面図と合わない。焼土範囲一部合わない。床が漸移層であるⅢ層のため、わかりづらく、掘りすぎが多い。後述する焼土の高さから考えると、2層もⅢ層の一部であった可能性が出てくる。また、畦道と重複している場所は、壁も確認しづらく、掘りすぎてしまった(第21図)。

<平面形・規模>5×5m程度の不整形正方形。軸方向はE-22°-Sか。

<覆土>調査時には2層あるとしていたが(第21図1・2層)、現時点では2層は床の一部であった可能性が高いと考えている。それは、床がⅢ層であり、2層とよく似ていること、1層と2層の境が水平であり、床面と考えても支障がないこと、2層が1層に比べ比較的締まっていたこと、3層のように1層下から始まっている柱穴があること、そして何より、焼土が1層と2層の境に検出されていることである。したがって、焼土については、遺構内施設として後述する。

<床面・掘り方・貼り床>Ⅲ層を床としているため、硬く締まることなく、それらしくない。上述のように、実際には、2層もⅢ層の一部で、2層上面が床面であった可能性がある。土層断面に沿って幅30cm、深さ10cmのトレンチを入れたが、掘り方や貼り床は確認できなかった。

<壁・壁溝>壁は、Ⅱ~Ⅲ層。壁溝然としたものは確認できなかった。

<柱穴>壁に沿ってと、中央に、北東-南西方向の軸に沿って二列、柱穴が認められた。上述のように堅穴周辺にも柱穴が認められ、全てが本遺構に伴うのか定かではないが、堅穴の軸方向に並んでおり、そのほとんどはそう考えて良いと思う。底に柱あたりを持つもの(第21図)や断面に柱痕跡が認められるものもあり、柱穴10のように、激しく重複しているのか底を幾つも持つものもある。それらしい深さを持つのは、柱穴3の南端、5・8の南・9・10・11・12・16・18・30の北、21の南、22・29で、概ね、それらしい位置にある。北側の布掘り状の所はみな浅いが、このように柱穴が横に隣接したり、上記のように重複することから、建て替えも当然あるものと思われる。

<張り出し部>確認できなかった。

<その他の付属施設>中央より南側、2層上面から焼土が検出された。土層観察用ベルト中に検出されたもので、当初は2層上面が床の可能性があると全く想定していなかったため、覆土中に形成されたものとして扱っていた。不整形で、周囲に炭化物は認められないが、焼土は一律で混じりものは少なく、また断ち割った結果からも、現地性と判断される。囲炉裏の可能性もあろう。なお、第21図の焼土の周りの線は、土山を意味している(焼土は本来は床面より高かったため)。

また、少し離れているが、RD123土坑は、RD126・130土坑と似ており、同様に堅穴に対する“H隠し”である可能性もある。

<遺物> (出土状況) 竪穴外から近接して須恵器の破片が出土している(第21図No. 1)。柱穴10の西側検出面(床面より高い位置)から土師器片(写真図版67の1)、中場から鉄釘(第21図No. 2)が出土。釘は、帯降り状の黒褐色土中から北から南に傾斜して出土し、中場底からの高さは、南が15cm、北が10cmである(写真図版25)。柱穴16から焼粘土塊が出土している(写真図版70の2)。

(出土遺物) 第81図1の須恵器、1の鉄釘、写真図版67の1の土師器片、70の2の焼粘土塊が出土。

<時期> 出土遺物と類例、本遺跡の調査結果全体から、中世後半の可能性がある。

RE017竪穴建物跡(第22図、写真図版26・27)

<位置・検出状況> 中央区中央、9 B 8 m~11 n付近に位置する。基本的にはⅡ層下部~Ⅲ層中で検出したが、北端は段丘南端に近く削平されていたこともあってⅣ層での検出である(南東部分も)。Ⅳ層部分を中心に黒褐色土で検出。

<重複関係> 検出時、東側、RE019竪穴建物跡との間に遺構が重複していることはわかったが、検出面では全くプランは確認できなかった。通して上層観察用ベルトを設定して掘り下げたが、床面の高さに違いは認められず、覆土にもほとんど違いはなく、全くわからなかった。結局、北側の段違い状のプランのズレを基に、かなり苦しんだうえ、あくまでつじつま合わせで分けた。それが第23図のベルト中の際である。しかし、調査終了後に全体図を作成したところ、壁柱穴が巡り、はっきりしたプランが認められたのである。この時点まで気付かなかったのは、RE018竪穴建物跡の東壁に沿う布掘り状の柱穴列を、他と際立って立派なために当初掘立柱建物跡を構成するものではないかと考え、竪穴の柱穴から除外していたためである。その後、この地区もⅣ層上面まで下げて柱穴群の精査に入り、やがて掘立柱建物跡ではないことがわかった。したがって、新旧関係も不明である。なお、つじつま合わせのプランを考える前に、B-B'断面の6a~b層辺りが壁ではないかと考えて作ったプランがあったが、結果的にはそちらの方が正しかったようである。しかし、断面図と焼土の有様のため、復元することはできない。すなわち、焼土は、その位置から本竪穴に伴うと考えるのが自然である。しかし、検出位置は7層上面なので、本竪穴の方が新しく、RE018竪穴の方を古いとしなければならないが、元々逆に考えていたこともあって、整合的な土層解釈を導くことはできない。

RE046掘立柱建物跡(第33・37図)と重複。第22図中の記載とはずれているようだが、詳細は不明、新旧関係も不明。

<図・精査状況> 断面図A-A'、セクションポイントを刺すときに位置を間違ったようで(5cm北側に平行移動すると合う)、両方とも合わない。B-B'も同様なのか、B'のセクションポイント合わない。焼土C-C'のC側の焼上の始まり、断面と平面の認識の違いか、合わない。

<平面形・規模> 上述のように、東壁付近は不明だが、4.4×4.4m程度の正方形で、東壁に張り出し部が付いていた可能性もくはない。軸方向はE-22-Sか。

<覆土> 上述のように問題があるが、基本的には5層が相当するのではないと思う。

<床面・掘り方・貼り床> 焼土が本遺構に伴うなら(上述)、7層上面が床となろう。その場合、調査時には本遺構の覆土の一部と考えていた7層以下をどう解釈するかという問題が出てくる。この中にRE018建物跡の覆土が含まれている可能性もある。しかし、6a~b層はともかく、それ以外はいずれも微妙な違いでⅡ~Ⅲ層の一部であった可能性も捨て切れない。したがって、これらが掘り方埋土である可能性もそれほど高いとは言えない。なお、調査終了時にベルトに沿ってさらに10~15cm下げてみたが、明らかなⅣ層で掘り方は確認できなかった。貼り床も認められない。

<壁・壁溝> Ⅲ層下部~Ⅳ層を壁とし、壁溝は検出できなかった。

<柱穴>調査時に伴うと考えていた柱穴の大部分は、RE018建物跡に帰属するようである。明らかに本遺構に帰属する西端から考えると、壁に沿って疎らに点在するようだ。底面がグライ化し、柱あたりと思われるものもある。

<張り出し部>東側重複部分に存在していた可能性もあるが、確認できなかった。

<その他の付属施設>竪穴中央よりやや南寄りに焼土が検出されている。調査時には覆土中(7層上面、"床"から5~6cm)と考えていたので別遺構としていた。黒褐色土のせいか、不明瞭で、炭化物も見えない。しかし、一様に広がるので、現地性ものと判断される。間が裏か。

<遺物>なし。

<時期>類例、本遺跡の調査結果全体から、中世後半の可能性がある。

RE018竪穴建物跡(第23図、写真図版27)

<位置・検出状況>中央区中央、9B9n~11o付近に位置する。北東壁はIV層で明瞭に検出できたが、それ以外は検出面では不明で、RE017建物跡と同時に精査しながらプランを確認した。南東壁付近は、検出面がⅡ~Ⅲ層で見えづかったが、重複がなかったので何とか確認できた。ここの土の広がりや土層観察用ベルトで掘って、西側の壁を想定した(第23図)。しかし、調査終了後に、竪柱穴が巡るそれらしいプランが確認されたのは、RE017建物跡の<重複関係>で詳述したとおりである。

<重複関係>西側、RE017建物跡と重複するが、新旧関係不明(詳細はRE017建物跡参照)。東側、RE019建物跡と重複。検出時には不明瞭だったが、精査開始(RE019の断面実測)後、RE019建物跡の西側の張り出し部がはっきりと確認でき、本遺構の方が古いとわかった。

RB046掘立柱建物跡(第33・37図)と重複。新旧関係不明。

<図・精査状況>RE017建物跡のB-B'断面参照。

<平面形・規模>竪柱穴から判断すれば、3.8×3.8mの正方形に近いが、張り出し部が付くかは不明。軸方向はE-22'-Sか。

<覆土>不明。RE017建物跡参照。

<床面・掘り方・貼り床>上記のような検出状況のため、床面は不明。なお、調査終了時にベルトに沿ってさらに10~15cm下げたが、明らかなIV層で、柱穴検出面より下に掘り方は確認できなかった。

<壁・壁溝>上記のような検出状況のため、壁は不明。壁溝は部分的に検出されている。

<柱穴>本遺構は、柱穴と壁溝しか検出されていない。底面がグライ化し、柱あたりと思われるものもある。第23図の柱穴表は、第22図と重複するものは省いている。

<張り出し部>確認できなかった。

<遺物>なし。

<時期>類例、本遺跡の調査結果全体から、中世後半の可能性がある。

RE019竪穴建物跡(第24・81図、写真図版28・29・70)

<位置・検出状況>中央区中央~東、9B9p~12q付近に位置する。中央区調査の序盤、人力でⅡ層まで下げ、検出したところ、黄色粒が多量に入る特徴的な覆土のため、明瞭に検出できた。今回、Ⅱ層面でも検出を試みるきっかけになった遺構である。

<重複関係>西側、RE018建物跡と重複。本遺構の断面実測後、検出面で、本遺構の張り出し部が西側に明瞭に弧を描くのを確認でき、本遺構の方が新しい。RB046掘立柱建物跡(第33・37図)と重複。直接重複しないため、新旧関係不明。また、床面、張り出し部底に別遺構の柱穴が検出されたが

(第33図573・575)、新旧関係不明。

<図・精査状況> A-A'断面、A'側の上場、崩れたのか、合わない。2層が平面図と合わないのは、測っている高さが違うからと思われる。B-B'断面、B'側の上場、完掘時掘り広がったのか合わない。C-C'断面、C側の上場、完掘時掘り広がったのか合わない。

<平面形・規模> 3.7×3.6m程度のやや不整形正方形に、西壁に約1.3m、南壁に約1.6mの張り出し部が付く。軸方向はE-22°-Sか。

<覆土> 黄褐色粒の混じり方で幾つかに分かれるが、最下層以外はほとんど同じである。最下層は、炭化材、物を多く含む層で、南壁付近は残りがよかったが(写真図版28・29)、同定の結果全てクリだとわかった。

<床面・掘り方・貼り床> IV層を床とし、床らしく凹凸があり硬く締まっていた印象がある。ベルトに沿って10~15cm下げたが、掘り方や貼り床は確認されなかった。北側は、床下15cmくらいで砂になる。

<壁・壁溝> 北半部はほぼIV層、南半はII~III層20cm、IV層20cm。垂直に近い。掘りこみが深く、また検出面が高かったため、深い。ほぼ一周壁溝が巡るようである。

<柱穴> 東壁は比較的並ぶが、他は壁に沿って点在し、規模も小さい。壁穴が深いので、立派な柱穴は不要だったのかもしれない。

<張り出し部> 南壁の東寄りに、1.7×1m程度の不整形楕円形、西壁の南寄りに、1.2×1.1m程度の不整形楕円形の張り出し部が認められた。底は、どちらも床面よりやや高く、南壁の方はスロープ状に上がる。

<遺物> (出土状況) 本遺構とはあまり関係なさそうな遺物が、覆土上層を中心に出土している。写真図版29に鉄製品の出土状態を掲載した。(出土遺物) 第81図2の上師器、1・2の石鏃、8の不明鉄製品、写真図版70の3の焼粘土塊が出土した。

<時期> 類例、本遺跡の調査結果全体から、中世後半と推測される。

RE020竪穴建物跡(第25・81図、写真図版30・31)

<位置・検出状況> 中央区南東、9B24t~10B1u付近。II層最下部~III層で明瞭に検出。

<重複関係> 周囲に柱穴群は存在するが、重複するものはないようである(第35図)。西側に隣接するRE021建物跡とは極めて近い(第13図)。

<図・精査状況> B-B'断面、B'側の上場、崩れて合わない。水田時の影響を受け、特に床~壁は、機銃掃射を受けたように稲株の黒ポツ(直径約5~6cmの円い黒褐色土)が広がり、また水の浸透によって全体的に汚くやわらかくなっており、わかりづらく、一部トレンチで深く抜いてみた(写真図版30)。

<平面形・規模> 4.5×3.4m程度のやや不整形長方形~楕円形。軸方向はN-26°-Eか。

<覆土> 黒褐色土に黄褐色のブロックが入るのが基本だが、下部上面(3層?)は黄褐色のブロック少ない。

<床面・掘り方・貼り床> IV層を床とするが、軟らかで傾斜している。上述のように水田時のカクランを受け黒ポツが多く認められる。ベルトに沿ってトレンチを入れたが、掘り方や貼り床は認められなかった。

<壁・壁溝> 北側は、III層が数cmあり、その下はIV層、南側は、II~III層が約10cmあって下がIV層。床面?からダラダラ傾斜して立ち上がり、壁らしくない。床と同様に汚い。

<柱穴> 柱穴?1と2は、深さと平面・断面形から、ただの落ち込みのように推測されるが、覆土は

10YR2/1黒褐色地に10YR5/6黄褐色のブロック(シルト)で、埋め戻しているように思われる。柱穴? 4も同様の穴らしい。柱穴3は唯一それらしいが、もしこれ一つで屋根を支えるのだとしたら、傘のような構造をとることになる。

<張り出し部>検出されなかった。

<遺物>第81図3の土師器が2層から出土した。

<時期>類例、本遺跡の調査結果全体から、中世後半の可能性がある。

RE021竪穴建物跡(第26・81図、写真図版31・32)

<位置・検出状況>中央区南東、9B25r~10B1s付近。Ⅲ~Ⅳ層で検出。西半に市教育委員会の試掘トレンチが縦断し、覆土が黄褐色のブロックを含む黒褐色土で特徴的なこともあり、明瞭に検出。

<重複関係>周囲に柱穴群は存在するが、重複するものはないようである(第35図)。西側、RI029井戸跡と重複。検出面では区別できず、通してトレンチを入れた結果、断面だけではよくわからなかったが、推測されるプランと断面を照合した結果、井戸の方が新しいとわかった。周囲に柱穴群はあるが、重複はしていないようである(第35図)。東側に隣接するRE020建物跡とは極めて近い(第13図)。

<図・精査状況>B-B'断面、B側の井戸との境、崩れて合わない。水田時の影響を受け、特に床~壁は、機銃掃射を受けたように稲株の黒ボツ(直径約5~6cmの円い黒褐色土)が広がり、また水の浸透によって全体的に汚くやわらかくなっており、わかりづらく、一部深く抜いてみた。

<平面形・規模>3.6×3.4m程度の不整形方形か。軸方向はN-10°-Eか。

<覆土>黒褐色土に黄褐色のブロックが入るのが基本で、RE020建物跡に類似する。

<床面・掘り方・貼り床>Ⅳ層を床とするが、軟らかで傾斜している。上述のように水田時のカクランを受け黒ボツが多く認められる。バルトに沿ってトレンチを入れたが、掘り方や貼り床は認められなかった。

<壁・壁溝>一部Ⅱ~Ⅲ層が約10cm未満残るが、大部分はⅣ層。床と同様に汚い。RE020建物跡よりは壁らしいが、北壁を除き、グラグラ立ち上がる場所多い。壁溝は検出されなかった。

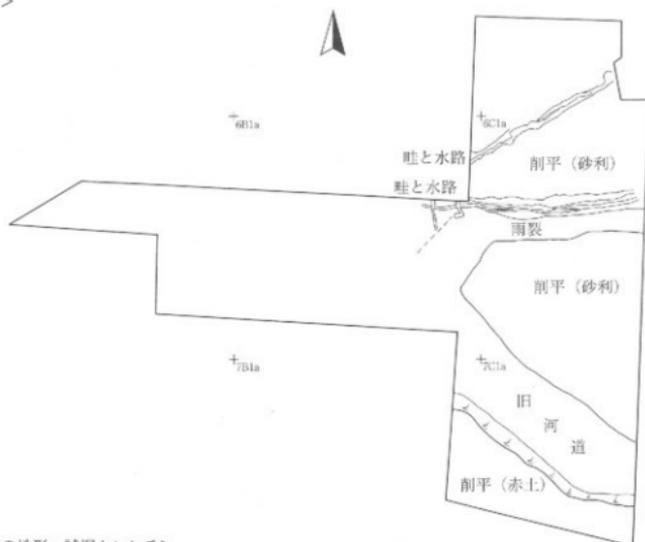
<柱穴>柱穴然としたものはないが、幾つかの落ち込みが検出された。北東隅の半円形状の底部はグライ化していたような記憶がある。床面からの深さは20cm弱。RE020建物跡と同様に、床面中央付近に穴が確認されている。同様に傘のような構造をとるのだろうか。

<張り出し部>検出されなかった。

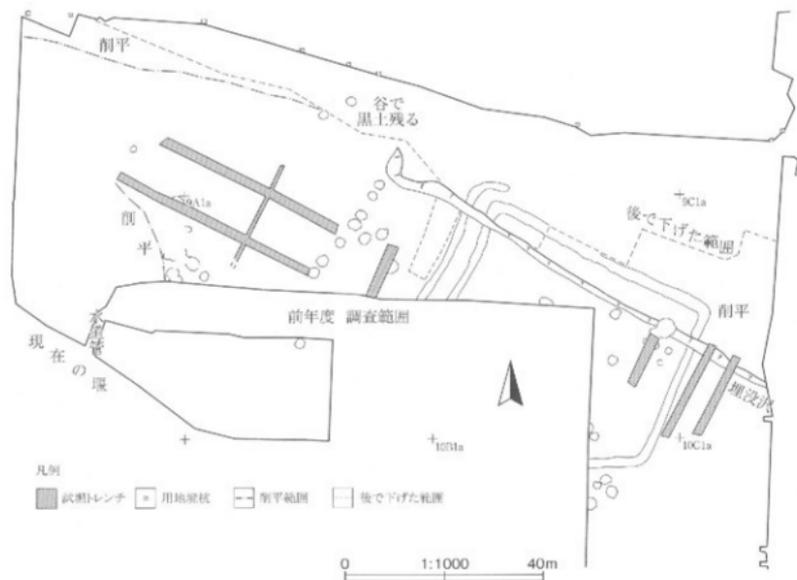
<遺物>(出土状況)1の陶器片、2の鉄釘、3の須恵器片が出土している(第26図)。1は、土山状に残っていたが、正確な位置は不明である。落ち込みの中から出土したと思ったら覆土は別物であった。2の鉄釘も土山状に残っていたもので、下の土は4・5層とは明らかに異なり、3層だと思う。南から北に傾斜していた。3の須恵器片は、竪穴床面中央の落ち込みから立って出土した。(出土遺物)第81図2の須恵器片、1の陶器片、2の鉄釘が出土した。

<時期>出土遺物と類例、本遺跡の調査結果全体から、中世後半と推測される。

<北北区>



<中央区の地形・試堀トレンチ>



第11図 北北区・中央区の地形・試堀トレンチ



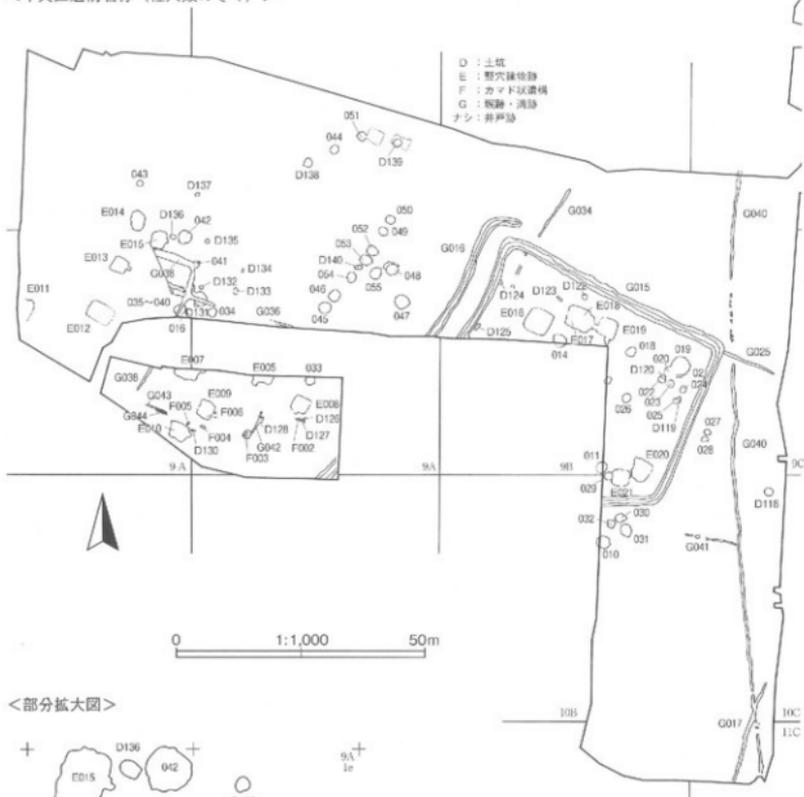
※前年度調査範囲含む(第4図参照)。

※柱穴類の名称は、第37図参照。

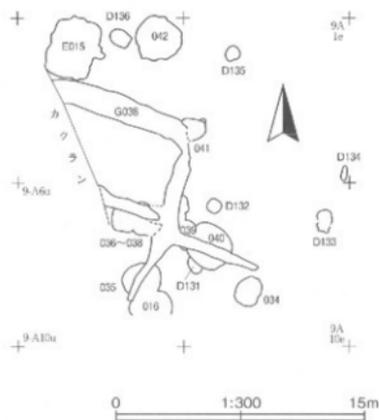
※その他の遺構の名称は、第13図参照。

第12図 中央区遺構配置図

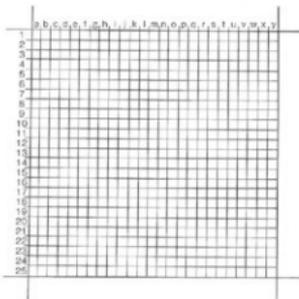
<中央区遺構名称(柱穴類のぞく)>



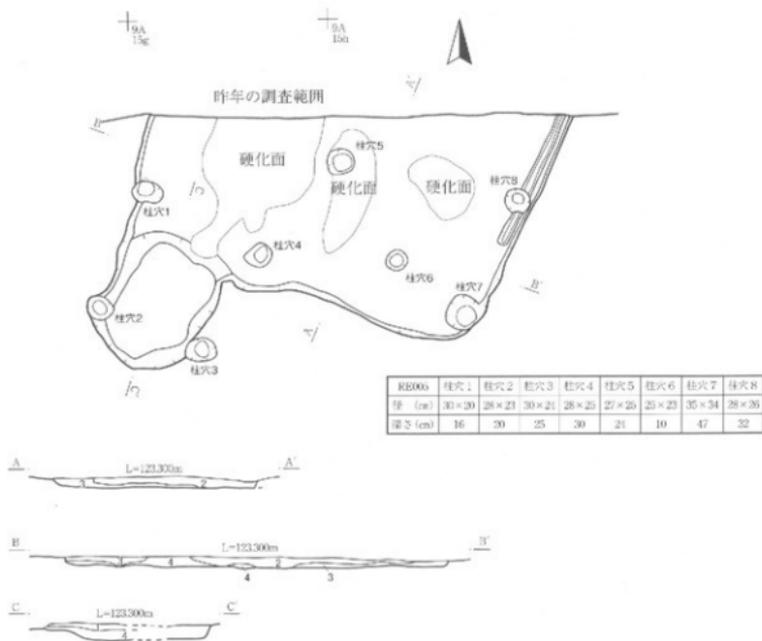
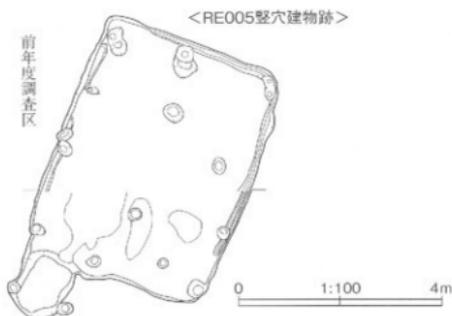
<部分拡大図>



<小グリッド>



第13図 中央区遺構名称(柱穴類のぞく)

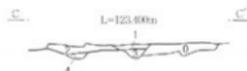
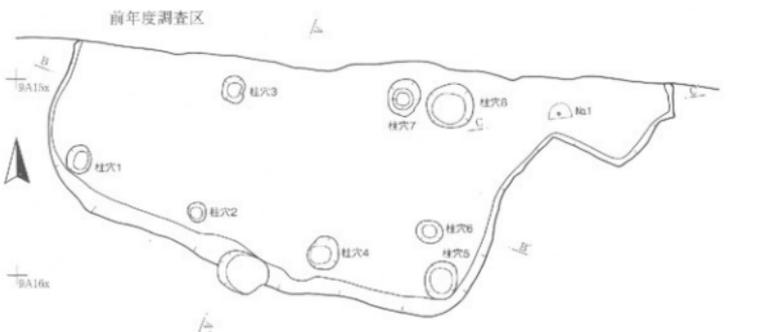


RE005竪穴建物跡

1. 北V25-2R, 3R電化跡・北V25-1東側面のアブロック シェド 母V棟の付具取付跡。
2. 北V25-1北東面と北に隣接するV25-9東側面のアブロック シェド 土間の床面に東置アブロックが設置されたもの。
3. 北V25-1北東面と北V25-9東側面が接する北に隣接するV25-9 シェド 土間の床面の建基、柱の跡としたもの。
4. 北V25-1北東面と北に隣接するV25-9東側面のアブロック シェド 東置アブロックの北に、柱の跡としたもの。

第14図 RE005竪穴建物跡

<RE007竪穴建物跡>



RE007	柱穴1	柱穴2	柱穴3	柱穴4	柱穴5	柱穴6	柱穴7	柱穴8
径 (cm)	30×24	30×17	28×21	34×30	40×32	27×23	32×30	48×43
深2 (cm)	43	12	19	25	35	28	39	34

RE007竪穴建物跡

- 1 19V15 層彩色土に 19V13-1 層彩色の段 シルト 壁の柱穴の跡が認められる。
- 2 19V15 層彩色土に 19V13-2 層彩色の段 シルト 壁の柱穴の跡が認められる。
- 3 19V13-1 彩色土 シルト 壁に V 字状の跡が認められる。
- 4 19V13-1 層彩色土に 19V15 層彩色の段 シルト
- 5 19V15 層彩色土に 19V13-1 層彩色の段 シルト 壁の柱穴の跡が認められる。
- 6 19V15 層彩色土に 19V13-1 層彩色の段 シルト 壁の柱穴の跡が認められる。
- 7 19V14 層彩色 19 V 字の跡は 19V13-1 層彩色の段が埋められたもの。



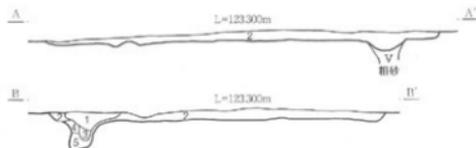
第15図 RE007竪穴建物跡

<RE008竪穴建物跡>

灰検出状況



RE008	柱穴1	柱穴2	柱穴3	柱穴4	柱穴5	柱穴6
径 (cm)	25×28	25×13	36×22	30×36	25×20	25×12
深さ (cm)	13	21	28	36	42	21
	柱穴7	柱穴8	柱穴9	柱穴10	柱穴11	柱穴12
	30×8	23×8	30×23	45×36	22×29	22×20
	13	3	21	47	30	27



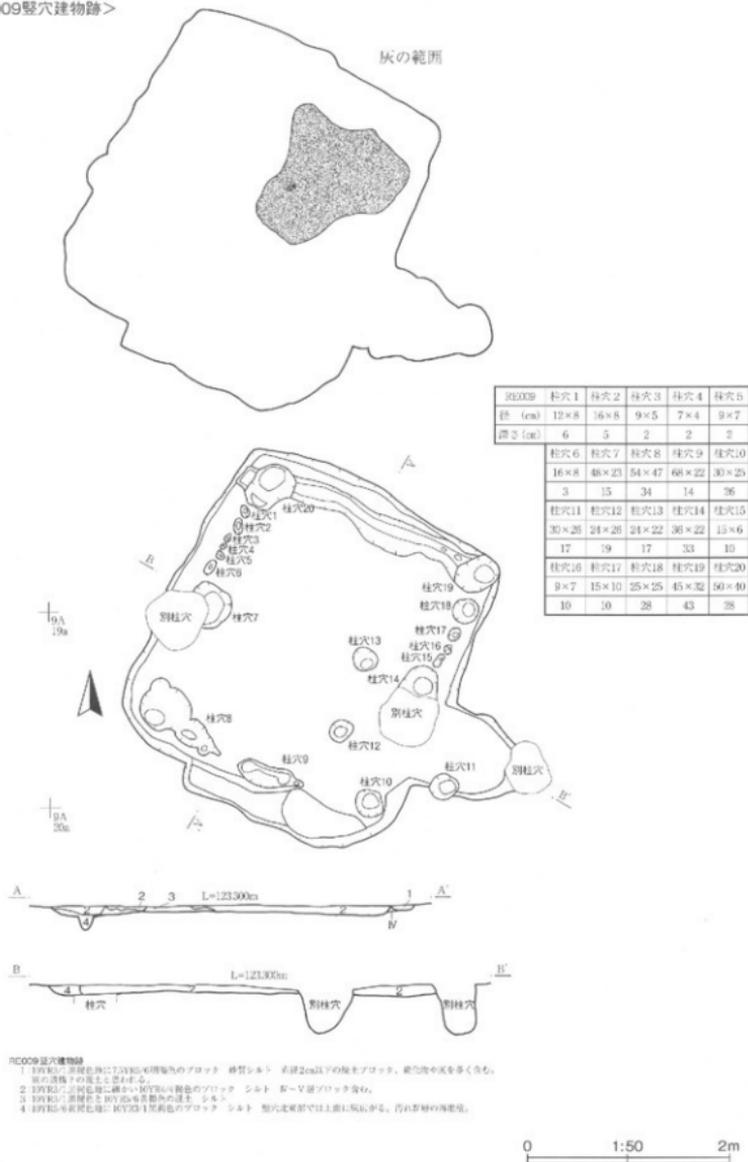
RE008竪穴建物跡

1. RE008-1 瓦葺き通し 100% 瓦葺き通し 葺きシルト 2枚トドトシ葺き式、上リ30°。
2. RE008-1 瓦葺き通し 100% 瓦葺き通し 葺きシルト 30° 葺き通し 葺きシルト 3種アロック多量に含む (V葺きアロックも?)。
3. RE008-1 瓦葺き通し 葺きシルト 4枚トドトシ葺き式。
4. RE008-1 瓦葺き通し 葺きシルト 葺き通し葺き式で葺き通し葺き式。
5. RE008-1 瓦葺き通し 葺きシルト 葺き通し葺き式で葺き通し葺き式。

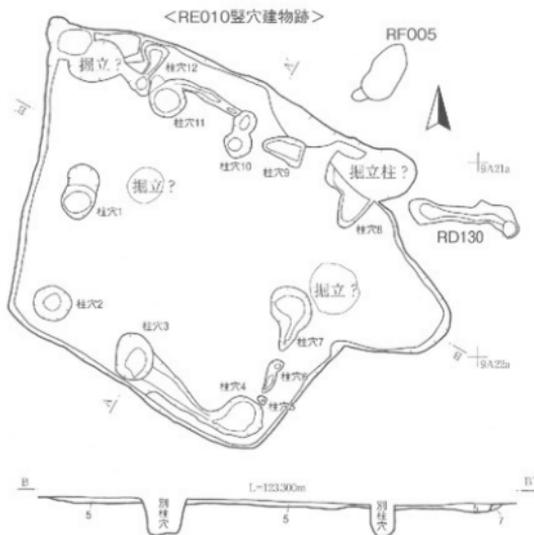
0 1:50 2m

第16図 RE008竪穴建物跡

<RE009竪穴建物跡>



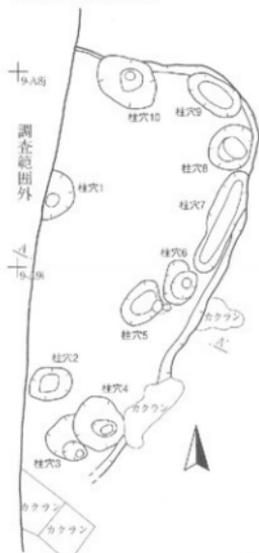
第17図 RE009竪穴建物跡



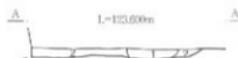
RE010竪穴建物跡

1. IYV23 1 厚黄色 シルト 表面風土に付。
2. IYV23 1 厚黄色 土に埋められた IYV105 厚黄色土器の破片。 厚黄シルト 1 層に厚黄がロク多く混じったもの。
3. IYV23 1 厚黄色 砂、シルト 1 層=砂の混入。
4. IYV12 2 厚黄色 砂、厚黄砂の混入。 赤い土層の中のもの。
5. IYV23 1 厚黄色土に IYV105 厚黄色のブロッツ シルト 風化層、硬土風層が混入。
6. IYV23 1 厚黄色土に埋められた IYV122 2 厚黄色の硬 厚黄シルト 汚土層や硬土の厚黄層。
7. IYV12 1 厚黄色土に埋められた IYV105 厚黄色の硬 厚黄シルト 硬土風層や硬土の厚黄層。

<RE011竪穴建物跡>



RE010	柱穴 1	柱穴 2	柱穴 3	柱穴 4	柱穴 5	柱穴 6	柱穴 7	柱穴 8	柱穴 9
径 (cm)	37×33	40×38	48×38	68×43	10×8	38×11	66×40	57×40	43×26
深さ (cm)	29	15	24	13	13	3	15	9	3
							柱穴10	柱穴11	柱穴12
							50×30	45×27	55×30
							27	16	2



RE011 竪穴建物跡

1. IYV12 1 厚黄色 シルト 3層が混入して高くなっただけと思われる。
2. IYV12 1 厚黄色土に埋められた IYV105 厚黄色のブロッツ シルト 厚黄砂、厚黄ロク、厚黄砂、厚黄砂に含む。

RE011	柱穴 1	柱穴 2	柱穴 3	柱穴 4	柱穴 5	柱穴 6	柱穴 7	柱穴 8	柱穴 9	柱穴 10
径 (cm)	50×27	43×33	43×18	33×30	30×33	40×32	110×30	48×42	61×30	68×10
深さ (cm)	35	12	41	58	34	53	8	62	7	61

第18図 RE010-011竪穴建物跡

<RE012竪穴建物跡>

RE012 柱穴1	柱穴2	柱穴3		
径 (cm)	25×24	27×26	28×28	
深さ (cm)	35	33	30	
柱穴4	柱穴5	柱穴6	柱穴7	
径 (cm)	23×18	25×23	20×10	15×13
深さ (cm)	10	40	8	9
柱穴8	柱穴9	柱穴10	柱穴11	
径 (cm)	38×22	19×11	42×10	30×25
深さ (cm)	46	6	14	15
柱穴12	柱穴13	柱穴14	柱穴15	
径 (cm)	32×31	28×24	26×23	22×22
深さ (cm)	19	25	15	20
柱穴16	柱穴17	柱穴18	柱穴19	
径 (cm)	31×28	54×33	35×27	24×24
深さ (cm)	28	21	18	22
柱穴20	柱穴21	柱穴22		
径 (cm)	27×23	31×28	25×20	
深さ (cm)	17	31	23	



RE012竪穴建物跡

1. IYR02-11層位跡にIYR05を兼ねたブロック シルト 基礎ブロック含む。
2. IYR02-11層位跡にIYR06を兼ねたブロック多量に含む。

<RE013竪穴建物跡>



RE013 柱穴1	柱穴2	柱穴3		
径 (cm)	20×20	18×15	18×15	
深さ (cm)	33	8	11	
柱穴4	柱穴5	柱穴6	柱穴7	
径 (cm)	28×23	25×23	60×20	28×25
深さ (cm)	17	10	9	9
柱穴8	柱穴9	柱穴10	柱穴11	
径 (cm)	32×20	29×23	37×35	27×25
深さ (cm)	20	8	32	9
柱穴12	柱穴13			
径 (cm)	28×23	33×22		
深さ (cm)	4	9		

RE013竪穴建物跡

0. カクラン遺跡
1. IYR02-11層位跡にIYR05を兼ねたブロック 伊原シルト II、基礎の定石、跡の定した上?
2. IYR02-11層位跡にIYR05を兼ねたブロック シルト II、基礎の定石、跡の定した上?
3. IYR02-11層位跡にIYR05を兼ねたブロック シルト II、基礎の定石、跡の定した上? 2号跡に、土ブロック含む。2号跡は土と石の定石、2号跡に、土ブロック含む。
4. IYR02-11層位跡にIYR05を兼ねたブロック シルト II、基礎の定石、跡の定した上? 2号跡に、土ブロック含む。
5. IYR02-11層位跡にIYR05を兼ねたブロック シルト II、基礎の定石、跡の定した上? 2号跡に、土ブロック含む。
6. IYR02-11層位跡にIYR05を兼ねたブロック シルト II、基礎の定石、跡の定した上? 2号跡に、土ブロック含む。
7. IYR02-11層位跡にIYR05を兼ねたブロック シルト II、基礎の定石、跡の定した上? 2号跡に、土ブロック含む。
8. IYR02-11層位跡にIYR05を兼ねたブロック シルト II、基礎の定石、跡の定した上? 2号跡に、土ブロック含む。
9. IYR02-11層位跡にIYR05を兼ねたブロック シルト II、基礎の定石、跡の定した上? 2号跡に、土ブロック含む。
10. IYR02-11層位跡にIYR05を兼ねたブロック シルト II、基礎の定石、跡の定した上? 2号跡に、土ブロック含む。
11. IYR02-11層位跡にIYR05を兼ねたブロック シルト II、基礎の定石、跡の定した上? 2号跡に、土ブロック含む。
12. IYR02-11層位跡にIYR05を兼ねたブロック シルト II、基礎の定石、跡の定した上? 2号跡に、土ブロック含む。
13. IYR02-11層位跡にIYR05を兼ねたブロック シルト II、基礎の定石、跡の定した上? 2号跡に、土ブロック含む。

第19図 RE012-013竪穴建物跡



RF014竪穴建物跡

① 10YK21層内 シルト もらひ、建物のまゝなるカラシと思はれる。

② 10YK21層内 シルト 細かき瓦葺アソビ多く、穴柱跡あり、基本的な色調は1層型と同じ。

③ 10YK25-9瓦葺色土に10YK21層型色の道 シルト 跡は、瓦葺が得たもの、瓦葺と並べ、ほとんどが埋りす。



RE015竪穴建物跡

① カラシ

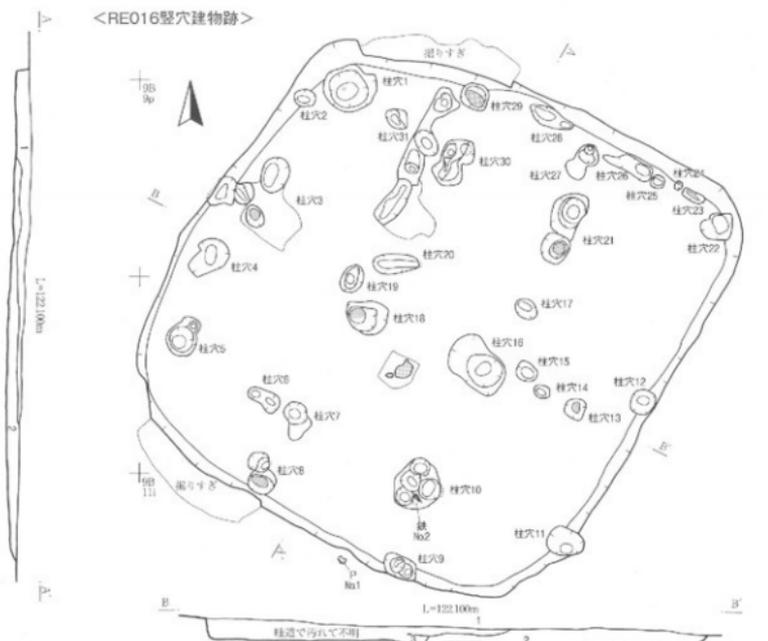
② 10YK21層内 シルト 10YK21層内 柱穴1-3の跡を覆う色のブロック シルト やちもしい、隙がみ、アソビアソビあり。

③ 10YK21層内 瓦葺色土に10YK21層型色のブロック シルト 3層アソビ、砂子多く含む。

④ 10YK25瓦葺色土に10YK21層型色のブロック シルト 瓦葺あり、アソビあり、隙あり、上段が埋りし。

⑤ 10YK25瓦葺色土に10YK21層型色のブロック シルト 縦く埋まる、瓦葺アソビあり。

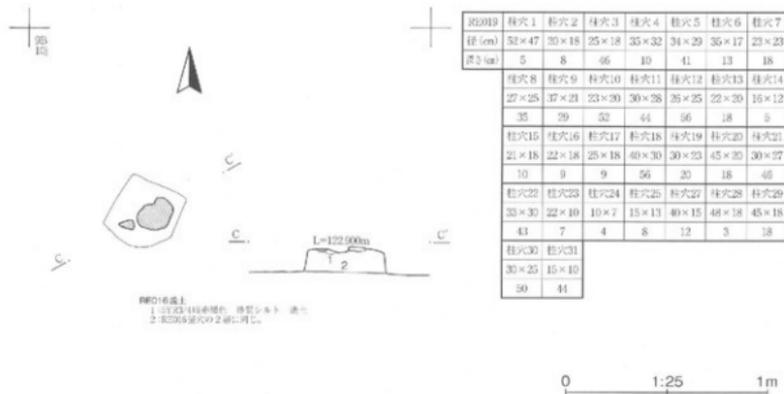
第20図 RE014-015竪穴建物跡



RE016竪穴

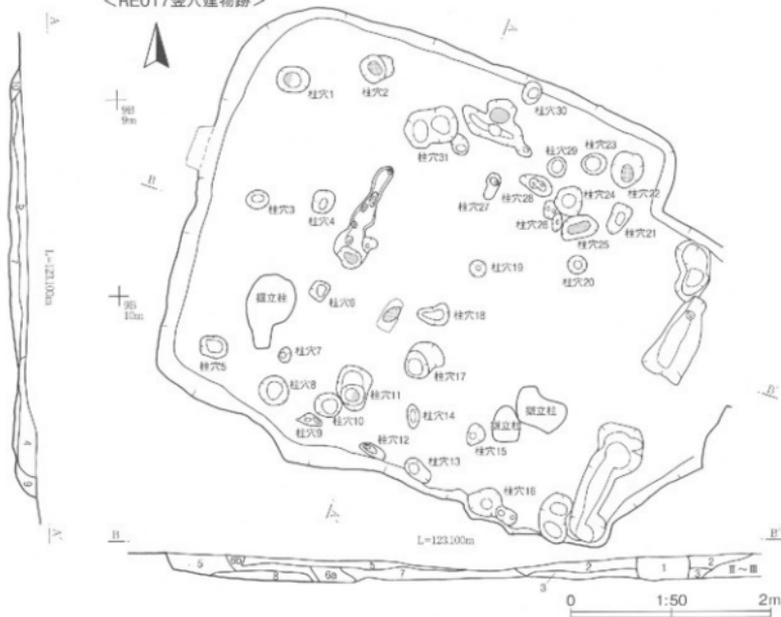
- 1 75°R27.0.3.0 シルト 風向きより、新居アブロック、地土層、礫石層を含む。
 2 23°R27.0.3.0.0.0 シルト 礫石あり、柱穴底のセクションをとり、新居アブロックとこちらより含む。
 3 75°R27.0.3.0.0.0 シルト 礫石あり、柱穴底のセクションをとり、新居アブロックとこちらより含む。

0 1:50 2m



第21図 RE016竪穴建物跡

<RE017竪穴建物跡>



RE017・RE018竪穴建物跡

- 1 RE017 西縁部に於ける長110m幅50m程度のアロック シルト 竪穴群。柱穴14、15。
- 2 RE017 西縁部に於ける長110m幅50m程度のアロック シルト 竪穴群。柱穴16、17、18、19、20、21、22、23、24、25、26、27、28、29、30、31。
- 3 RE017 西縁部。シルト 竪穴あり。竪穴群幅約40m程度。
- 4 RE017 西縁部に於ける長110m幅50m程度のアロック シルト 竪穴群。竪穴群幅約40m程度。
- 5 RE017 西縁部。シルト 竪穴あり。竪穴群幅約40m程度。
- 6 RE017 西縁部。シルト 竪穴あり。柱穴1。
- 7 RE017 西縁部。シルト 竪穴あり。竪穴群幅約40m程度。
- 8 RE017 西縁部。シルト 竪穴あり。竪穴群幅約40m程度。
- 9 RE017 西縁部。シルト 竪穴あり。竪穴群幅約40m程度。
- 10 竪穴がクランを受けたもの。

<焼土微細図>



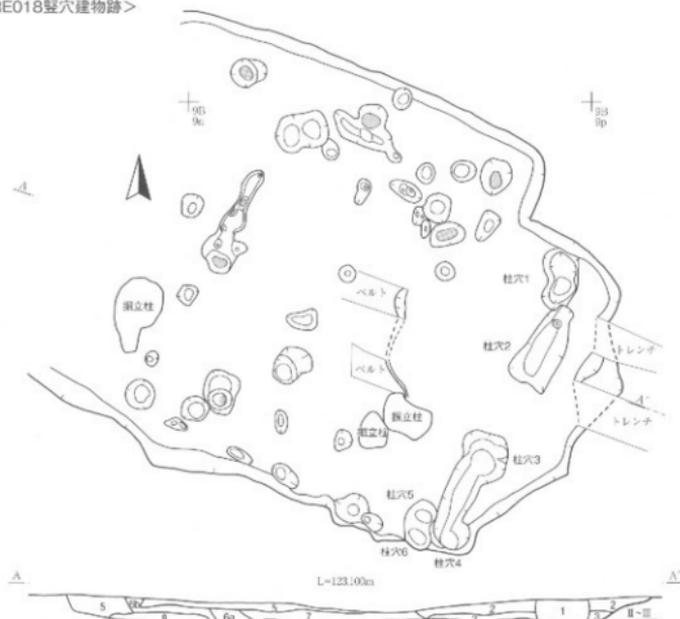
- RE017焼土
1 RE017 西縁部。シルト。焼土。
2 RE017 西縁部の7号に同じ。

柱穴	柱穴1	柱穴2	柱穴3	柱穴4	柱穴5	柱穴6	柱穴7
径 (cm)	32×26	35×28	22×18	23×20	25×22	22×20	15×12
深さ (cm)	20	11	2	7	11	4	7
柱穴8	柱穴9	柱穴10	柱穴11	柱穴12	柱穴13	柱穴14	柱穴15
30×30	23×10	17×25	45×30	27×12	30×18	25×12	25×17
14	14	13	18	12	4	3	15
柱穴16	柱穴17	柱穴18	柱穴19	柱穴20	柱穴21	柱穴22	柱穴23
23×30	40×25	30×30	15×15	20×20	31×26	35×32	25×20
14	26	4	23	3	10	22	8
柱穴24	柱穴25	柱穴26	柱穴27	柱穴28	柱穴29	柱穴30	柱穴31
30×28	35×23	16×12	30×14	25×20	20×18	25×16	65×36
14	15	10	14	12	3	7	20

0 1:25 1m

第22図 RE017竪穴建物跡

<RE018竪穴建物跡>



RE017, RE018竪穴建物跡

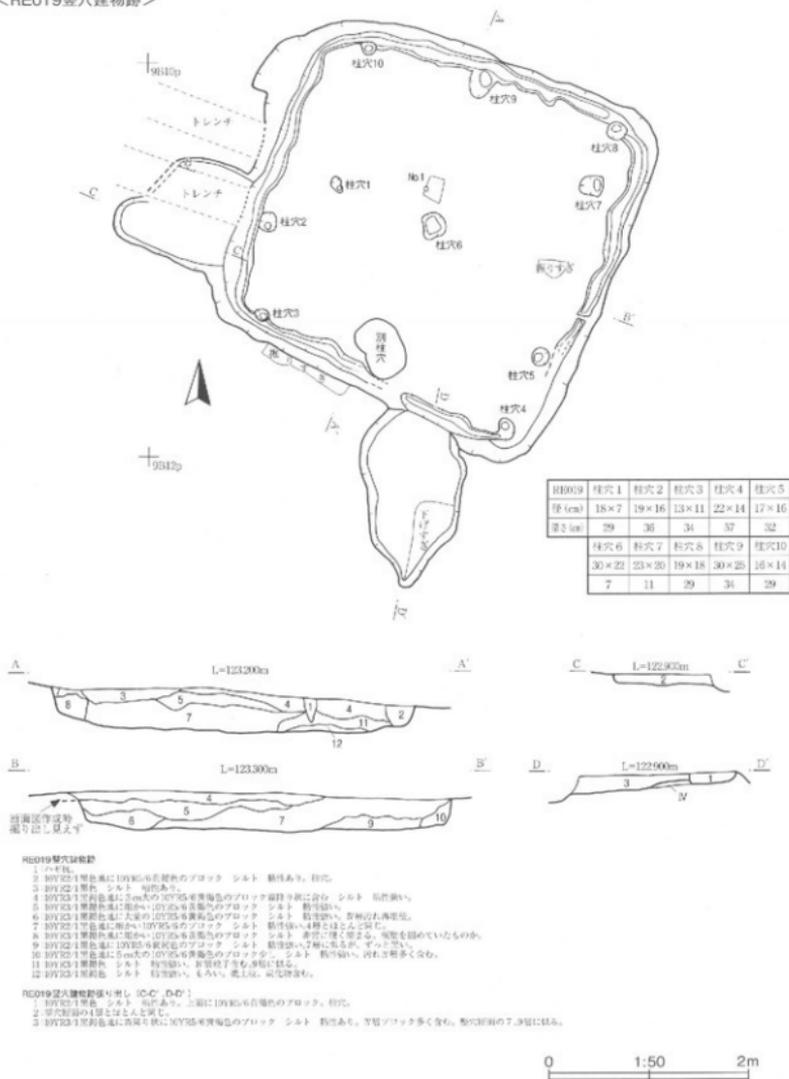
- 1 10YR5:2 赤褐色土(粘り気):10YR5:6黄褐色のアロク シルト 概く硬まる。柱穴らしい。
- 2 10YR5:1 赤褐色土 10YR5:6黄褐色のアロク少ない シルト 概く硬まる。互層アロク層も、RE018層穴状。
- 3 10YR5:1 赤褐色土 シルト 粘り気あり。自然の土層から、RE018層穴状。
- 4 10YR5:2 赤褐色土(粘り気):10YR5:6黄褐色のアロク多い シルト 概く硬まる。互層アロク層多い。RE018層穴の2層に粘るが、2層互層アロク層も硬まる。RE018層穴状。
- 5 10YR5:1 赤褐色土 シルト 互層アロク層性少く粘り気。互一柱脚穴状(傾立柱)。RE018層穴状。
- 6a 10YR5:1 赤褐色土 シルト 概く硬まる。柱穴。
- 6b 10YR5:1 赤褐色土 粘り気ある。互層アロク層性多し。RE018層穴状。
- 7 10YR5:2 赤褐色土 シルト 互一層層の互層。RE018層穴状。
- 8 10YR5:2 赤褐色土 シルト 粘り気あり。自然の土層から、互層アロク層性多し。RE018層穴状。
- 9 10YR5:2 赤褐色土(粘り気):10YR5:6黄褐色のアロク シルト 互層アロク層多し。4層に粘るが、互一層の、RE018層穴状。
- 10 互層アロク層を定けたもの。

	柱穴1	柱穴2	柱穴3	柱穴4	柱穴5	柱穴6
径 (cm)	65×45	90×40	55×45	38×22	28×25	30×25
深 (cm)	21	16	13	10	14	13

0 1:50 2m

第23図 RE018竪穴建物跡

<RE019竪穴建物跡>



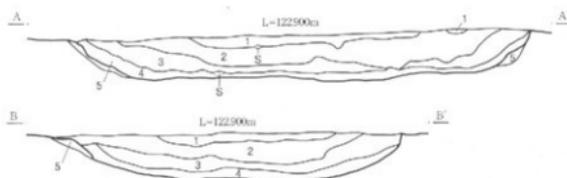
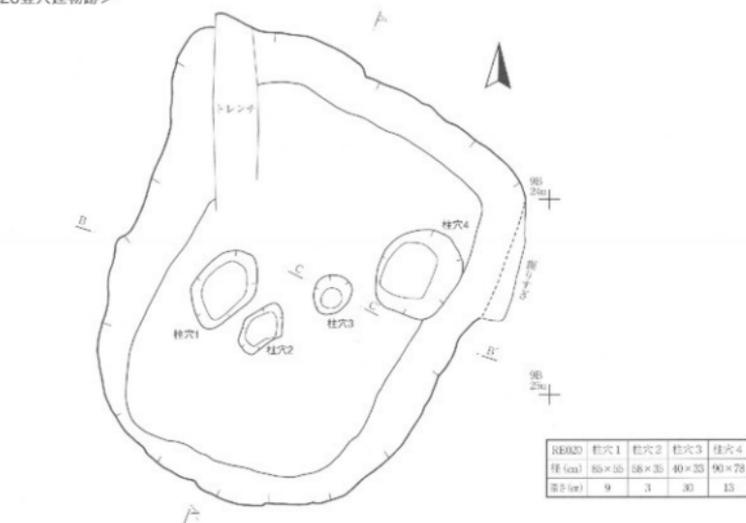
RE019竪穴跡輪郭

1. 不明
2. BVZ2 1層色面に10VZ5系黄褐色のブロック シルト 断片あり、砂状。
3. BVZ2 1層色 シルト 断片あり。
4. BVZ2 1層色面より2cm下の10VZ5系黄褐色のブロック層に露出するシルト 断片あり。
5. BVZ2 1層色面より約10cm下の10VZ5系黄褐色のブロック シルト 断片あり。
6. BVZ2 1層色面より1.5m下の10VZ5系黄褐色のブロック シルト 断片あり、砂状土塊あり。
7. BVZ2 1層色面より約10VZ5系のブロック シルト 断片あり、4層とはほとんど同じ。
8. BVZ2 1層色面より約10cm下の10VZ5系黄褐色のブロック シルト 断片あり、断面を削っていたものか。
9. BVZ2 1層色面より10VZ5系黄褐色のブロック シルト 断片あり、2層とは異なる、砂状土塊。
10. BVZ2 1層色面より約10cm下の10VZ5系黄褐色のブロック シルト 断片あり、河川土塊多く含む。
11. BVZ2 1層色面 シルト 断片あり、断面が砂状土塊、多量に露出。
12. BVZ2 1層色面 シルト 断片あり、もみ、炭、土灰、灰化層あり。

RE019竪穴跡輪郭より測し IC-C' D-D'

1. BVZ2 1層色 シルト 断片あり、上面に10VZ5系黄褐色のブロック、砂状。
2. 2層色面より約1.5mとはほとんど同じ。
3. BVZ2 1層色面より1.5m下の10VZ5系黄褐色のブロック シルト 断片あり、断面がブロック多く含む、断面が削り跡に露出。

<RE020竪穴建物跡>



RE020竪穴建物跡

1. BY1C31層部外周にBY1B54層部のアロクシ シルト 厚層アロクシ含む。
2. BY1C31層部外周に大形のBY1B54層部品のアロクシ シルト 厚層アロクシ多く含む。
3. BY1C31層部品 シルト 細かい空層 / アロクシ 砂子含む。
4. BY1C31層部外周にBY1B54層部品の高土 シルト 土一層部と空層の混在。
5. BY1B54層部品とBY1C31層部の混在 砂子 厚層部品によってカタラシキ受けたもの。



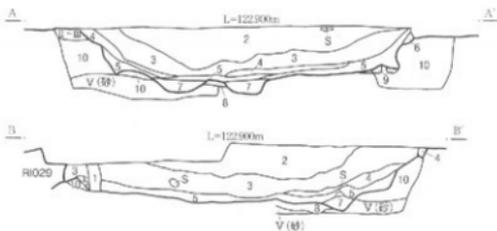
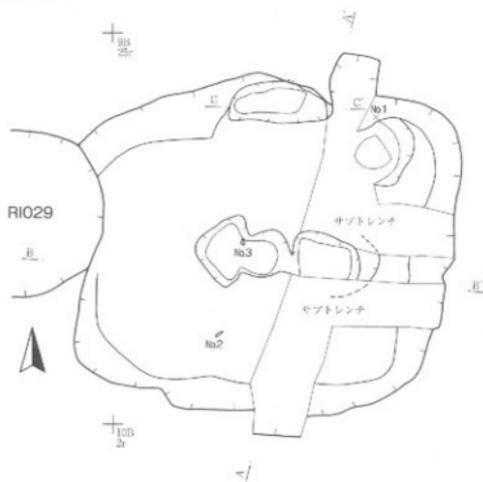
RE020竪穴建物跡断面

1. BY1B54層部 高土 / 厚層部品と1層部のアロクシ 粗土 アライ化した厚層部に混在する。混ったものらしい。
2. BY1E171層部 シルト 砂質多い。
3. BY1B42層部外周とBY1E171層部の混在 粗土 シルト 砂の薄層部と黒土の混在。



第25図 RE020竪穴建物跡

<RE021 竪穴建物跡>



RE021 竪穴建物跡

- 1 197R2: 厚土 シルト もろい、ハ状化。
- 2 197R3: 厚土層に 197R5 厚土層のフロッグ シルト 右側がブロック状。
- 3 197R3: 厚土層に多く 197R5 厚土層のフロッグ シルト 右側がブロック状。
- 4 197R2: 厚土 197R5 厚土層の境目 シルト 厚土層の厚みが多い。
- 5 197R2: 厚土層に 197R5 厚土層のフロッグ シルト 右側があるが、右側がブロックはより少ない。
- 6 197R2: 厚土 197R5 厚土層の境目 シルト 厚土層の厚みが多い。
- 7 197R2: 厚土層に 197R5 厚土層のフロッグ シルト 右側がブロック状、右側が厚土層、右側が厚土層。
- 8 197R2: 厚土 197R5 厚土層の境目 厚土 厚土層の境目。
- 9 197R4: 厚土層に 197R5 厚土層の境目 シルト 厚土層の厚みが多い。
- 10 197R5: 厚土層に 197R5: 厚土層の境目 厚土 厚土層の境目によってブロック状になったもの。



RE021 竪穴建物跡

- 1 197R5: 厚土層に 197R3: 厚土層の境目 厚土層の境目。
- 2 197R3: 厚土層に 197R5: 厚土層の境目 フロッグ シルト もろい部分と厚く積まる部分あり。



第26図 RE021 竪穴建物跡

(3) 柱穴群・掘立柱建物跡・柱穴列(第27~36図、写真図版8)

(a) 柱穴群

＜位置・検出状況＞中央区で検出した柱穴状ピットは800個以上であるが、木根等と判断したものを除外し796個を登録した(平面図では登録以外のものもそのまま残した)。このうち、掘立柱建物・柱穴列として使用したものは199個である。残りの「柱穴」も何らかの建物を構成している筈であるが、組み合わせを把握できなかった。小規模で浅い柱穴も多く、近代以降の耕作に起因する穴(「はせ穴」)かとも思われた。しかし、前回調査ではこのような小柱穴でも中世に属する可能性が指摘されており、強ち新しいものばかりとはいえない。＜位置・分布状況＞北寄り部分を除く、中央区全体に分布している。総数597個である。＜形状・規模＞掘り方の開口部形状は「J」・楕円を基準とするものが主であるが、一部に方形基準を呈するものもある。一部に大径のものもあるが、開口部径30~40cmほどのものが主である。深さは検出面から4~67cm、底面標高は122.03~124.23mである。全般的に柱痕部と掘り方埋土が検出面で柱痕跡、または底面で柱アタリが確認できるものも少なからずある。柱痕やアタリを見ると、掘り方の開口部形状のいかに関わらず、柱自体は直径15~20cm前後(5~7寸)の丸材を使用していたようである。＜覆土＞柱痕部分で黒色~黒褐色シルト、掘り方部分では黒褐色・暗褐色シルトを主体としている。混入物は多寡・大小の度合いは違うものの、主にIV層起源の黄褐色ロームや、V層の砂がブロック状に混じる程度で、炭化物は殆ど混じらない。＜出土遺物＞P175・301で鉄製品、P231で土師器小破片が出土した。＜時期＞直接の出土遺物が殆どないため、個々の時期を特定できない。古代から近代までのものを含む可能性があるが、主体は中世~近世と推測される。

(b) 掘立柱建物跡

柱穴796個から25棟を想定した(うち第13次調査分は2棟)。このうち、野外調査段階で把握できたのは18棟(RB020~034・042~044)で、その他の7棟は、整理段階において平面図上で検討・抽出したものである。また他に、前回調査で検出された掘立柱建物3棟(RB012~014)についてその北西部分を確認した。この3棟については今回調査部分についてのみ記載する。

前回調査の成果から当遺跡の掘立柱建物の軸線が概ね北東-南西であることがわかっており、建物抽出にあたってはこれを基準とした。柱間寸法は尺を基準とし、柱穴内で端数が0または5になるよう計測点を設定した。なお、1尺=0.303m、1坪=6尺×6尺=3.306㎡として換算している。

以下の記載において、「位置」は建物範囲のほぼ中心付近のグリッドを記した。また「重複関係」については建物柱穴の「直接の切り合い」が認められる場合についてのみ触れることとし、柱穴切り合いが無い「建物範囲の重複」(→新旧関係が不明)については記載を省いた。

これらの掘立柱建物跡は柱穴からの出土遺物がなく、遺構外を含めても遺物がごく僅かしかないこともあり、時期判断の根拠を欠くところではあるが、明らかに形態が近世的なものを除いて、「中世」として捉えることとする。土師器・須恵器や陶磁器類が皆無であるということが、柱穴=掘立柱建物の所属時期が遺物の少ない中世期ではないか、と推測する逆説的な根拠となっている。前回調査報告でもかかる観点から、掘立柱建物を「中世(16世紀ころ)」と推測しており、本項でもそれに従いたいと考えられる。

R B020 掘立柱建物跡 (第38図、写真図版9)

＜位置＞中央区南西部、9 A19 a グリッド付近に位置する。検出面はIV層上面である。本建物の柱穴は他のものに比べて大径なので容易に建物と認識できた。＜重複＞竪穴建物跡3棟と重複し、R E007を当建物跡の柱穴が切っている。北隅部分が前回調査区に延びている。前回調査のR E007のP5・6・8は位置関係から本建物を構成する柱穴と推測される。＜平面形式＞桁行7間で総長46.5尺、梁行4間で総長18.0尺、面積23.29坪(76.85㎡)である。東・南・北3面にある、4.5尺1間幅の細長い空間(P389・410・420・404)は底ないしは縁の可能性があり、身舎部分は3間×5間規模と捉えられる。身舎内部のP382・384・390・406は間仕切り柱であり、建物内は4室に分割される。部屋の規模は12間、6間、2間、4間が各1室である。＜建物方位＞桁行軸線は東へ振れており、N-23°Eである。＜柱穴＞今回調査範囲では32個を検出した。先述のとおり、前回調査区の3個を加えて、総数35個で構成されるものと捉えられる。なお、北東面中央のP388は前回調査のP672と同一のものである。掘り方平面は円形～楕円形が主であるが、方形さみのものもある。規模に差があり、身舎部分は大径で深く、庇部分はやや小さい傾向がある。IV層を掘りぬいており、V層砂を底面としている。柱痕跡は25個で確認されたが、いずれも径15～20cmの円形である。掘り方覆土は地山ブロックを含んだ黒褐色土である。なお、平面図を照合した結果、P388は前回調査におけるP672と同一の柱穴であった。＜柱間寸法＞身舎部分については、桁行に7.5尺が使用されている。また梁行では6.5尺～10.0尺と一定していない。庇幅は4.5尺である。＜建物の性格＞建物規模や間取りのあり方から、主屋と考えられる。東側のR B021(長屋?)、北側のR B022(付属屋)が本建物と一連のものだった可能性がある。＜時期＞洪武通寶が出土したR E007より新しいこと、および平面形態・間取りのあり方から見て近世まで下る可能性が高い。

R B021 掘立柱建物跡 (第39図、写真図版9)

＜位置＞中央区南西、9 A20 f グリッド付近に位置し、R B020の東側に隣接している。IV層面で検出した。＜平面形式＞南北2面で庇と考えられる4.0尺1間幅の空間があり、4間2面の建物と捉えられる。身舎部分は桁行4間で総長33.5尺、梁行は東面で中間に柱穴1個(P197)があるものの基本的には1間と思われる。梁総長は16.5尺である。間仕切りはない。面積は23.17坪(76.45㎡)である。＜建物方位＞桁行軸線は西に振れて、N-24°Wである。＜柱穴＞柱穴21個を使用している。円形～楕円形平面でいずれも小規模だが、径15cm(5寸)ほどの柱痕跡が確認されている。深さは＜柱間寸法＞桁行は概ね8.4尺を基本寸法としている。＜建物の性格＞間仕切りはないものの、2面に庇を有する長屋的な建物である。簡素な居住施設や作業小屋としての使用が想定できるが、具体的な用途は不明である。＜時期＞本建物の西側にR B020、北側にR B022が位置する。R B020に伴うと仮定すれば近世であるが、具体的な年代は不明である。

R B022 掘立柱建物跡 (第39図、写真図版10)

＜位置＞中央区南西部、9 A12 g グリッド付近に位置する。IV層面で検出した。＜平面形式＞北側桁行で柱穴を欠いているが、桁行は2間と捉えられ、総長は21.0尺を測る。梁行1間で総長7.5尺、面積は5.25坪(17.32㎡)である。間仕切りはない。＜建物方位＞桁行軸線は西に振れており、N-21°Wである。＜柱穴＞5個を検出した。竪穴建物との重複部分に1個存在していた可能性が高いが確認できなかった。＜柱間寸法＞桁行では11.0尺と10.0尺が使用されている。＜建物の性格＞規模・構造から付属屋と捉えられ、隣接するR B020・021に付随するものだった可能性がある。＜時期＞具体的な年代

は不明である。R B020・021に伴う場合は近世の可能性が高い。

R B023掘立柱建物跡(第40図、写真図版10)

＜位置＞中央区南端付近、10C24aグリッド付近に位置する。検出面はIV層である。＜平面形式＞桁行3間32.0尺、梁行2間16.0尺、面積14.25坪(47.01㎡)である。間仕切りはない。なお、本建物の周囲に14個の柱穴が並ぶものの、配置がランダムで庇とは断言しづらい。本建物に伴うものである可能性は高いが、用途・性格は不明としておく。＜建物方位＞桁行軸線はN-62°-Wである。＜柱穴＞10個検出した。深さは31-53cmである。＜柱間寸法＞桁行では概ね10.5尺、梁行では8.0尺を基本寸法としている。＜付属施設＞前述の周辺柱穴14個が本建物に伴う可能性あるが、性格不明である。＜建物の性格＞長尺的な側柱建物である。＜時期＞中世と思われる。

R B024掘立柱建物跡(第39図、写真図版11)

＜位置＞中央区東側、10B4tグリッド付近に位置する。＜平面形式＞桁行は総長25.5尺である。堀や井戸との重複部分に柱穴が存在した可能性高く、本来は桁行3間と推測される。梁行1間で総長13.0尺、面積9.22坪(30.43㎡)である。＜建物方位＞桁行軸線はN-73°-Wである。＜柱穴＞5個を検出した。深さは17-38cmである。＜柱間寸法＞検出柱穴が少なく不明確であるが、梁行の柱間寸法は13.0尺である。＜建物の性格＞平面形態や規模から付属屋と思われるが、検出柱穴が少ないためはつきりしない。＜時期＞大きくは中世と捉えられるが、R G015よりも古く、環濠屋敷成立以前に存在した建物である。

R B025掘立柱建物跡(第39図)

＜位置＞中央区東側、9 B23tグリッド付近に位置する。＜平面形式＞桁行は3間21.0尺、梁行は1間12.0尺、面積7.01坪(23.14㎡)である。間仕切りはない。＜建物方位＞桁行の軸線はN-81°-W、ほぼ東西方向である。＜柱穴＞8個検出した。深さは28-43cmである。＜柱間寸法＞桁行では7.0尺を基本寸法としている。＜付属施設＞南側に位置するR C004は本建物と似通った軸線をとっており、本建物に付随する構ないしは堀と推測される。＜建物の性格＞付属屋である。＜時期＞中世と思われる。

R B026掘立柱建物跡(第40図、写真図版11)

＜位置＞中央区東側、9 B19wグリッド付近に位置する。＜平面形式＞桁行は3間19.5尺である。梁行は15.5尺、東面は1間であるが、西面では2間となっている。面積は8.42坪(27.78㎡)である。＜建物方位＞桁行はN-71°-Wを軸線としている。＜柱穴＞7個検出した。深さは28-59cmである。＜柱間寸法＞桁では6.5尺を基本間尺としている。梁側は8.0尺と7.5尺を併用している。＜建物の性格＞付属屋である。＜時期＞中世と思われる。

R B027掘立柱建物跡(第40図、写真図版11)

＜位置＞中央区東側、9 B19tグリッド周辺に位置する。＜平面形式＞東面に幅3.5尺の庇が付されている。身舎部分は桁行3間で総長27.0尺、梁行2間で総長16.5尺である。面積は身舎部分で12.40坪(40.90㎡)、庇を含めれば15.02坪(49.58㎡)である。間仕切り柱はない。＜建物方位＞桁行の軸線はN-18°-Eである。＜柱穴＞13個を検出した。＜柱間寸法＞桁行では8.0尺と11.0尺、身舎の梁行では8.0

尺と8.5尺である。＜建物の性格＞庇を伴う建物であり、簡易な居住施設と考えられる。＜時期＞中世に属すると思われる。

R B 028 掘立柱建物跡 (第40図、写真図版11)

＜位置＞中央区東側、9 B 16 u 付近に位置する。＜平面形式＞桁行3間25.5尺、梁行2間16.0尺の矩形を呈する、側柱建物である。面積は11.35坪 (37.46㎡) である。＜建物方位＞N-75°-Wで、ほぼ東西棟である。＜柱穴＞9個検出した。西面梁間に柱穴を欠いている。＜柱間寸法＞桁行では6.0尺・9.5尺・10.0尺が用いられており、基本寸法は見出せない。梁行は東面を参照すると6.5尺と9.5尺を使用している。＜建物の性格＞付属屋である。なお、南側に3.3尺ほど離れてR C 005が位置しているが、本建物に伴う目隠し塀と捉えられる。＜時期＞中世と思われる。

R B 029 掘立柱建物跡 (第41図、写真図版11)

＜位置＞中央区北側、8 A 18 n グリッド付近に位置する。検出面はIV層である。柱穴が部分的に並ぶことに気付いて建物の存在を想定したが、乱石や井戸の存在により全容を掴むのに手間取った。周辺には本建物と対応しそうな柱穴が未だあるが、全体形状に不整合なものは使用しなかった。＜平面形式＞北東隅の柱穴を欠いているが、桁行3間と考えられる。西面には幅4.5尺の庇が付いており、身舎部分は桁行3間30.0尺・梁行13.5尺である。面積は庇部分を含めて15.02坪 (49.6㎡) である。＜建物方位＞ほぼ南北棟で、桁行軸線はN-10°-Eである。＜柱穴＞16個検出した。＜柱間寸法＞桁行は9.5～10.5尺を使用しており、概ね10尺を基準としているようである。＜建物の性格＞内部が間仕切りされており、規模はやや小さいが居住施設と思われる。＜時期＞中世か。

R B 030 掘立柱建物跡 (第41図、写真図版12)

＜位置＞中央区北西部、8-A 19 m グリッド周辺に位置する。南側で試掘トレンチ痕跡と思われる乱れが入っている。＜平面形式＞矩形を基調とし、南側に張出しが付される。桁行は西側4間、東側3間と柱穴が対応しない箇所がある。桁総長は19.5尺である。梁行は2間12.0尺である。張出部は6.0尺×7.0尺の1間四方である。面積は張出部も含めると15.03坪 (49.59㎡) である。＜建物方位＞桁行軸線はN-23°-Eである。＜柱穴＞14個検出した。P 11は本建物に属するものと考えたが、位置がずれており、確実ではない。＜柱間寸法＞桁間尺は4.0～5.5尺が使用されており、基本寸法は見出せない。梁では6.0尺で揃う。＜建物の性格＞柱配置は竪穴建物のそれに類似しており、床面以下まで削平された竪穴建物の残骸とも考えられる。仮に竪穴建物だった場合は、かなり大形の部類に入るものである。＜時期＞中世と思われる。

R B 031 掘立柱建物跡 (第41図)

＜位置＞中央区北西部、9-A 23 m グリッド付近に位置している。＜平面形式＞桁行は2間12.0尺である。梁行は東面で柱間にP 21があるものの、基本的には1間と捉えておく。面積は2.67坪 (8.81㎡) である。＜建物方位＞桁行軸線はN-55°-Eである。＜柱穴＞7個検出した。＜柱間寸法＞桁側では5.0尺・7.0尺、梁間では8.0尺である。＜建物の性格＞付属屋である。位置的にはR B 030に付随する可能性があるが、軸線が著しく異なる。＜時期＞中世と思われる。

R B032 掘立柱建物跡 (第41図)

＜位置＞中央区西側、9-A110グリッド付近に位置する。北西半の柱穴はIV層面で検出したが、南東半は攪乱等でV層まで下がり残りが悪かった。＜平面形式＞桁行は総長37.5尺では揃っているものの、梁行が不揃いで歪んだ矩形である。南・北面に庇が付いており、4間2面の建物である。梁行北西側の総長は24.0尺、南東側総長は22.0尺である。中央部分で間仕切柱が1個(P86)検出されており、内部は4間2部屋に分割されていた可能性がある。面積は24.0坪(79.18㎡)である。＜建物方位＞桁行軸線はN-61°-Wである。＜柱穴＞23個を検出した。北西半の柱穴は深くしっかりしたものであるが、南東半の柱穴は前述のとおり砂層面で検出しており全般に浅く不明瞭であった。＜柱間寸法＞桁行寸法は8.5尺、9.5尺、10.0尺の3種があり、不統一である。北西側の梁行寸法は、身舎部分は8.5尺、庇は3.5尺を基本寸法としている。＜建物の性格＞葎みあるものの、間仕切りされていた可能性もあり居住施設と思われる。＜時期＞中世(16世紀頃)か。南東に位置するR B020・021等と同一軸線をとっており、同時期である可能性が考えられる。

R B033 掘立柱建物跡 (第41図、写真版12)

＜位置＞中央区西側、8-A25yグリッド付近に位置する。＜平面形式＞桁行2間12.5尺、梁行2間9.0尺の矩形を呈する。P275は建物の中央からずれた位置にあって、他の柱穴よりも若干小径なことから、束柱かもしれない。面積は3.13坪(10.33㎡)である。＜建物方位＞桁行軸線はN-77°-Wと大きく西に振れており、ほぼ東西棟といえる。＜柱穴＞9個を検出した。すべての柱穴で柱痕跡が確認でき、底面で柱アタリが見られた。使用された柱は径15～20cmの丸材と推定される。なおP274では掘り方底面より7～8cm上で柱アタリを確認した。この「上げ底」については、柱穴掘削後に柱材の長さ調節のため一部埋め戻したものと解釈される。＜柱間寸法＞桁行は4.0尺・5.0尺、梁行は6.0尺・6.5尺と揃っていない。＜建物の性格＞建物規模および束柱の存在から高床倉庫と考えられる。＜時期＞他の建物とは異なり、柱穴掘り方が大きく、柱痕跡も明瞭であった。かかる様相の違いが時期差を反映したものなのか定かではないが、柱配置や柱穴の状態から古代に属する可能性も否定できない。

R B034 掘立柱建物跡 (第42図)

＜位置＞中央区西側、8-A21aグリッド付近に位置する。＜平面形式＞桁行3間25.5尺、梁行1間14.5尺の掘立柱建物で、面積は10.29坪(33.95㎡)である。＜建物方位＞桁行主軸はN-20°-Eである。＜柱穴＞8個を検出したが、深さ9～24cmと浅く、小径である。＜柱間寸法＞桁行では7.0尺・8.5尺・10.0尺が用いられ、揃っていない。＜建物の性格＞規模的には居住施設とも考えられるが、柱穴自体はしっかりしたのではなく、恒常的な建物とは思われない。＜時期＞中世と思われる。

R B035 掘立柱建物跡 (第42図)

＜位置＞中央区西側、9-A9qグリッド付近に位置する。中央付近は後世の攪乱により検出面以下まで抉られている。＜平面形式＞一部柱穴を欠くが、桁行3間33.0尺、梁行2間22.5尺の掘立柱建物と捉えられる。面積は20.66坪(68.17㎡)である。＜建物方位＞桁行はN-29°-Eを主軸とする。＜柱穴＞9個確認した。深さは17～50cmと差がある。＜柱間寸法＞桁行は9.5尺・11.0尺・12.5尺と不揃いであるが、平均すれば11.0尺となる。梁は8.5尺・14.0尺である。＜建物の性格＞付属屋である。＜時期＞中世と思われる。

R B 036 掘立柱建物跡 (第42図)

＜位置＞中央区西側、8-A 24 u グリッド付近に位置する。＜平面形式＞東西に庇をもつ4間2面の建物である。桁行4間で総長29.0尺。梁行は身舎部分が1間13.0尺、庇を含めると20尺である。庇を含めた面積は16.13坪 (53.24㎡) である。間仕切りはない。＜建物方位＞桁行の軸線はN-18°-Eである。＜柱穴＞19個を検出した。＜柱間寸法＞桁行は7.0尺と7.5尺の2種を用いている。＜付属施設＞R C 006が本建物の西側に隣接しており、ほぼ同一軸線をとっている。本建物に付随する構(または塀)と考えられる。＜建物の性格＞間仕切りはされていないが、規模や庇の存在等から居住施設と思われる。＜時期＞中世と思われる。

R B 037 掘立柱建物跡 (第42図)

＜位置＞中央区西側、9-A 8 t グリッド付近に位置する。＜平面形式＞桁行2間・梁行2間、寸詰まりの矩形である。桁行総長11.5尺、梁行総長10.0尺、面積3.20坪 (10.56㎡) である。＜建物方位＞桁行の軸線はN-42°-Eである。＜柱穴＞7個検出した。北東面の梁間に柱穴1個があり2間となっているが、南西面ではない。深さは＜柱間寸法＞桁行では5.5尺・6.0尺、梁行では4.0尺・6.0尺が用いられ、揃っていない。＜建物の性格＞平面形および規模からみて付属屋で、倉庫か作業小屋としての使用が想定される。＜時期＞中世と思われる。

R B 038 掘立柱建物跡 (第42図)

＜位置＞中央区西側、9-A 5 r グリッド付近に位置する。＜平面形式＞重複部分で柱穴が消失している可能性が高く、桁行2間・梁行1間と捉えている。桁行の総長は14.5尺、梁は12.0尺である。面積は4.84坪 (15.98㎡) である。＜建物方位＞桁行の主軸方向はN-85°-W、ほぼ東西棟である。＜柱穴＞5個検出した。本来は北面桁行に1個存在していたと推測される。＜柱間寸法＞桁行では6.0尺と8.5尺が使われている。＜建物の性格＞付属屋である。倉庫か作業小屋としての使用が想定される。＜時期＞中世と思われる。

R B 039 掘立柱建物跡 (第43図)

＜位置＞中央区西側、9-A 4 y グリッド付近に位置する。＜平面形式＞桁行3間23.5尺、梁行2間13.0尺の側柱建物である。やや柱通りが悪く、柱穴同士の対応関係にも若干のズレがある。面積は8.50坪 (28.05㎡) である。＜建物方位＞桁行の主軸はN-69°-Wである。＜柱穴＞9個検出した。＜柱間寸法＞桁行の寸法は最短6.0尺から最長9.5尺まで種々あり、バラついている。梁間は東面では中間の柱がないが、西面では2間で5.5尺と7.5尺が用いられている。＜建物の性格＞付属屋である。作業小屋や簡易な居住施設としての使用が考えられる。＜時期＞中世と思われる。

R B 040 掘立柱建物跡 (第43図、写真図版11)

＜位置＞中央区東側、9 B 19 u グリッド付近に位置する。＜平面形式＞西側で柱穴1個を欠くが、2間×2間と捉えられる。南・北面の柱筋は総長120尺、東・西面の柱筋では総長11.5尺で、僅かに前者が長いもののほぼ正方形の建物といえる。面積は10.85坪 (35.81㎡) である。＜建物方位＞梁・桁の判別が明瞭ではないが、仮に南・北面柱筋を主軸と考えると、N-74°-Wである。＜柱穴＞7個を検出した。＜柱間寸法＞5.0-7.0尺までの寸法が見られ、統一されていない。＜建物の性格＞付属屋である。規模からして家畜小屋(厩?)の類かもしれない。＜時期＞中世と思われる。

R B041 掘立柱建物跡 (第43回)

＜位置＞中央区東側、9 B11 p グリッド付近に位置する。一部が前回調査区にかかっている。＜平面形式＞確認できない柱穴があるものの、桁行4間26.0尺、梁行2間15.0尺、側柱建物と推定される。P573はP571・567と位置が合わず、本建物には関係ないかもしれない。面積は10.85坪 (35.81㎡) である。＜建物方位＞桁行の主軸方向はN-67°-Wである。＜柱穴＞不確実なP573を除けば、今回調査区で8個が確認された。また前回調査区のP11も本建物に属するものである。深さは15～36cmである。＜柱間寸法＞一部柱穴を欠くが、桁行では基本寸法6.5尺を使用していると捉えられる。梁行では8.0尺と7.0尺である。＜建物の性格＞付属屋である。＜時期＞竪穴建物との重複関係から中世と推測される。

R B042 掘立柱建物跡 (第43回)

＜位置＞中央区北側調査区境、8 B20 j グリッド付近に位置する。＜平面形式＞柱穴は部分的にしか確認できなかった。建物範囲は北側の調査区外へ伸びているらしい。また西側へも広がる可能性もあるが、周辺の擾乱等により確認できなかった。東面の柱筋は5間20.0尺 (6.06m) 以上、南面の柱筋は6間19.8尺 (6.0m) 以上と推測される。建物内にはP544・549が配置されている。P544は付属土坑、P549は東柱と考えられる。＜建物方位＞桁・梁が判別できないが、仮に東側柱筋を桁行とすれば、N-22°-Eとなる。＜柱穴＞11個検出した。南側の4個は浅く、痕跡程度しか残っていない。一方、東側柱筋および西側P543は大径である。そのうちP543・546・547の底面で扁平礫を検出した。根石（礎石？）と推測される。なお、P543では礫の下に柱アタリが確認されており、柱穴を再利用した建て替えが想定される。＜柱間寸法＞東面では4.0尺 (1.21m)、南面では3.3尺 (1.0m) を基準寸法としている。＜付属施設＞P544は柱穴ではなく、本建物に付属する土坑であるが、遺物は出土せず、その性格は不明である。＜建物の性格＞一部しか確認できなかったため、性格不明である。＜時期＞具体の年代は不明である。周辺住民によれば、かつて本建物付近に家屋があったらしく、その痕跡の一部と推測される。また、柱間寸法はメートルにもとづいたものとも見える。以上より、近代以降の建物と捉えておく。

R B043 掘立柱建物跡 (第43回、写真図版13)

＜位置＞中央区の中央付近、9 A 2 w グリッド付近に位置する。主体は第13次調査区内にある。＜平面形式＞桁行3間、梁行1間13.5尺の側柱建物である。桁行の柱穴は揃っているが、梁行の長さが異なり、台形状に並んでいる。面積は9.95坪 (32.84㎡) である。＜建物方位＞桁行主軸線は南東側で見るとN-24°-Eである。＜柱穴＞8個検出した。＜柱間寸法＞桁の間尺は7.5尺・8.5尺・10.5尺が使われており、揃っていない。＜建物の性格＞付属屋である。簡易な居住施設か、作業小屋としての用途が考えられる。なお、本建物の西～南側に多数の井戸群が占地しており、これらと関連すると捉えれば、居住施設か。＜時期＞中世か。

R B044 掘立柱建物跡 (第43回、写真図版13)

＜位置＞中央区の中央付近、9 A10 t グリッド付近に位置する。主体は第13次調査区内にある。＜平面形式＞矩形の側柱建物である。梁間は1間13.0尺である。桁行は南陽が前回調査区へと延びており、全体では3間18.5尺となる。面積は6.69坪 (22.08㎡)。＜建物方位＞桁行の主軸はN-32°-Eである。＜柱穴＞今回調査区では7個を検出し、前回調査で検出された1個 (11次のP643) が南陽の柱

穴と確認した。＜柱間寸法＞桁行の間尺は5.5尺と6.5尺が使用される。＜建物の性格＞付属屋である。簡易な居住施設か、作業小屋としての用途が考えられる。R B043と同じく、周辺の井戸群との関連性を考慮すれば、居住施設とも思えるが、小規模でありR B043に付随する小屋と捉えるのが妥当か。＜時期＞中世か。

R B012掘立柱建物跡(第44㉔)

＜位置＞前回調査で検出された建物である。中央区東側、9 B15 r～17 q グリッドで東隅部分を検出した。＜平面形式＞今回調査では東隅の柱は検出されなかったが、前回調査区と合わせると桁行4間、梁行3間、西面に庇がつく建物と捉えられる。＜柱穴＞今回調査では桁側の3個を検出した。深さはP604が18cmと浅いが、P585・614はともに47cmと揃っている。＜時期＞前回報告では中世(16世紀後半)としている。

R B013掘立柱建物跡(第44㉔)

＜位置＞前回調査で検出された建物である。中央区東側、9 B15 r グリッドで東隅部分を検出した。＜平面形式＞前回調査分と合わせると、桁行3間・梁行2間の矩形を呈している。＜柱穴＞今回調査で東隅の1個を検出した(P584)。深さは21cmである。＜時期＞前回報告では中世(16世紀後半)としている。

R B014掘立柱建物跡(第44㉔)

＜位置＞前回調査で検出された建物である。中央区東側、9 B16 q グリッドで東隅部分を検出した。＜平面形式＞前回調査分と合わせると、桁行3間・梁行2間の矩形である。＜柱穴＞今回調査では桁側の1個を検出した(P603)。深さは40cmである。北東隅の柱穴は検出されなかった。＜時期＞前回報告では中世(16世紀後半)としている。

(c) 柱穴列

R C004柱穴列(第44㉔)

＜位置＞中央区東側、9 A23 o～9 A24 s グリッド、R B025の南側に位置する。西端の柱穴は前回調査区に位置している。＜平面形式・柱穴＞今回調査区で直線的に並ぶ柱穴3個を検出、前回調査区の2個がこれに続くことを確認した。総長29.5尺、柱間隔は6.5～7.5尺である。柱穴自体はいずれも小規模なもので、深さ22～28cmである。＜遺構の性格＞やや西側にずれてはいるものの、北側にR B025と同じ軸方向をとることから、同建物に付随する可能性が考えられる。目隠し屏ないしは欄だったものと推測される。＜時期＞R B025と同時期存在であり、中世か。

R C005柱穴列(第44㉔)

＜位置＞中央区東側、9 B16 p～9 B17 u グリッド、R B028の南側に位置する。西側で前回調査区まで延びている。＜平面形式・柱穴＞今回調査区で4個を検出。前回調査区の1個を含めた柱穴5個の直線的な並びである。総長は29尺、柱間隔は、P625以西では6.0～6.5尺、P625～653のみ9.5尺である。柱穴の深さは15～35cmと差がある。＜遺構の性格＞R B028南面に沿って同一軸線をとることから、同建物に付随する欄ないしは塀だったものと推測される。＜時期＞R B028と同時期存在である。中世か。

R C006柱穴列 (第44回)

〈位置〉中央区西側9-A5q~7sグリッド付近、R B038の南~南西側に沿っている。〈平面形式・柱穴〉柱穴6個で構成される。L字形の配列で、R B038西面に沿って3個、南面に沿って4個が並ぶ。柱間隔は、西側で6.0尺、南側で約8.5尺とはほぼ一定である。柱穴の深さは、P128のみ15cmと浅いが、他は37~43cmと揃っている。〈遺構の性格〉R B038に付随する欄または塀と推測される。〈時期〉R B038と同時期である。中世か。

第2表 柱穴一覧表

No.	深さ (cm)	位置 (m)	備考	No.	深さ (cm)	位置 (m)	備考	No.	深さ (cm)	位置 (m)	備考
1	32.4	123.017		115	29.5	122.945		172	40.1	122.642	
2	27.6	123.034		116	39.6	122.774	R B035	173	37.8	122.665	
3	19.0	123.110		117	40.5	122.643	R C006	174	36.3	122.680	
4	22.4	123.067		118	27.0	122.770	R B035	175	46.7	122.570	鉄製土
5	11.8	123.132	R B030	119	18.1	122.838		176	31.5	122.695	
6	26.0	123.032	R B030	120	43.0	122.606		177	21.9	122.703	
7	23.2	123.048	R B030	121	35.9	122.676		178	17.6	122.782	
8	31.8	122.962	R B030	122	17.5	122.910		179	16.8	122.770	
9	11.2	123.170	R B030	123	34.2	122.798		180	32.1	122.807	
10	14.8	123.147	R B030	124	18.6	122.840		181	12.8	122.853	
11	12.4	123.116	R B030	125	9.3	122.922		182	21.3	122.770	
12	36.4	123.012	R B030	126	36.8	122.752	R C006	183	13.3	122.885	
13	20.4	123.030	R B030	127	30.7	122.763		184	14.6	122.898	
14	25.2	122.996	R B030	128	14.9	122.866	R C006	185	12.4	122.886	
15	10.4	123.000	R B030	129	24.8	122.872		186	23.0	122.912	
16	29.8	122.913	R B030	130	36.8	122.752	R C006	187	46.8	122.870	
17	14.2	123.056	R B030	131	28.7	122.798		188	34.9	122.539	
18	15.8	123.072	R B030	132	43.0	122.655		189	30.3	122.745	
19	12.2	123.240		133	19.0	122.955		190	35.3	122.680	
20	44.2	122.822	R B031	134	16.4	122.962		192	16.5	122.768	
21	32.0	122.952	R B031	135	32.5	122.775		193	47.1	122.983	
22	34.5	122.925	R B031	136	20.5	122.895		194	21.1	122.469	
23	36.7	122.898	R B031	137	51.0	122.590		195	32.2	122.561	
24	22.8	122.994	R B031	138	17.2	122.930	R B035	196	27.5	122.698	
25	36.2	122.910	R B031	139	41.0	122.729	R C006	197	33.4	122.535	
26	27.5	123.010	R B031	140	24.6	122.866		198	34.3	122.650	
27	19.4	123.072		141	22.8	122.872		199	30.3	122.698	
28	21.2	123.060		142	31.5	122.785		200	21.0	122.367	
29	23.1	123.134		143	54.2	122.500		201	27.4	122.603	
30	15.8	123.097		144	21.0	122.800		202	27.7	122.600	
31	21.5	123.000		145	44.7	122.635		203	15.9	122.716	
32	9.2	123.116		146	22.2	122.888		204	38.1	122.665	
33	10.8	123.098		147	39.6	122.660	R B035	205	29.5	122.621	
34	13.0	123.072		148	41.7	122.618	R C006	206	10.3	122.797	
35	26.0	123.072		149	38.3	122.682		207	22.4	122.801	
36	78.1	122.967	R B032	150	38.3	122.712		208	30.0	122.795	
37	52.2	123.116		151	22.7	122.858		209	36.5	122.830	
38	67.4	122.982	R B032	152	37.0	122.730		210	29.3	122.802	
39	37.3	122.893		153	49.3	122.592		211	44.3	122.950	
40	31.5	122.955		154	28.8	122.810		212	*	跡なし	
41	11.1	123.159		155	39.2	122.680	R B035	213	20.4	122.901	
42	10.1	123.178		156	32.2	122.730		214	20.8	122.897	
43	22.8	122.978		157	59.5	122.510		215	18.6	122.878	
44	20.1	123.005		158	23.4	122.848		216	22.3	122.727	
45	61.3	122.628	R B032	159	25.0	122.790		217	21.9	122.690	
46	32.0	122.870	R B032	160	33.7	122.735		218	14.2	122.768	
47	33.1	122.847	R B032	161	28.0	122.782		219	40.0	122.604	
48	24.9	123.052	R B032	162	27.0	122.795		220	11.1	122.893	
49	16.3	123.107		163	31.3	122.757		221	26.9	122.804	
50	41.3	122.827		164	42.8	122.610		222	26.3	122.762	
51	46.6	122.815		165	19.2	122.880		223	14.4	122.814	
52	33.5	122.746	R B032	166	19.5	122.860		224	23.9	122.680	
53	27.6	123.046		167	33.3	122.722		225	17.1	122.762	
54	24.9	123.073		168	29.5	122.765		226	22.1	122.710	
55	12.5	123.202		169	28.0	122.780		227	21.3	122.688	
56	20.9	122.930		170	39.0	122.630		228	13.4	122.787	
57	28.9	123.006		171	22.2	122.716		229	33.6	122.616	

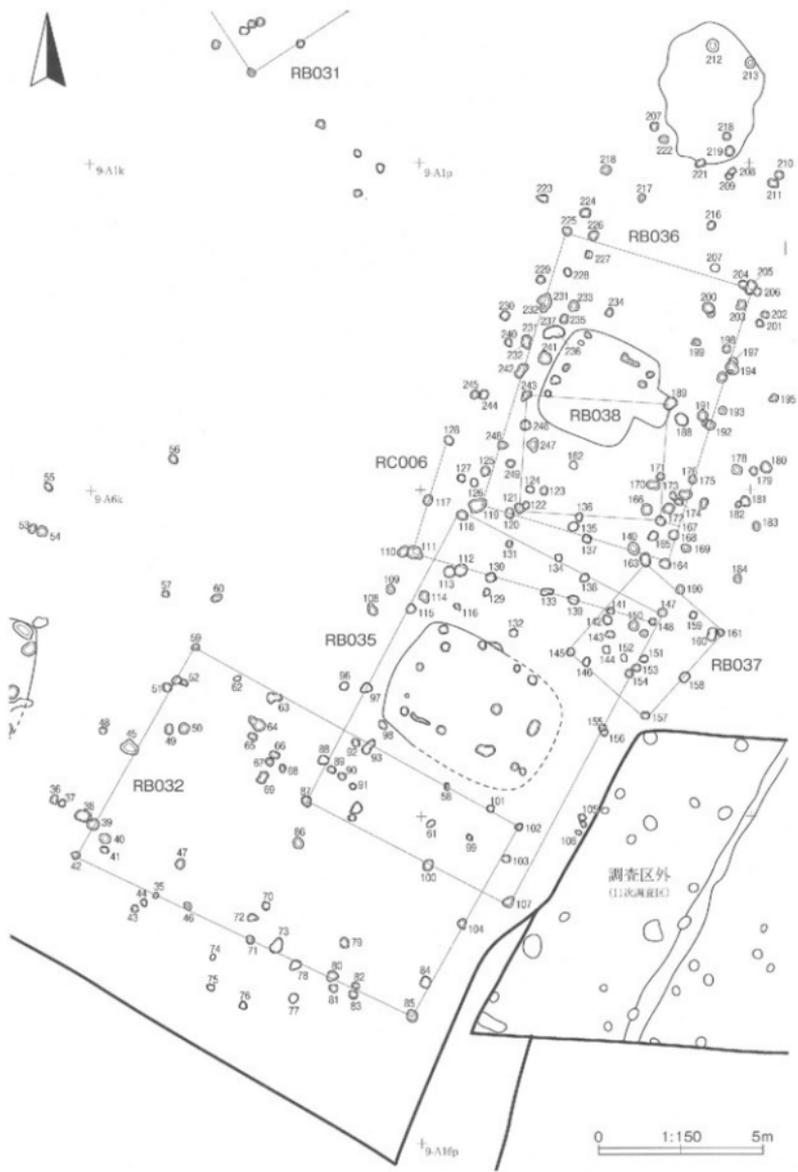
No.	深さ (m)	位置高 (m)	備考												
230	139	122871		301	292	122808	鉄甲品	372	217	123034		442	495	122863	R D02
231	219	122746	土留部	302	180	122920		373	358	122903		413	469	122780	
232	78	122867		303	189	122906		374	457	122863	R D02	444	473	122785	
233	213	122737		304	41.0	122688		375	472	122959	R D02	413	370	122863	
234	387	122528		305	35.8	122730		376	51.0	122838	R D02	416	31.3	122904	
235	309	122610		306	20.6	122875		377	468	122885	R D02	447	26.3	122961	
236	378	122683		307	13.9	122866		378	49.6	122950	R D02	448	43.4	122821	
237	374	122617		308	壁跡点L			379	38.1	122901	R D02	449	40.7	122860	
238	229	122753		309	19.0	122920		380	26.3	122975		450	31.5	122942	
239	123	122863		310	18.4	122986		381	34.6	122888		451	30.1	122858	
240	48.4	122737		311	23.8	122822		382	41.1	122863	R D02	452	30.6	122960	R D02
241	37.8	122600		312	19.3	122910		383	45.3	122859	R D02	453	43.3	122777	R D02
242	27.2	122718		313	35.9	122952	R D02	384	42.9	122889	R D02	454	32.6	122858	R D02
243	27.2	123010		314	38.0	122701	R D02	385	47.0	122758		456	33.3	122873	R D02
244	42.4	122552		315	30.3	122960	R D02	386	39.5	122990	R D02	456	45.3	122737	R D02
245	16.3	122813		316	21.1	123008	R D02	387	36.3	122838		457	32.6	122888	R D02
246	29.6	122728		317	38.7	122880	R D02	388	49.5	122999	R D02	458	46.3	122780	R D02
247	43.4	122563		318	36.9	122893	R D02	389	32.6	122917	R D02	459	47.3	122785	R D02
248	38.5	122617		319	22.7	122985	R D02	390	32.8	122839	R D02	460	37.0	122965	R D02
249	13.1	122870		320	30.8	123013	R D02	391	33.5	122880		461	34.3	123004	R D02
250	17.2	122898		321	28.2	122960	R D02	392	35.0	122878		462	46.1	122709	R D02
251	118	122977		322	38.0	122862	R D02	393	42.8	122819		463	43.3	122737	
252	19.8	122882		323	20.0	122960	R D02	394	16.1	123051		464	32.6	122888	
253	209	122966	R D03	324	45.4	122742	R D02	395	19.2	123008		465	33.5	122873	
254	18.5	122964	R D04	325	31.3	123008		396	30.3	122965		466	31.2	122889	
255	8.6	123010	R D04	326	31.9	123066		397	25.9	122967		467	38.7	122840	
256	21.2	122818	R D03	327	35.6	122815		398	26.8	122880		468	47.3	122785	R D02
257	21.8	122897		328	42.1	122750		399	29.8	122900		469	37.0	122865	R D02
258	22.0	122852	R D04	329	26.6	122962		400	19.1	123032		470	34.3	122901	R D02
259	15.2	122928	R D03	330	30.7	122868		401	22.3	123055		471	36.3	122963	R D02
260	15.8	122907	R D04	331	35.1	122887		402	23.2	123018		472	48.4	122821	R D02
261	31.2	122810	R D04	332	44.1	122782		403	44.6	122792		473	34.1	122851	R D02
262	13.7	122915		333	16.6	123048		404	50.3	122820	R D02	474	37.8	122848	
263	21.2	122840		334	22.4	123002		405	47.3	122990	R D02	475	19.6	123001	
264	8.8	122942		335	45.3	122773		406	43.6	122838	R D02	476	32.6	122888	
265	31.7	122725		336	19.2	123015		407	30.7	122891		477	33.5	122873	R D02
266	29.8	122714		337	28.5	122917		408	29.7	122918		478	31.2	122880	R D02
267	44.5	122630	R D03	338	20.8	123022		409	52.3	122914	R D02	479	38.7	122840	R D02
268	45.8	122584	R D03	339	30.3	122906		410	51.1	122912	R D02	480	19.7	122999	R D02
269	43.1	122569	R D03	340	16.3	123001		411	36.0	122821		481	34.1	122851	
270	36.0	122478	R D03	341	25.8	122896		412	50.1	122838	R D02	482	19.7	122999	
271	45.4	122510	R D03	342	20.9	123022		413	48.7	122863	R D02	483	38.9	122626	
272	32.6	122502	R D03	343	29.7	122883		414	37.8	122812		484	33.1	122912	R D02
273	54.8	122470	R D03	344	38.4	122710	R D04	415	43.5	122869	R D02	485	17.7	123017	R D02
274	37.4	122438	R D03	345	11.8	122870		416	50.3	122911	R D02	486	31.6	122832	R D02
275	63.9	122399	R D03	346	27.2	122675	R D04	417	34.7	122922		487	41.7	122735	
276	37.2	122487		347	13.1	122762	R D04	418	33.8	122890		488	32.0	122834	R D02
277	41.6	122528		348	6.4	122938	R D04	419	28.4	122973		489	24.9	122962	R D02
278	51.6	122492		349	25.8	123122		420	11.1	123080		490	34.7	122859	
279	12.8	122906		350	26.7	123083		421	50.1	122901	R D02	491	36.1	122914	
280	20.3	122845		351	16.9	123322		422	19.2	123036		492	33.1	122912	
281	30.6	122842		352	12.9	123061		423	43.7	122769		493	17.7	123017	
282	43.9	122630		353	23.7	122890	R D04	424	40.8	122820		494	34.6	122822	
283	25.3	122830		354	28.1	122761	R D04	424	43.8	122909	R D02	495	26.9	122946	
284	42.2	122640		355	32.2	122662	R D04	425	34.7	122894		496	32.9	122875	
285	壁跡点L			356	15.1	122812	R D04	426	22.1	123021		497	53.0	122632	
286	壁跡点L			357	31.4	122858	R D04	427	19.2	123026		498	30.3	122957	
287	42.5	122660		358	27.6	122885	R D04	428	31.4	122695		499	38.4	122761	
288	15.7	122868		359	38.2	122795	R D04	429	42.3	122822		500	29.1	122856	
289	34.7	122678		360	28.7	122918	R D04	430	46.7	122901	R D02	501	32.0	122834	
290	21.0	122890		361	5.7	123022		431	46.3	122749		502	24.9	122952	
291	17.5	122935		362	23.6	122888		432	43.5	122960	R D02	503	38.1	122819	
292	43.0	122680		363	34.2	122788	R D04	433	50.5	122838	R D02	504	42.4	122700	
293	29.2	122518		364	17.6	122982	R D04	434	40.0	122820		505	18.1	123010	
294	20.4	122878		365	33.0	122835	R D04	435	49.5	122978	R D02	505	19.9	122990	
295	27.8	122792		366	11.3	122862		436	39.1	122795		506	32.9	122838	
296	28.4	122730		367	25.1	123020		437	26.7	122887		508	24.9	122885	
297	19.1	122820		368	22.6	123009		438	51.5	122884	R D02	509	14.1	122950	
298	32.0	122670		369	18.3	123002		439	24.5	122974		510	30.1	122820	
299	35.0	122660		370	63.5	122581		440	49.5	122831	R D02	511	28.6	122842	
300	30.0	122730		371	53.4	122734		441	50.0	122881	R D02	512	40.4	122703	

No.	深さ (cm)	透孔径 (mm)	備考
513	39.9	122.748	
514	24.7	122.901	
515	36.1	122.769	
516	40.1	122.679	
517	32.5	122.745	
518	18.4	122.856	
519	40.7	122.701	
520	32.9	122.770	
521	41.8	122.691	
522	40.3	122.733	
523	42.1	122.653	
524	24.0	122.885	
525	21.0	122.940	
526	36.2	122.798	
527	25.9	122.885	
528	39.8	122.765	
529	26.3	122.888	
530	38.5	122.832	
531	39.6	122.778	
531	39.4	122.670	
532	30.4	122.831	
533	26.6	122.881	
534	28.7	122.803	
535	19.1	122.959	
536	26.1	122.889	
537	18.2	122.970	
538	28.4	122.871	
539	16.5	122.990	
540	29.0	122.952	
541	17.4	122.978	
542	35.8	122.786	
543	30.4	123.022	
544	14.4	123.368	R D02
545	25.9	123.341	R D02
546	21.7	123.399	R D02
547	19.0	123.132	R D02
548	26.6	123.212	R D02
549	11	123.560	R D02
550	20.9	123.251	R D02
551	1.5	123.570	R D02
552	1.7	123.548	R D02
553	6.0	123.515	R D02
554	13.4	123.444	R D02
遺構なし			
556	遺構なし		
557	18.1	123.443	R D01
558	33.8	122.266	R D01
559	32.7	123.420	R D01
560	26.6	122.93	
561	27.2	123.734	
562	40.9	122.939	
563	19.2	122.889	
564	29.5	122.472	
565	30.8	122.625	
566	26.9	122.503	R B04
567	14.5	122.496	R D01
568	17.4	122.678	
569	18.2	122.660	
570	19.9	122.645	
571	32.0	122.125	R D01
572	29.7	122.105	R B01
573	51.9	122.030	R B01
574	18.3	122.443	
575	17.4	122.431	
576	34.9	122.527	
577	21.3	122.346	
578	23.1	122.428	
579	31.6	122.143	
580	21.3	122.558	
581	17.1	122.445	R D01
582	22.1	122.395	R D02

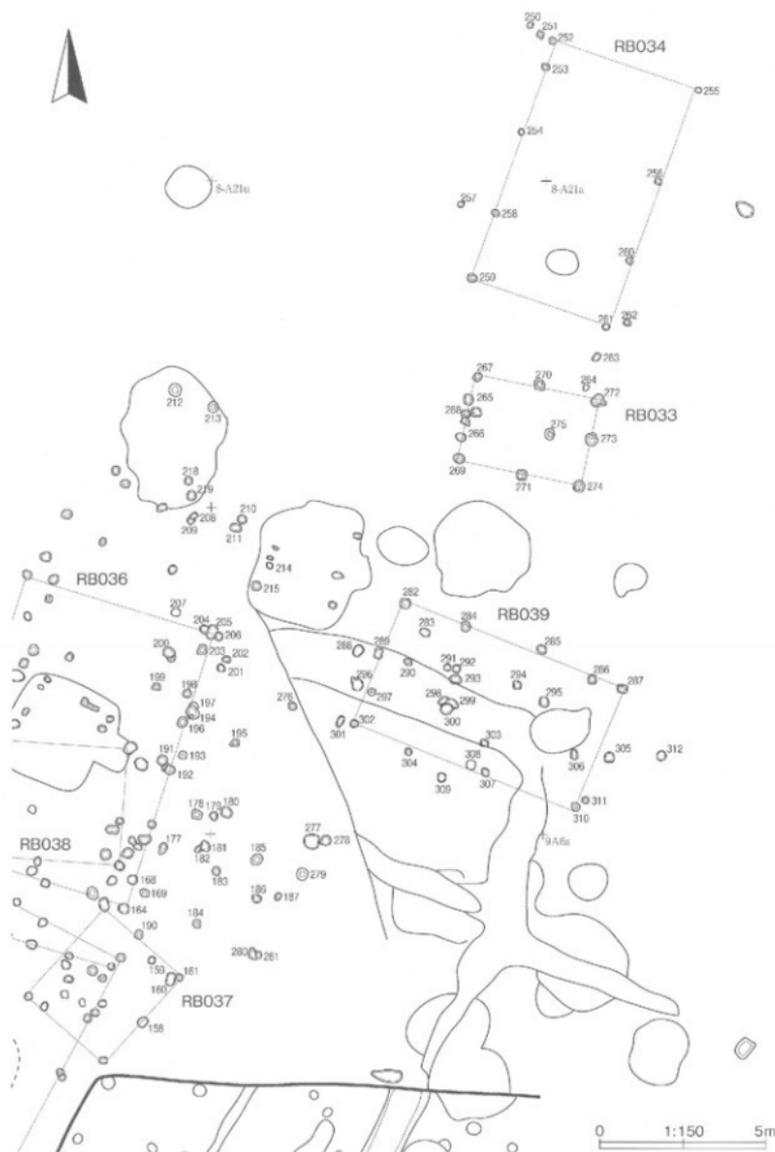
No.	深さ (cm)	透孔径 (mm)	備考
583	23.2	122.302	
584	21.2	122.404	R D01
585	46.9	122.216	R B02
586	28.5	122.400	
587	28.2	122.403	
588	23.7	122.448	
589	19.0	122.380	R D02
590	16.5	122.405	
591	26.1	122.322	R B02
592	24.6	122.391	
593	12.0	122.527	
594	26.7	122.380	
595	29.5	122.472	
596	24.8	122.365	R D02
597	19.8	122.415	
598	0.0	124.230	
599	22.3	122.390	
600	21.6	122.397	
601	10.9	122.504	R D02
602	28.3	122.330	
603	36.5	122.316	R B04
604	17.6	122.509	R D02
605	29.3	122.292	R D02
606	20.9	122.476	
607	13.0	122.577	
608	47.6	122.231	R D02
609	25.3	122.432	
610	39.6	122.312	
611	58.5	122.182	R D02
612	46.8	122.302	
613	47.8	122.287	R D02
614	46.6	122.343	R D01
615	22.6	122.485	R C05
616	14.6	122.956	
617	16.1	122.541	
618	46.5	122.257	
619	13.8	122.579	R C05
620	37.9	122.303	R C05
遺構なし			
621	遺構なし		
622	39.1	122.308	
623	21.7	122.292	
624	26.5	122.355	R C05
625	36.0	122.478	
626	13.0	122.581	
627	24.5	122.466	
628	13.0	122.581	
629	19.2	122.529	
630	28.2	122.229	
631	26.9	122.151	
632	28.2	122.128	
遺構なし			
634	41.2	122.295	
635	34.6	122.361	
636	12.5	123.202	
637	44.5	122.733	
638	31.0	122.168	R B02
639	47.6	122.221	
640	38.7	122.291	R D02
641	42.2	122.238	R D02
642	33.4	122.226	
643	33.5	122.425	R D02
644	8.9	122.371	
645	24.3	122.417	R B02
646	13.2	122.528	
647	31.2	122.348	
648	41.4	122.280	
649	21.4	122.426	
650	53.5	122.125	R D02
651	18.2	122.625	
652	28.0	122.327	
653	14.8	122.539	R C05
654	42.3	122.172	R D02

No.	深さ (cm)	透孔径 (mm)	備考
655	16.6	122.328	
656	46.7	122.227	R B02
657	46.4	122.230	R B02
658	43.8	122.256	R D02
659	28.1	122.420	R B02
660	14.5	123.599	
661	21.7	122.487	
662	0.0	122.206	
663	7.9	123.675	
664	44.6	122.258	
665	41.9	122.287	
666	32.5	122.381	
667	34.6	122.360	
668	40.1	122.320	
669	48.5	122.226	
670	22.8	122.603	
671	27.9	122.142	R B02
672	31.0	122.607	
673	28.6	122.284	
674	26.7	122.029	
675	22.8	122.442	
676	27.9	122.423	
677	27.0	122.200	
678	26.6	122.041	
679	23.6	122.427	
680	18.0	122.483	
681	22.9	122.019	
682	23.3	122.422	
683	56.5	122.110	R B02
684	23.2	122.474	
685	33.9	122.252	
686	28.8	122.323	
687	29.0	122.255	R B02
688	17.3	122.504	
689	16.0	122.507	
690	24.2	122.226	R B02
691	19.0	122.487	
692	32.9	122.328	R B02
693	12.1	123.124	
遺構なし			
694	28.6	122.330	R D02
695	40.9	122.173	R B02
696	33.4	122.324	R D02
697	33.4	122.324	R D02
698	58.8	122.112	
699	28.7	122.312	
700	20.7	122.502	
701	12.9	122.566	
702	28.3	122.124	R B02
703	10.9	122.600	
704	18.6	122.548	
705	41.8	122.316	R B02
706	13.7	122.592	
707	15.9	122.573	
708	22.0	122.514	
709	44.2	122.292	R B02
710	25.9	122.282	R C04
711	21.9	122.412	
712	42.6	122.265	R B02
713	13.9	122.492	
714	28.1	122.361	R C04
715	28.2	122.205	R B02
716	17.2	122.415	
717	21.9	122.368	R C04
718	27.5	122.308	R D02
719	35.2	122.270	R D02
720	20.1	122.289	
721	23.1	122.280	
722	17.1	122.429	R B02
723	18.0	122.445	
724	31.9	122.287	R B02
725	13.8	122.597	

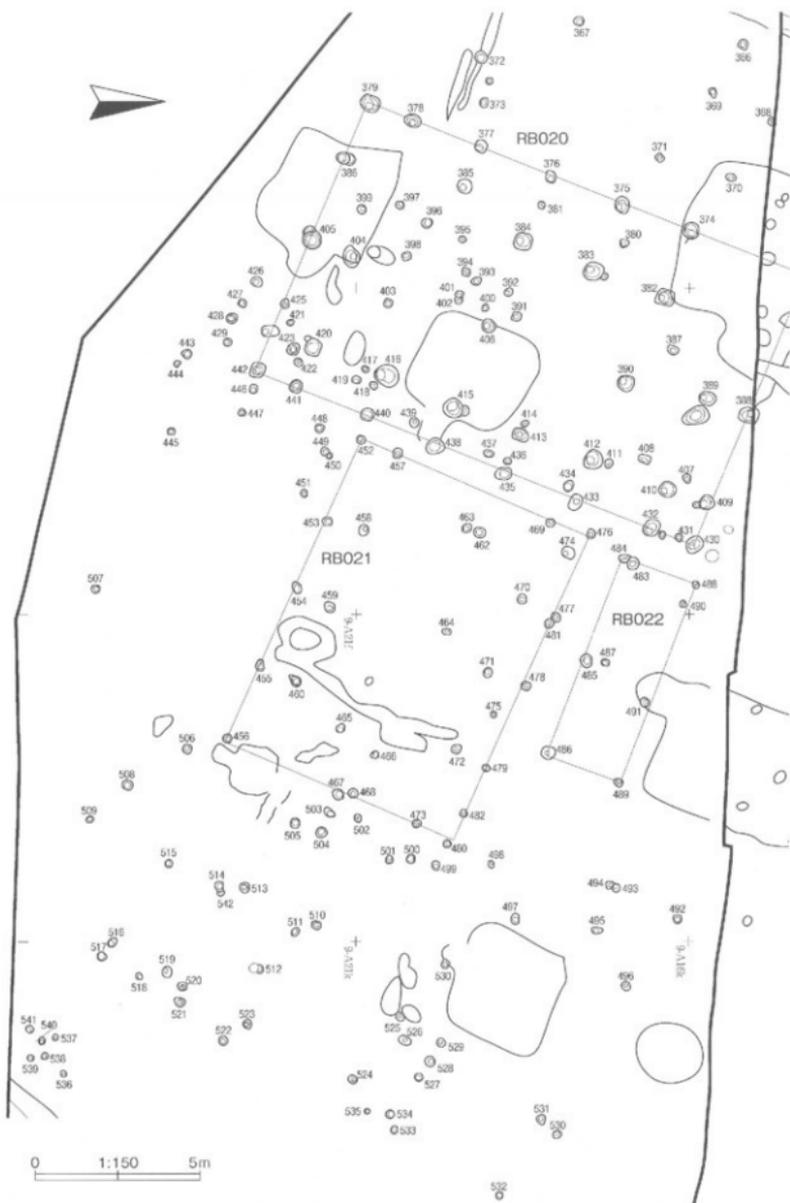
No.	深さ (cm)	透孔径 (mm)	備考
726	28.3	122.396	
727	24.8	122.468	R B02
728	21.4	122.451	R D02
729	36.7	122.362	R B02
730	36.5	122.325	
731	33.7	122.287	
732	22.3	122.604	
733	41.1	122.321	
734	15.2	122.572	
735	19.8	122.531	
736	24.8	122.479	
737	15.6	122.572	
738	28.1	122.358	
739	11.3	122.600	
740	28.8	122.530	
741	43.2	122.325	
742	17.8	122.470	
743	30.2	122.718	
744	17.2	122.525	
745	13.2	122.697	
746	20.7	122.564	
747	20.1	122.616	
748	47.6	122.276	
749	23.1	122.512	
750	21.7	122.508	
751	18.2	122.506	
遺構なし			
752	23.8	122.672	
753	16.2	122.569	
754	12.7	122.542	
755	21.6	122.478	
756	9.3	122.617	
757	22.7	122.513	
759	21.2	122.527	
760	14.4	122.650	
761	10.1	122.684	
762	17.1	122.614	
763	16.9	122.616	
遺構なし			
764	17.5	122.613	
765	17.5	122.613	
766	8.5	122.690	
767	14.8	122.679	
768	22.9	122.613	
769	25.5	122.572	
770	26.2	122.585	
771	41.8	122.140	R B02
772	33.5	122.334	
773	28.6	122.651	
774	22.0	122.615	
775	31.7	122.607	
776	22.8	122.655	
777	16.8	122.726	
778	11.9	123.741	
779	52.6	122.429	R B02
780	16.7	122.265	
781	30.9	122.280	R B02
782	20.5	122.280	R B02
783	14.8	122.544	
784	36.3	122.527	R B02
785	43.4	122.485	R B02
786	21.7	122.626	
787	19.8	122.660	
788	6.6	122.414	R B02
789	40.2	122.489	R B02
790	20.6	122.489	R D02
791	29.2	122.578	R B02
792	17.7	122.812	
793	25.8	122.644	
794	17.1	122.743	
795	20.6	122.708	
796	22.2	122.650	



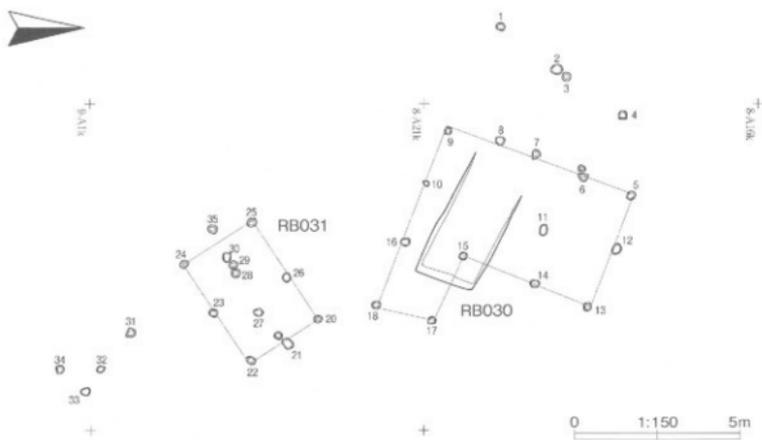
第27図 柱穴群(1)



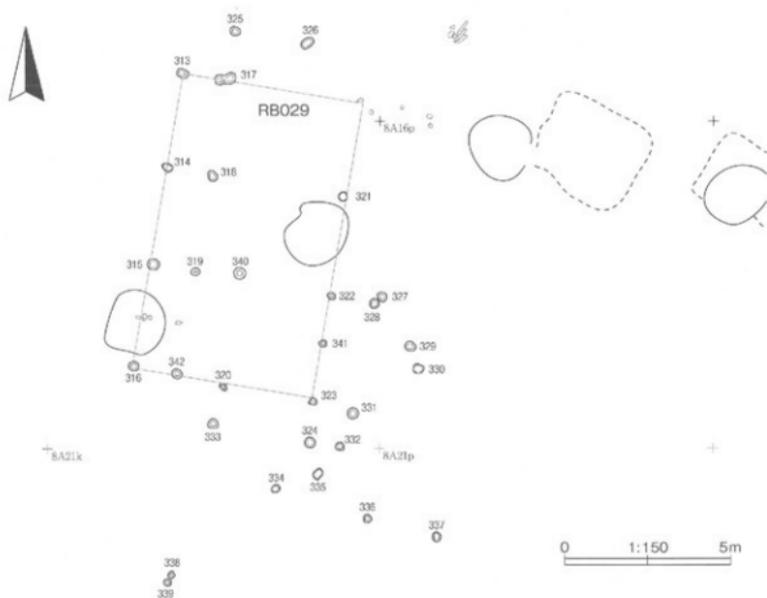
第28図 柱穴群(2)



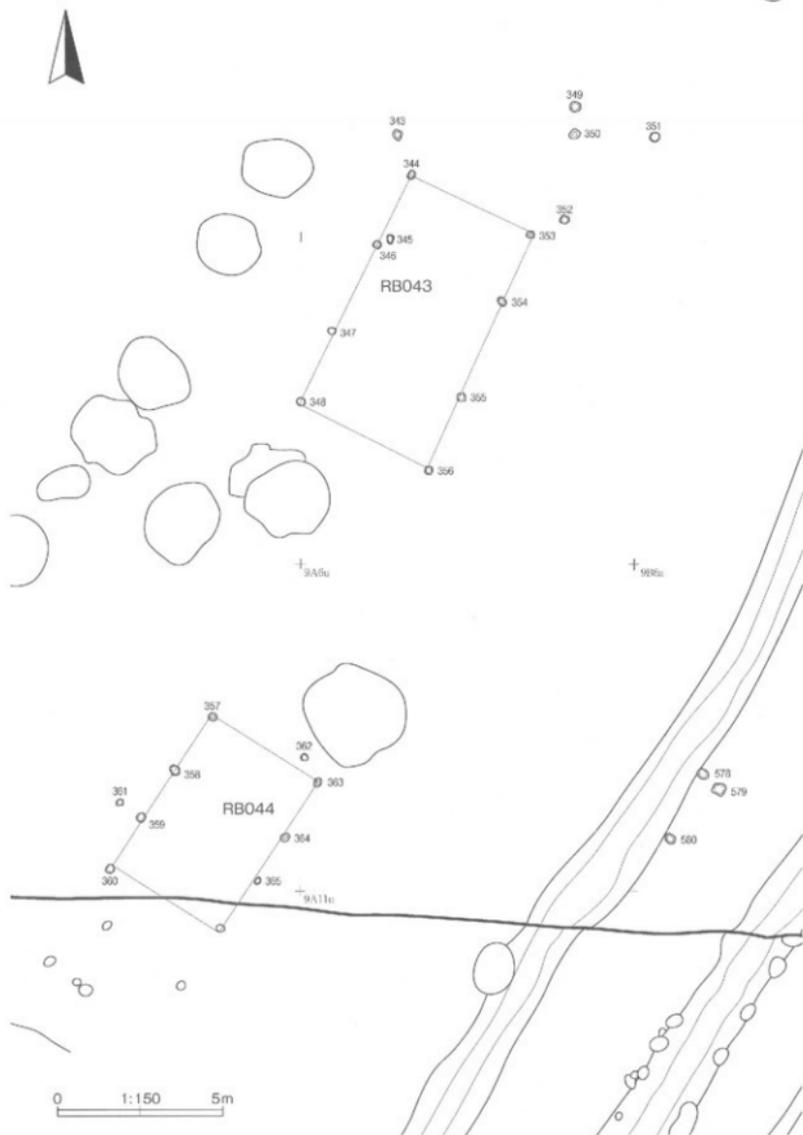
第29図 柱穴群(3)



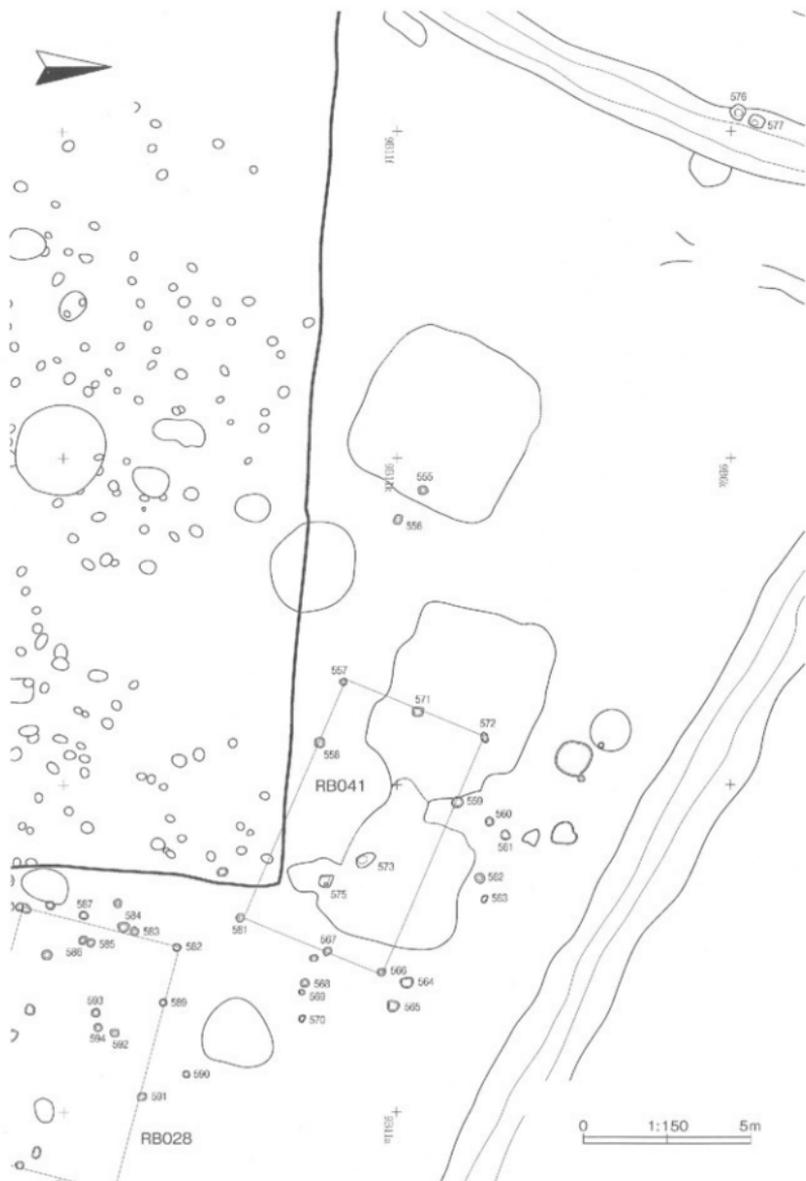
第30図 柱穴群(4)



第31図 柱穴群(5)



第32図 柱穴群(6)



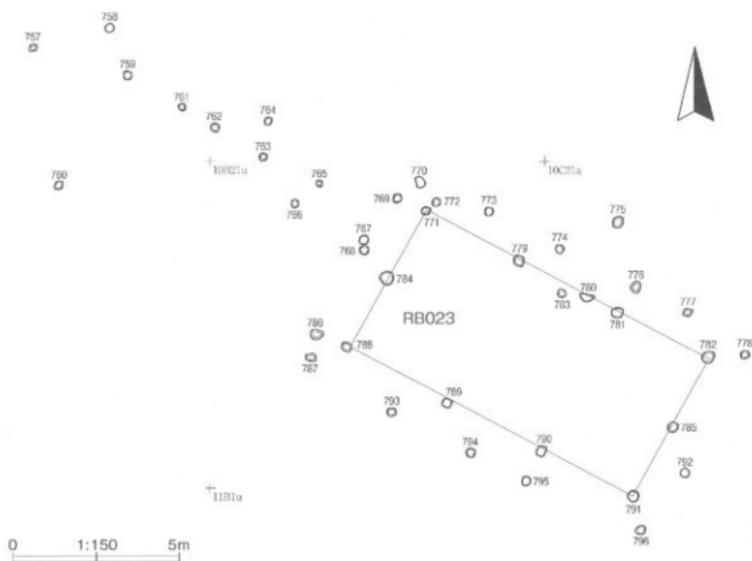
第33図 柱穴群(7)



第34図 柱穴群(8)



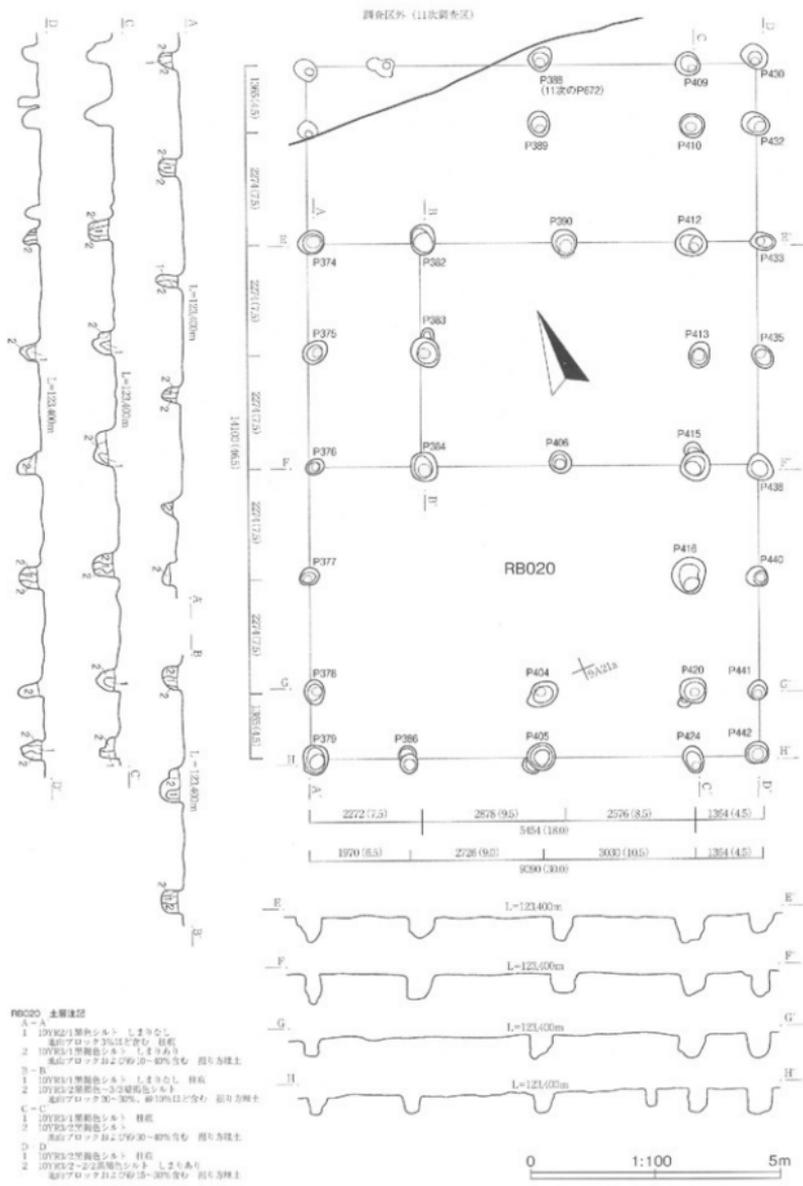
第35図 柱穴群(9)



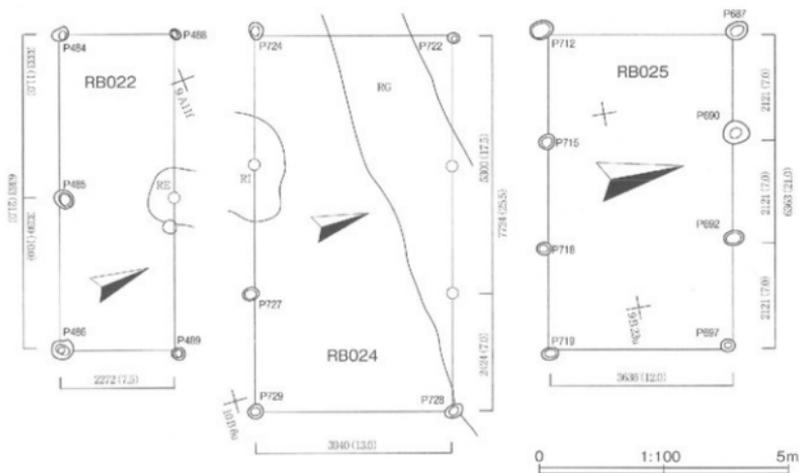
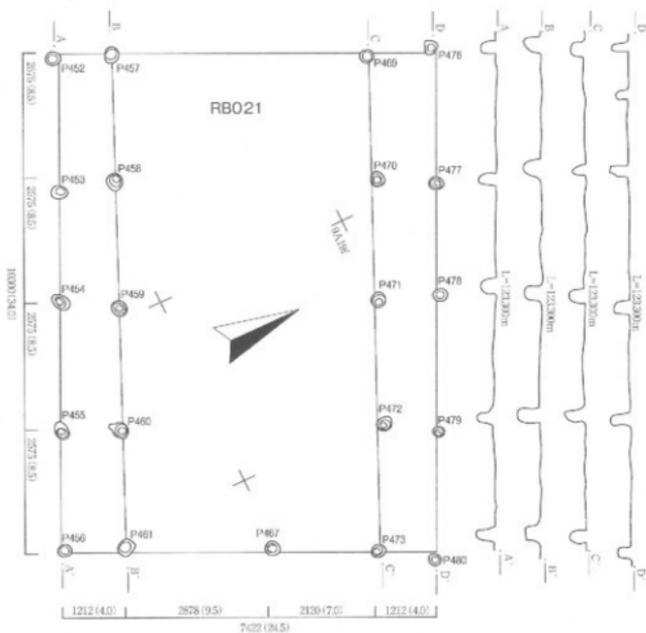
第36回 柱穴群(10)



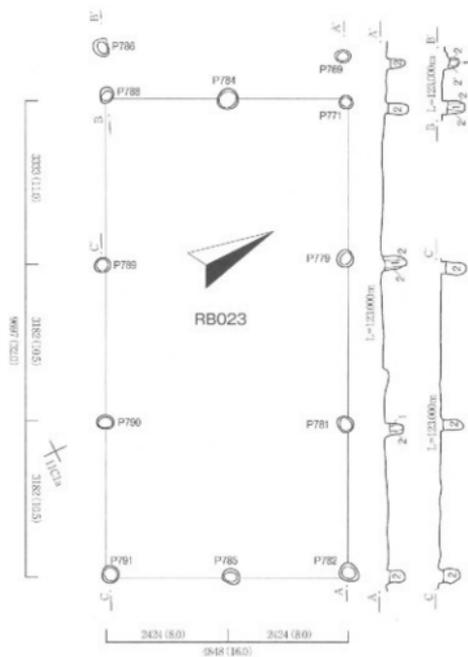
第37図 掘立柱建物・柱列 位置図



第38図 RB020

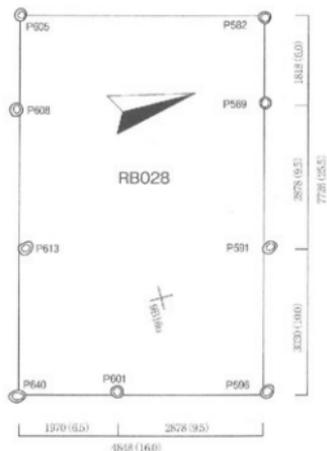
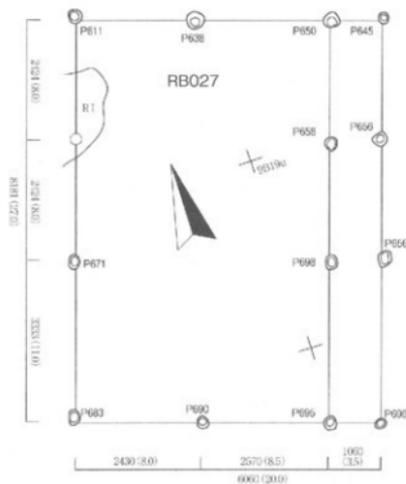
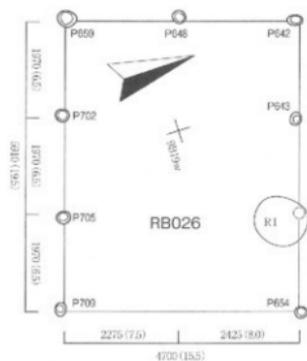


第39図 RB021・022・024・025

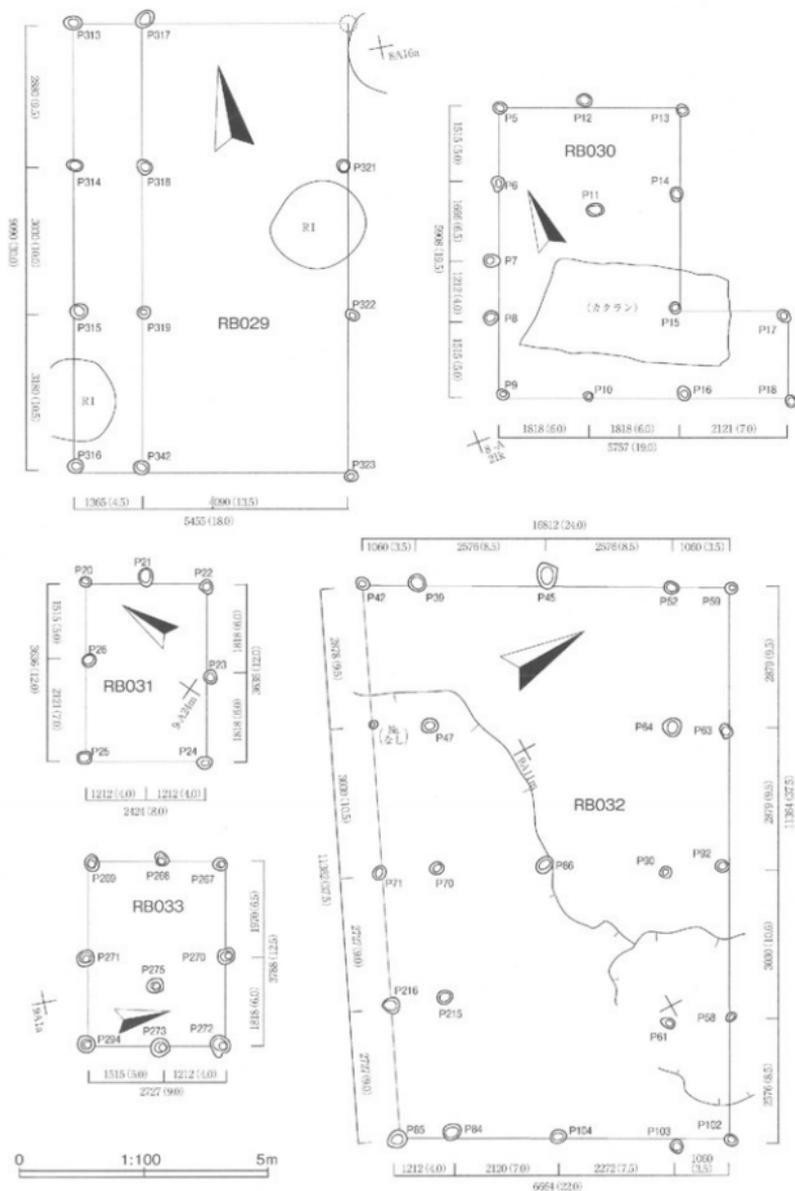


RB023 主要建群

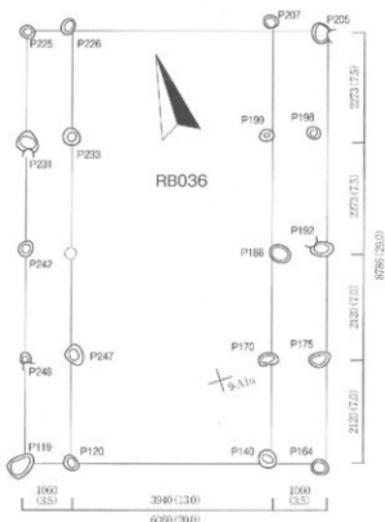
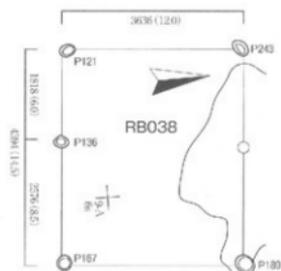
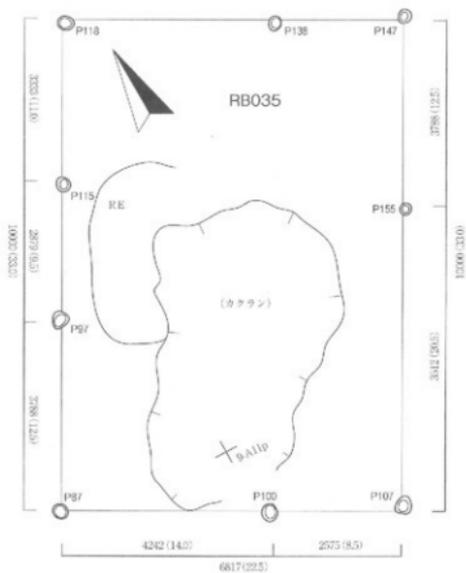
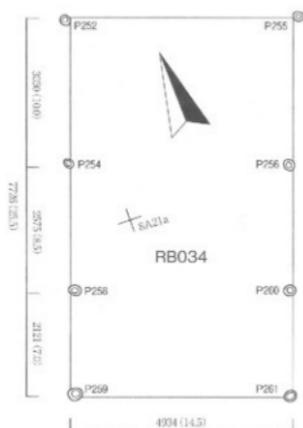
- A A: RB023の主要建群シフト 建群プロット全体を、(0)棟、RB023の主要建群シフト 建群を、(1)棟とし、建群プロット30~40%を占め、概ね方角上。
- B-B: RB023の主要建群シフト 建群を、(1)棟とし、概ねRB023の主要建群シフト 建群を、(1)棟とし、概ね方角上。
- C C: RB023の主要建群シフト 建群を、(1)棟とし、概ねRB023の主要建群シフト 建群を、(1)棟とし、概ね方角上。
- D D: RB023の主要建群シフト 建群を、(1)棟とし、概ねRB023の主要建群シフト 建群を、(1)棟とし、概ね方角上。



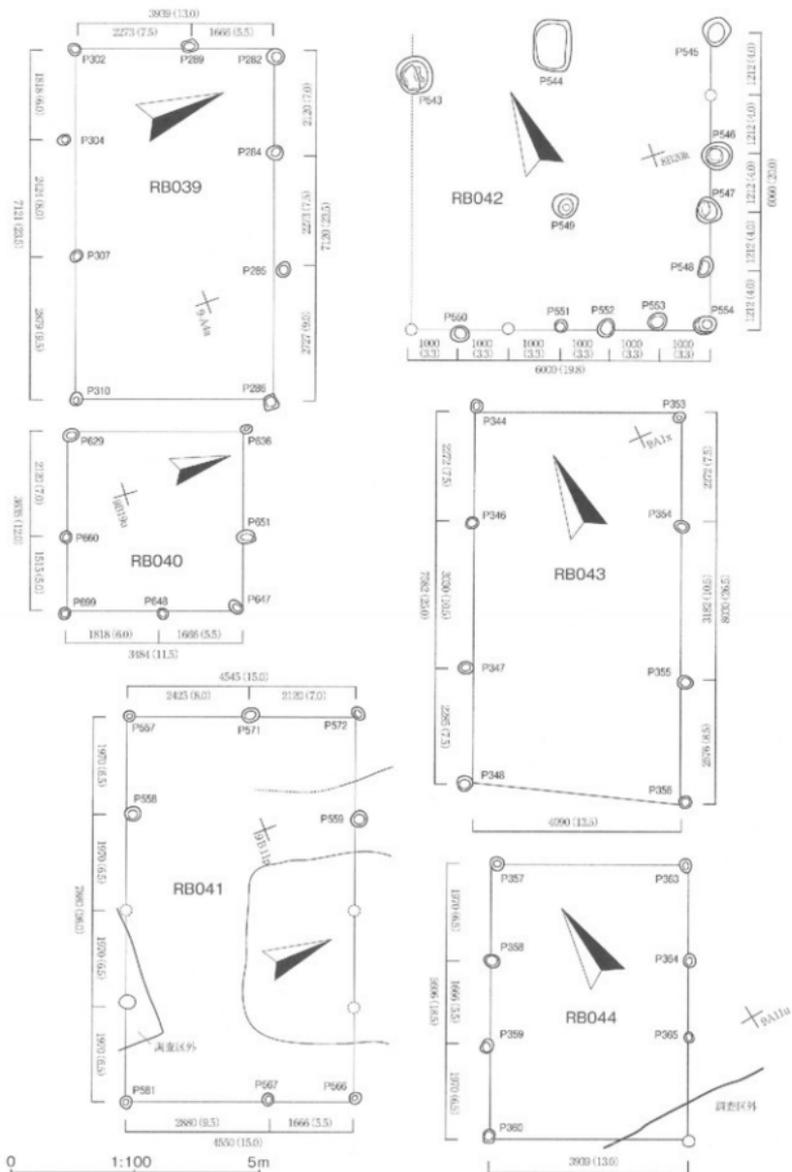
第40図 RB023-026~028



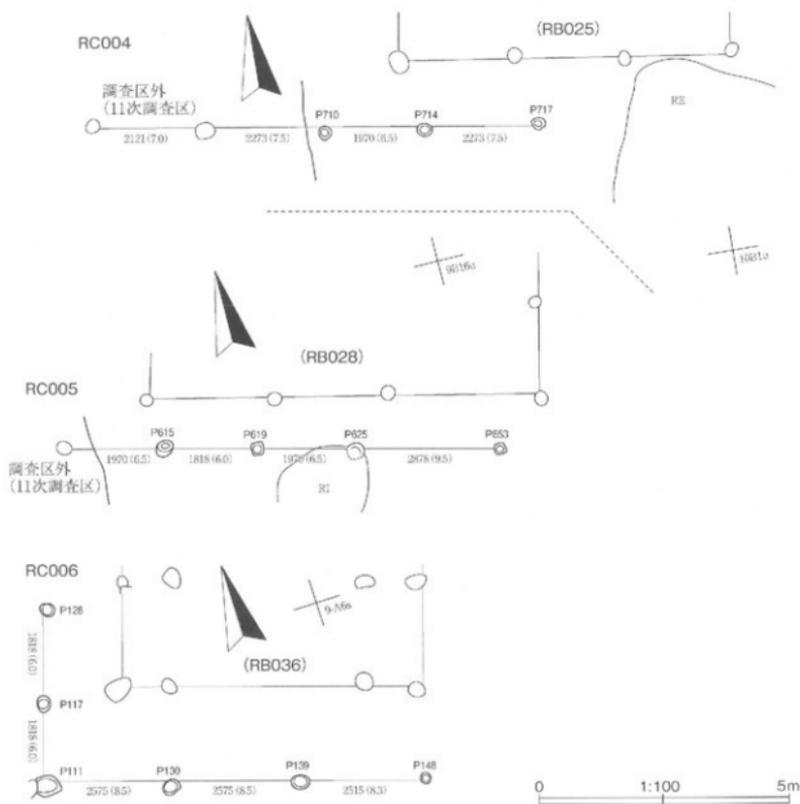
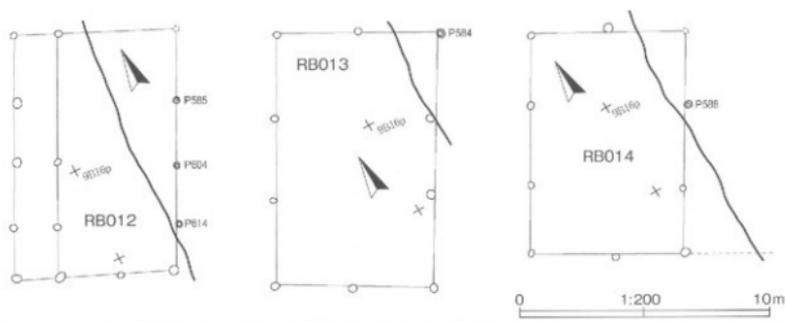
第41図 RB029~033



第42図 RB034-038



第43图 RB039~044



第44図 RB012~014, RC004~006

(4) 井戸跡(第45～65・81図、写真図版32～46・67・71・72)

42基検出(010、011、014、016は前年度の続き)。余体的に浅く、1.6mを超えるものはなかった。旧河道と谷において段丘との境の地中に水が流れている部分に集中する傾向があり(第11・13図014・018～028など)、谷沿いでは列をなして並ぶ(同044と051、045～050)。016と034～043、010～011と029～032が集中する部分は不明瞭だが、旧河道の南端に相当するのかもしれない。029はRE021建物跡と重複し新しい。掘立柱建物跡との重複はいずれも新旧不明。035～041はRG038溝跡と重複し、いずれもより古い。022はRD120・025はRD119・039はRD131土坑と重複。井戸同士の重複は少ないが、019～021・035～040は重複(第13図)。湧水が認められたものも多いが、10月以降水路の水を落とした後は全ての遺構で見られなくなったので、その有無について云々することはできない。ほとんどが崩落し原形をとどめるものは少ないが、底に曲物が確認された014・029・039、同様の痕跡が認められた031?、041?、042、055は、比較的残りが良いのかもしれない。すると、掘り方の断面形は米杵くさび形に近く、底の部分に曲物を埋設し、使用時には底は平であった可能性が窺われ(042参照)、これに類似した断面形を持つ井戸跡は多い。ただし、全ての井戸がこの形とは限らず、筒形のもの(022・025・027・028・038・043・054?など)や井戸枠の残骸が認められた井戸もある(019・023?・024)。その他、極めて大形で4mを越すものもある(019)。Ⅱ～Ⅴ層の再堆積や霜降り状の混土など、人為堆積が窺われるものが多いが、底の一部や020ではほぼ全体に、自然堆積も窺われる。014・053では、覆土上部に焼土が認められた。025・030・048などのように、埋め戻しの際に開いたと考えられる穴を持つ井戸もある。036は、掘削の途中で止めてしまったものか。

遺物の出土は少なく、曲物や井戸枠の残骸以外では、019の陽物形?木製品、その他あやしいが、024のホオノキの種、047の桃の種など、覆土上部からでは、019の鉄鉋状鉄製品、055の石製容器?がある。

前年度は13基検出。今回とはほぼ同様の傾向が認められるが、2基から発見された曲物のうちの一つは12世紀頃の可能性があるというAMSの測定結果が得られている。今年度の集中区に隣接するものがほとんどだが、012と013はやや離れて堀区画内中央付近にある。もう一つ点在する015は、より新くなる可能性もあるようだ。堀区画と重複する井戸跡も認められ、いずれもより古い。

R1010井戸跡(第45図、写真図版32)

<位置・検出状況>中央区南東、10B7p～8qグリッド。前年度の東側の続き。Ⅳ層、黒褐色土で明瞭に検出。<重複>周囲に柱穴群があるが(第35図)、直接には重複していないようである。東側は稲株痕多い。<図・精査状況>A側の土場、定置時掘り広がりたため、断面図と平面図合わない。

<覆土>上部上層は黒土、上部下層は砂利再堆積土。中部は黄褐色地の霜降り状、下半部は黒土だが、最下層は地山が崩れた土がグライ化している。少なくとも、中部は人為堆積か。

<平面形・規模>2.68×2.4m程度の不整形円形。<断面形・深さ>約1.2mの不整形円形。

<壁・底>壁は、上部30～40cmがⅣ層、その下30～40cmが緻密な砂層、その下は底まで砂礫層。底は、西半分砂利層(Ⅴ層の一部)、東半分砂～砂質Ⅳ層。東側の壁は棚状を呈し、東側の底は赤く酸化している9月後半の調査時には湧水なし。

<出土遺物>なし。<時期>今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性が高い。

R I 011井戸跡(第46図、写真図版32)

<位置・検出状況>中央区南東、9 B 24 p ~ 25 q グリッド。前年度の東側の続き。IV層上面、黒褐色土で明瞭に検出。<重複>周囲に柱穴群があるが(第35図)、直接には重複していないようである。<図・精査状況>前年度約半分調査し、その記録とはほとんど同じだったので、断面図は作成しなかった。<覆土>上半部は灰黄褐色地の砂利混じり層、下半部は黒土と黄褐色~橙色の交互層。

<平面形・規模>2.3×2.2m程度の不整形円形。<断面形・深さ>約1.38mの不整形台形。

<壁・底>壁は、上部50~80cmがIV層、中部30~40cmが黒砂層、その下は底まで砂利層。底は、8月に精査したせいか、湧水ひどく、エンジン・ポンプ1台では、底から70cmの深さまでしか汲み切れない。湧水のひどさと壁中部がろい砂層であるため、この部分があぐれて棚状を呈している。<出土遺物>なし。<時期>今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性が高い。

R I 014井戸跡(第46図、写真図版32・71)

<位置・検出状況>中央区中央東寄り、9 B 11 l ~ 12 m グリッド。前年度の北側の続きで、今年度の調査範囲の方が広い。IV層、黒褐色土で明瞭に検出。<重複>ないようだ。<図・精査状況>A'側の土場、完掘時掘りすぎたため、断面図と平面図合わない。

<覆土>前年度の記録とはほぼ同じで、上部2/3は、II層再堆積土にIV層ブロック混じる埋め戻した土、中部4層は自然崩落土、曲げ物下5・6層も砂再堆積層、7~10層は曲げ物の埋土でIV~V層起源土。2層は、焼土、灰、炭化材を含む層で(写真図版33)、炭化材が10cm以上の段差を持って離れて出土していることや焼土が散り散りのブロック状を呈していることから、現地性でないかと判断した。近くのR E 016~019野穴建物跡から廃棄されたものであろう。炭化材はアカマツと同定された。

<平面形・規模>3×2.48m程度の卵形。<断面形・深さ>約1.32mの角ばった楕形。

<壁・底>壁は、上部30~45cmがIV層、その下60~80cmは砂層を主とし、緻密な砂層が多いが、地点により黒砂や粘土層もある。その下50cmほどは緩い砂層で、底は砂礫層(準大の礫多い)。IV層直下の砂層部分は棚状を呈す。10月前半に精査したせいか、湧水はなかった。<出土遺物>底から曲物の残骸が出土(写真図版71の4)。<時期>今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性が高い。

R I 016井戸跡(第47図、写真図版33)

<位置・検出状況>中央区西、9 - A 9 x ~ y グリッド。前年度の北側の続きで、今年度の調査範囲の方が広い。IV層、黒褐色土で明瞭に検出。<重複>西側、R I 035井戸跡と重複し、本遺構が古い。検出面で、035の覆土は砂、016は黒土であったため、明瞭だった。<図・精査状況>セクション・ポイントAが合わない。平面図のAを西側に10cmずらせば、ほぼ合う。調査終盤で余裕がなかったため、確認することはできなかった。<覆土>R I 035井戸跡と通して半載したこともあって、中心から北に大きくずれているが、上部はIV層混じりの黒土、下層は汚れ砂層。前年度の方が中心に近い。

<平面形・規模>2.5×2 m程度の不整形円形。<断面形・深さ>約1.55m。東側に段を持つすり鉢状?

<壁・底>壁は、上部40cmIV層、中部50cmが砂層、その下底まで砂利層。11月に精査したせいか湧水はない。<出土遺物>なし。<時期>今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性が高い。

R I 018井戸跡(第48図、写真図版34)

<位置・検出状況>中央区東、9 B 12 s ~ 13 t グリッド。II層中、灰色がかかった黒褐色土で円く見えたが、輪郭は不明瞭な部分あり。今年度最初に精査した井戸。<重複>周囲に柱穴群があるが(第

33図)、重複していない。〈図・精査状況〉上場、完掘時掘りすぎたため、平面図と断面図合わない。
 〈平面形・規模〉 2.1×1.78 m程度の楕円形? (掘りすぎあり) 〈断面形・深さ〉約1.3mの袋状。
 〈壁・底〉壁は、上から15cmがⅡ層、10cmがⅢ層、35cmがⅣ層、10~25cmが砂層、20cmが白色粘土帯(一部酸化して赤い)、その下は湧水で不明瞭だが砂礫層(拳大の礫)。Ⅳ層直下の砂層が湧水で崩れて棚状を呈す。7月に精査したせいか、湧水あったが、それほどひどくない。〈出土遺物〉なし。
 〈時期〉覆土と今回の調査結果全体から、中世後半の可能性が高い。

R1019井戸跡(第48図・第81図、写真図版34・72)

〈位置・検出状況〉中央区東、9 B13 x ~15 y グリッド。砂利混じり黒色の非常に大きな円形プランが、北側は削平されていたのでⅣ層で、南側はⅡ層下部で検出された。整穴の可能性もあるので十字ベルトをかけ、とりあえず井戸跡の西半分のみ断面に沿ってトレンチ状(左右対称になる)に掘り下げたが、やはり深く井戸跡と思われたので、東西ベルトは取り外した。さらに南西側に井戸跡が重複していたが(R1020)、検出面では新旧関係が分からず、通して半裁したため、一時的に“キ”字状にベルトを設定したことになる。〈重複〉南西側、R1020井戸跡と重複。通して半裁した結果、本遺構の方が新しいとわかったが(第49図)、この地点でR1020と重複していたのは、後述するR1021井戸跡であった可能性もなくはない。しかし、R1019井戸跡が非常に大きいため当初から複数遺構の重複を念頭に置いていたが、それらしい不連続面は、上面およびいずれの断面とも見えなかった。南東側、R1021井戸跡と重複。検出面では全く確認できず、そのままR1019井戸跡が円く続くように見え、一つの遺構と考えていた。完掘時に別の底が出現したことから重複とわかった。このような検出状況から本遺構の方が新しい可能性がある。なお、A-A'断面作成時にR1021井戸跡の覆土がかさついていると思ったが、木根が腐ったものであった(第48図0層)。周囲に柱穴がある(第34図)、直接には重複していないようである。〈図・精査状況〉A-A'断面のA'側の上場、完掘時掘り広がつ合わない。セクション・ポイントB'、クリーニング時に抜かれたらしく、ない。R1020井戸跡との重複関係をつかみ断面図を作成した後、より新しいR1019井戸跡の半裁(西側)を続けたが、非常に深く、また7月半ば~9月上旬に精査したこともあって湧水ひどく、エンジン・ポンプ1台ではとても汲みきれなかった。そこで、南側に位置するR1020井戸跡を先に精査して、そちらに水を流そうとしたが、湧水の速度の方が上回り無理だった。そのうち、盆明けの大雨で断面が崩れ、半裁地点を東側にずらさざるを得なくなり、R1020井戸跡との重複関係を示すB-B'断面とは照合できなくなった。結局、ポンプ3台同時にかけて何とか精査を終了した。〈覆土〉上記事情により、断面実測地点は底を通過して、大きく東にずれている。上部は、Ⅳ層起源土と砂利混じりの明るい土、中部は、Ⅱ層の再堆積にⅣ層起源土、砂利が混じったもの、下部は、黒土とⅣ~Ⅴ層崩れ再堆積の交互層。上~中部も、細かく分かれる。

〈平面形・規模〉 4.2×3.7 m程度の不整形円形。〈断面形・深さ〉約1.56mの不整形逆台形。

〈壁・底〉壁は、上部15cmがⅡ~Ⅲ層、その下60cmがⅣ層、その下は底まで砂礫層だが一部上30cmが砂の地点がある。上記のとおり、湧水極めてひどく、特にR1020井戸跡と重複する底辺りがひどかった。〈出土遺物〉検出面から第81図9の不明鉄製品(2層?)、底直上(黒土)から写真図版72の5の木製品が出土(第48図、写真図版34)。木製品の大部分は板材で、井戸枠を構成していた可能性があるが、その中に第81図1の陽物状のものが含まれていた。〈時期〉出土遺物と今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性が高い。

R I 020井戸跡(第48・49図、写真図版35)

<位置・検出状況>中央区東、9 B14~15wグリッド。Ⅱ層中、黄色い特徴的な土(15層)で検出。検出面では、R I 019井戸跡との新旧関係は不明で、どちらかといえば本遺構の方が新しく見えた。

<重複>北東側、R I 019井戸跡と重複し、通して半截した結果、本遺構の方が新しいとわかったが、前述のように、この地点で本遺構と重複していたのはR I 021井戸跡であった可能性もなくはない。ただし、R I 019井戸跡が非常に大きいため当初から複数遺構の重複を念頭に置いていたが、それらしい不連続面は、上面およびいずれの断面とも見えなかった。南東側、R I 021井戸跡と重複するが、検出面では全く確認できず、発掘時に別の底が出現したことから重複とわかったため、新旧関係は不明である。

<図・精査状況>セクション・ポイントB'、クリーニング時に抜かれたらしく、ない。R I 019井戸跡との重複関係をつかみ断面図を作成した後、先に、より新しいR I 019井戸跡の半截(西側)を続けたが、上述のように湧水ひどくトラブルがあり不都合が生じた。

<覆土>上部2/3は、他の井戸跡と大きく異なり、薄い砂の再堆積層の間に黒土が入るといふ、水成自然堆積層に近い。下1/3のうち、上層は黒土、下層は黒土にⅣ層粘土多量に含む。

<平面形・規模>不明だが、直径1.5m程度の円形基調か。

<断面形・深さ>約1m。

<壁・底>壁は、上部15cmがⅡ、その下15cmがⅢ層、その下35cmがⅣ層、その下30cmが砂層で、底は砂礫層。壁は直立に近いが、最下部砂層は、調査時水につかったためかオーバーハンクしている。底は、酸化鉄で赤い。7~8月に精査したのに湧水は全くなく、その浅さからも、井戸として機能していたかどうか。

<出土遺物>なし。

<時期>今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性が高い。

R I 021井戸跡(第48図、写真図版35)

<位置・検出状況>中央区東、9 B15wグリッド。検出面では全く確認できず、R I 019井戸跡が正しく円を描いているように見えた。R I 019・020井戸跡発掘時に別の底が出現し、本遺構と認定したものである。

<重複>北側、R I 019井戸跡と重複する。上述の検出状況のため、新旧関係は不明だが、検出状況を額面どおり受け取れば本遺構の方が古い可能性がある。西側、R I 020井戸跡と重複する。同様に新旧関係は不明だが、断面図を作成した地点(第48図B-B')でR I 020井戸跡と重複していたのは実は本遺構だとすれば、本遺構の方が新しいということになる。ただし、前述のように、その後R I 019井戸跡の断面が崩落してしまったので、正確なところは不明であり、またもしこれが正しいとすれば、逆に、上で推定したR I 019井戸跡との新旧関係は、あてはまらなくなる。さらに、R I 019井戸跡が非常に大きいため当初から複数遺構の重複を念頭に置いていたが、それらしい不連続面は、上面およびいずれの断面とも見えなかった。なお、上面に立木があったらしい(第48図0層)。

<図・精査状況>上記検出状況により、断面図は作成していない。

<覆土>上記検出状況により不明。

<平面形・規模>1.4×1.3m以上の円形基調か(底は円形)。

<断面形・深さ>約1.4m。

<壁・底>壁は不明だが、おそらくR I 020井戸跡と同様と思われる。底は砂礫層で、9月上旬に精査したせいか、西側R I 020井戸跡との重複付近からの湧水が極めてひどかった。

<出土遺物>なし。

<時期>今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性が高い。

R I 022井戸跡(第50図、写真図版35)

<位置・検出状況>中央区東、9 B15v~16wグリッド。盛岡市教育委員会の試掘トレンチの底に確認され、西側一部Ⅱ層中にもかかっているが、大部分はトレンチ底のためⅣ層を検出面としていた。Ⅳ層面で確認した遺構は後でまとめて精査しようと考えていたのだが、R I 019井戸跡の湧水があま

りにひどくポンプで汲みきれないので水路を掘って外に流そうと考え、本井戸跡が水路にかかるため、急遽精査することにした。〈重複〉北東側R D120土坑と重複。検出時に重複は確認していたが、新旧関係は見えず、井戸跡の可能性も考えていた。通して半裁した結果、R D120土坑の方が新しいとわかった。周囲に柱穴はあるが(第34図)、重複していないようである。〈図・精査状況〉断面図作成後にセクション・ポイント動かしたのか、平面図と断面図合わない。上場、完掘時崩れたり掘り広がったりして、合わない。特に東半分はオーバーハングひどかったため、ほとんどが崩落し、上場は不正確である。底、湧水ひどく正確に測れていない。

〈覆土〉上2/3は、黒褐色地に黄褐色のブロック入るもので、ブロックの入り方で細分される。下1/3の上半は、V層白色粘土再堆積層に砂ブロック入り酸化鉄が見られる土が主で、下半は湧水ひどくはつきりしないが、最下層は黒土にV層ブロックが混じるようである。

〈平面形・規模〉 $1.55 \times 1.5\text{m}$ 程度の不整形円形。〈断面形・深さ〉約1.4mのピーカー状に近い。

〈壁・底〉壁は、上から10cmがII層、10cmがIII層、20cmがIV層で、その下は底直上まで砂層のようだが上部は黄色い砂で、その下は縞状に堆積した砂である。8月上旬に精査したせいか、湧水ひどく、底は十分に把握できなかったが、砂礫層のようである。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性が高い。

R I 023井戸跡(第50図、写真図版35・72)

〈位置・検出状況〉中央区東、9 B16w-x グリッド。西側は一部盛岡市教育委員会の試掘トレンチの底(IV層面)にかかっていたが、東側の大部分はII層で、黄色い粒が特徴的に入る覆土で検出した(写真図版35)。〈重複〉なし。〈図・精査状況〉A側中間場のオーバーハング、完掘時掘りすぎたため、合わない。〈覆土〉上部は、黒褐色地に黄褐色の細かいブロック入る。中部は、黒土と黄褐色ブロック入る層の互層、下部は、黒土とIV層崩れ再堆積層の互層。最下部は湧水ひどく泥水のためはつきりしない。〈平面形・規模〉直径1.5m程度の円形。〈断面形・深さ〉約1.45mのピーカー状に近い。〈壁・底〉壁は、上から20cmがII~III層、30cmがIV層で、その下は底まで砂層のようで、縞状に堆積した細い層の繰り返しである。砂層の最上部IV層との間が崩れてオーバーハングしている。7月に精査したせいか、湧水ひどく、底は十分に把握できなかったが、砂層のようである。

〈出土遺物〉精査中に、写真図版72の6の板材小片が水に浮かんだ。〈時期〉今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性が高い。

R I 024井戸跡(第50・51図、写真図版36)

〈位置・検出状況〉中央区東、9 B16x-17y グリッド。II層中、灰色地の黄色い粒が特徴的に入る覆土で明瞭に検出した。〈重複〉なし。〈図・精査状況〉A側中間場のオーバーハング、A'側上場、完掘時掘りすぎたため、合わない。〈覆土〉上半、黒土と黄褐色のブロック入る層の互層、下半は黒土が基本。〈平面形・規模〉 $1.45 \times 1.3\text{m}$ 程度の隅丸方形。〈断面形・深さ〉約1.28mのピーカー状に近い。〈壁・底〉壁は、上から20cmがII~III層、その下30cmがIV層で、その下50cmが砂層、その下底まで砂礫層。砂層の下部は黒っぽく、最上部のIV層との境は崩れている。7月に精査したせいか、湧水ひどかった。〈その他〉井戸枠の残骸らしきものが認められた。西側を板材で四角く囲み、東側を礫で固めてあったようだ(第50図、写真図版36)。礫を固めた土は、10YR3/1黒褐色と10YR5/6~6/8黄褐色~明黄褐色の混土でシルト。精査後現地説明会用に残していたが、9月17日の大雨で流出したため、材は残っていない。〈出土遺物〉精査中に種子が水に浮き、ムギと思ったら、ホオノキの種子

だった(第七章参照)。<時期>今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性が高い。

R1025井戸跡(第51図、写真図版36)

<位置・検出状況>中央区東、9 B18w-x グリッド。II層中、黄色い粒が特徴的に入る覆土で検出したが、不整形であって重複が予想された。<重複>東側R D119土坑と重複し、通して半截した結果、本遺構の方が古いとわかった。R B026掘立柱建物跡と重複するが、直接切りあわないので新旧不明(第34・37図)。<図・精査状況>A側の土場、完掘時崩れて、合わない。もやーとしてはっきりしない覆土を通して半截した結果、中央に井戸跡があり、東側は礫を顕著に含む土坑が重複していることがわかった。西側は検出面にのみ黄色い粒が散るので遺構(掘りこみ)ではないと判断した。<覆土>黒～黒褐色土と黄褐色の霜降り状ブロック～黄褐色の再堆積層の互層で、他と比べて前者の割合多い。<平面形・規模>直径1.1m程度の円形。<断面形・深さ>約1.17mのピーカー状。<壁・底>壁は、上から15cmがII～III層、30cmがIV層、その下50cmが比較的締まりの良い砂層、その下は底まで砂利層。砂層は、上20cmが細砂、下30cmが粗砂で、締まりが良いせいか、他の井戸跡のように崩れてオーバーハンクしていない。7月に精査したが、砂利層からの湧水もあまりひどくなかった。<出土遺物>なし。<時期>今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性が高い。

R1026井戸跡(第51・52図、写真図版36)

<位置・検出状況>中央区東、9 B17-18 s グリッド。6月の時点で黒褐色土で明確に検出していたが、III層下部だったので、IV層面扱いとして後で精査した。<重複>柱穴625(R B040掘立柱建物跡)、626と重複するが新旧関係不明(第34、37図)。<図・精査状況>オーバーハンクしている部分完掘時掘りすぎて、合わない。<覆土>上2/3は、黒土を基本とする層と黄褐色土をモザイク状に多量に含む層の互層に近い。全体的に砂多く混じる。下1/3のほとんどはIV～V層の再堆積層だが、最下層はII層再堆積層が薄く筋状に入る。<平面形・規模>1.93×1.83m程度の不整形円形。<断面形・深さ>約1.2mの不整形。<壁・底>壁は、上から25cmがIV層、10～20cmが細砂層(砂質シルトに近い)、その下は、西側は粗砂を30cmほど挟んで再び細砂層だが、東側は同様の細砂層が底まで続き斜面には酸化鉄が見える。壁の上部は、腐株痕が多い。断面図A側の突出部がIV層と砂層の境に当たる。10月上旬に精査したせいか底が砂のせいか、湧水はなかった。<出土遺物>なし。<時期>今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性が高い。

R1027井戸跡(第52図、写真図版37)

<位置・検出状況>中央区東、9 C21 b グリッド。II層中、黄色い粒の入る土で明確に検出。西半分は、盛岡市教育委員会の試掘トレンチでIV層面まで下げられていた。<重複>なし。<図・精査状況>セクションポイント僅かに合わず、A側土場崩れたため合わない。<覆土>上1/2は、黄褐色土ブロックが顕著な層、中央1/4は黄褐色土再堆積層、下1/4は再び黄褐色土ブロックが顕著な層で酸化鉄を含む。<平面形・規模>直径1.2m程度の円形。<断面形・深さ>約1.3mの筒形。<壁・底>壁は、上から20cmがII層、その下10cmがIII層、50cmがIV層、その下25cmはV層が粘土化したもので、上10cm白色粘土、下15cmには酸化鉄見える。その下25cmは(底直上まで)緻密で硬く締まる砂層で、底は砂礫層。7月に精査したせいか湧水あり、緻密な砂層は水につかり、底は不明な部分がある。<出土遺物>なし。<時期>今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性が高い。

R I 028井戸跡(第52図、写真図版37)

<位置・検出状況>中央区東、9 C21 a～22 bグリッド。II層中、黄色い粒の入る土で明確に検出。西半分は、盛岡市教育委員会の試掘トレンチでIV層面まで下げられていた。東側に延びる不整形なのが少し気になった。<重複>なし。<図・精査状況>セクションポイント(多分A)実距離で3cm合わない。<覆土>上1/3は黒土、下2/3は黄褐色土ブロックが顕著な層。<平面形・規模>東側が崩れているのか、1.48×1.23m程度の半形。<断面形・深さ>約1.3mの筒形。<壁・底>壁は、上から20cmがII層、その下10cmがIII層、40cmがIV層、その下40cmはV層が粘土化したもので、上20cm白色粘土、下20cmには酸化鉄見える。その下30cmは湧水ではっきりしないが、上10cmは緻密で硬く締まる砂層で、その下～底は岩のように硬い砂礫層のようである。壁は、垂直に近い。7月に精査したせいか湧水あり、底は不明な部分がある。<出土遺物>なし。<時期>今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性が高い。

R I 029井戸跡(第46・81図、写真図版37)

<位置・検出状況>中央区東南、9 B25 q～10 B 1 qグリッド。南側に一部III層残るが、基本的にはIV層上面で検出。東側一部盛岡市教育委員会の試掘トレンチにかかっている(IV層上面で止まっている)。砂利混じりの黒土ではっきりと確認したが、重複する竪穴建物跡との新旧関係は不明だった。<重複>東側、R E 021建物跡と重複。新旧不明なため通してベルトを設定し、これに沿って幅20cmほどのトレンチを入れた。接するような状態で重複するため不明瞭であったが、竪穴の壁の立ち上がり不連続で不自然な点から(重複部分で急に垂直になる)、本遺構の方が新しいと判断した。

<図・精査状況>A'側の曲げ物の位置、上場、合わないのは、断面実測時に斜めに測っていた可能性がある。新旧関係を把握した時点で掘り下げのを止めていたが、竪穴断面実測が終了したので、再開した。ベルトの南北両側にトレンチを入れていたが、北側の方が広さに余裕があったので、こちらを先に底まで掘り下げることにした。湧水ひどく、底に曲物があつてなかなか進まず、また断面下部がオーバーハング気味になってしまい、修整した。8月22日の大雨で反対側のトレンチから水がしみこんだのか、断面撮影後、中央部分が洞窟状に脱落した(写真図版37)。安全上、実測は断念せざるを得なかった。<覆土>写真図版37参照。上部は砂利混じりの黒褐色土で(層厚30cm)、下層の方が砂利多い。その下20cmはIV層再堆積土、その下40cmほどは、細かく分かれるが、基本はII層再堆積にIV～V層ブロックが混じったものである。この層の下の層境は逆台形状になっていて、その下両脇はV層粘土再堆積層である。ちなみに、R E 021建物跡の床は、II層再堆積層云々の層の上部に当たる。<平面形・規模>直径1.8m程度の円形。<断面形・深さ>約1.6mの筒形。<壁・底>壁(西側)は、上から60cmがIV層、その下20cmは黒砂層、その下から底まで50cmほどは砂利層。壁は、垂直に近い。8月に精査したせいか湧水あり。<その他>底中央に集水装置として曲物が埋設されている。掘り方埋土は砂利再堆積層であるが、東側は掘り方を持たない(第46図)。<出土遺物>上記曲物(第81図2)のほか、その部品が周囲から出土しているが、湧水のため原位置不明。<時期>今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性が高い。

R I 030井戸跡(第53図、写真図版38)

<位置・検出状況>中央区東南、10 B 4～5 rグリッド。IV層面、黒土で検出。<重複>南西側、R I 032井戸跡と壁中で重複するが、新旧関係不明。R B 024掘立柱建物跡と重複するが(第35、37図)、直接柱穴が切りあっているわけではないので新旧関係不明。東側の突出部分は重複でないと考えた

(＜その他＞参照)。(図・精査状況)＞A'側上場、発掘時掘り広がりか測り間違いで合わない。上部に水田時のカクラン多く、掘りすぎているかもしれない。(覆土)＞1層は埋め戻したような霜降り状の土、2層は砂層、3層は黒土にIV層ブロック含む土、6層は砂利再堆積層、8層は黒土、その下はIII層以下の再堆積層で、最下層は砂礫再堆積。

(平面形・規模)＞突出部を除くと、2.1×1.75m程度の楕円形。(断面形・深さ)＞約1.1mの袋状。(壁・底)＞壁は、上から40～50cmがIV層、その下は、西側が細砂層20cm、東側は上部15cmが粘土層で上下面は酸化鉄が見られ、下部5～15cmは砂利層、その下は黒砂20cm、その下は底まで明るい砂層。断面西側(第53図)の“く”字状の部分がIV層とその下の境である。東側IV層は半截後大幅に崩れた。10月前半に精査したせいか湧水なかった。(その他)＞東側に見られる土坑状の部分は、平面が不整形で、底が細かく凸凹しているため、カクランと判断したが、本井戸跡の埋め戻し穴の可能性もある。(出土遺物)＞なし。(時期)＞今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性が高い。

R1031井戸跡(第53・54図、写真図版38)

(位置・検出状況)＞中央区東南、10B5r～7sグリッド。IV層面、黒土で明瞭に検出。(重複)＞周面に柱穴群があるが(第35図)、重複してはいない。(図・精査状況)＞A'側の上場、発掘時掘り広がりか測り間違いで合わない。(覆土)＞上半は、黒～黒褐色土と黄褐色土の薄い層の連続、中部中央(17層)は砂利層、その両脇は白色粘土と黒土の混土、その下中央(19層)青色粘土、その両脇は白色粘土である。19層は曲物等の集水施設、その両脇の白色粘土は掘り方埋め土が変化したものであろう。(平面形・規模)＞2.75×2.3m程度の楕円形。(断面形・深さ)＞約1.2mの逆台形状。(壁・底)＞壁は、上から60cmがIV層(一部V層?、部分的に砂)、その下20cmが白色粘土層で上下面は酸化鉄が見られ、その下20cmが黒い砂層で硬く締まり、その下(50センチ)は底まで砂礫層。底にも酸化鉄が見られた。壁は所々棚状を呈す。10月前半に精査したせいか湧水なし。(出土遺物)＞なし。(時期・所見)＞今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性が高い。曲物があったと思われる。

R1032井戸跡(第53・54図、写真図版38)

(位置・検出状況)＞中央区東南、10B5q～6sグリッド。IV層面、黒褐色砂利で検出。(重複)＞北東側、R1030井戸跡と隣中で重複するが、新旧関係不明。周面に柱穴があるが(第35図)、重複してはいない。後述する緻密な砂層までは稲株痕と重複。(図・精査状況)＞半截時、掘りすぎた。(覆土)＞上半は、黒褐色と黄褐色の霜降り状混土で埋め戻した土、中部は東側から流れ込んだ自然堆積?の黒土、下部中央に曲物のようなラインがあり、その中は、白色粘土と黒土の互層、その両脇は自然崩落土と思われる黄褐色～II～IV層ブロックを含む土、その下は黄褐色と黒褐色の混土で、曲物掘り方埋め土と思われる。(平面形・規模)＞1.65×1.5m程度の不整形円形。(断面形・深さ)＞約1.1mの不整形袋状。(壁・底)＞壁は、上から40cmがIV層、その下30cmが緻密な砂層、その下は底まで礫を含む黒砂利層。壁は凹凸が著しく、5層の黒土は東壁を挟り込むように入り(ここでR1030と重複)、その下は棚状を呈す。西壁はオーバーハングがひどい。底面には酸化鉄が見られる。10月前半に精査したせいか湧水なかった。(その他)＞東側に見られる土坑状の部分は、平面が不整形で、底が細かく凸凹しているため、カクランと判断したが、本井戸跡の埋め戻し穴の可能性もある。(出土遺物)＞なし。(時期・所見)＞今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性が高い。曲物があったと思われる。

R I 033井戸跡(第55図、写真図版38)

<位置・検出状況>中央区南西、9 A 15 l ~ 16 m グリッド。IV層面、砂礫層が円を描き明確に検出。
 <重複>上部に現代の歩道が南北方向に延びる。<図・精査状況>A側の土場、おそらく掘り広がり
 ため合わない。A'側の土場、崩れて合わない。<覆土>上1/3は、砂礫層、その下は比較的薄い、
 II ~ V層再堆積層の互層。<平面形・規模>2.05×1.94 m程度の円形。<断面形・深さ>約1.35 mの
 不整形。<壁・底>壁は、上から20 cmがIV層、その下35 cmは場所によって異なる層で、粗砂が基本だ
 が、黄色の細砂もあり、まだらに混じっていて、まだ掘れるかと思ひ掘りすぎた所もある。その下は
 底まで砂礫層。9月末に精査したせいか湧水はなかった。<出土遺物>なし。<時期>今回の調査結
 果全体から、中世後半以降の可能性が高い。

R I 034井戸跡(第55図、写真図版39)

<位置・検出状況>中央区西、9 A 8 b ~ 9 c グリッド。IV層面、黒土ではっきり検出したが、不整
 形のため、周囲に見られる擬似現象の可能性も考えた。しかし、半裁後それらしいと判断したので井
 戸跡と認定した。<重複>なし。<図・精査状況>セクション・ポイント、着雪後のクリーニング
 で抜かれて、ない。7層がわかりづらいため掘りすぎた(8層)。<覆土>上2/3は、IV層ブロック混
 じりの黒褐色土、その下1/3の上半はIV層再堆積、下半はV層再堆積層。<平面形・規模>完掘後は
 1.8×1.5 m程度の不整形円形となったが、これは上面が汚れていて掘り抜けてしまったため
 で、実際にはもう少し円形に近いと思う。<断面形・深さ>約0.95 mの不整形。<壁・底>壁は、上
 から15 cmがIV層、その下が砂層で、底だけ砂礫層。11月に精査したせいか湧水はなかった。<出土遺
 物>なし。<時期>今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性が高い。

R I 035井戸跡(第47図、写真図版39)

<位置・検出状況>中央区西、9 - A 8 x ~ 9 y グリッド。IV層面、砂礫層を含む上ではっきり検出した。
 <重複>上面を、南北方向にR G 038溝跡が走る。本遺構の砂礫層の上に黒土の溝跡のプランが明瞭
 に見え、溝跡の方が新しい(写真図版39)。南東側、R I 016井戸跡と重複。R I 035は砂礫、R I 016
 は黒土で、035が円を描いていて検出面で明瞭にR I 035井戸跡の方が新しいとわかり、土層断面でも
 裏づけられた。<図・精査状況>セクション・ポイントAが合わない。平面図のAを西側に10 cmずら
 せば、ほぼ合う。調査終盤で余裕がなかったため、確認することはできなかった。念のため、R I
 016井戸跡を通して半裁した。<覆土>上2/3は、褐色砂礫層と砂礫混じりの黒褐色土の互層で、下部
 は傘大の礫多い。その下1/3は砂の再堆積層。<平面形・規模>2.4×2.3 m程度の不整形円形。<断面形・
 深さ>約1.4 mの箱築研状。<壁・底>壁は、上から20 cmがIV層、その下60 cmが砂層で、その下は底
 まで砂礫層。底は比較的平らである。11月に精査したせいか湧水はなかった。
 <出土遺物>なし。<時期>今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性が高い。

R I 036井戸跡(第56・81図、写真図版39)

<位置・検出状況>中央区西、9 - A 6 x ~ 7 y グリッド。IV層面を検出した。<重複>上面を、東
 西方向にR G 036(038?)溝跡が走り、本遺構より新しい。東側、R I 037井戸跡と重複。検出面で、
 R I 036の黄褐色ブロックを含む3層が、037の黒色(14層)を切って円を描くのが見えR I 036井戸跡
 の方が新しいと考えたが(写真図版40)、土層断面を見れば、14層は036の方に偏属すると考えた方が
 自然かも知れない。ただし、新旧関係には影響ない。<図・精査状況>完掘時調査終盤で指示する余

裕がなくカクラン等も掘りきってしまった。平面図はその結果を表したもので厳密な図ではない。時間的な制約と重複関係の明示のため、R I 036～038井戸跡を通して半裁したが、既に上に重複するR G 036 (038 ?) 溝跡を完掘していたので(第13図下)、通常とは異なり北側を先に掘ることにした。根によるカクラン多く、掘りすぎ多い。〈覆土〉基本的には、褐色砂礫層と黒褐色土の互層だが、1層は植栽痕か柱穴か。14層は、本遺構に帰属するか。〈平面形・規模〉直径1.65m程度の不整形円形。〈断面形・深さ〉約0.78mの丸みを帯びたV字状。〈壁・底〉壁は、上から20cmがIV層、その下は底まで砂層だが、掘りすぎ部分は砂礫層。底は丸みを帯びている。11月に精査したせいか湧水はなかった。〈出土遺物〉覆土上部から須臾器破片が出土(第81図3)。〈時期・所見〉今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性が高い。浅く、底が砂層でとどまっているのは、途中で掘のを止めたためか。本来井戸跡でない可能性もあるが、規模はそれらしい。

R I 037井戸跡(第56図、写真図版40)

〈位置・検出状況〉中央区西、9-A 6 y～9 A 7 a グリッド。IV層黒土で検出した。〈重複〉上面を、東西方向にR G 036 (038 ?) 溝跡が走り、本遺構より新しい。西側、R I 036井戸跡と重複。R I 036のところでは述べたように、036の方が新しい(写真図版40)。東側、R I 038井戸跡と重複。を通して半裁した結果、037の方が新しいと判断した。ただし、15層がもしR I 037に帰属せず、14層がR I 036に帰属するとなると話は異なってくるが(第56図)、明らかに037に帰属するであろう16層と15層の類似から、上の判断で間違いないと思う。〈図・精査状況〉完掘時底が砂のせいか掘りすぎて断面図と合わない。調査終盤で現地で点検できなかったが。〈覆土〉上面、14層黒土、15層砂含む黒土は、隣接する遺構に帰属する可能性はあるが、16層との類似性から本遺構に帰属すると思う。その下16層は褐色に近い砂礫再堆積、下半分は、黒褐色を基本とするが、含まれる黄褐色土の違いで細かく分かれる。〈平面形・規模〉直径1.8m程度の円形か。〈断面形・深さ〉約1.3mの逆台形。〈壁・底〉壁は、上から20cmがIV層、その下50cmが砂層、その下は底まで砂礫層。底は平ら。11月に精査したせいか湧水はなかった。〈出土遺物〉なし。〈時期〉今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性が高い。

R I 038井戸跡(第56図、写真図版40)

〈位置・検出状況〉中央区西、9-A 6 w～7 x グリッド。IV層で検出したが、重複する溝跡のために検出面では認識できず(R I 040と一連のものとして認識)、溝調査後に確認。〈重複〉上面を、東西、南北方向にR G 036・038溝跡が走り、本遺構より新しい。西側、R I 037井戸跡と重複。R I 037のところでは述べたように、037の方が新しいと判断した。南東側、R I 040井戸跡と重複。溝調査後改めて検出したところ、038の南西弧部分が黒土で040の褐色砂礫層と明確に区別でき、038のプランが小判形を描くのを確認できたので、038の方が新しいと思う。〈図・精査状況〉調査終盤で余裕がなく指示できずに掘られてしまったが、北側のテラス状の部分は断面図に示すように掘りすぎである。〈覆土〉上部3層までは黄褐色土・砂の汚れ再堆積、その下はIV～V層ブロック混じる黒褐色土。〈平面形・規模〉1.5×1.1m程度の小判形か。〈断面形・深さ〉約1.2mの筒形。〈壁・底〉壁は、上から20cmがIV層、その下70cmが砂層、その下は底まで砂礫層。壁は底付近でオーバーハングするところあり。底は比較的平ら。11月に精査したせいか湧水はなかった。〈出土遺物〉なし。〈時期〉今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性が高い。

R I 039 井戸跡 (第56・57・81図、写真図版41・72)

<位置・検出状況>中央区西、9-A7a~8bグリッド。IV層面で検出した。<重複>上面を東西方向にRG036溝跡が走り、本遺構より新しい。北西側、R I 040井戸跡と重複。検出面では、R I 040の砂利再堆積がR I 039の黒土を切って正しく弧を描いているように見えたが(写真図版41検出状況の手前の重複)、通して半裁した結果では、逆のように見えた。3と20、4と24層の接点を見ると、4層より上は、R I 039の方に帰属するように思えるが、土性はむしろ040の方に近いので、偶然と判断され、断面図では境界が接するような形のため確証は得られないが、平面図から040の方が新しい可能性が高い。南西側、RD131土坑と重複し、検出面で覆土が明確に異なり土坑の方が古いとわかった(写真図版41検出状況の奥の重複)。<図・精査状況>調査終盤で余裕がなく現地を確認できなかったが、底とB'側上場完掘時掘りすぎで、曲物は測り間違いで、合わない。<覆土>上部汚れ砂礫層、その下の大部分は砂礫混じる黒土。<平面形・規模>直径2.5m程度の円~隅丸方形。<断面形・深さ>約1.6mの不整形。<壁・底>壁は、上から20cmがIV層、その下60cmが砂層、その下は底まで砂礫層。底はやや丸みを帯びる。11月に精査したせいか湧水はなかった。<その他>底に第81図3の曲物検出(写真図版41)。<出土遺物>曲物の覆土周囲から写真図版72の7のコンラの枝が出土した。<時期>今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性が高い。

R I 040 井戸跡 (第56・57図、写真図版40)

<位置・検出状況>中央区西、9-A7y~9A8aグリッド。IV層面で検出したが、重複する溝跡のために検出面では認識できず(R I 038と一連のものとして認識)、溝調査後に確認。<重複>上面を南北、東西方向にRG036・038溝跡が走り、本遺構より新しい。北西側、R I 038井戸跡と重複し、R I 038のところで述べたように038の方が新しいと思う。南東側、R I 039井戸跡と重複。R I 039のところで述べたように、確証は得られないが平面図から040の方が新しい可能性が高い。<図・精査状況>調査終盤で余裕がなく現地を確認できなかったが、B'側上場と底完掘時掘りすぎで合わない。<覆土>上部1~3層暗褐色の砂礫多く含む土、4層は砂、5~6層汚れIV~V層再堆積(霜降り状)、7層黒褐色土、その下1/3はIV~V層再堆積、最下層12層黒土。<平面形・規模>1.8×1.5m程度の不整形円形。<断面形・深さ>約1.4mの筒形変形。<壁・底>壁は、上から20cmがIV層、その下50~60cmが砂層、その下は底まで砂礫層。底は平らでない。11月に精査したせいか湧水はなかった。<出土遺物>なし。<時期>今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性が高い。

R I 041 井戸跡 (第58図、写真図版41)

<位置・検出状況>中央区西、9-A4y~9A4aグリッド。IV層面黒褐色土で明確に検出した。<重複>西側RG038溝跡と重複。検出面では、重複部分の溝跡浅かったため、深い井戸跡の黒土が際立って見え井戸の方が新しいように思えたが、半裁した結果、溝跡の方が新しいとわかった(第58図0層)。<図・精査状況>A側上場完掘時掘り広がって合わない。検出面で間違ったため、古い井戸跡の方を先に掘った。<覆土>上部3/5のうち上2/5はIV層ブロック混じりの黒褐色土の連続層で埋め戻した土と思われ、下1/5はIV~V層の再堆積。下部2/5は、曲物が腐食したものと掘り方が崩れた土と思われる。<平面形・規模>1.83×1.4m程度の不整形円形(北東小穴除く)。<断面形・深さ>約1.4mの不整形逆台形。<壁・底>壁は、上から30cmがIV層(断面大きな変化点付近まで)、その下25cmが砂層、その下5cm(断面突出部付近)黒砂、その下20cm粗砂、その下は底まで砂礫層。IV層は耕作痕で汚れている。底は平らでない。11月に精査したせいか湧水はなかった。<出土遺物>なし。

＜時期・所見＞今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性が高い。底に曲物があつたと思われる。北東の小穴(2層)は、埋め戻しの際に開いた穴の可能性が高い(写真図版41参照)。

R1042井戸跡(第58図、写真図版42、67)

＜位置・検出状況＞中央区西、8-A25y~9-A1yグリッド。IV層面黒褐色土で明確に検出した。
 ＜重複＞周囲の柱穴群は、本遺構付近には見当たらないようである(第28図)。
 ＜覆土＞22層が特徴的で、酸化鉄が顕著であることから水がたまっていたことが窺われる。この層の下は、曲物が腐食した土とその掘り方埋土と考えられることから、おそらくここが使用時の底なのであろう。22層より上は、自然堆積と思われ、主として黒褐色と褐色の交互層で、薄いII~V層再堆積層、黒土少なく(明るい、褐色基調)砂利の再堆積多い。
 ＜平面形・規模＞直径2.7m程度の不整形円形。
 ＜断面形・深さ＞掘り方含めると、約1.45mのV字形に近いが、含めない約0.9mの逆台形。
 ＜壁・底＞壁は、上から45cmがIV層、その下30~45cmが緻密な砂層(下限は22層に対応)、その下は底まで砂礫層(上部は砂利、下部は砂礫)。掘り方底はV字、使用時底は平ら。11月に精査したせいか湧水はなかった。
 ＜出土遺物＞覆土最上部から土師器片出土(写真図版67の4)。
 ＜時期・所見＞今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性が高い。底に曲物があつたと思われ、掘り方と使用時の底が区別できた。

R1043井戸跡(第59図、写真図版42)

＜位置・検出状況＞中央区北西、8-A20t~21uグリッド。IV層面黒褐色土で明確に検出した。大きめの柱穴かと思っていたが、思いのほか深く、砂礫層を掘り込んでおり、また平面が円形基調であることから、土坑ではなく井戸跡と認定。
 ＜重複＞なし。
 ＜図・精査状況＞完掘時底付近の壁掘りすぎたため、合わない。平面図で底が大きく広がっているのは掘りすぎの可能性が高い(壁が砂層の部分)。
 ＜覆土＞最上層は黄褐色土混じりの黒褐色土、下部1/4は砂礫再堆積層、その間は黄褐色土に黒土混じる埋め戻し層。
 ＜平面形・規模＞直径1.1m程度の不整形円形。
 ＜断面形・深さ＞約1.1mの筒形。
 ＜壁・底＞壁は、上から15cmがIV層、その下20cmが緻密な砂層、その下は60~70cm砂層だが東側上部40cmは黒砂、底は砂利層。11月に精査したせいか湧水はなかった。
 ＜出土遺物＞なし。
 ＜時期＞今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性が高い。

R1044井戸跡(第59図、写真図版42)

＜位置・検出状況＞中央区中央北、8A17n~18oグリッド。IV層面黒土で明確に検出した。
 ＜重複＞R B029掘立柱建物跡と重複するが(第31・37図)、直接切りあっていないので新旧関係不明。
 ＜図・精査状況＞A'側底(オーバーハングしている所)完掘時掘りすぎたため、合わない。平面図、上場南半分は、少し掘りすぎ気味。半截時、当初作業員がII層上面で止めていたのをうっかり断面突測し、やり直した。半截後も、縄文時代のフラスコ状土坑か悩んだが、1層の特徴で中世と判断し、本遺跡の類例から井戸跡と認定。
 ＜覆土＞上1/4はI-II層再堆積土、その下5/12は、I-II層に黄褐色土混じる層を中心に砂、III~IV層の再堆積土も。下部1/3はIV層再堆積土で、ほとんど汚れていない。
 ＜平面形・規模＞直径1.8m程度の不整形円形。
 ＜断面形・深さ＞約1.4mの袋状。
 ＜壁・底＞壁は、上から70cmがIV層で(西側は7層の層境に相当)、西側は耕作時のカクランで汚れており、東側の上部は砂質などところがある。その下は底まで黒砂。底はすり鉢状で、10月に精査したせいか湧水はなかった。
 ＜出土遺物＞なし。
 ＜時期＞今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性が高い。

R1045井戸跡(第60図、写真図版42)

＜位置・検出状況＞中央区中央南、9A8m～9nグリッド。Ⅲ層面だが、覆土上面が黄褐色土のため明瞭に検出。西側は、盛岡市教育委員会の試掘トレンチにかかる。R1046井戸跡等と並ぶ(第13図)。
 ＜重複＞なし。＜図・精査状況＞A側上場完掘時掘りすぎて、合わない。覆土下部は砂の再堆積でわかりづらく、特に底直上の砂層は、地山なのか再堆積なのか見極めることができない。一応砂利層を地山と考えたが、底に段ができてしまった。壁の砂の部分は、半費時掘りすぎている。＜覆土＞最上部は黄褐色土だが、上半部の1/2は、黒土に黄褐色のブロック混じる。下半部のうち2/3はⅡ～Ⅴ層崩落土で、下部は砂再堆積層、最下層は黒褐色の土。＜平面形・規模＞直径2.4m程度の円形。＜断面形・深さ＞約1.3mの不整形形。＜壁・底＞壁は、上から15cmがⅡ～Ⅲ層、その下30cmがⅣ層、50cmが砂層で、上20cmは細砂、下は粗砂、一部オーバーハングしている所があるのは、水につかたとき崩れたのか。その下は底まで砂利層。底は平らだが段がつく？ 8～9月に精査したせいか湧水あったが、僅かで底から10cm冠水。＜出土遺物＞なし。＜時期＞今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性が高い。

R1046井戸跡(第60図、写真図版43)

＜位置・検出状況＞中央区中央南、9A6～8oグリッド。Ⅱ層面だが、覆土上面が黄褐色に砂利混じり土のため明瞭に検出。R1045井戸跡等と並ぶ。＜重複＞なし。＜図・精査状況＞上場完掘時掘り広がって、合わない。＜覆土＞最上部(1～2層)が特徴的で、Ⅴ層砂利層汚れ再堆積、下部両脇は、Ⅳ層汚れ再堆積(16層)、Ⅴ層砂再堆積(17層)、最下部はⅤ層粘土汚れ再堆積で、上記間の大部分は、黒褐色土とⅣ～Ⅴ層汚れ再堆積の互層。＜平面形・規模＞2.4×2.1m程度の小判形。＜断面形・深さ＞約1.45mの不整形形。＜壁・底＞壁は、上から20～30cmがⅡ～Ⅲ層、その下30～50cmがⅣ層、40cmが細かい砂層、その下は底まで砂利層。底は湾曲。8～9月に精査したせいか湧水あったが、僅かで底から10cm冠水。＜出土遺物＞なし。＜時期＞今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性が高い。

R1047井戸跡(第61図、写真図版43)

＜位置・検出状況＞中央区中央南、9A7u～8vグリッド。Ⅲ層中、Ⅳ～Ⅴ層粒子砂利混じりの黒褐色土で検出。西側は、盛岡市教育委員会の試掘トレンチにかかる。＜重複＞南に掘立柱建物跡がある(第32図)、重複していない。＜図・精査状況＞下部湧水で崩れて、平面図と断面図合わない。規模から空穴の可能性もあると考え、十字ベルトを設定し掘り始めた。深く、井戸だと確認して東半分のみ掘ることにしたが、雨で断面が崩れ西側に設定しなおした。断面撮影後(写真図版43)、再び大雨が降り、十字ベルトの際に開けた西側のトレンチ部分から水が流れ、南側のほとんどの覆土が崩落してしまった。湧水ひどく精査に作業員2名で1カ月以上費やした。＜覆土＞上記理由で詳細は不明だが、上半部は、1～2層とほとんど同じ。その下の大部分はⅡ層にⅣ～Ⅴ層ブロック混じった上、最下部は黒土と白色粘土の混土。＜平面形・規模＞3×2.8m程度の不整形円形。＜断面形・深さ＞約1.5mの逆台形。＜壁・底＞壁は、上から20cmがⅡ～Ⅲ層、その下60cmがⅣ層、40cmが砂層、その下50cmは黒砂利と砂の不整形互層で、底は湧水ひどくて不確かな部分もあるが砂層のようである。底は平ら。7～8月に精査したせいか湧水ひどく、断面を設定した両端底付近から湧水(そのためオーバーハング)。＜出土遺物＞精査中に桃の種が浮いたが、大雨の後見えなくなってしまった。＜時期＞今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性が高い。

R I 048井戸跡(第61図、写真図版43)

<位置・検出状況>中央区中央、9 A 4 t ~ 5 u グリッド。IV層中、黒土で明瞭に検出。<重複>北に掘立柱建物跡があるが(第32図)、重複していない。<図・精査状況>A'側の土場完掘時掘り広がつて、断面図と合わない。<覆土>上1/3は、黒褐色地に黄褐色土散る、中央1/3は、II~IV層再堆積、下1/3は水成自然堆積で酸化鉄目立ち、他に見ない白砂と粘土ブロックが認められた。13層で一旦埋没止まり水が溜まっていた可能性が高い。<平面形・規模>直径2.4m程度の円形(周辺部除く)。<断面形・深さ>約1.3mのくさび形。<壁・底>壁は、上から50cmがIV層、その下20cmが黒砂層、その下30~50cmは砂、その下~底は砂利。底は傾斜。10月に精査したせいか湧水なかった。<その他>北側縁辺部に不整形で底の凹凸著しい穴が認められた。<出土遺物>なし。<時期・所見>今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性が高い。上述の不整形の穴は、井戸跡の土場に沿っていることから、井戸跡を埋め戻すため(埋める土を確保するため)に掘られた穴かもしれない。R I 042井戸跡を参考にすれば、13層以下は曲物と掘り方理土上だった可能性がある。

R I 049井戸跡(第62図、写真図版43)

<位置・検出状況>中央区中央北、8 A 25 s ~ 9 A 1 t グリッド。IV層、黒土で明瞭に検出。R I 050井戸跡等と並ぶ(第13図)。<重複>西に掘立柱建物跡があるが(第32図)、重複していない。<図・精査状況>完掘時の掘りすぎで、全体的に平面図と断面図合わない。断面図をとった箇所は中心から外れている。<覆土>上1/6は、霜降り状の埋め戻し土、その下2/6はII~IV層の再堆積土、その下2/6はIV層再堆積土、その下1/6は砂再堆積層で下部は水成自然堆積、最下部は黒土。<平面形・規模>1.85×1.75m程度の不整形円形。<断面形・深さ>約1.3mのくさび形。<壁・底>壁は、上から40cmがIV層、その下40cmが粗砂層、その下底まで、R I 050井戸跡と同様緻密な灰色(10YR7/1灰白色)がかったシルト化した砂層。7層付近壁には一周酸化鉄付着。底は傾斜。10~11月に精査したせいか湧水なし。<出土遺物>なし。<時期・所見>今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性が高い。R I 042井戸跡を参考にすれば、下部は曲物と掘り方理土があった可能性がある。

R I 050井戸跡(第62図、写真図版44・67)

<位置・検出状況>中央区中央北、8 A 24 t ~ 25 u グリッド。IV層、黒土で(重機で剥いだ時点で)明瞭に検出。R I 049井戸跡等と並ぶ(第13図)。<重複>西に柱穴群があるが(第32図)、重複していない。<図・精査状況>A'側の土場完掘時崩れて?、断面図と合わない。底の小穴状の部分は下げすぎているようだ。<覆土>上1/3弱は、黒土再堆積、その下1/3強黄褐色砂再堆積(5層)、その下は黄褐色土再堆積に砂混じる。<平面形・規模>1.95×1.7m程度の不整形円形。<断面形・深さ>約1.3mのくさび形。<壁・底>壁は、上から40cmがIV層(耕作痕あり)、その下10~20cmが黒砂層、その下40cm砂、その下底まで、R I 049井戸跡と同様緻密な灰色がかったシルト化砂層。底は傾斜。10~11月に精査したせいか湧水なし。<出土遺物>検出面付近から写真図版67の4の須恵器片が出土。<時期・所見>今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性が高い。R I 042井戸跡を参考にすれば、下部は曲物と掘り方理土があった可能性がある。

R I 051井戸跡(第63図、写真図版44)

<位置・検出状況>中央区中央北端、8 A 15 q ~ 16 r グリッド。IV層、黒土で明瞭に検出。R I 044井戸跡と並ぶ(第13図)? <重複>東側近代の堅穴(カクラン)に切られる(第13図、写真図版44)。東

に掘立柱建物跡があるが(第31図)、重複していない。<図・精査状況>A側の土場を中心に全体的に完掘時掘りすぎて、断面図と合わない。<覆土>1層は黄褐色土、2層は黒土、上部のその下は砂礫層汚れ再堆積、中部は黒土、下部は黄褐色再堆積層、その下の突出部は砂礫再堆積層で、最下層は黒土混じる。<平面形・規模>直径1.8m程度の不整形円形。<断面形・深さ>約1.35mのくさび形変形。<壁・底>壁は、上から30cmがIV層、その下40cmが緻密な砂層(IV層と区別しがたい)、その下底まで黒砂利。壁、西側オーバーハングひどい。底は平ら。11月に精査したせいか湧水なし。<出土遺物>なし。<時期・所見>今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性が高い。R I 042井戸跡を参考にすれば、下部は曲物と掘り方埋土があった可能性がある。

R I 052井戸跡(第63図、写真図版44)

<位置・検出状況>中央区中央、9 A 2 r ~ 3 s グリッド。IV層、黒褐色土で明瞭に検出。R I 053井戸跡等と並ぶ(第13図)。<重複>検出面ではR I 053井戸跡と重なって見えたが、重複していなかった。<図・精査状況>A'側の土場、中間場完掘時掘り広がって、断面図と合わない。平面図の南西側の土場が凸凹なのは、壁が崩れたためである。<覆土>1層は黒褐色土に霜降り状に黄褐色の混土、2層は汚れ砂再堆積(黄褐色のダマ)、その下の大部分は黒を基本とするII~IV層の再堆積土で、下半は黄褐色で砂混じり、最下層(14層)は砂礫再堆積層。<平面形・規模>2.4×2.1m程度の不整形円形。<断面形・深さ>約1.35mのくさび形変形。<壁・底>壁は、上から45~60cmがIV層(耕作痕で汚れ)、その下15cmが黒砂層、その下55cmまで砂、その下底まで砂利。底は傾斜。10月に精査したせいか湧水なし。<出土遺物>なし。<時期・所見>今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性が高い。R I 042井戸跡を参考にすれば、下部は曲物と掘り方埋土があった可能性がある。

R I 053井戸跡(第63・64図、写真図版45)

<位置・検出状況>中央区中央、9 A 3 q ~ 4 r グリッド。IV層、黒褐色土で明瞭に検出。R I 052井戸跡等と並ぶ(第13図)。<重複>検出面ではR I 052井戸跡と重なって見えたが、重複していなかった。<図・精査状況>A側の土場完掘時掘り広がって、断面図と合わない。<覆土>上2/3は黒褐色土を基本とし、1層は焼土、炭化物混じり、3~4層は霜降り状に砂を多量に含む特徴的な土、下1/3は、IV層再堆積~汚れ再堆積で、下部は黒土が薄く縞状に入り自然堆積か、最下層は砂再堆積にIV層ブロック含む。1層の焼土は、検出面下2~3cmに確認され面的に広がる。不整形でブロック状の部分もあるので現地性でないかと判断したが、10cm以上面的に広がる部分もあり、現地性であった可能性も残す。<平面形・規模>直径2.3m程度の不整形円形。<断面形・深さ>約1.5mのくさび形変形。<壁・底>壁は、上から55cmがIV層(耕作痕で汚れ)、その下20cmが黒砂層、その下30cmまで砂、その下底まで砂利。底は傾斜。10月に精査したせいか湧水なし。<その他>南半分、土場に近い場所で壁を挟み込むように小穴が3つ認められた(第63図テラス状部分ほか、写真図版45参照)。<出土遺物>なし。<時期・所見>今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性が高い。R I 042井戸跡を参考にすれば、下部は曲物と掘り方埋土があった可能性がある。壁を挟み込む小穴は、井戸跡を埋め戻すため(埋める土を確保するため)に掘られた穴かもしれない。

R I 054井戸跡(第64図、写真図版45)

<位置・検出状況>中央区中央、9 A 5 p ~ 6 q グリッド。II層中、覆土上面黄色粒、砂利で明瞭に検出。R I 053井戸跡等と並ぶ(第13図)。<重複>なし。<図・精査状況>完掘時、A側の土場崩れ

て、下場湧水で崩れて、断面図と合わない。＜覆土＞1層は黒褐色上に黄色の粒、3層は特徴的で、霜降り状のIV層汚れ再堆積、6～11層は黒褐色上にV層再堆積土混じり、12層は黒褐色土と白色粘土の混土、その両脇13層は白色粘土の再堆積。＜平面形・規模＞2×1.8m程度の不整形円形。＜断面形・深さ＞約1.5mの筒形崩れ。＜壁・底＞壁は、上から20cmがⅡ～Ⅲ層、その下60cmがIV層、その下30～40cmが砂層、その下底まで砂利。壁は崩落したためか不整形で、南側のオーバーハングひどい。また北側の壁は段になっている。底は平ら。8～9月に精査したせいか湧水あったが、ひどくはない。＜出土遺物＞なし。＜時期＞今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性が高い。

R I 055井戸跡(第65・81図、写真図版45・46)

＜位置・検出状況＞中央区中央、9A4 r～5 sグリッド。Ⅱ層下部～Ⅲ層中、覆土上面黄褐色粒混じりの土で明瞭に検出。北側は重機でIV層上面まで下げていた。＜重複＞なし。＜図・精査状況＞セクションポイント、および完掘時南側の上場大幅に崩れて、断面図と合わない。＜覆土＞北から南に傾斜。上部は黒褐色土でⅡ層再堆積土を中心にIV～V層再堆積土混じり、中～下層はV層再堆積土を中心にⅡ～V層の再堆積土の細かい互層で、一部Ⅱ層再堆積土主。最下部18層は黒色粘土の混土、その両脇20層はIV層再堆積。＜平面形・規模＞崩落で不明だが、実測時には2.5×2.1m程度の不整形円形。＜断面形・深さ＞約1.4mの袋状。＜壁・底＞壁は、上から15cmがⅡ～Ⅲ層、その下50cmがIV層、その下30cmが黒い粗砂層、その下底まで細砂層。断面A'側の突出部付近は粗砂層である。8～9月に精査したせいか湧水比較的多かった。＜出土遺物＞第81図5の石製の針状のものが、内面を表に向けて南側に傾斜して4層付近(あるいは7層最下部?、8層に接するくらい)から出土(第65図No.1)。＜時期・所見＞今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性が高い。R I 042井戸跡を参考にすれば、下部は山物(18層)と掘り方埋土(20層)があった可能性がある。

(5) 土 坑(第66～70図、写真図版46～52)

井戸跡の可能性の高いものを除く23基検出された。個々の遺構は、紙数の関係で簡略に記載する。

概要。縄文時代と中世(16世紀)以降の可能性が高いものに二分されるが、後者には古代のものが含まれている可能性もある。縄文時代のものはフラスコ状土坑で、RD124、138、139が相当し、中央の谷部分にある(第13図)。これ以外が後者に相当し、堅穴建物跡の付属施設(塀など)?(RD123・126・127・130)、堀の付属施設?(RD125)、井戸跡の埋め戻し穴?(RD119)、自然現象の可能性のあるもの(RD132～137)、その他(RD118・120～122・128・129・131・140)に分けられる。自然現象の可能性のあるものは、形は様々だが覆土がよく似ていて、周囲の根穴等に似ており、中央区西端に集中する(第13図)。その他の中のRD131は、井戸跡に近い。前年度は19基検出され、堀跡内から15基発見された。今回調査の中世以降としたものに似た形状で人為堆積が多い。

RD118土坑(第66図、写真図版46)

＜位置・検出状況＞中央区東端(第13図)。IV層面黒土で明瞭に検出。＜覆土＞Ⅱ層よりⅠ～Ⅱ層に近い。＜壁・底＞壁～底はIV層、底は水がたまっていたようで酸化鉄があり灰白色グライ化。＜出土遺物＞覆土上部、底から15～20cmではほぼ水平に礫が出土。第66図“い”状の二つはツルツルした砥石状、西端の一つは火を受けて赤くなっている石棒状破片。＜時期＞今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性はあるが、近世後半までは下らないと思う。

RD119土坑(第66図、写真図版46)

<位置・検出状況>中央区東(第13図)。II層中、R I 025井戸跡と一緒に黄褐色ブロックで検出。
 <重複>通して半截した結果から、R I 025井戸跡より新しい。<図>完掘時、A'側の土場が掘り
 広がり、断面図と合わない。<覆土>上面に準大の礫顕著。<壁・底>壁は、II~IV層(南側のみ)。
 底はIV層。底は北から南へ傾斜する。<時期・所見>今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能
 性がある。底は整形だが、R I 030・048井戸跡のように埋め戻し穴の可能性はある。

RD120土坑(第66図、写真図版46)

<位置・検出状況>中央区東(第13図)。IV層上面、市教育委員会の試掘トレンチ底で明瞭に検出。
 詳細は、R I 022井戸跡参照。<重複>通して半截した結果から、R I 022井戸跡より新しい。<図>
 断面図作図ミスで、A'側の土場実際より10cm西にずれている。A'側の中間場、断面図と平面図合わ
 ない。<覆土>炭化物が特徴的。<壁・底>東壁は、上部14cm II~III層、その下底までIV層だが、西
 側底はR I 022覆土となる。西側の土場ラインが井戸跡と一致(断面図参照)するのは、底が覆土中で
 弱いため陥没したのか。<時期>今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性はある。

RD121土坑(第66図、写真図版17)

<位置・検出状況>中央区東、調査区境(第13図)。IV層面黒土で検出し輪郭不鮮明、底も不鮮明だ
 ったが、断ち割った結果土坑と認定。<重複>柱穴と重複するが新旧不明(第33図)。<図>完掘時A
 側の土場稲株痕掘ってしまったため、断面図と合わない。<埋土>単層に近く、黒土にIV層粒子広がり、
 古代の覆土に近い。<壁・底>壁~底は、砂質IV層。底は平ら。<時期>今回の調査結果全体から、
 中世後半以降の可能性はある。

RD122土坑(第66図、写真図版47)

<位置・検出状況>中央区東、R G 015堀跡南(第13図)。IV層面黒土で検出。<重複>柱穴と重複す
 るが新旧不明(第33図)。<覆土>霜降り状の土で埋め戻したものか。1と2層で1.の割合逆転。<壁・
 底>壁~底は、砂質IV層。底は平ら。非常に浅いのは、段丘上で削平されているためか。<時期>今
 回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性はある。

RD123土坑(第67図、写真図版47)

<位置・検出状況>中央区南、R G 015堀跡南(第13図)。IV層面黒土で明瞭に検出。不整形だが、壁・
 底しっかりしていて、R D126・130土坑などの類例から土坑と認定。周囲に稲株痕多し。<覆土>他
 遺構に比べて黄褐色土の含有少ない。<壁・底>壁~底は砂質IV層。底は平ら。<時期・所見>今
 回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性はある。R E 016・017建物跡に伴う塀などが。

RD124土坑(第67図、写真図版47)

<位置・検出・重複>中央区中央東(第13図)。調査終壁、R G 015堀跡完掘時壁から検出(より古い)。
 上面では堀跡が彫らむとは感じたが重複は気付かなかった。<図>セクションポイントA'、クリー
 ニング時に抜かれて、ない。<覆土>上2/3は黒~黒褐色土に黄褐色泥じり(割合によって分層、砂
 含む層も)、下1/3弱は砂の汚れ再堆積、最下層は黒土。<壁・底>壁は、変質したのか上から下まで
 区別できず、IV層か。周囲の堀の底は砂なのに、底はグライ化したのかIV層に近い。<遺物>最下層

から炭化材(クリ)。<時期・所見>類例から、縄文時代のフラスコ状土坑の可能性が高い。

RD125土坑(第67図、写真図版48)

<位置・検出状況>中央区中央東(第13図)、R G015堀跡東。IV層面黒土で明瞭に検出。<図>完掘時A'側の上下場が掘りすぎて、断面図と合わない。<壁・底>壁～底はIV層。底は平ら。<時期・所見>今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性がある。R G015堀跡と平行し、関連施設か。調査時に橋かと思ったが、反対側に同様の掘り込みは確認できなかった。

RD126土坑(第68図、写真図版48)

<位置・検出状況>中央区南西東寄り(第13図)。砂質IV層黒土で明瞭に検出。周囲に稲株痕多い。<壁・底>壁～底は砂質IV層。底は南北方向中央が高い。<時期・所見>今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性。RD127土坑と組み合わせ、RE008建物跡の入口を遮蔽する施設か。

RD127土坑(第68図、写真図版48)

<位置・検出状況>中央区南西東寄り(第13図)。IV層面黒土で明瞭に検出。<重複>本土坑の西側にRF002カマド状遺構が重複すると考えたが、底が連続したので、独立した土坑ではなくRF002の一部か。<壁・底>壁～底は砂質IV層。底は平ら。<時期・所見>今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性がある。RD126土坑と組み合わせ、RE008建物跡の入口を遮蔽する施設か。

RD128土坑(第68図、写真図版49)

<位置・検出状況>中央区南西中央(第13図)。IV層面黒土で明瞭に検出。<重複>検出面ではRG042溝跡と重複しているのか不明だったので通して半載した。ほぼ同じ土で不明瞭だが、接しているようだ。底面に検出された柱穴は、新旧不明だが、RB021掘立柱建物跡の一部を構成するのかもしれない(第29図)。<覆土>上層は霜降り状のIV層ブロック多い土、下層はRG042溝跡と同じ。<壁・底>壁～底はIV層。底は平ら。<時期>今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性がある。

RD129土坑(第68図、写真図版49)

<位置・検出状況>中央区南西中央(第13図)。IV層面黒土で明瞭に検出。<重複>本土坑の覆土にRF003カマド状遺構が存在すると考えたが、土坑が浅くRF003の底と分別できないので一体のものかも。東側のRG042溝跡とは、覆土がほとんど同じで、新旧不明。南東側、底から柱穴が検出。覆土はRD128土坑の柱穴に似るが、規模が小さく、本土坑に伴うかも。<図>断面図A'側の上場測り間違いか、平面図と合わない。<壁・底>壁～底はIV層。底は凸凹だが、これは稲株痕によるもので、本来は平らだったようだ。<時期>今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性がある。

RD130土坑(第68図、写真図版49)

<位置・検出状況>中央区南西西寄り(第13図)。IV層面黒土で検出。平面、断面とも不整形で遺構らしくないが、遺構の位置とRD126・127土坑等の類例から、遺構と認定。<壁・底>壁はIV層、底は砂V層。底は、西半分砂利層(V層の一部)、東半分砂～砂質IV層。底は波打つが、根によるカクランのためか。ただし、南東端の柱穴はカクランではない。<時期・所見>今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性がある。堀などのRE010建物跡の入口を遮蔽する施設(第18図)か。

RD131土坑(第69図、写真図版50)

＜位置・検出・重複＞中央区西(第13図)Ⅳ層面黒土で明瞭に検出。R I 039井戸跡より古い(詳細は井戸跡)。形・規模・深さから井戸跡でない判断。＜図＞A'側の土場掘りすぎのまま完掘し平面図作成。＜覆土＞最下層は砂礫再堆積層だが、上は霜降り状の埋め戻し土で、上半は黒褐色、下半は黄褐色主体。＜断面形＞筒形に近い。＜壁・底＞壁は、上20cmがⅣ層、その下砂層。底は、砂礫層上面。底は平ら。＜時期＞今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性がある。

RD132土坑(第69図、写真図版50)

＜位置・検出状況＞中央区西(第13図)。Ⅳ層面黒土で明瞭に検出。北側にある自然現象(根によるカクラン?)と同じ土だが、蓋形のため土坑と認定。RD135・137土坑と規格が似ており、掘立柱建物跡の可能性も考えたが並ばなかった。＜図＞セクションポイント両方動かされて、断面図と合わない。＜覆土＞RD135・137土坑と似る。＜壁・底＞壁～底はⅣ層。底はすり鉢状で、耕作痕で汚れている。＜時期＞今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性がある。

RD133土坑(第69図、写真図版50)

＜位置・検出状況＞中央区西(第13図)。Ⅳ層面黒土で明瞭に検出。周囲の自然現象(根?)と同じ土で、また半載しても、底にカクラン入っていて、悩んだが、1層のラインがシャープだったので、土坑と認定。＜図＞セクションポイント動かされており、完掘時掘りすぎて、断面図と合わない。＜覆土＞RD135・137土坑と似る。＜壁・底＞壁～底はⅣ層。耕作痕で汚れている。＜出土遺物＞人差し指の先くらの土師器片出土。＜時期＞今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性がある。

RD134土坑(第69図、写真図版50)

＜位置・調査状況＞中央区西(第13図)。Ⅳ層面黒土で検出。周囲の自然現象と同じ土だが、平面プランがシャープで底もしっかりしていることから、土坑と認定。雪や霜で大幅に掘り広がり、完掘時には不整形に。＜図＞セクションポイント動かされ、完掘時掘りすぎて、断面図と合わない。＜覆土＞一部黒いのは根等による。＜壁・底＞壁～底はⅣ層。耕作痕で汚れている。＜時期・所見＞今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性がある。あまり見られない形で自然現象の可能性も残すか。

RD135土坑(第69図、写真図版51)

＜位置・検出状況＞中央区西(第13図)。Ⅳ層面で明瞭に検出。RD137土坑と規格が似て掘立柱建物跡を構成するかと思ったが、他に該当土坑なし。＜図＞完掘時、上場が掘り広がって、断面図と合わない。＜覆土＞RD137土坑と同じ。黒すぎるので自然現象の可能性もあるか。＜壁・底＞壁～底はⅣ層。耕作痕で汚れている。＜時期＞今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性がある。

RD136土坑(第69図、写真図版51)

＜位置・検出状況＞中央区西(第13図)。Ⅳ層面黒土で明瞭に検出。周囲の自然現象(根によるカクラン)とほとんど同じ土だが、平面プランがシャープなので土坑と認定。＜図＞完掘時、上場が掘り広がったため、断面図と合わない。＜覆土＞下層に黄褐色ブロック集まるが分層できない。黒すぎるので自然現象の可能性もある。＜壁・底＞壁～底はⅣ層で、稲株痕多し。＜時期・所見＞今回の調査結果全

体から、中世後半以降の可能性がある。RD133土坑に似る？

RD137土坑 (第70図、写真図版51)

<位置・検出状況>中央区西北寄り(第13図)。Ⅳ層面で明瞭に検出。RD135土坑と規格が似て掘立柱建物跡を構成するかと思ったが、他に該当土坑なし。RB034掘立柱建物の中(第37図)。<図>完掘時、A側掘り広がったため、断面図と合わない。<覆土>RD136土坑と似るが、下部はⅣ層汚れ再堆積として分層できた。黒すぎるので自然現象の可能性もある。<壁・底>壁～底はⅣ層で、稲株痕多し。<時期>今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性がある。

RD138土坑 (第70図、写真図版51)

<位置・検出状況>中央区中央北(第13図)。Ⅳ層面黒土で明瞭に検出。井戸跡より小さいので土坑と考えていたが、予想より深く井戸跡かと思いかけた。<重複>ないが、一部根によるカクランを受けている。掘立柱建物跡と重複するが(第31・37図)、直接的には切りあわないので新旧不明。<図・精査状況>完掘時、A側の上場が掘りすぎて、断面図と合わない。平面実測終了し終わるまでに全ての上場が崩落した。<覆土>最下層は黒土、その上は幾つかに分かれるが、基本的には霜降り状のⅡ～Ⅴ(砂)層の混土で埋め戻したのか。最下層直上(底から2～5cm)に拳大以上の礫5個出土(写真図版51、1個は取り上げてしまっていた)。<壁・底>壁は、最上部Ⅲ層、その下50cmⅣ層(上部に砂質の部分あり)、その下～底まで(50cm)砂層だが、東側の上部30cmは黒褐色砂層。底は、すり鉢状に緩やかに傾斜し、水がたまっていたのか、酸化鉄付着。<出土遺物>なし。<時期>断面形などから、縄文時代のフラスコ状土坑であろう。

RD139土坑 (第70図、写真図版52)

<位置・検出状況・重複>中央区中央北(第13図)。Ⅳ層面で平面プランがシャープな近代の堅穴を確認。念のため半裁し磁器片が出土して該期と再確認したが、なかなか底が出ず、下に土坑が重複していることが判明。近代の堅穴は青黒い覆土で底に酸化鉄が付着し、水がたまっていたようだ。<図>完掘時、上場が掘り広がったため、断面図と合わない。<覆土>1層は砂礫汚れ再堆積、2層は霜降り状の土で埋め戻したのか、3層は黄褐色土混じりの黒土、4層は崩れ再堆積土、5層は粘土と黒土の薄い互層で、自然堆積か。7層は白色粘土(再堆積?)で、底に水がたまっていたことが窺われる。<壁・底>カクランの検出面から、上部20cmがⅣ層、その下40cmが緻密な砂層、その下は底まで砂利層で表面に酸化鉄付着。<時期>断面形などから、縄文時代のフラスコ状土坑であろう。

RD140土坑 (第70図、写真図版52)

<位置・検出状況>中央区中央、井戸集中区(第13図)。Ⅱ層面、黄褐色粒含む土で明瞭に検出。<図>セクションポイントのAの位置が、断面図と平面図合わない。完掘時、A側の上、下場掘りすぎて、合わない。半裁時、下げすぎた。<覆土>黒褐色土に黄褐色のブロック入る、ほぼ単層だが、下部に砂の再堆積(2層)。<壁・底>壁は、Ⅱ層下部～Ⅲ層、底はⅢ層。<時期>今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性がある。

(6) カマド状遺構(第71・72図、写真図版52~54)

燃焼部や煙道・煙出等は確認できなかったが、検出状況が古代カマドの検出状況によく似ていることと識者からの指摘を受け、カマド状遺構として報告する。5基検出されたが、いずれも中央区南西部に偏り、前年度検出されたR F001カマド状遺構に隣接する。

R F002カマド状遺構(第71図、写真図版52)

<位置・検出状況>中央区南西、9 A20 k グリッド。IV層面で明瞭に検出し、識者に「カマド状遺構」と指摘された。<重複>R D127土坑覆土西側に形成されたと考えていたが、底が連続するので一体のものかも知れない。<覆土>中央に円形のブロック焼上の集合体があり(1層)、その周囲は黒土に炭化物と焼土粒が混じる(2層)。<形・規模・深さ>90×30cm程度の長楕円形。西側の突出部はカクランか。深さ10cmで断面形はすり鉢状。<焼土・構造>現地性の焼土は認められない。<壁・底>壁は、砂～砂質IV層。底は粗砂層。<関連遺構>北東側に溝状のR D126土坑、北側にR E008堅穴建物跡がある。<出土遺物>なし。<時期>類例と今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性はある。

R F003カマド状遺構(第71図、写真図版53)

<位置・検出状況>中央区南西、9 A21 f グリッド。IV層面で明瞭に確認し、識者に「カマド状遺構」と指摘された。<重複>R D129土坑覆土に形成されたと考えていたが、底が分別できないので一体のものかも知れない。稲株によるカクラン多い。<図・精査状況>認識の違いで、断面図と検出面平面図合わない。<覆土>第71図に示した焼土は、ブロック状で、中央の円形の白抜き部分は黒土、北側の白抜き部分は、灰含む黒土。周囲のR D129覆土は、IV層ブロック含む黒土。<形・規模・深さ>120×70cm程度の不整長楕円形。深さ約12cm。<焼土・構造>現地性の焼土は認められない。<壁・底>壁はIV層。底には二カ所窪みが認められ(第71図)、そこは砂層で、他はIV層。<出土遺物>なし。<時期>類例と今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性はある。

R F004カマド状遺構(第72図、写真図版53)

<位置・検出状況>中央区南西、9 A20 a~21 b グリッド。IV層面で明瞭に確認し、識者に「カマド状遺構」と指摘された。<重複>ないが、稲株によるカクラン多い。<覆土>第72図に示した焼土は、ブロック状で、西端と東側の不整円形の白抜き部分は黒土多く、その西側の白抜き部分は、両者の中間。<形・規模・深さ>90×45cm程度の不整長楕円形。深さ約5cm。<焼土・構造>現地性の焼土は認められない。<壁・底>壁～底は砂質IV層。底には凹凸あるが稲株によるものか。<関連遺構>北側にR E009、西側にR E010堅穴建物跡がある。<出土遺物>なし。<時期>類例と今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性はある。

R F005カマド状遺構(第72図、写真図版54)

<位置・検出状況>中央区南西、9 A20 b グリッド付近。IV層面で明瞭に確認し、識者に「カマド状遺構」と指摘された。<重複>ないが、稲株によるカクラン多い。<覆土>焼土はブロック状で、面的に広がる部分はなかった。第72図南側突出部はカクランか。<形・規模・深さ>65×30cm程度の不整長楕円形。深さ約4cm。<焼土・構造>現地性の焼土は認められない。<壁・底>壁～底はIV層。

底は概ね平ら。〈関連遺構〉北側に R E 009、南側に R E 010 堅穴建物跡がある。〈出土遺物〉なし。
 〈時期〉類例と今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性がある。

R F 006 カマド状遺構 (第72図、写真図版54)

〈位置・検出状況〉中央区南西、9-A20y グリッド。R E 009 堅穴建物跡覆土南端でちりちりになった焼土を検出。現地性でないことを確認し、この時点では堅穴内に完全に取まっているように見えたことから、堅穴の覆土の一部と考えていた。しかし、堅穴精査後該部分にテラス状の張り出しが残り、識者に本調査区での「カマド状遺構」の存在を指摘されたことから、本遺構の存在を想定した。断面図は、R E 009 建物跡から起した。〈重複〉R E 009 堅穴建物跡南側覆土に一部かかるか。稲株によるカクラン多い。〈形・規模・深さ〉上記検出状況のため、広がり特定できない。深さ 5 cm? 〈焼土・構造〉現地性の焼土は認められない。〈壁・底〉壁～底はⅣ層。底は平らで全体として棚状。〈出土遺物〉なし。〈時期〉類例と今回の調査結果全体から、中世後半以降の可能性がある。

(7) 堀 跡 (第73・74・81図、写真図版55～58)

規模の大きな溝跡である。前年度の続きで、方形1条 (015)、これに沿う列状 (016) が1条ある。

R G 015 堀跡 (第12・13・73・74・81図、写真図版6・55～57)

〈位置・検出状況〉中央区中央～東、9 B 1 g～10 B 4 q 付近に位置する。南西隅に隣接する第10次調査区の続きである。北辺は段丘上にある (第11図「埋没沢」ラインより北側)、段丘上はⅣ層まで削平されていたこともあって明瞭に検出できた (写真図版55下段)。その他のⅡ層で止めた地点でも、覆土上部がⅠ・Ⅱ層という灰色がかかった土であったことから、黒土中でも確認できた (写真図版7)。ただし、深さは十分あり、またカクラン等で輪郭がはっきりしない地点もあることから、精査自体は、調査の終盤Ⅳ層まで下げた時点で行った。

〈重複〉西側、R G 034 溝跡と重複 (第13・77図)。重複部分はカクランが多く、新旧関係を見極めることはできなかった。この溝跡は、前年度調査区でも重複しているが (第12図)、ふれられていない。西側、R D 124 土坑と重複。調査の終盤 (11月21日)、堀跡の完掘時に堀の壁から検出。後から思えば、確かにこの辺りの堀跡のプランは直線的ではなく円く膨らんでいたが、周囲にカクランが多かったこともあり、その一つが重なっているのだと考えていた。直接的には新旧関係は確認していないが、覆土や検出状況等から、土坑の方が古いと判断して差し支えないと考える。

R B 024 掘立柱建物跡や柱穴群と重複 (第32～37図)。前年度調査区では、堅穴建物跡や井戸とも重複しているが、いずれよりも新しい。

〈図・精査状況〉平面図と断面図の元々の縮尺も大きく異なっていたことから (1/200と1/20)、厳密には照合していない。上述のように、かなり早い段階で検出はしていたが、北側の一部が調査に入らなかったこともあって (第11図下段「後で下げた範囲」)、そのままにしていた。担当者は、最後にまとめて精査と考えていたが、「現地説明会にあたって全く掘っていないのはいかがか」との指示を受け、埋没沢と重複し、Ⅳ層まで下げると大幅に削平されてしまうと判断された、北東部分に9月末にトレンチを入れた (A-A' 断面)。ただし、セクション・ポイントは、その後の大雪後のクリーニングなどで抜かれてしまい、平面図には示せない (JとBの間に入る)。さらに、道路部分を先に着手したという工事の都合で、H-H' 付近だけ精査し、部分終了確認後11月1日に引き渡した。写真図版

6と55は、その後の写真である。ただし、その際B～Jの部分にも同時にトレンチを入れ、土質の対比はA～Jを通して行っている(撮影、実測自体は11月中旬)。完掘および平面実測は、11月下旬に、当初細谷地遺跡に振り分けられていた作業員の方も借りて、一気に行った。

<覆土>H-H'断面はやや異なるが、基本的には大部分がI-II層で、下部にIV層崩落土あるいはその混土を含むといった感じである。西側は上部に黄褐色土が混じる。自然堆積と思われる。流水痕跡は覆土には認められないが、3・10・13層から、地点によっては水が溜まっていたことが窺われる。ただし底付近にとどまる。E-E'地点には、踏みしめたような特徴的な覆土がある(11層)。

<平面形・規模>方形に近いが、南東隅が出入りに近いためか角張り、不整五角形になっている。北辺約50m、西辺約50mだが、東辺は約35m、南辺は、西側が約38m、東側が約16mと二つに分かれ、両側の間は約1m開いている。軸方向は概ねN-22°-E。多くの堅穴建物跡や掘立柱建物跡も、これと同じ、あるいはこれと直行する方向にあり、計画性が窺えるが、これは、遺跡範囲の南限となる水路の方向に沿っており(段丘の方向も)、現代の水田の区割りにも沿っている(第2・37頁)、軸方向から時期を推測することはできない。

<断面形・深さ>底に平らな部分を持つ逆台形。II層面から精査したA-A'部分で約76cm、他はIV層面から50～80cm。底の高さは大体同じようであり(次項)、深さの違いは検出面の違いによるところが大きい。

<壁・底>段丘下(第11回“埋没沢”ラインより南)は、壁底とも、密着な砂質IV層だが、C-C'より西、西側の溝は、底がより砂然としている。段丘上の壁は、砂質IV層～砂層で、地点によって異なり、G-G'地点は黒い砂である。底は、礫が露出しており、この点から考えれば、いくらかは水が流れていたかもしれない。底は平らで、湧水はなく、標高は、段丘下が122.2～122.4m、上が122.4～122.6mで、段丘上が若干高い。これは、水が抜けにくい段丘上において、水がたまってあふれるのを恐れて、旧河道(埋没沢)側へ流れるようにしたためではなかろうか。E-E'付近には踏みしめたような跡がある(11層)。壁は、聞き気味の地点が多いが、これは崩れたためかもしれない。

<関連遺構>いずれも前年度調査区だが、南辺東寄り土橋(R Z001)、そこから南に延びるR Z002道路跡とその側溝RG029-031がある。土橋には、門跡を構成していたかもしれない柱穴P490・492、さらにRG032・033という弧状を描く溝の関連施設があり、居館の入り口施設を構成していた可能性が高い。

<出土遺物>検出面を中心に、第81図5、6ほかの土師器片(p.229参照)、5の須恵器片(写真図版67の8・9も?)、4の砥石?、7の鉄製鎌が出土した。前年度も、検出面を中心に、鉄釘、鎌、須恵器片が出土している。

<時期>前年度、中世後半(16世紀ころ)と推測されている。

RG016堀跡(第12・13・73・74・81図、写真図版6・57・58)

<位置・検出状況>中央区中央、8 B 25 h～9 A 25 m付近に位置する。RG015堀跡の西辺に沿い、南端は調査範囲外に続く。第10次調査区の続きである(前年度は中央を調査)。北端は段丘上にある(第11回“埋没沢”ラインより北側)。段丘上は、当初は調査に入れなかったが(第11回)、IV層まで削平されていたこともあって明瞭に検出できた。南端は砂質IV層まで削平されていたので黒褐色土で明瞭に検出、間のII層で止めた地点でも、覆土上部がI-II層という灰色がかった土であったことから、黒土中でも確認できた。ただし、深さは十分あり、また北側は当初調査に入れなかったことから、精査自体は、南端を除き、調査の終盤IV層まで下げた時点で行った。

<重複>柱穴群と重複(第32図)? 耕作時のカクラン多い。前年度調査範囲では、井戸跡と重複し、

本道槽の方が古い。

〈図・精査状況〉平面図と断面図の元々の縮尺も大きく異なっていたことから(1/200と1/20)、厳密には照合していない。南端を除いて、11月後半に、R G015堀跡と同時に精査した。南端は、最初からIV層まで削られていたこともあって、周囲の堅穴建物跡と同時に精査した。

〈覆土〉A-A'断面は、調査区南端のため表土から、B-B'断面は、近くに土坑に似たカクランがありベルト状に残っていたためI-II層から、他はIV層から記録している。R G015堀跡と同様I-II層を基本とするが、よりII層に近く、さらに、より多くIV層崩落土あるいはそのブロックを含む。このため、前年度の報告では「人為堆積」とされているが、8層は自然崩落土と考えた方が理解しやすく、報告者は保留にしておきたい。流水痕跡は認められず、R G015堀跡のように水がよどんでいた様子も窺われない。

〈平面形・規模〉南端が不明だが、R G015堀跡の西辺に沿い、間延びしたS字状を呈す。調査できた範囲では、約66mある。南端の東側が広がるのは崩れたためか。

〈断面形・深さ〉断面形は、地点による違いが大きい(第74図)。ただし、深さは、北端以外はあまり変わらず、北端は約66cm、他は約45cmで、底の標高を合わせている可能性が窺われる(次項)。

〈壁・底〉基本的には、崖底とも、ち密な砂質IV層～砂V層だが、地点によって異なり、C-C'地点の底の一部は黒砂である。C-C'とD-D'地点の間の底は、礫が露頭している。底面からの湧水はない。壁は、崩れているのか概ね緩やかだが、北端はV字状の急傾斜である。底は、凹凸があるが概ね平らで、標高は、南端が約122.8mと高いが、他はいずれも約122.5mで、R G015堀跡と異なり、地形とは関係ない。B-B'、A-A'地点は、底が土間のように踏み固められていた。

〈関連遺構〉確認できなかったが、R G015堀跡は関係あると考えてよいだろう。

〈出土遺物〉写真図版67の7ほかの土師器片(p.229参照)、第81図6の須恵器片が出土した。前年度は、手づくねかわらけの可能性のある土師器破片、須恵器片が出土している。

〈時期・所見〉R G015堀跡と同じ時期(16世紀ころ?)と考えてよいだろう。しかし、その性格については不明な点が多い。南の方では浅く、硬く踏みしめられた地点があり、遺の可能性も考えたが、北側では深くV字状に掘られ、深いまま突然終了する。R G015より一周り大きい堀区画を作ろうとして志半ばで終わってしまったのだろうか。

(8) 溝 跡(第75～80図、写真図版58～64・67)

10条検出し、5(6? = 040も?)条は昨年の続きである。040は平安時代の可能性が高く(灰白色火山灰土上)、その他は中世(16世紀?)以降と考えられ、ほとんどがR G015堀跡と軸方向が一致するが、041は一致しない。R G036・038・042～044溝跡を組み合わせると、一辺24m程度の方形区画を想定することも可能(第78図)。個々の遺構は、紙数の関係で簡略に記載した。前年度は、22条検出され、そのうち16世紀頃とされたものが5基ある。

R G017溝跡(第12・13・75図、写真図版58)

〈位置・検出状況〉中央区南東端(第13図)。IV層面黒土で明瞭に検出。両端は前年度調査したが、北側は削平で消失しているので接続しない(第12図)。〈重複〉R G040溝跡と重複(第13・75図)。覆土は似ているが、本遺構の方が水田の土に近く灰色がかっており、新しいと思う(B-B'断面にはR G040覆土なし)。北側は東西に延びる畦道に切られていたが、これは前年度のR G023溝跡の可能性あり。

〈図〉セクションポイントBの位置、断面実測時に間違ったか、平面図と合わない。〈覆土〉上部は

壁のような変化のない一様な土で、下部はそれにIV層粒子混じったもの。＜走向・規模＞北東-南西で、前年度と合わせると50m近い。＜壁・底＞底は、R G040・041溝跡と異なり、凸凹しない。＜時期・所見＞時期不明だが、覆土から考えると近世ころか。段丘上から下に延び、水路か。

R G025溝跡(第12・13・76図、写真図版59・67)

＜位置・検出状況＞中央区東端(第13図)。IV層黒土で明瞭に検出。東側は前年度調査した(第12図)。＜重複＞西側R G015堀跡と重複(第13図)。接続部分の堀跡を断面実測しているが、J-J'断面にはR G025溝跡覆土なし。掘覆土はI-II層に近いが、本遺構は黒く、この点だけ考えれば本遺構の方が古い可能性もある。R G040溝跡と重複するが、重複部分のR G040の底がより高かったらしく切れぎれで新旧不明(第13図)。前年度調査範囲では、R G026溝跡と重複するが新旧不明(第76図)。＜覆土＞黒褐色土にIV層ブロック混じったもの。＜走向・規模＞北西-南東。前年度と合わせると24m以上。＜壁・底＞壁底ともIV層で、底は凸凹あり。＜出土遺物＞磨滅した小指先ほどの土師器片(写真図版67の8)。＜時期・所見＞時期不明だが、R G015堀跡との軸方向が一致。

R G034溝跡(第12・13・77図、写真図版59)

＜位置・検出状況＞中央区中央東寄り(第13図)。IV層黒土で明瞭に検出(II層黒土中では見えない)。9月ころ既に確認していたが、北側に畑が残っていたため堀跡と一緒に精査することとし、調査終盤11月下旬に調査。北側と南側は確認面を下げすぎたせいか途切れ、南側は自然によるカクラン多い。南側は前年度調査(第12図)。＜重複＞R G015溝跡と重複(第13・77図)。重複部分途切れがちで、新旧関係は確認できなかった(前年度也未確認)。北側、畦道に切られる。＜図＞調査終盤で現地照合する余裕がなく、断面図と平面図(光波使用による)合わない箇所多い。＜覆土＞底しか残っておらず、黒土に黄褐色土混じったもの。＜走向・規模＞北東-南西で、前年度と合わせると70m以上(第12図)。＜壁・底＞壁・底はIV層で底は凸凹あり。＜時期・所見＞時期不明だが、R G015堀跡との軸方向が一致。

R G036・038溝跡(第12・13・78・79図、写真図版60・61)

＜位置・検出状況＞中央区西(第13図)。IV層黒土で明瞭に検出。前年度R G036、038溝跡として別々に登録されていたが、一連のものである可能性が出てきたので、一括する。中央に前年度調査区が入るなどして三地点に分かれて調査したので、それぞれを北、南(R G038の続き)、東地点(R G036の続き)と呼称する(第78図)。北地点の西側は大きく削平されて消失。R 1037-039井戸跡と重複する付近は、溝跡の覆土見られず、不明瞭な部分あり(溝は綻かない?)。北地点と東地点の間は空いてしまうが、方向が合致し、北地点の溝跡が東に向うにつれ先細りになることから、削平によるためと思われる。今年度は全体的に下げすぎで、前年度と若干のズレが生じ、南地点の樹間も不明。＜重複＞北地点、R 1035-041井戸跡と重複し(第13図)、検出面・断面より、いずれより新しいとわかった。R B039掘立柱建物跡等の柱穴群とも重複するが、新旧不明(第28、37図)。東地点、ほぼ同じ方向に延びる畦道に切られる(第78図)。＜図＞北地点、調査終盤で現地照合する余裕がなく、平面図は光波測距で作成したため、合わない箇所多い。＜覆土＞南地点は、単層に近く、黒褐色の一様な土。＜壁・底＞北-東地点はIV層、南地点は砂質IV層で、底に凸凹なし(稲株痕による凸凹はある)。北地点の南端は、やや深くなる。＜時期・所見＞時期不明だが、R G015堀跡との軸方向が一致。R G042-044溝跡と組み合わせると、一辺24m程度の方形区画を想定することも可能(第78図)。なお、R G039溝跡(破線)も並行するが、畦道である。

R G040溝跡(第12・13・80図、写真図版61・62)

＜位置・検出状況＞中央区東(第13図)。大部分はIV層面黒土で明瞭に検出したが、旧河道ではII層中は不明瞭で、III層だとはっきりわかった。直接つながらないが、方向から前年度のR G019? (022?) 溝跡と同じものである可能性あり。R G015堀跡の北地点は、削平されて底しか残っていない(R G011溝跡重複付近も同様)。北端は調査範囲外に続き、南端は前年度調査範囲へ。＜重複＞R G025、041溝跡と重複するが(第80図)、重複部分途切れており、新旧不明。R G017溝跡とも新旧不明だが、覆土から木遺構の方が古そうである。R G018溝跡とは、今年度の調査区内の重複が確認できなかったのが新旧不明。C-C'断面より北側、東西に伸びる畦道に切られる。北側植栽痕によるカクラン多い。＜覆土＞II層とほとんど同じだが、IV層で検出した部分はIV層粒を混じる。B-B'断面より南の検出面では灰白色火山灰が認められた(第7章)。＜走向・規模＞北-南で、所々僅かに蛇行。前年度と合わせると130m以上(第12図)。＜壁・底＞旧河道部分は、壁II~III層、底III層、他は、壁III層下部~IV層、底IV層。底は凸凹ひどい。＜時期・所見＞上面にI-II層に近い覆土が見られ(E-E'断面1層)、検出面に灰白色火山灰も認められることから、平安時代の可能性が高い。軸方向もR G015堀跡と一致しない。標高の高い地点と低い地点を結ぶことから、排水路か。

R G041溝跡(第12・13・75図、写真図版63)

＜位置・検出状況＞中央区東南(第13図)。IV層面黒土で明瞭に検出。確認面を下げすぎたため途切れがちで、東西両端は消失。浅いため周囲の自然によるカクラン(稲株痕?) と区別しがたい。＜重複＞R G040溝跡と重複するが(第80図)、重複部分途切れており、新旧不明。＜覆土＞黒褐色土に黄褐色粒子混じったもの。＜走向・規模＞東-西? ＜壁・底＞底しか残っていない(IV層)。底は凸凹ひどい。＜時期・所見＞時期不明で、R G015堀跡と軸方向も一致しない。

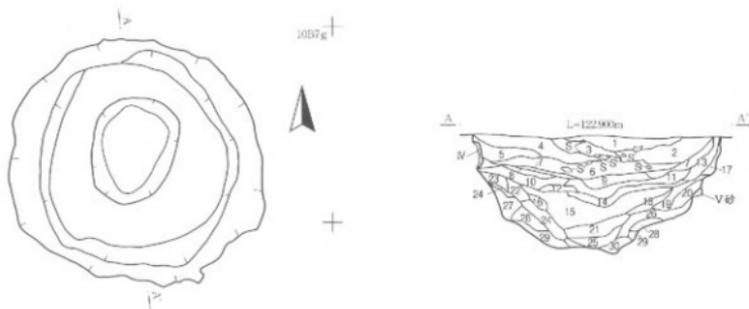
R G042溝跡(第12・13・75図、写真図版63・64)

＜位置・検出状況＞中央区南西東寄り(第13図)。IV層面黒褐色土で明瞭に検出。＜重複＞R D128、129土坑と重複し、新旧不明(第75図)。R D128土坑の重複部分、ほぼ同じ上で不明瞭だが、接しているようだ。＜覆土＞よくある、黒褐色土に黄褐色ブロック混じったもの。北側を中心に炭化物顕著。＜走向＞北東-南西。＜壁・底＞壁-底はIV層で底は凸凹なし(稲株痕あり)。北側は深め、南側は浅くガラガラ続く。＜出土遺物＞北側検出面で出土した炭化材は、アカマツだった。＜時期・所見＞時期不明だが、R G015堀跡との軸方向が一致。R G036・038・043・044溝跡と組み合わせると、一辺24m程度の方形区画を想定することも可能(第78図)。

R G043・044溝跡(第12・13・78図、写真図版64)

＜位置・検出状況＞中央区南西西寄り(第13図)。砂質IV層かV層上面で明瞭に検出。043の方は、短くはあったが、覆土が黒褐色とそれらしかったのですぐに遺構と認定した。044の方は、灰褐色と水田の土に近く迷ったが、043と平行なことから、作り替えを想定して遺構と認定。特に西側は、確認面を下げすぎたため消失した可能性がある。＜重複＞柱穴と重複し、柱穴の方が新しいか(第29図)。西側カクランで壊されている。＜図＞043両側の上場、044A側の上場、完掘時掘りすぎて断面図と合わない。＜覆土＞底しか残っておらず両方も単層で、043は黒褐色土にIV層ブロック混じったもの、043は灰黄褐色土。＜走向＞北東-南西。＜壁・底＞壁-底は砂質IV層で、底は凸凹なし(稲株痕あり)。＜時期・所見＞時期不明だが、R G015堀跡との軸方向が一致。R G036・038・042溝跡と組み合わせると、一辺24m程度の方形区画を想定することも可能(第78図)。

<RI010井戸跡>

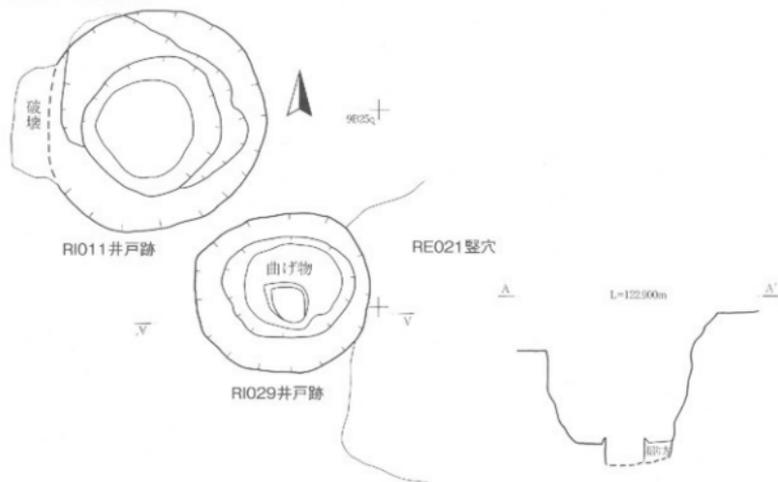


RI010井戸

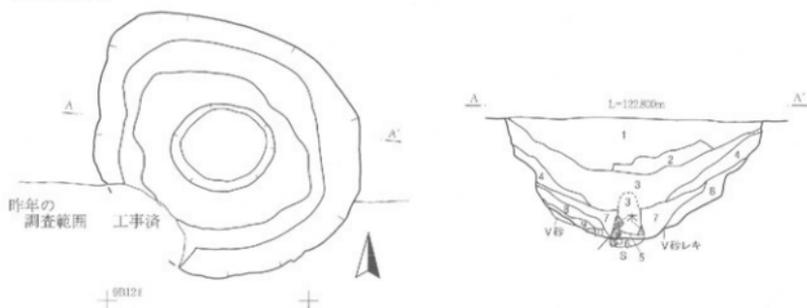
- 1 10V22-1地層 シルト 黒-V層 (砂) アロック、硬粘土。
- 2 10V22-1地層上に10V22-1地層のシルト、砂、黒-V層 (砂) アロックを含む。
- 3 10V22-1地層上に10V22-1地層のシルト、黒-V層 (砂) アロック、小礫を含む。
- 4 10V22-1地層上に10V22-1地層のシルト、砂、黒-V層 (砂) アロック、小礫を含む。
- 5 10V22-1地層上に10V22-1地層のシルト、砂、黒-V層 (砂) アロック、小礫を含む。
- 6 10V22-1地層上に10V22-1地層のシルト、砂、黒-V層 (砂) アロック、小礫を含む。
- 7 10V22-1地層、シルト、砂、黒-V層 (砂) アロック、小礫を含む。
- 8 10V22-1地層、シルト、砂、黒-V層 (砂) アロック、小礫を含む。
- 9 10V22-1地層、シルト、砂、黒-V層 (砂) アロック、小礫を含む。
- 10 10V22-1地層、シルト、砂、黒-V層 (砂) アロック、小礫を含む。
- 11 10V22-1地層、シルト、砂、黒-V層 (砂) アロック、小礫を含む。
- 12 10V22-1地層、シルト、砂、黒-V層 (砂) アロック、小礫を含む。
- 13 10V22-1地層、シルト、砂、黒-V層 (砂) アロック、小礫を含む。
- 14 10V22-1地層、シルト、砂、黒-V層 (砂) アロック、小礫を含む。
- 15 10V22-1地層、シルト、砂、黒-V層 (砂) アロック、小礫を含む。
- 16 10V22-1地層、シルト、砂、黒-V層 (砂) アロック、小礫を含む。
- 17 10V22-1地層、シルト、砂、黒-V層 (砂) アロック、小礫を含む。
- 18 10V22-1地層、シルト、砂、黒-V層 (砂) アロック、小礫を含む。
- 19 10V22-1地層、シルト、砂、黒-V層 (砂) アロック、小礫を含む。
- 20 10V22-1地層、シルト、砂、黒-V層 (砂) アロック、小礫を含む。
- 21 N-2 シルト、砂、黒-V層 (砂) アロック、小礫を含む。
- 22 10V22-1地層、シルト、砂、黒-V層 (砂) アロック、小礫を含む。
- 23 10V22-1地層、シルト、砂、黒-V層 (砂) アロック、小礫を含む。
- 24 10V22-1地層、シルト、砂、黒-V層 (砂) アロック、小礫を含む。
- 25 10V22-1地層、シルト、砂、黒-V層 (砂) アロック、小礫を含む。
- 26 10V22-1地層、シルト、砂、黒-V層 (砂) アロック、小礫を含む。
- 27 10V22-1地層、シルト、砂、黒-V層 (砂) アロック、小礫を含む。
- 28 10V22-1地層、シルト、砂、黒-V層 (砂) アロック、小礫を含む。
- 29 10V22-1地層、シルト、砂、黒-V層 (砂) アロック、小礫を含む。

第45図 RI010井戸跡

<RIO11・029井戸跡>



<RIO14井戸>



RIO14井戸

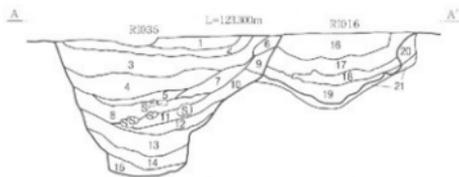
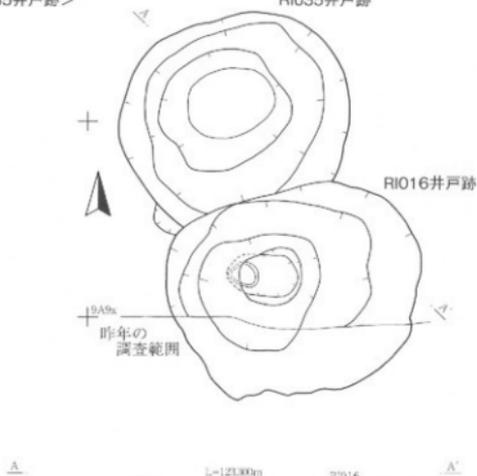
- 1 RIO14井戸跡周辺に緑がけ・KYR56黄褐色の埋 シルト。II期埋戻りにユ-V層 (赤) ブロック含む。破壊物等から含む。埋め戻した土と見う。
- 2 250R2ノ遺物層に250R1ノ遺物、250R3ノ埋戻り層を含む シルト。もろい。細。透す。破壊物等の埋れ込み上。
- 3 10YR2ノ埋戻り シルト。赤-V層 (赤) ブロック含む。底は、底が陥したと見う。
- 4 10YR2ノ埋戻りと10YR56黄褐色が部分的に有り埋戻りになっている。最上シルト。赤。互層の自然面状土と見う。
- 5 10YR56埋戻り。赤。赤字に乏しい。V層 (赤) 埋戻り層が埋戻りしたものと見う。
- 6 250R56埋戻り。赤。V層 (赤) 赤字に乏しい。
- 7 10YR14埋戻り部に10YR23ノ埋戻り、250R56埋戻りのブロック。赤。シルト。V層 (赤) 埋戻り層の上に赤と見う。V層 (赤) 土。互層の埋れ込み上。
- 8 10YR14埋戻り層に10YR23ノ埋戻り、250R56埋戻り、250R56埋戻り、10YR23ノ埋戻り、10YR14埋戻り層の上に埋れ込み上。
- 9 10YR14埋戻り層。赤。赤字に乏しい。埋戻り層。互層の埋れ込み上。
- 10 10YR56埋戻り層。赤。赤字に乏しい。埋戻り層。互層の埋れ込み上。

0 1:50 2m

第46図 RIO11-014-029井戸跡

<RI016・035井戸跡>

RI035井戸跡



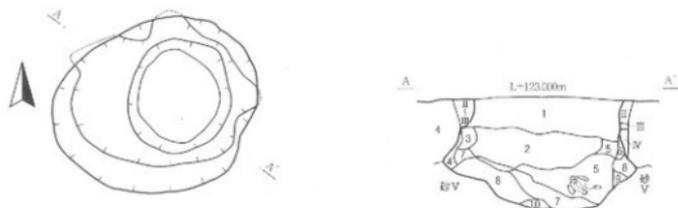
RI016・RI035井戸

- 1 1000年代前期土層に近接する様に1000年代前期内のブロッコ 鉢 遺跡(Ⅱ、Ⅲ)群ブロッコ含む。段の内外両側積。
- 2 1000年代前期土層に近接する様に1000年代前期のブロッコ シルト 焼瓦、灰皿ブロッコ多く含む。
- 3 1000年代前期土層に1000年代前期のブロッコ シルト 瓦、V (Ⅱ) 跡ブロッコ含む。
- 4 2層とほぼ水平同位で、2層同位。
- 5 1000年代前期 シルト、砂 もちい、砂利多。
- 6 1000年代前期 粘土、砂、瓦、V (Ⅱ) 跡の跡。
- 7 1000年代前期 砂 遺跡跡可確認。
- 8 1000年代前期 シルト 砂、瓦、V (Ⅱ) 跡の跡含む。砂、V 跡跡可確認。
- 9 1000年代前期 シルト 2層同位。
- 10 1000年代前期 1000年代前期の遺土 シルト 砂利多。Ⅱ、Ⅲ跡の跡。
- 11 1000年代前期 1000年代前期の遺土 シルト 砂利多。Ⅱ、Ⅲ跡の跡。
- 12 1000年代前期 1000年代前期の遺土 シルト、砂 Ⅱ-V層の跡上。
- 13 1000年代前期 1000年代前期 一部層に1000年代前期の遺土 遺構(Ⅱ)跡に分かれるように、水成層跡と見う。
- 14 1000年代前期 1000年代前期の遺土 シルト、砂、Ⅱ、Ⅲ跡アロック含む。13層と同位層の遺跡跡に分かれるように。
- 15 1000年代前期 1000年代前期のブロッコ シルト 砂利多。
- 16 1000年代前期 1000年代前期のブロッコ シルト 砂利多。
- 17 1000年代前期 1000年代前期のブロッコ シルト 大きな砂アロック、砂含む。
- 18 1000年代前期 シルト 砂利多。Ⅱ-V層跡可確認。
- 19 1000年代前期 1000年代前期のブロッコ 砂 跡の河原跡に類似して、灰皿ブロッコ含む。
- 20 1000年代前期の遺土、層々。
- 21 V (Ⅱ) 跡が覆われたもの、層々。

0 1:50 2m

第47図 RI016・035井戸跡

<RIO18井戸跡>

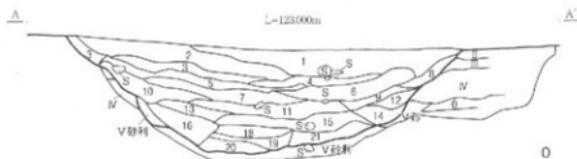


9513s

RIO18井戸

- 1 3層砂の頂層部 シルト 層がやや厚くなり、形もやや丸み。
- 2 3層砂の頂層部 シルト 1層とほとんど同じだが、やや厚く粒径細かい。
- 3 3層砂の頂層部に3層砂の黄褐色のアロク シルト 粒径細かい、層の薄れ?
- 4 3層砂の頂層部に3層砂の黄褐色のアロク シルト 粒径細かい、層の薄れ?
- 5 3層砂の頂層部に3層砂の黄褐色のアロク シルト 粒径細かい、層の薄れ?
- 6 3層砂の頂層部に3層砂の黄褐色のアロク シルト 粒径細かい、層の薄れ?
- 7 3層砂の頂層部 シルト 粒径細かい。
- 8 3層砂の頂層部 砂土 粒径の粗い砂。
- 9 2層とほとんど同じだが、やや厚く粒径細かい。
- 10 3層砂の頂層部 砂土? 断面にもろい。

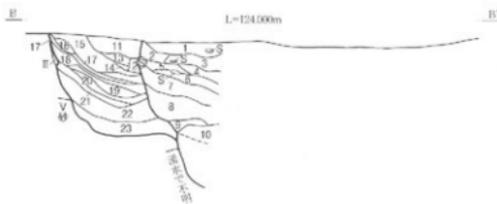
<RIO19・020・021井戸跡>



第48図 RIO18-019(1)・020(1)・021井戸跡

RI019井戸

- 0: RIY021甲地盤にRIY026岩盤地帯による シェルト。砂 断面の浅いものらしい。
- 1: RIY022地盤地帯にRIY026岩盤地帯のブロック シェルト。灰岩ブロック、砂利多量に含む。
- 2: RIY022地盤地帯にRIY026岩盤地帯のブロック シェルト。灰岩ブロック、砂利含む。
- 3: RIY021甲地盤にRIY026岩盤地帯のブロック シェルト。2層とはほとんど同じだが、含むもの多い。
- 4: RIY021地帯と RIY026岩盤地帯の境界 砂土 含むもの。
- 5: RIY023乙地盤地帯にRIY026岩盤地帯のブロック。砂子多い シェルト。凝結層あり、V層ブロック多い。砂も含む。
- 6: RIY023乙地盤地帯 シェルト。砂土含む。
- 7: RIY021甲地帯 シェルト。砂利多い。灰岩砂利を含む。
- 8: RIY021甲地帯に RIY026岩盤地帯の砂り鉄石 シェルト。岩層砂利を含む。
- 9: RIY021甲地帯にRIY026岩盤地帯の砂り鉄石 シェルト。砂利多量に含む。凝結層ありブロック含む。
- 10: RIY021甲地帯地帯に RIY026岩盤地帯の砂り鉄石 シェルト。厚層砂利を含む。
- 11: RIY021甲地帯 シェルト。厚層ブロック。凝結層を含む。
- 12: RIY021甲地帯地帯にRIY026岩盤地帯のブロック シェルト。変化した灰岩ブロックと砂利を含む。
- 13: RIY021甲地帯地帯にRIY026岩盤地帯のブロック シェルト。カーV層ブロックを含む。
- 14: RIY021甲地帯地帯にRIY026岩盤地帯の境界。砂土。V層の砂利を含む。
- 15: RIY021甲地帯 シェルト。砂と大なる凝結層を含む。V層に凝結層。
- 16: RIY021甲地帯と RIY026岩盤地帯の境界。砂土。砂土と凝結層と互層構造の境上。下面に砂り鉄石。
- 17: RIY021甲地帯地帯 RIY026岩盤地帯の境上 シェルト。断面の浅い層を含む。
- 18: RIY021甲地帯 砂土。砂利含む。
- 19: RIY021甲地帯地帯。砂土。V層が凝結化したものの特徴。
- 20: RIY021甲地帯。砂土。砂土の凝結層。
- 21: RIY023乙地帯にRIY026岩盤地帯の境界。砂土。砂 V層が凝結化したものの特徴。凝結層が多い。
- 22: RIY023乙地帯にRIY026岩盤地帯の境界。砂土。砂 V層が凝結化したものの特徴。凝結層が多い。



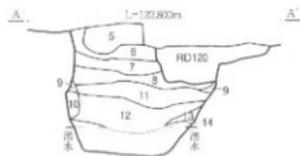
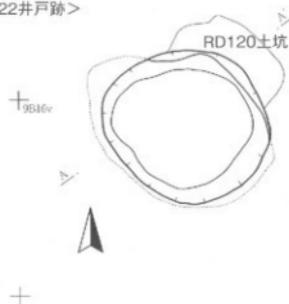
RI020井戸

- 1: RI019井戸のV層 (後にRI019井戸の掘削調査したため不明不白)。
- 2: RIY026岩盤地帯と RIY021甲地帯上の境上。砂 砂利多い。V層とV層の境上。
- 3: RI019井戸のV層 (後にRI019井戸の掘削調査したため不明不白)。
- 4: RI019井戸のV層 (後にRI019井戸の掘削調査したため不明不白)。
- 5: RIY021甲地帯地帯にRIY026岩盤地帯の境上 シェルト。砂り鉄石を含む。凝結層あり。
- 6: RI019井戸のV層 (後にRI019井戸の掘削調査したため不明不白)。
- 7: RI019井戸のV層 (後にRI019井戸の掘削調査したため不明不白)。
- 8: RI019井戸のV層 (後にRI019井戸の掘削調査したため不明不白)。
- 9: RIY021甲地帯と RIY026岩盤地帯の境界。砂土。砂。ブロック状に岩盤地帯も出る。
- 10: RI019井戸のV層 (後にRI019井戸の掘削調査したため不明不白)。
- 11: RIY022乙地盤地帯。砂り鉄石。砂 V層が凝結層。
- 12: RIY021甲地帯地帯と RIY026岩盤地帯の境上 シェルト。砂やもろい。砂多量に含む。
- 13: RIY026岩盤地帯。砂。砂り鉄石を含む。
- 14: RIY021甲地帯 シェルト。凝結層を含む。目録再掲。
- 15: 砂り鉄石を含む。砂。V層 1層の砂り鉄石を含む。凝結層も凝結層。
- 16: RIY021甲地帯地帯に RIY026岩盤地帯の境上 シェルト。砂。砂 V層と主要の砂り鉄石を含む。
- 17: RIY021甲地帯 シェルト。もろい。凝結層あり。
- 18: RIY021甲地帯 シェルト。砂と砂り鉄石が同じもの。
- 19: RIY021甲地帯地帯。砂。V層 (砂) の再掲。
- 20: RIY026岩盤地帯。砂。V層 (砂) の再掲。
- 21: RIY026岩盤地帯 シェルト。V層が凝結化したものと岩盤地帯の砂り鉄石が凝結層で凝結層。
- 22: RIY021甲地帯 シェルト。砂土。砂り鉄石を含む。
- 23: RIY021甲地帯地帯にRIY026岩盤地帯の境上 シェルト。凝結層あり。ややもろい。主要な凝結化したV層のブロック状を含む。

0 1:50 2m

第49図 RI019(2)-020(2)井戸跡

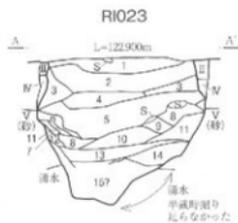
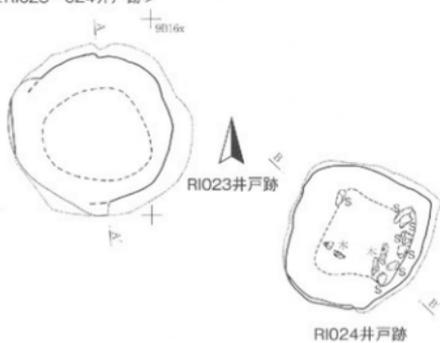
<RI022井戸跡>



RI022井戸

- 4 1-4 300mm×300mm
- 5 10V02-1層地層 シルト 砂、V層砂子やややく、粘土時含む。
- 6 10V02-2層地層 シルト 砂、V層砂子多量、土砂質。
- 7 10V02-3層地層 砂質シルト V層砂子多く含む。
- 8 10V02-4層地層 10V02-5層地層のブロック シルト 砂、V層アロック多い。
- 9 10V02-5層地層 10V02-6層地層の砂土 シルト 砂、V層砂、V層の河床層。
- 10 10V02-6層地層 シルト、砂、V層砂子多量を含む。
- 11 10V02-7層地層 シルト、V層砂子含む。
- 12 10V02-8層地層 10V02-9層地層のブロック 砂、粘土、V層(砂、白化粘土など)ブロックにV層砂子多量を含む。
- 13 10V02-9層地層 10V02-10層地層の砂土 シルト、砂、V層、V層の河床層。
- 14 10V02-10層地層 シルト、酸化したV層砂土ブロック含む。透水性のため、下部ははっきりしない。

<RI023・024井戸跡>

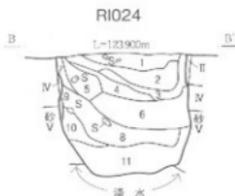


RI023井戸

- 1 10V02-1層地層に海澄り砂の細かい10V02-2層地層のブロック 砂質シルト、V層アロック、砂層道り。
- 2 10V02-2層地層に海澄り砂にやや大きな10V02-3層地層のブロック シルト、V層アロック多い。
- 3 10V02-3層地層 シルト、砂質シルト、酸化シルト。
- 4 10V02-4層地層 シルト、砂質シルト。
- 5 10V02-5層地層 10V02-6層地層のブロック シルト、V層アロック多い、酸化シルト。
- 6 10V02-6層地層 粘土、V層砂層。
- 7 10V02-7層地層 粘土シルト、もろい。
- 8 10V02-8層地層に大きな10V02-9層地層のブロック 10V02-9層地層のブロック 粘土質シルト、V層アロック含む。
- 9 10V02-9層地層に10V02-10層地層の砂土 粘土質シルト、砂質シルト。
- 10 10V02-10層地層 シルト、砂質シルト。
- 11 10V02-11層地層 粘土、V層砂層。
- 12 10V02-12層地層 粘土、V層(砂)砂層。
- 13 10V02-13層地層 10V02-14層地層の砂土 シルト、砂質シルト、やがたシルト、砂、V層アロック含む。
- 14 10V02-14層地層 粘土、V層砂層。
- 15 10V02-15層地層に10V02-16層地層のブロック 粘土質シルト、もろい、V層アロック多い。



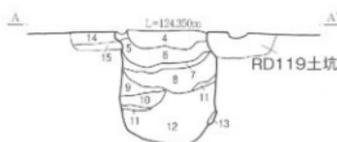
第50図 RI022(2)~024(1)井戸跡



RI024井戸

- 1:RY231黒褐色シルト 礫層(7.7m)
- 2:RY232黒褐色土に少量の砂にRY233赤褐色の細かいブロック シルト 厚層ブロック多く、V層ブロック含む。
- 3:RY232黒褐色シルト もみ、並層の再堆積
- 4:RY233黒褐色に細砂9割にRY235赤褐色のブロック シルト 厚層ブロック多く、V層ブロック含む。2層とほぼ同一層。
- 5:RY232黒褐色シルト 礫層(2.7m)、並層の内側再堆積。
- 6:RY232黒褐色土に細砂9割にRY235赤褐色のブロック シルト 厚層ブロック含む。
- 7:RY232黒褐色シルト 礫層再堆積。
- 8:RY232黒褐色シルト 礫層再堆積。
- 9:RY232黒褐色シルト もみ、均質な、自然再堆積。
- 10:RY233黒褐色土にRY235赤褐色の細かい砂 礫層シルト 並層内層部に凝化したV層(礫)多量を含む。
- 11:RY232黒褐色土にRY235赤褐色の細かい砂子 礫層シルト もみ、均等に混ざるが、色濃く、ブロックの塊あり。

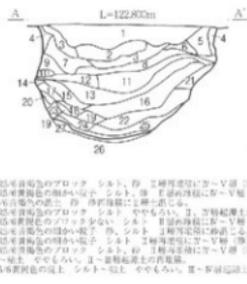
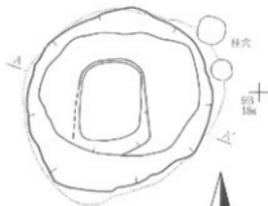
<RI025井戸跡>



RI025井戸

- 1:土留119土坑
- 4:RY231黒褐色土に細砂9割にRY235赤褐色のブロック シルト V層ブロック多量を含む。礫含む。
 - 5:RY231黒褐色シルト V層礫、砂含む。礫層と砂層が混ざるため混ざり層と見なされる。
 - 6:RY231黒褐色シルト 礫層含む。V層礫層の再堆積。
 - 7:RY231黒褐色土にRY235赤褐色のブロック シルト ややもみ、V層ブロック含む。
 - 8:RY231黒褐色シルト 礫層、厚層ブロック含む。
 - 9:RY234黒褐色礫 V層の再堆積。
 - 10:RY231黒褐色シルト ややもみ。
 - 11:RY231黒褐色土にRY235赤褐色のブロック シルト 礫層、もみ、厚層ブロック含む。
 - 12:RY231黒褐色シルト 並層の内側再堆積に凝化したV層ブロック含む。期してよく見えないが砂もあるが、一切に見えない。
 - 13:RY234黒褐色土にRY232黒褐色のブロック シルト 礫層、もみ、V層の内側再堆積。
 - 14:RY231黒褐色シルト 上部に厚層ブロック多いが、一部が凝化したものと思われる。
 - 15:厚層が礫によるカタラツクを呈したもの。

<RI026井戸跡>



RI026井戸

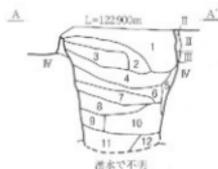
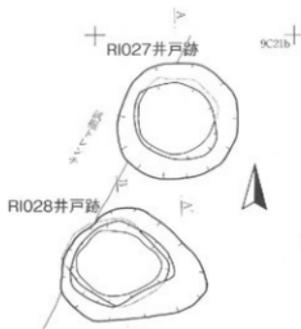
- 1:RY231黒褐色土にRY235赤褐色のブロック シルト、砂 礫層再堆積(3.0-V層)厚層ブロック含む。
 - 2:RY231黒褐色土にRY235赤褐色の細かい砂子 シルト、礫 厚層再堆積(5.0-V層)厚層ブロック含む。
 - 3:RY232黒褐色土にRY235赤褐色の細かい砂子 礫層再堆積に礫層と混ざる。
 - 4:RY232黒褐色土にRY235赤褐色のブロック シルト ややもみ、礫、礫層礫層の上。
 - 5:RY232黒褐色土にRY235赤褐色のブロック少ない シルト 厚層再堆積に礫-V層(礫)ブロック含む。
 - 6:RY232黒褐色土にRY235赤褐色の細かい砂子 礫層 厚層再堆積に凝化したV層(礫)ブロック含む。
 - 7:RY232黒褐色土にRY235赤褐色の細かい砂子 シルト 厚層再堆積に礫-V層(礫)ブロック含む。
 - 8:RY232黒褐色土にRY235赤褐色のブロック シルト、礫 厚層再堆積に礫-V層(礫)ブロック含む。
 - 9:RY232黒褐色シルト 礫層、もみ。
 - 10:RY232黒褐色土にRY235赤褐色の上。シルト-礫。ややもみ、II-V層再堆積の上再堆積。
- (次頁へ)

0 1:50 2m

第51図 RI024(2)~026(1)井戸跡

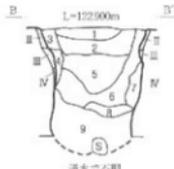
- 11 10YR2/1 黄褐色土 10YR8/4 褐色の副砂り状土 シルト、砂 3層とはほとんど同じ。
- 12 10YR2/1 黄褐色土 下層に 10YR5/6 黄褐色のアロク 少量土、等 量内含有に等、V層 (砂) アロク含む。
- 13 10YR2/1 黄褐色土 10YR5/6 黄褐色のアロク シルト、等 量内含有に等、V層 (砂) アロク含む。
- 14 10YR2/1 黄褐色土 10YR5/6 黄褐色の土 砂、シルト もろい、砂、V層 (砂) の付着層。
- 15 10YR2/1 黄褐色土 10YR5/6 黄褐色の土 砂、シルト、砂、V層 (砂) の付着層。
- 16 13層に結合する付着層なので残った印色をよむ シルト、粘土 3層と同じだが黄褐色土の割合が多い。
- 17 10YR2/1 黄褐色土 砂、粘土 もろい、砂、V層 (砂) の付着層。
- 18 10YR2/1 黄褐色土 10YR5/6 黄褐色の土 砂、シルト、砂、V層 (砂) の付着層。
- 19 10YR2/1 黄褐色土 砂、粘土 もろい、砂、V層 (砂) の付着層。
- 20 10YR2/1 黄褐色土 砂、粘土 もろい、砂、V層 (砂) の付着層。
- 21 10YR2/1 黄褐色土 砂、粘土 もろい、砂、V層 (砂) の付着層。
- 22 10YR2/1 黄褐色土 10YR5/6 黄褐色の土 砂、シルト、砂、V層 (砂) の付着層。
- 23 10YR2/1 黄褐色土 10YR5/6 黄褐色の土 砂、シルト、砂、V層 (砂) の付着層。
- 24 10YR2/1 黄褐色土 10YR5/6 黄褐色の土 砂、シルト、砂、V層 (砂) の付着層。
- 25 10YR2/1 黄褐色土 10YR5/6 黄褐色の土 砂、シルト、砂、V層 (砂) の付着層。
- 26 10YR2/1 黄褐色土 シルト、粘土 もろい、砂、V層 (砂) の付着層。
- 27 砂、粘土、黄りV層。

<RI027・028井戸跡>



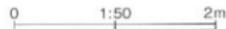
RI027断面

- 1 10YR2/1 黄褐色土 10YR5/6 黄褐色のアロク シルト 砂、V層アロク、V層砂入り含む。
- 2 10YR2/1 黄褐色土 シルト 砂、V層砂入り含む。
- 3 10YR2/1 黄褐色土 10YR5/6 黄褐色のアロク シルト 1層に結合する層が少なくない。
- 4 10YR2/1 黄褐色土 10YR5/6 黄褐色の土 粘り強いアロク シルト 粘り強いアロク多い。
- 5 10YR2/1 黄褐色土 シルト 粘り強い、砂、粘土もろい、砂、V層 (砂) の付着層。
- 6 10YR2/1 黄褐色土 10YR5/6 黄褐色の土 10YR2/1 黄褐色のアロク シルト V層砂入り表層部。
- 7 6層と同じだが、黄褐色のアロクが多い シルト V層砂入り表層部。
- 8 27層と同層部と 10YR2/1 黄褐色の土 シルト、砂、粘土もろい、砂、V層 (砂) の付着層。
- 9 6層とはほとんど同じだが、黄褐色の土が多い。砂、粘土もろい、砂、V層 (砂) の付着層。
- 10 10YR2/1 黄褐色土、10YR5/6 黄褐色、10YR2/1 黄褐色の土 シルト II、V層の付着層。
- 11 10YR2/1 黄褐色土 シルト もろい、砂、V層 (砂) の付着層。
- 12 10YR2/1 黄褐色土、10YR5/6 黄褐色の土 シルトと砂の混土、非黄にしろない。



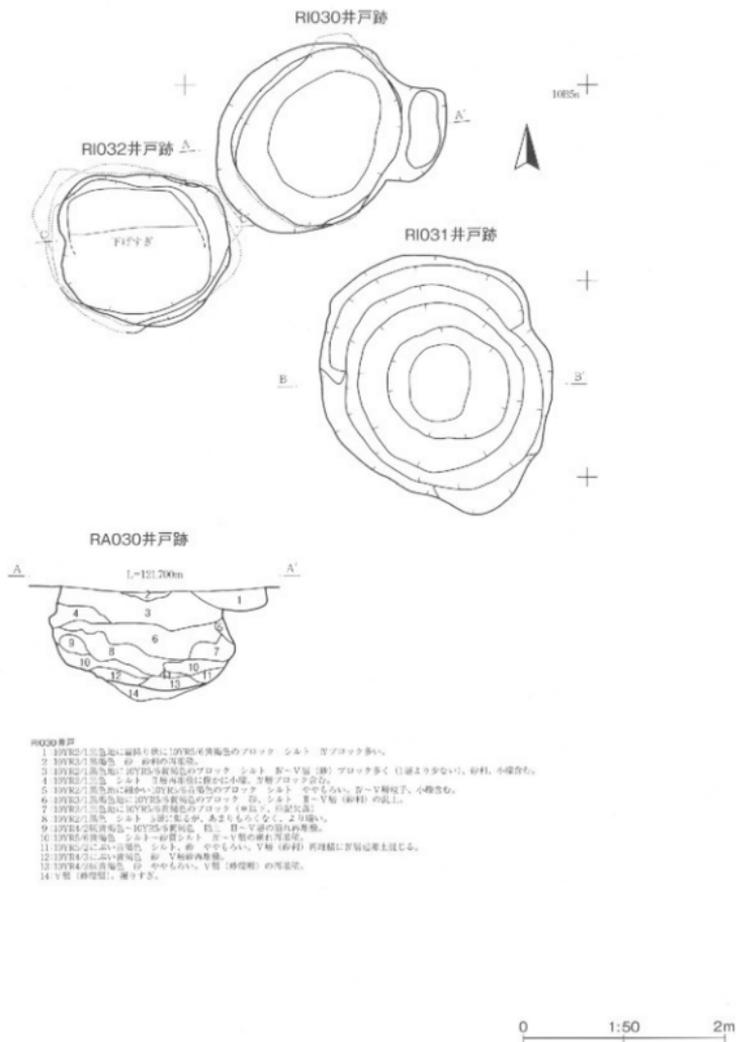
RI028断面

- 1 10YR2/1 黄褐色土 シルト 砂、V層 (砂) 砂子含む。
- 2 10YR2/1 黄褐色土 シルト 砂、V層 (砂) 砂子含む。
- 3 10YR2/1 黄褐色土 10YR5/6 黄褐色のアロク シルト 砂、V層 (砂) 砂子含む。
- 4 3層とはほとんど同じだが、もろい。
- 5 10YR2/1 黄褐色土 10YR5/6 黄褐色のアロク シルト 砂、V層アロク含む。
- 6 10YR2/1 黄褐色土 10YR5/6 黄褐色のアロク シルト 粘り強い、砂、V層アロク含む。
- 7 10YR2/1 黄褐色土 10YR5/6 黄褐色のアロク 粘土、砂、V層アロク内含有層部。
- 8 10YR2/1 黄褐色土、10YR5/6 黄褐色、10YR2/1 黄褐色の土 シルト、砂、粘土もろい、砂、V層 (砂) の付着層。
- 9 10YR2/1 黄褐色土 10YR5/6 黄褐色、10YR2/1 黄褐色の土 シルト 粘り強い、8層に結合する層の色も黄褐色にしろない。



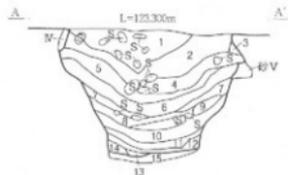
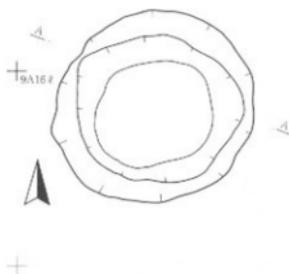
第52図 RI026(2)~028井戸跡

<RI030・031・032井戸跡>



第53図 RI030-031(1)・032(1)井戸跡

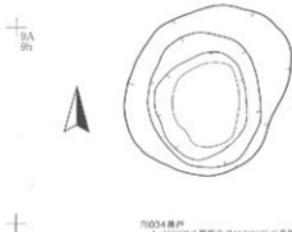
<RI033井戸跡>



RI033井戸

- 1 RI033-1区褐色 砂 砂利、礫多量に含む。
- 2 RI033-2区褐色 砂 礫より黄褐色多量、大きな礫少ない。
- 3 RI033-3区褐色 シルト 礫多量含む。
- 4 RI033-4区黄 シルト、砂 砂利、礫含む。
- 5 RI033-5区褐色 シルト 礫多量に含む。砂利、礫含む。
- 6 RI033-6区褐色土にRI033-1区褐色土混じる 砂 砂V跡の残存層上。
- 7 RI033-7区褐色土にRI033-1区褐色土混じる 砂 砂V跡の残存層上。
- 8 RI033-1区褐色土にRI033-1区褐色土混じる シルト 礫多量、礫多量アロック含む。
- 9 RI033-2区褐色土にRI033-1区褐色土混じる シルト、砂 礫網と砂V跡の残存層上で、さらに細かく分かれる。
- 10 RI033-1区褐色土にRI033-6区褐色土混じる 黄 シルト、砂 礫網と砂V跡の残存層上で、さらに細かく分かれる。
- 11 RI033-6区褐色 砂、粘土、小礫含む。黄-砂V跡の残存層上。
- 12 RI033-7区褐色 砂 礫網V跡の残存層上。
- 13 RI033-8区褐色 砂、礫網にのみ、砂V跡の残存層上。
- 14 RI033-4区褐色 砂 礫網にのみ、砂V跡の残存層上。
- 15 RI033-2区褐色 砂 礫網V跡のもの、湧りすぎ

<RI034井戸跡>



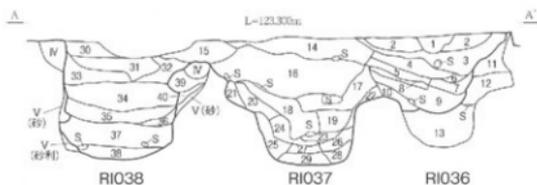
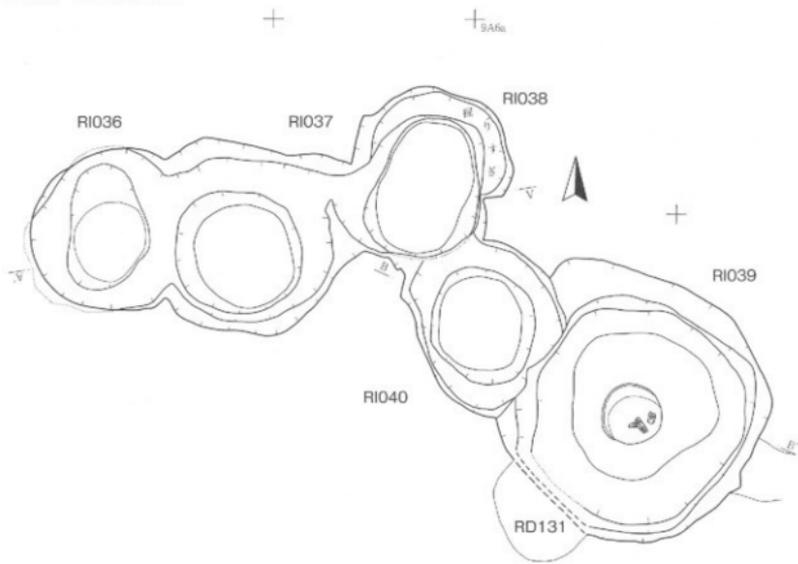
RI034井戸

- 1 RI034-1区褐色土にRI034-6区褐色の粗粒アロック シルト 黄-V層アロック、炭化物含む。
- 2 RI034-1区褐色土にRI034-6区褐色の粗粒状炭土 シルト 大きなV、V(砂)粗アロック多い。
- 3 RI034-3区褐色土にRI034-6区褐色の粗粒アロック シルト 黄-V層アロック含む。
- 4 RI034-1区褐色 シルト 礫多量含む。
- 5 RI034-2区褐色土にRI034-6区褐色、RI034-1区褐色のアロック シルト 粘性あり。
- 6 RI034-6区褐色 粘土、砂、黄、V(砂)の残存層。
- 7 RI034-4区褐色 砂、礫網にのみ、砂V跡の残存層上。
- 8 V(砂)跡、湧りすぎ。

0 1:50 2m

第55図 RI033・034井戸跡

<RIO36~RIO40井戸跡>



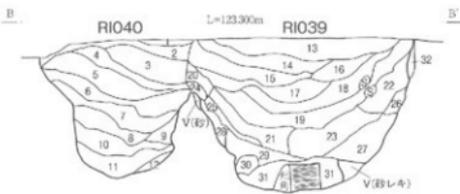
井戸跡の地質

- 1: 1000mの深さ シルト 砂利を含む。
- 2: 1000mの深さ 砂 砂利の再堆積。
- 3: 1000mの深さ 砂利の再堆積のドロツタ シルト、砂 並行の層に付着している。
- 4: 砂とほとんど同じ。
- 5: 1000mの深さ シルト 軟性強い、砂層に付着。
- 6: 1000mの深さ 砂利の再堆積 鉄石、砂、並行の層に付着。
- 7: 砂利の層。
- 8: 砂とほとんど同じ。
- 9: 砂とほとんど同じ。
- 10: 1000mの深さ 砂利の再堆積の層に付着 シルト 軟性強い、砂層に付着。
- 11: V (砂) 砂層に付着したドロツタの層。
- 12: 一部層間のドロツタの層。
- 13: 一部層間のドロツタの層。
- 14: 1000mの深さ シルト 砂利の層に付着している。
- 15: 1000mの深さ 砂利の再堆積の層に付着 シルト やや柔らかい、砂利の層に付着、小さいドロツタの層を含む。
- 16: 1000mの深さ シルト、ドロツタ、砂利の層に付着している。
- 17: 1000mの深さ 砂利の再堆積の層に付着 シルト 軟性強い、砂層に付着。
- 18: 1000mの深さ 砂利の再堆積の層に付着 シルト、砂利の層に付着、砂層に付着。
- 19: 1000mの深さ シルト 軟性強い、砂層に付着。
- 20: 砂とほとんど同じ。
- 21: 1000mの深さ 砂利の再堆積の層に付着 シルト、砂、砂、V (砂)の層に付着。
- 22: 1000mの深さ 砂利の再堆積の層に付着 シルト 軟性強い、砂層に付着。
- 23: 1000mの深さ 砂利の再堆積の層に付着 シルト 軟性強い、砂層に付着。
- 24: 1000mの深さ シルト 砂利を含む、砂層に付着。
- 25: 1000mの深さ 砂利の再堆積の層に付着 シルト 軟性強い、砂層に付着。



第56図 RIO36(1)~040(1)井戸跡

- 25:10F9C3(9)黄褐色 粘土、礫もろい。砂、少量埋没物。
 27:10F9C6(6)黄褐色土 10F9C2(1)白色の厚土、砂、シルト 砂土と互層の遺土。
 28:10F9C5(4)土間埋没層に10F9C6(6)黄褐色土、10F9C2(1)白色のブロック シルト 砂質草灰、互層の遺土。
 29:10F9C4(4)土間層、10F9C6(6)黄褐色土の厚土、砂、シルト 砂質草灰、互層の遺土。
 30:10F9C2(1)黄褐色土 砂、礫の付いた厚層。
 31:10F9C1(9)黄褐色土に10F9C3(1)黄褐色のブロック 粘土 下部の汚れ再堆積。
 32:10F9C1(9)黄褐色土に10F9C2(1)白色のブロック シルト 砂質草灰、互層の遺土。
 33:10F9C1(3)土間層、10F9C6(6)黄褐色土のブロック シルト 互層の再堆積に互層ブロック状になる。
 34:10F9C2(1)黄褐色土、砂、礫もろい。砂質草灰等に互層のブロック状になる。
 35:10F9C1(3)土間層、大きな埋没物に互層のブロック シルト、礫もろい。互層の再堆積に大きな互層ブロック状になる。
 36:10F9C4(4)黄褐色 砂、シルト もろい。砂の再堆積に互層ブロック状になる。
 37:10F9C1(9)黄褐色土 シルト 砂質、互層の付いた厚層。
 38:10F9C1(7)土間層と10F9C6(6)土間埋没層の遺土、粘土、V線状土と互層の遺土。
 39:10F9C1(9)に互層によるカタラン土に入ったもの。
 40:10F9C1(9)に互層によるカタラン土に入ったもの、赤土にもろい。



井戸跡、R1039、R1040 井戸

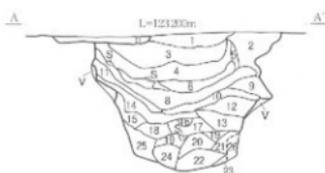
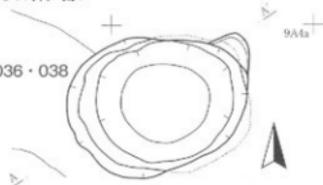
- 1:10F9C3(1)土間埋没物、砂、礫の付いた厚層。
 2:10F9C1(9)黄褐色土に10F9C6(6)黄褐色土の厚土、砂、礫の付いた厚層。
 3:10F9C1(9)黄褐色土に互層の付いた10F9C6(6)黄褐色土のブロック シルト 砂質、互層ブロック多量に含む。
 4:10F9C4(4)埋没物、砂、礫の付いた厚層、赤土に互層。
 5:10F9C6(6)黄褐色土に互層の付いた10F9C1(9)黄褐色土のブロック シルト 砂質草灰、互層の汚れ再堆積。
 6:10F9C1(9)黄褐色土に10F9C6(6)黄褐色土のブロック シルト 砂質草灰、互層の汚れ再堆積。
 7:10F9C1(9)黄褐色土と10F9C6(6)黄褐色土の厚土、シルト 砂質草灰、互層の付いた厚層。
 8:10F9C6(6)黄褐色土、砂、礫の付いた厚層。
 9:10F9C1(9)黄褐色土と10F9C6(6)黄褐色土の厚土、シルト 砂質草灰。
 10:10F9C1(9)土間埋没物、砂、礫もろい。砂の再堆積。
 11:10F9C4(4)黄褐色 砂、礫もろい。砂の再堆積。
 12:10F9C4(4)埋没物と10F9C1(9)黄褐色土の厚土、シルト、砂質草灰、互層の汚れ再堆積。
 13:10F9C1(9)黄褐色土に互層の付いた10F9C6(6)黄褐色土のブロック シルト 砂質草灰、互層の汚れ再堆積。
 14:10F9C1(9)黄褐色土に10F9C6(6)黄褐色土のブロック シルト 砂質草灰、互層の付いた厚層。
 15:10F9C2(1)黄褐色土、シルト 砂質草灰、互層の付いた厚層。
 16:10F9C1(3)黄褐色土、シルト 砂質草灰。
 17:10F9C1(9)黄褐色土に10F9C6(6)土間埋没物、10F9C6(6)黄褐色土の互層のブロック シルト 砂質草灰、互層の付いた厚層、砂質土、砂質土。
 18:10F9C2(1)黄褐色土、シルト 砂質草灰。
 19:10F9C1(3)土間層、10F9C6(6)黄褐色土の互層の付いたブロック シルト 砂質草灰、互層の付いた厚層。
 20:10F9C1(9)黄褐色土と10F9C6(6)黄褐色土の互層の付いたブロック シルト、互層の付いた厚層、互層の付いた厚層。
 21:10F9C1(9)黄褐色土と互層の付いた厚層、より互層。
 22:10F9C1(9)黄褐色土と10F9C6(6)黄褐色土の互層の付いたブロック シルト、互層の付いた厚層、互層の付いた厚層。
 23:10F9C1(9)黄褐色土と10F9C6(6)黄褐色土の互層の付いたブロック シルト、互層の付いた厚層、互層の付いた厚層。
 24:10F9C6(6)黄褐色土、砂、礫の付いた厚層。
 25:10F9C3(9)黄褐色土、砂、礫の付いた厚層。
 26:10F9C3(1)土間埋没物と10F9C1(9)黄褐色土の厚土、砂、礫の付いた厚層。
 27:10F9C1(3)土間層と10F9C6(6)黄褐色土の互層の付いたブロック シルト 砂質草灰、互層の付いた厚層、互層の付いた厚層。
 28:10F9C1(9)黄褐色土と互層の付いた厚層。
 29:21層と互層と互層。
 30:10F9C1(7)土間層と互層の付いた厚層、互層の付いた厚層、互層の付いた厚層。
 31:10F9C1(9)黄褐色土、シルト 砂質草灰、互層の付いた厚層。
 32:互層が汚れたもの、互層の付いた厚層。

0 1:50 2m

第57図 R1036(2)~040(2)井戸跡

<RIO41井戸跡>

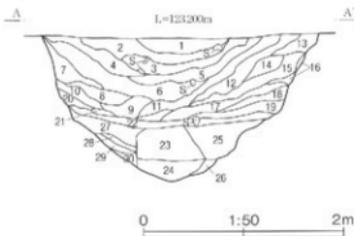
RG036・038



RI041 井戸

- 1 RY208の1層
- 1 RY208の1層色土にRY208を黄褐色の礫のブロック シルト E-V層 (仰) ブロック含む。黄褐色も混入する。
- 2 RY208の1層色土にRY208を灰白色の礫のブロック多し。シルト 黄褐色ブロック多くなる。
- 3 RY208の1層色土にRY208を灰白色の礫のブロック シルト E-V層 (仰) ブロック含む。土中中心に4層砂。
- 4 RY208の1層色土にRY208を黄褐色のブロック多し。シルト E-V層 (仰) ブロック多し。
- 5 砂層ブロック
- 6 RY208の1層色土にRY208を黄褐色のブロック多し。シルト E-V層 (仰) ブロック含む。炭化植物も混入。
- 7 RY208の1層色土にRY208を灰白色のブロック シルト 小砂多し。E-V層 (仰) ブロック含む。
- 8 礫とほとんど混じり多量ブロック含む。シルト 粘性強い。新ブロック含む。炭化植物も混入。
- 9 RY208を黄褐色色 粘土。砂 E-V (仰) 礫多量混入。
- 10 RY208の1層色土にRY208を灰白色の礫土 シルト 礫性強い。多量ブロック多し。
- 11 RY208を黄褐色色土にRY208の1層色土に混入する。粘土 新礫の礫性強い。
- 12 礫とほとんど混じり
- 13 RY208を黄褐色色土にRY208を灰白色の礫土。シルト E-V層の礫性強い。
- 14 RY208を黄褐色色土にRY208を灰白色の礫土。シルト E-V層の礫土。小砂多し。
- 15 RY208を黄褐色色土にRY208の1層色土に混入する。粘土 砂層ブロック多し。
- 16 砂層ブロック
- 17 RY208を黄褐色色土にRY208を灰白色の礫土に混入する。シルト 礫性強い。
- 18 RY208を黄褐色色 粘土 粘性強い。
- 19 RY208を黄褐色色土にRY208を灰白色の礫土。粘土 礫層ブロック多し。
- 20 17層とほとんど同じ
- 21 RY208を黄褐色色 粘土 粘性強い。
- 22 RY208を黄褐色色 粘土 礫と混入したもので、3層の礫の層下の礫り方塊の多い。
- 23 17層とほとんど同じ
- 24 RY208を黄褐色色 粘土 礫と混入したもので、3層の礫の層下の礫り方塊の多い。
- 25 RY208を黄褐色色 砂 礫層の礫と混入して礫質でない。礫が多い層に厚い。自然露出。
- 26 RY208を黄褐色色土にRY208を灰白色の礫土 砂 礫層と同様礫層の礫土と混って礫質でないが、こちらは礫り方塊の可能性が高い。

<RIO42井戸跡>



RI042 井戸

- 1 RY208の1層色土にRY208を黄褐色の礫のブロック シルト 礫性含む。E-V層混入。
- 2 RY208の1層色土 シルト E-V層 (仰) ブロック含む。
- 3 RY208の1層色土にRY208を黄褐色の礫のブロック多し。シルト E-V層混入。
- 4 RY208の1層色土にRY208を灰白色の礫土 シルト E-V層混入。
- 5 RY208を黄褐色色 シルト E-V層の礫土。
- 6 RY208の1層色土とRY208を黄褐色色の混入 シルト 3層とほとんど同じ。
- 7 RY208の1層色土とRY208を灰白色の礫土 シルト E-V層の礫土。
- 8 RY208を黄褐色色 シルト E-V層の礫土が混入する。
- 9 RY208の1層色土 シルト 礫性強い。
- 10 RY208の1層色土 シルト 礫性強い。
- 11 RY208の1層色土 砂。シルト 礫性多量に含む。
- 12 RY208の1層色土 シルト E-V層 (仰) 礫性強い。
- 13 RY208の1層色土 シルト E-V層 (仰) 礫性強い。
- 14 RY208の1層色土 シルト 礫性強い。
- 15 RY208の1層色土とRY208を黄褐色色の混入 シルト 礫とほとんど同じ。
- 16 RY208の1層色土にRY208を黄褐色色の多量の礫土を含む。シルト 新礫多量に含む。
- 17 17層とほとんど同じ
- 18 RY208の1層色土の礫層 砂 礫層に多い。礫層の可能性。
- 19 RY208の1層色土にRY208を灰白色の礫土。シルト 礫性含む。炭化植物混入。
- 20 RY208の1層色土にRY208を黄褐色色の礫土。シルト E-V層混入。
- 21 RY208の1層色土 シルト 礫性強い。
- 22 RY208の1層色土とRY208を黄褐色色の混入 シルト 礫性強い。
- 23 RY208の1層色土にRY208を黄褐色色の礫土。粘土 小砂多し。
- 24 RY208の1層色土 砂 礫層の礫と混入したもので。
- 25 RY208の1層色土 シルト 粘性強い。礫に混入する。新礫の礫下の礫り方塊多し (炭質へ)

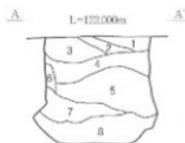
第58図 RIO41・042(1)井戸跡

- 26 3052緑黄ターフ色 砂、粘土、3076の赤褐色の粗砂を伴う。
 27 3076の1層黄色、3076の2層に多い赤褐色、3076の3層赤褐色の粘土、粘土、酸化腐敗土、赤褐色の粗砂の粗り土層土。
 28 3076の4層赤褐色 砂、粘土、赤褐色の粗砂の粗り土層土。
 29 3076の2層に多い赤褐色、上面に3076の3層黄色、粘土、3076の赤褐色の粗り土層土。
 30 3076の1層黄色 粘土、3076の赤褐色の粗り土層土。

<RIO43井戸跡>



S-A20



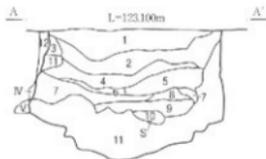
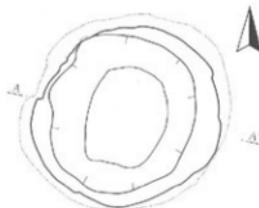
RIO43 井戸

- 1 3076の1層黄色粘土に3076の赤褐色のアロック シルト、砂-V (砂) 粗り土層土を含む。
 2 3076の1層黄色粘土に3076の赤褐色のアロック シルト、砂-V (砂) 粗り土層土。
 3 3076の2層に多い赤褐色 砂、粘土の赤褐色粗砂に粗り土、赤褐色アロックを含む。
 4 2層に多い赤褐色、3076の1層黄色。
 5 3076の2層赤褐色粘土に3076の赤褐色の粗砂の粗り土層土、シルト、砂-V (砂) 粗り土層土。
 6 3076の2層に多い赤褐色、上面に3076の3層黄色、粘土、3076の赤褐色の粗り土層土。
 7 3076の1層黄色 粘土、3076の赤褐色粗砂に粗り土層土。
 8 3076の1層黄色 砂、粘土の赤褐色粗砂に粗り土層土、赤褐色アロック、赤褐色土。

<RIO44井戸跡>



S-A170



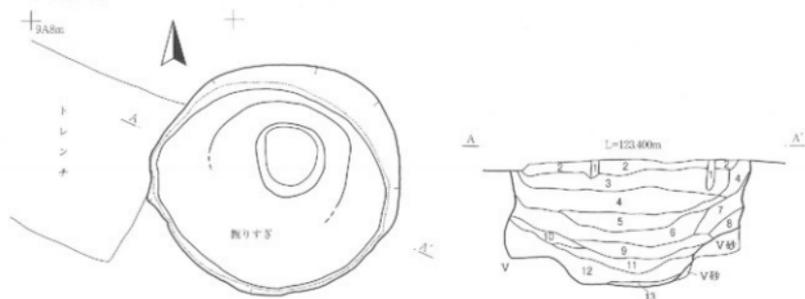
RIO44 井戸

- 1 3076の1層黄色 シルト、基本的な色調は2、3層。
 2 3076の1層黄色粘土に粗砂に砂に3076の赤褐色、3076の3層赤褐色粘土を含む。シルト、砂-V層 (砂) ブロックを含む。
 3 3076の1層黄色粘土に3076の赤褐色、シルト、粘土、赤褐色の粗砂を含む。
 4 3076の1層黄色粘土に3076の赤褐色、シルト、赤褐色の粗砂を含む。砂多量を含む。
 5 3076の2層赤褐色粘土に粗砂に3076の赤褐色のアロック 砂、3076の3層黄色粘土に赤褐色アロックを含む。
 6 3076の2層赤褐色粘土に3076の赤褐色の粗り土層土、シルト、砂-V (砂) 粗り土層土。
 7 3076の1層黄色粘土に粗砂に砂に3076の赤褐色粗砂を含む。シルト、1層とほとんど同じ。
 8 赤褐色土層土。
 9 3076の2層に多い赤褐色粘土に粗砂に3076の赤褐色のアロック 砂、シルト、砂の粗り土層土に1-3層土層土。
 10 3076の1層黄色、シルト、赤褐色、1-3層赤褐色粗砂に粗り土層土を含む。
 11 3076の赤褐色 粘土、赤褐色粗砂。
 12 赤褐色アロックを含むもの。

0 1:50 2m

第59図 RIO42(2)~044井戸跡

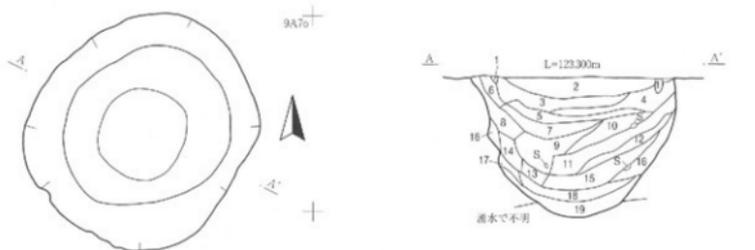
<RIO45井戸跡>



RI045井戸

- 1 掘りすきによる断面の上。
- 2 1978K2の黄褐色土。粘土質シルト。厚層状の厚層の土。厚層状。
- 3 1978K2の黄褐色土。粘土質シルト。厚層状の厚層の土。厚層状。
- 4 1978K2の黄褐色土。粘土質シルト。厚層状の厚層の土。厚層状。
- 5 1978K2の黄褐色土。粘土質シルト。厚層状の厚層の土。厚層状。
- 6 1978K2の黄褐色土。粘土質シルト。厚層状の厚層の土。厚層状。
- 7 1978K2の黄褐色土。粘土質シルト。厚層状の厚層の土。厚層状。
- 8 1978K2の黄褐色土。粘土質シルト。厚層状の厚層の土。厚層状。
- 9 1978K2の黄褐色土。粘土質シルト。厚層状の厚層の土。厚層状。
- 10 1978K2の黄褐色土。粘土質シルト。厚層状の厚層の土。厚層状。
- 11 1978K2の黄褐色土。粘土質シルト。厚層状の厚層の土。厚層状。
- 12 1978K2の黄褐色土。粘土質シルト。厚層状の厚層の土。厚層状。
- 13 1978K2の黄褐色土。粘土質シルト。厚層状の厚層の土。厚層状。

<RIO46井戸跡>



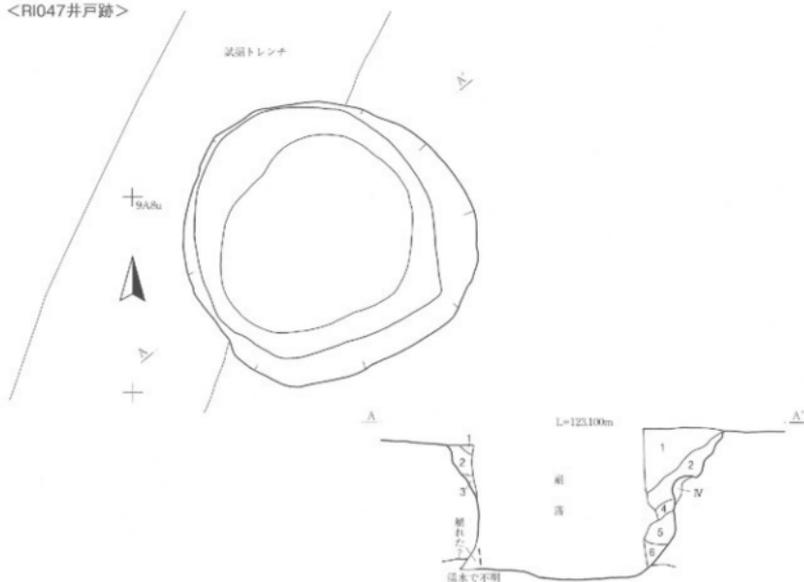
RI046井戸

- 1 掘りすき。
- 2 1978K2の黄褐色土。粘土質シルト。厚層状の厚層の土。厚層状。
- 3 1978K2の黄褐色土。粘土質シルト。厚層状の厚層の土。厚層状。
- 4 1978K2の黄褐色土。粘土質シルト。厚層状の厚層の土。厚層状。
- 5 1978K2の黄褐色土。粘土質シルト。厚層状の厚層の土。厚層状。
- 6 1978K2の黄褐色土。粘土質シルト。厚層状の厚層の土。厚層状。
- 7 1978K2の黄褐色土。粘土質シルト。厚層状の厚層の土。厚層状。
- 8 1978K2の黄褐色土。粘土質シルト。厚層状の厚層の土。厚層状。
- 9 1978K2の黄褐色土。粘土質シルト。厚層状の厚層の土。厚層状。
- 10 1978K2の黄褐色土。粘土質シルト。厚層状の厚層の土。厚層状。
- 11 1978K2の黄褐色土。粘土質シルト。厚層状の厚層の土。厚層状。
- 12 1978K2の黄褐色土。粘土質シルト。厚層状の厚層の土。厚層状。
- 13 1978K2の黄褐色土。粘土質シルト。厚層状の厚層の土。厚層状。
- 14 1978K2の黄褐色土。粘土質シルト。厚層状の厚層の土。厚層状。
- 15 1978K2の黄褐色土。粘土質シルト。厚層状の厚層の土。厚層状。
- 16 1978K2の黄褐色土。粘土質シルト。厚層状の厚層の土。厚層状。
- 17 1978K2の黄褐色土。粘土質シルト。厚層状の厚層の土。厚層状。
- 18 1978K2の黄褐色土。粘土質シルト。厚層状の厚層の土。厚層状。
- 19 1978K2の黄褐色土。粘土質シルト。厚層状の厚層の土。厚層状。

0 1:50 2m

第60図 RIO45・046井戸跡

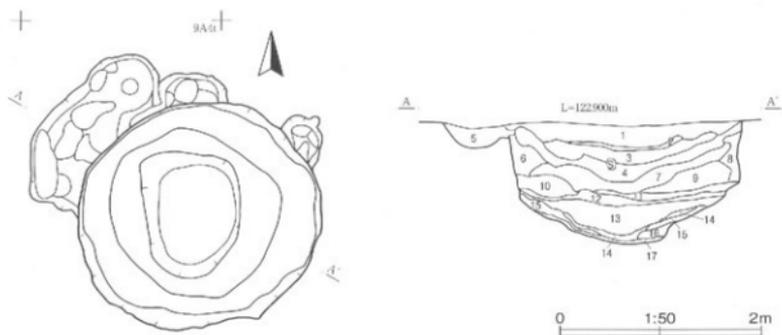
<RIO47井戸跡>



RIO47井戸

1. 試掘2層層の色 シルト、砂、V層砂子、砂利含む。
2. 試掘3層層の色 土層が1層内に厚層のブロック シルト、砂、V層砂子、砂利含む。
3. 試掘4層層の色 土層が1層内に厚層のブロック シルト、砂、V層砂子、砂利含む。
4. 試掘5層層の色 土層が1層内に厚層のブロック シルト、砂、V層砂子、砂利含む。
5. 試掘6層層の色 土層が1層内に厚層のブロック シルト、砂、V層砂子、砂利含む。
6. 試掘7層層の色 土層が1層内に厚層のブロック シルト、砂、V層砂子、砂利含む。

<RIO48井戸跡>

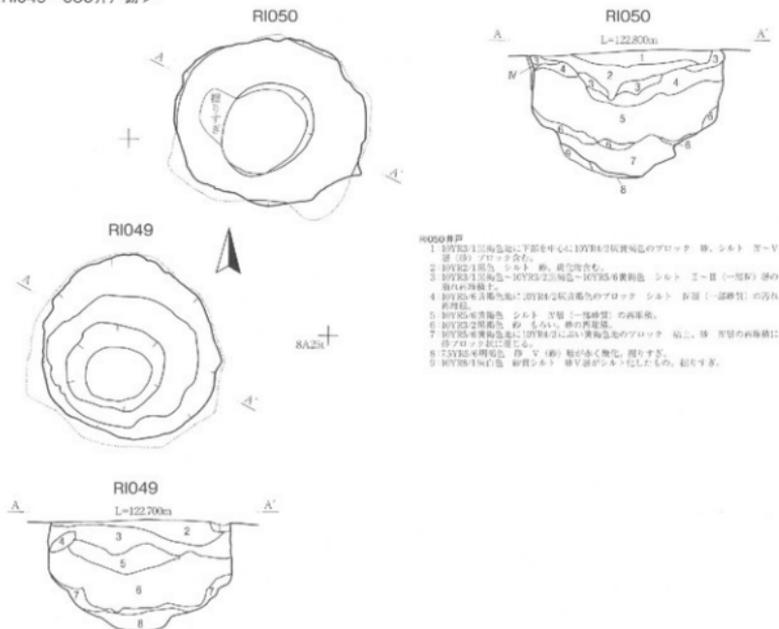


第61図 RIO47・048(1)井戸跡

RI048 井戸

1. RIY25-1 黄褐色土に RIY35-6 黄褐色の礫のブロック シルト、E-V 層 (B) ブロック、粘土含む。
2. RIY35-1 黄褐色土、砂質シルト、砂質砂層 (V層?) の砂質砂層。
3. 1層と同。
4. RIY25-2 黄褐色土 シルト 空層ブロックより V 層 (B) ブロック多い、硬含む。
5. RIY25-2 黄褐色土に空層より、RIY25-1 黄褐色土、RIY35-6 黄褐色のブロック シルト 脆性強い、空層ブロック多い。
6. RIY35-6 黄褐色土に RIY25-1 黄褐色のブロック シルト 脆性強い、空層ブロック多い。
7. RIY25-1 黄褐色土 シルト 硬含む。
8. RIY25-6 黄褐色土に RIY25-1 黄褐色のブロック 粘土、空層と空層の混在。
9. RIY35-6 黄褐色土に RIY25-1 黄褐色の砂質砂層に、シルト 空層と空層の混在。
10. RIY25-6 黄褐色土 粘土、空層の可変層。
11. RIY25-1 黄褐色土 シルト 脆性も見える。
12. RIY35-2 黄褐色土に RIY25-2 黄褐色のブロック 粘土、脆性も見える。
13. RIY25-2 黄褐色土に空層より、RIY25-1 黄褐色土、RIY35-6 黄褐色のブロック シルト、砂、砂の砂層に空層ブロック、粘土ブロック含む。
14. 7.3YR5/6 黄褐色土、砂、砂の砂層の硬さによる。
15. RIY35-2 黄褐色土に RIY25-1 黄褐色の砂質砂層と、砂、粘土、砂の砂層に空層ブロック混在したもの。
16. RIY25-1 に近い黄褐色土、砂、粘土、砂の砂層。
17. RIY35-6 黄褐色土に RIY35-4 黄褐色土、RIY35-6 黄褐色の礫のブロック シルト、砂、脆性も見える。

<RI049・050井戸跡>

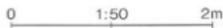


RI049 井戸

1. RIY25-1 黄褐色土に下部を中心に RIY35-6 黄褐色のブロック 粘土、シルト E-V 層 (B) ブロック含む。
2. RIY25-1 黄褐色土、シルト、砂、脆性含む。
3. RIY25-1 黄褐色土に RIY35-2 黄褐色土、RIY35-6 黄褐色土 シルト E-II (一部B) 層の混在層を含む。
4. RIY35-6 黄褐色土に RIY25-1 黄褐色のブロック シルト 空層 (一部B) の砂質砂層を含む。
5. RIY35-6 黄褐色土 シルト 空層 (一部B) の砂質砂層。
6. RIY25-2 黄褐色土 砂、粘土、砂の砂層。
7. RIY35-6 黄褐色土に RIY25-1 に近い黄褐色土のブロック 粘土、砂 空層の砂層に空層ブロックに混在。
8. 7.3YR5/6 黄褐色土、砂、V (B) 層が強く酸化、固りすぎ。
9. RIY25-1 黄褐色土、砂質シルト、砂質砂層に似たもの、粘土を含む。

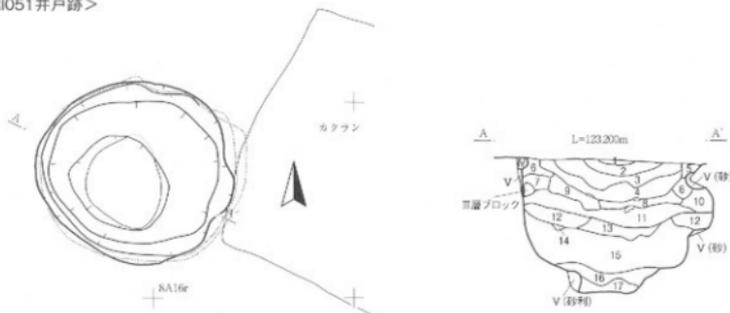
RI049 井戸

1. RIY35-6 黄褐色土 砂質シルト、砂質砂層の粘土層。
2. RIY25-1 黄褐色土に空層より、RIY25-1 黄褐色土、RIY35-6 黄褐色のブロック シルト E-V 層 (B) の混在。
3. RIY25-1 ~ 2 黄褐色土に、RIY35-6 黄褐色のブロック シルト E-II 層の再型別に空層ブロック含む、泥付層が含む。
4. RIY35-6 黄褐色土 粘土、砂質砂層。
5. RIY25-2 黄褐色土に RIY25-1 黄褐色土 シルト 脆性も見える。
6. RIY35-6 黄褐色土 粘土、空層再型別、空層の粘土に砂質。
7. RIY25-1 黄褐色土に RIY35-6 黄褐色のブロック、砂、粘土、砂の砂層に空層ブロック含む。
8. RIY25-2 黄褐色土に RIY35-6 黄褐色土が強い混在に、粘土に、粘土に、RIY25-1 黄褐色の混在 (A-3) 層、砂、粘土シルト 本地層構造と思われる。



第62図 RI048(2)・049-050井戸跡

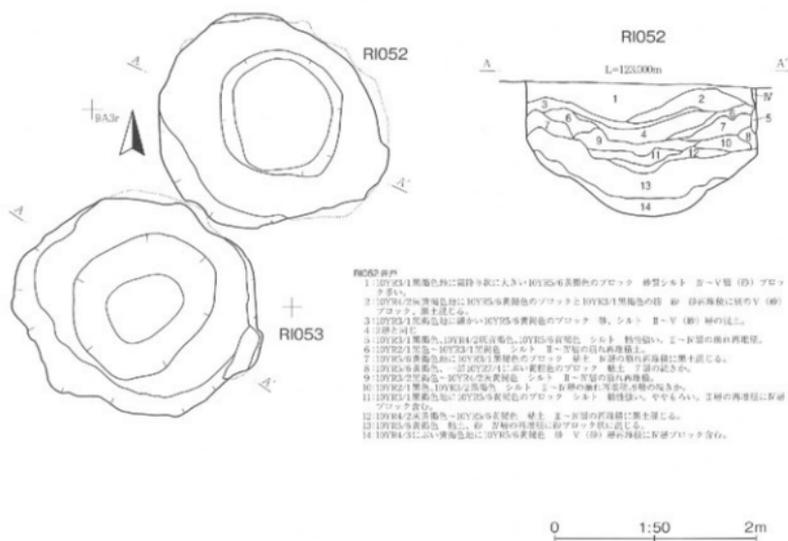
<RI051井戸跡>



RI051 井戸

1. 10Y25/6黄褐色 粘土 粘り気強ク再埋没。
2. 10YR2/1紫色 シルト 礫の多い黄褐色ブロック、炭化植物含む。
3. 10Y2/1黄褐色 粘土 10YR2/6黄褐色のブロック 粘り気強ク、礫とほとんど同じだが、よりV層ブロック多い。
4. 10Y2/3黄褐色 粘土 10YR2/6黄褐色 シルト 粘り気強ク、礫の多いV層 (弱) ブロック含む。
5. 10Y2/2黄褐色 粘土 10YR2/6黄褐色のブロック シルト 粘り気強ク、礫の多いV層 (弱) ブロック含む。
6. 10Y2/2黄褐色 粘土 10YR2/6黄褐色のブロック シルト 粘り気強ク、礫の多いV層 (弱) ブロック含む。
7. 10YR2/1紫色 シルト 粘り気強ク、礫の多いV層 (弱) ブロック含む。
8. 10Y2/2黄褐色 粘土 10YR2/6黄褐色のブロック シルト 粘り気強ク、礫の多いV層 (弱) ブロック含む。
9. 10Y2/5黄褐色 粘土 10YR2/1黄褐色 粘土 シルト V層のV層再埋没。
10. 10Y2/1紫色 シルト 粘り気強ク、礫の多いV層 (弱) ブロック含む。
11. 10Y2/2黄褐色 粘土 10YR2/6黄褐色のブロック シルト 粘り気強ク、礫の多いV層 (弱) ブロック含む。
12. 10Y2/5黄褐色 粘土 粘り気強ク再埋没。
13. 10Y2/2黄褐色 粘土 粘り気強ク再埋没。
14. 10Y2/2黄褐色 粘土 粘り気強ク再埋没。
15. 10Y2/5黄褐色 粘土 粘り気強ク再埋没。
16. 10Y2/3粘土 黄褐色 礫 の多いV層 (弱) ブロック含む。
17. 10Y2/5黄褐色 粘土 10Y2/5黄褐色、10Y2/2黄褐色の塊の多い塊状 シルト、粘り気強ク、V層粘土、礫、粘り気強ク。

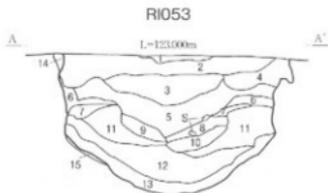
<RI052・RI053井戸跡>



RI052 井戸

1. 10Y2/1黄褐色 粘土 粘り気強ク、礫の多いV層 (弱) ブロック含む。
2. 10YR2/6黄褐色 粘土 10Y2/5黄褐色のブロックと10YR2/1黄褐色の塊 (弱) 粘り気強ク、礫の多いV層 (弱) ブロック含む。
3. 10Y2/1黄褐色 粘土 粘り気強ク、礫の多いV層 (弱) ブロック含む。
4. 10Y2/1黄褐色 粘土 粘り気強ク、礫の多いV層 (弱) ブロック含む。
5. 10YR2/1黄褐色 粘土 10YR2/2黄褐色、10Y2/5黄褐色 シルト 粘り気強ク、礫の多いV層 (弱) ブロック含む。
6. 10YR2/1紫色 10YR2/1紫色 シルト 粘り気強ク、礫の多いV層 (弱) ブロック含む。
7. 10Y2/5黄褐色 粘土 10Y2/1黄褐色のブロック 粘り気強ク、礫の多いV層 (弱) ブロック含む。
8. 10Y2/5黄褐色 粘土 10Y2/1黄褐色のブロック 粘り気強ク、礫の多いV層 (弱) ブロック含む。
9. 10Y2/2黄褐色 粘土 10Y2/5黄褐色 シルト 粘り気強ク、礫の多いV層 (弱) ブロック含む。
10. 10YR2/1紫色 10YR2/2黄褐色 シルト 粘り気強ク、礫の多いV層 (弱) ブロック含む。
11. 10Y2/1黄褐色 粘土 10Y2/5黄褐色のブロック シルト 粘り気強ク、礫の多いV層 (弱) ブロック含む。
12. 10YR2/2黄褐色 粘土 10Y2/5黄褐色 粘土 粘り気強ク、礫の多いV層 (弱) ブロック含む。
13. 10Y2/5黄褐色 粘土 粘り気強ク、礫の多いV層 (弱) ブロック含む。
14. 10YR2/3粘土 10Y2/5黄褐色 礫 の多いV層 (弱) ブロック含む。

第63図 RI051～053(1)井戸跡

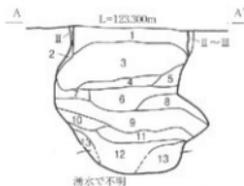
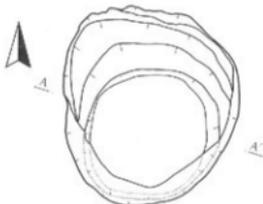


RI053井戸

- 1: IYK21 層間色帯に IYK5 赤黄褐色のブロック シルト 厚一厚層 (約) ブロック多く、軟土質、凝定物を含む。
- 2: IYK11 正色帯に IYK5 赤黄褐色のブロック シルト 厚 中一厚層 (約) ブロック含む、酸化鉄質が豊富。
- 3: IYK21 層間色帯、IYK21 層間色帯、IYK5 赤黄褐色の凝結した粘土 シルト、中 中一厚層の底土。
- 4: IYK11 正色帯の底土に IYK5 赤黄褐色のブロック 砂、シルト、中一厚層の底土、(砂)多く、凝結ブロック少ない。
- 5: IYK11 正色帯 シルト 中一厚層の底層に厚層ブロック含む。
- 6: IYK21 層間色 粘土、中層の内れ再堆積。
- 7: IYK21 層間色-IYK5 正色帯 シルト 中一厚層の再堆積。
- 8: IYK11 正色帯 砂、小層状、V (粗粒) 再堆積。
- 9: IYK21 層間色 シルト 軟土質、中一厚層の底土、V (粗) 凝ブロック含む。
- 10: IYK11 正色帯粘土-IYK5 赤黄褐色 粘土 中一厚層の底土再堆積。
- 11: IYK5 赤黄褐色 粘土、中層の内れ再堆積。
- 12: IYK5 赤黄褐色に厚く IYK21 層間色の粘土、シルト、中一厚層の内れ再堆積 (粗粒)。
- 13: IYK11 正色帯粘土に IYK5 赤黄褐色の塊 砂、粘土 厚層ブロックは塊砂を中心とする。
- 14: 中層の粘土で構成のもの、層が厚。
- 15: V (約) 砂、層が厚。

<RI054井戸跡>

9A5a



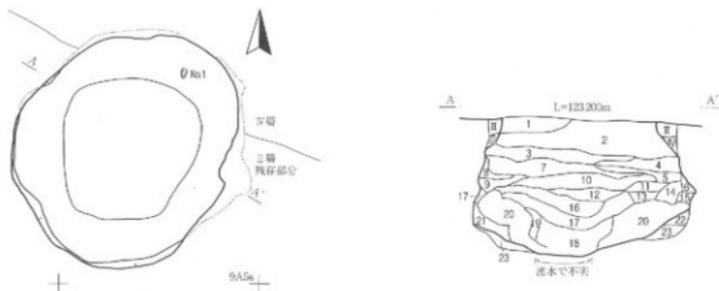
RI054井戸

- 1: IYK21 層間色帯に IYK5 赤黄褐色のブロック 塊状シルト 砂質、厚一厚層再堆積含む。
- 2: IYK11 正色帯に IYK5 赤黄褐色のブロック シルト (中) 塊、厚層ブロック含む。
- 3: IYK5 赤黄褐色に IYK11 正色帯の底土、粘土質シルト 塊含む、中層の内れ再堆積。
- 4: IYK5 赤黄褐色-IYK11 正色帯の底土 シルト、中一厚層の内れ再堆積。
- 5: IYK21 層間色 シルト 軟土質、中、中層ブロック含む。
- 6: IYK21 層間色帯に IYK5 正色帯のブロック シルト 中一厚層、V 層の底土。
- 7: IYK21 層間色 シルト 軟土質、中、中層ブロック含む。
- 8: IYK11 正色帯に IYK5 赤黄褐色のブロック シルト 塊状粘土、中層ブロック含む。
- 9: IYK11 正色帯に IYK5 赤黄褐色の塊土、砂、中一厚層と V 層の底土。
- 10: IYK11 正色帯に IYK5 赤黄褐色のブロック シルト、中一厚層と V 層の底土。
- 11: IYK11 正色帯に IYK5 赤黄褐色の塊土、砂質シルト、やや中一厚層と V 層の底土。
- 12: IYK21 正色帯 粘土質シルト やや中一厚層、中層の底土。
- 13: IYK7 赤黄褐色 粘土、砂質シルト V 層粘土の再堆積。

0 1:50 2m

第64図 RI053(2)・054井戸跡

<RI055井戸跡>

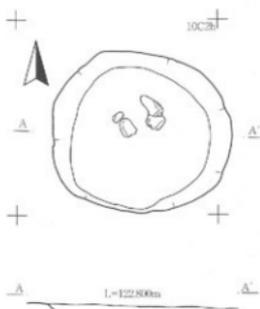


RI055井戸

- 1 1992年褐色土に199256黄褐色の砂 シルト 耳輪両側面に土-土輪ブロック含む。
- 2 1992年褐色土に199256黄褐色の砂 シルト 耳輪両側面に土-土輪ブロック含む。
- 3 1992年褐色土に199256黄褐色の砂 シルト 耳輪両側面に土-土輪ブロック含む。
- 4 1992年褐色土に199256黄褐色の砂 シルト 耳輪両側面に土-土輪ブロック含む。
- 5 1992年褐色土に199256黄褐色の砂 シルト 耳輪両側面に土-土輪ブロック含む。
- 6 1992年褐色土に199256黄褐色の砂 シルト 耳輪両側面に土-土輪ブロック含む。
- 7 土層とほぼ同じ。
- 8 土層とほぼ同じ。
- 9 土層とほぼ同じ。
- 10 1992年褐色土に199256黄褐色の砂 シルト 耳輪両側面に土-土輪ブロック含む。
- 11 1992年褐色土に199256黄褐色の砂 シルト 耳輪両側面に土-土輪ブロック含む。
- 12 土層とほぼ同じ。
- 13 1992年褐色土に199256黄褐色の砂 シルト 耳輪両側面に土-土輪ブロック含む。
- 14 土層とほぼ同じ。
- 15 土層とほぼ同じ。
- 16 土層とほぼ同じ。
- 17 1992年褐色土に199256黄褐色の砂 シルト 16層とはほとんど同じだが、土層の厚さが多い。
- 18 1992年褐色土に199256黄褐色の砂 シルト 16層とはほとんど同じだが、土層の厚さが多い。
- 19 1992年褐色土に199256黄褐色の砂 シルト 16層とはほとんど同じだが、土層の厚さが多い。
- 20 1992年褐色土に199256黄褐色の砂 シルト 16層とはほとんど同じだが、土層の厚さが多い。
- 21 1992年褐色土に199256黄褐色の砂 シルト 16層とはほとんど同じだが、土層の厚さが多い。
- 22 1992年褐色土に199256黄褐色の砂 シルト 16層とはほとんど同じだが、土層の厚さが多い。
- 23 1992年褐色土に199256黄褐色の砂 シルト 16層とはほとんど同じだが、土層の厚さが多い。

0 1:50 2m

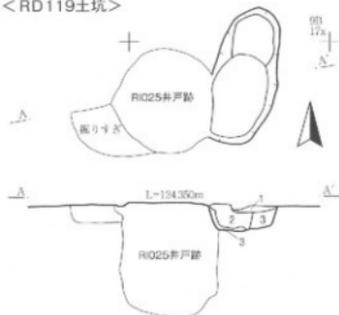
< RD118土坑 >



RD118土坑

1: RDY22(1)黒色~RDY23(1)黒色 シルト 灰層砂子、フロック散る(特に灰層が多い)。

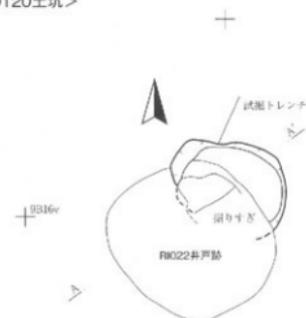
< RD119土坑 >



RD119土坑

1: RDY23(1)黒褐色 シルト 灰層の層多量に含む。
2: RDY25(1)黒褐色土にRDY23(1)黒褐色のフロック シルト 層が灰層土層上の4層散る
3: RDY24(1)白褐色 砂質シルト 酸化鉄入る。井戸跡上の再構築?

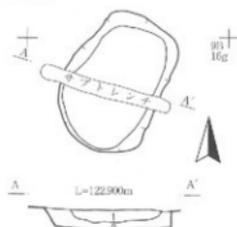
< RD120土坑 >



RD120土坑

1: RDY22(1)黒色 シルト 灰層砂子多く含む。炭化物含む。
2: RDY23(1)黒色 シルト 灰層フロック。炭化物。灰土層多量。
3: RDY22(1)黒褐色土にRDY25(1)黒褐色の灰土層の散り散る。シルト 灰層に灰土層が、灰層砂子多く、炭化物。
灰土層多量ない。
4: RDY23(1)黒色 シルト 灰層砂子含む。炭化物散りに含む。

< RD121土坑 >



RD121土坑

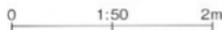
1: RDY22(1)黒色 シルト 灰層砂子、フロック含む。一部灰土層含む。中量といふシリトの層上に多い。
2: 灰層が砂層によって覆われたもの。

< RD122土坑 >

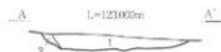
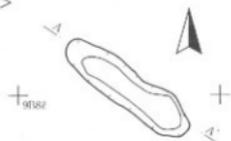


RD122土坑

1: RDY23(1)黒褐色土にRDY24(1)黒色の面 シルト 灰層フロック含む。
2: RDY25(1)黒褐色土にRDY23(1)黒褐色の面を4層の土層に 砂質シルト 散る再構築案。



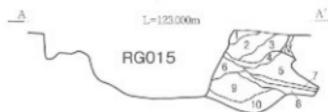
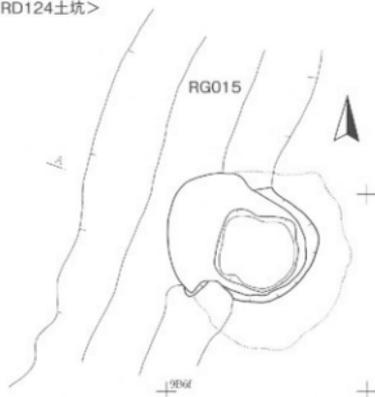
<RD123土坑>



RD123土坑

- 1 MY22-1黒色土 10YR5/5黄褐色のアロック シルト 土質の埋積土に互層アロックを含む。
- 2 MY25-1黒褐色土 シルト 泥状砂礫の埋積土。

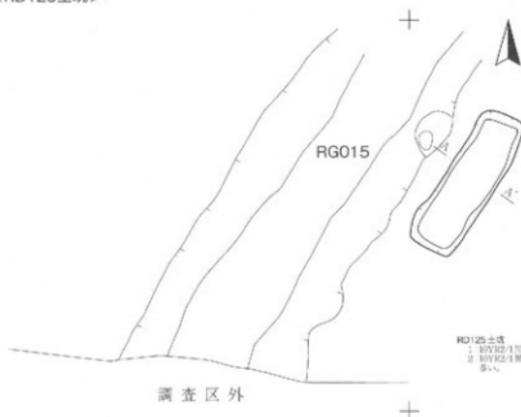
<RD124土坑>



RD124土坑

- 1 MY22-1黄色土 シルト
- 2 MY25-1黒褐色の埋積土に多い10YR5/5黄褐色のアロック、砂子混入。互層アロックを含む。
- 3 MY22-1黄色土に10YR5/5黄褐色のアロック シルト 互層アロックを含む。
- 4 MY25-1黒褐色の埋積土に10YR12/1黄褐色のアロック シルト 互層の埋積土。
- 5 MY22-1黄色土 シルト 粘性強い。V (層) 互層アロックを含む。
- 6 土層がほとんどない。
- 7 MY22-1黒色土に10YR5/5黄褐色の砂子混入 シルト もらい部あり。V (層) 互層アロックが多い。
- 8 MY22-1黄色土 シルト
- 9 MY22-2黄色土 礫、礫の再使用に土、互層アロックを含む。
- 10 MY22-1黄色土 シルト 粘性強い。もろい。下部を中心に砂質砂礫ブロックを含む。

<RD125土坑>



9B104



RD125土坑

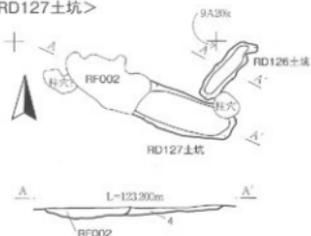
- 1 MY22-1黄色土に10YR5/5黄褐色のアロック シルト 互層アロックを含む。
- 2 MY22-1黄色土に10YR5/5黄褐色の泥土 シルト もろもろい。互層アロック多。

調査区外

0 1:50 2m

第67図 RD123~125土坑

<RD126・RD127土坑>



RD127土坑
1～3: 30YR2.5/1.0マゼンタ系
4: 10YR3/3.0黄褐色に10YR5/6黄褐色のブロック シルト 灰層ブロック多い。



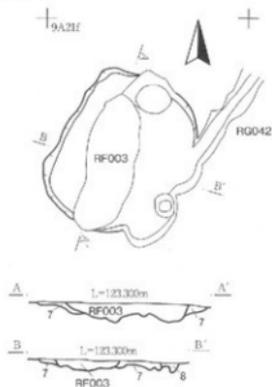
RD126土坑
0: 削上るカクラン
1: 10YR3/3.0黄褐色に10YR5/6黄褐色のブロック シルト 灰層ブロック含む。
2: 灰層が硬で砕けたもの

<RD128土坑>



RD128土坑
1: 10YR3/3.0黄褐色地に黄褐色に10YR2.5/1.0黄褐色のブロック シルト 灰層ブロック多量に含む。
2: 灰層ブロック多量。
3: 10YR3/3.0黄褐色 シルト 灰層ブロック含む。4層と同じと違って深い4層の高層砂。
4: 灰褐色硬砂層土

<RD129土坑>



RD129土坑
1～6: 25YR3.0/1.0マゼンタ系
7: 10YR3/3.0黄褐色に10YR5/6黄褐色のブロック シルト 灰層ブロック含む。
8: 10YR2/1.0赤黄土

<RD130土坑>

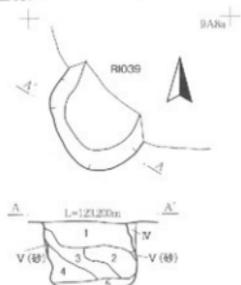


RD130土坑
1: 10YR3/3.0黄褐色地に黄褐色に10YR2.5/1.0黄褐色のブロック シルト 灰層ブロック多い。
2: 10YR5/6黄褐色地に黄褐色に10YR2.5/1.0黄褐色のブロック シルト

0 1:50 2m

第68図 RD126～130土坑

<RD131土坑>



RD131土坑

- 1: 10YR3/1黒褐色土に黒い10YR3/6黄褐色のブロック シメント 草部ブロック多量含む。
- 2: 10YR2/1黒土に黒い10YR5/6黄褐色のブロックの層厚り減少。シメント 砂、草部多量含む。
- 3: 10YR3/1黒褐色土に黒い10YR3/10褐色のブロックの層厚り減少。シメント 草、草部ブロック多量含む。
- 4: 10YR4/2赤褐色土に黒い10YR3/1黒褐色のブロックの層厚り減少。シメント V層ブロック多量を含む。
- 5: 4層とほぼ同質だが、ブロック少ない。砂。

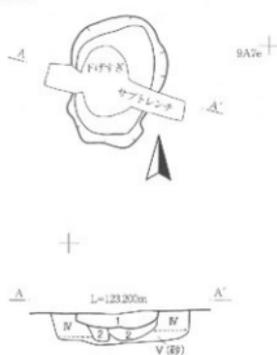
<RD132土坑>



RD132土坑

- 1: 10YR3/2黒褐色土に10YR3/6黄褐色のブロック シメント
- 2: 10YR5/6黄褐色土に10YR3/10褐色のブロック 砂土 草くさる。互層のれれ確認?

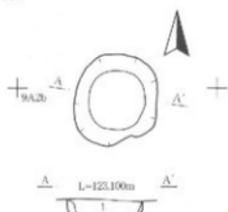
<RD133土坑>



RD133土坑

- 1: 10YR2/1黒土 シメント 草部ブロック多量。
- 2: 10YR2/1黒土と10YR5/6黄褐色の層厚り減少。シメント 砂多量あり。根にまるとクラクと見う。

<RD135土坑>



RD135土坑

- 1: 10YR3/2黒褐色土 シメント 草部多量。
- 2: 10YR3/2黒褐色土と10YR5/6黄褐色の土 砂土 草くさる。互層のれれ確認?

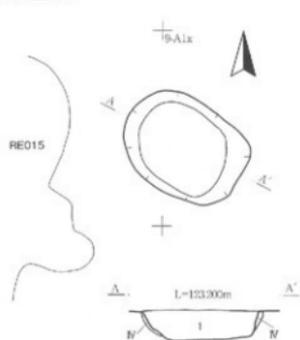
<RD134土坑>



RD134土坑

- 1: 10YR2/1黒褐色土に10YR5/6黄褐色のブロック シメント 草部ブロック多量。

<RD136土坑>

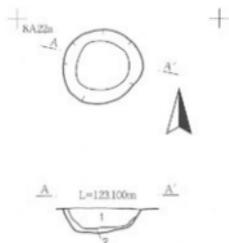


RD136土坑

- 1: 10YR3/2黒褐色土にV部を中心に10YR5/6黄褐色のブロック シメント V部を中心に草部ブロック。砂子多量含む。

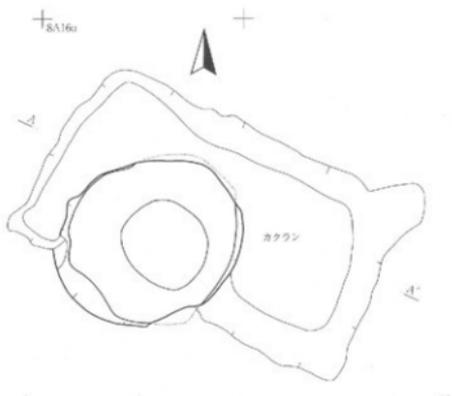
0 1:50 2m

<RD137土坑>



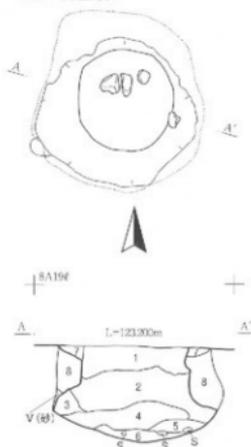
RD137土坑
 1:10YR2/1黄褐色 シルト
 2:10YR3/1黄褐色と10YR5/4黄褐色の混土 シルト 砂質粘土、フロック多い

<RD139土坑>



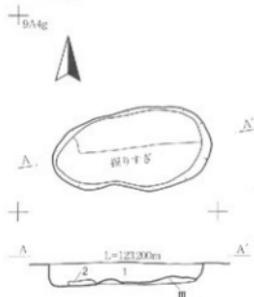
RD139土坑
 Da:5Y2.5/2黄褐色に緑褐色に10YR5/4に近い黄褐色のアロク シルト 砂-V層フロック多い。
 Db:3R2.2/2赤褐色に黄褐色に10YR5/4に近い黄褐色のアロク混成 シルト 砂-V層フロック多い。
 Dc:5Y2.2/2オリーブ色と10YR5/4に近い黄褐色と5Y5/2暗黄褐色の大きなアロク シルト 砂-V層フロック混成。
 Dd:5Y2.2/2オリーブ褐色、10YR5/4に近い黄褐色、2.5Y5/2暗黄褐色の混土、砂質シルト 砂-V層フロックの汚れた黄褐色。
 1:10YR2/1黄褐色 砂 もみ、砂層の浅い層。
 2:10YR2/1黄褐色に黄褐色に10YR5/4黄褐色のアロク シルト 粘り強い、粗い砂-V層フロック多い。
 3:10YR2/1黄褐色に黄褐色に10YR5/4黄褐色のアロク シルト 粘り強い、粗い砂-V層フロック多い。
 4:10YR2/1黄褐色、10YR5/4黄褐色、10YR5/4黄褐色の混土 シルト 粘り強い、粗い、砂-V層フロック多い。
 5:10YR2/1黄褐色、10YR5/4黄褐色、10YR5/4黄褐色の混土の層の最上 粘り強い、粗い、砂-V層フロック多い。
 6:10YR2/1黄褐色、10YR5/4黄褐色、10YR5/4黄褐色の混土の層の最上 粘り強い、粗い、砂-V層フロック多い。
 7:10YR2/1黄褐色、10YR5/4黄褐色、10YR5/4黄褐色の混土の層の最上 粘り強い、粗い、砂-V層フロック多い。

<RD138土坑>



RD138土坑
 1:10YR2/1黄褐色に黄褐色に10YR5/4黄褐色のアロク シルト、粗い砂-V層フロック多い。
 2:10YR2/1黄褐色に黄褐色に10YR5/4黄褐色のアロク混成 シルト、粗い砂-V層フロック多い。
 3:10YR2/1黄褐色と10YR5/4黄褐色のアロク混成 シルト、粗い砂-V層フロック多い。
 4:10YR5/4黄褐色のアロク層に10YR2/1黄褐色の粘土、粗い砂-V層フロック多い、粘り強い、粗い砂-V層フロック多い。
 5:10YR2/1黄褐色、10YR5/4黄褐色、10YR5/4黄褐色の混土、粘り強い、粗い砂-V層フロック多い。
 6:10YR2/1黄褐色、10YR5/4黄褐色、10YR5/4黄褐色の混土、粘り強い、粗い砂-V層フロック多い。
 7:10YR2/1黄褐色、10YR5/4黄褐色、10YR5/4黄褐色の混土、粘り強い、粗い砂-V層フロック多い。
 8:10YR2/1黄褐色、10YR5/4黄褐色、10YR5/4黄褐色の混土、粘り強い、粗い砂-V層フロック多い。

<RD140土坑>



RD140土坑
 1:10YR2/1黄褐色に10YR5/4黄褐色のアロク シルト 粘り強い、粗い砂-V層フロック多い。
 2:10YR2/1黄褐色に10YR5/4黄褐色の混土、粘り強い、粗い砂-V層フロック多い。

0 1:50 2m

第70図 RD137~140土坑

<RF002カマド状遺構>



9A
21k



RF002カマド遺構
 1: 2SV26-8層部 シルト 粘土層部
 2: 2SV23-4層部 シルト 黄土層、灰化物多く含む
 3: 2SV25-2層部 シルト V層の下部部
 4: 20X22硬砂層上

<RF003カマド状遺構>



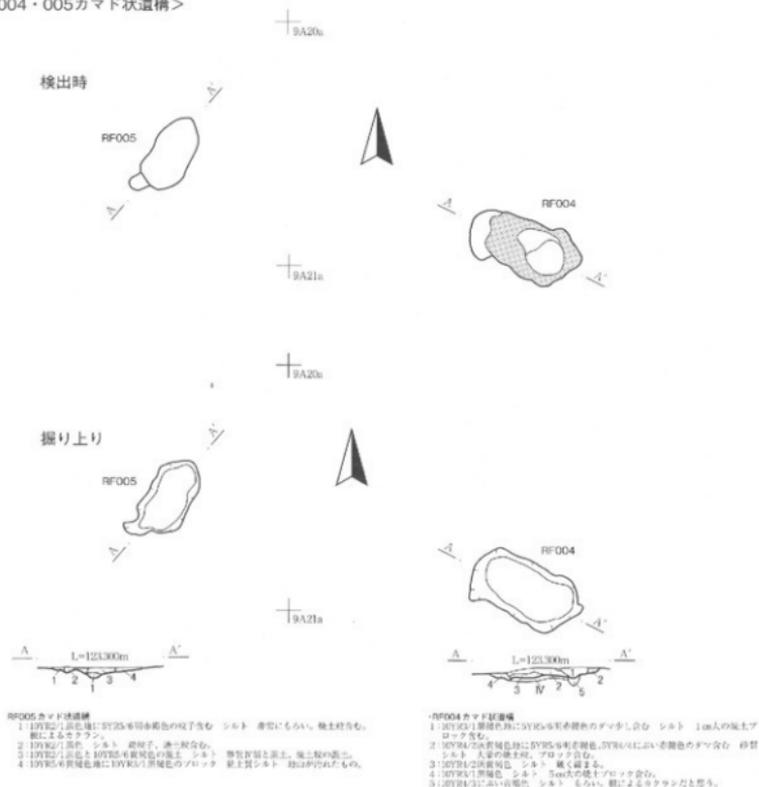
RF003カマド遺構

- 1: 2SV23-4層部 粘土層、2SV25-6層部部のブロック シルト 粘土ブロック、灰化物含む。
- 2: 2SV24-1層部 粘土層、2SV25-6層部部のブロック シルト 粘土、黄土ブロック、灰化物含む。
- 3: 2SV23-4層部 粘土層、2SV25-6層部部の粘土 シルト 粘土ブロック多く、灰も含む。
- 4: 2SV24-6層部 シルト 黄土層、ブロックの層部。
- 5: 2SV23-1層部 粘土層 灰化物多く、黄土ブロックも含む。
- 6: 2SV23-1層部 粘土層、2SV23-1層部 粘土層、1層を中心とした粘土層、黄土層も層がらむ。
- 7: 20X22硬砂層上
- 8: 20X22硬砂層上

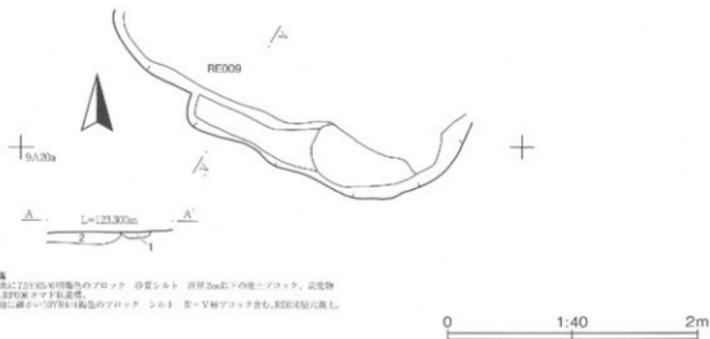
0 1:40 2m

第71図 RF002-003カマド状遺構

<RF004・005カマド状遺構>

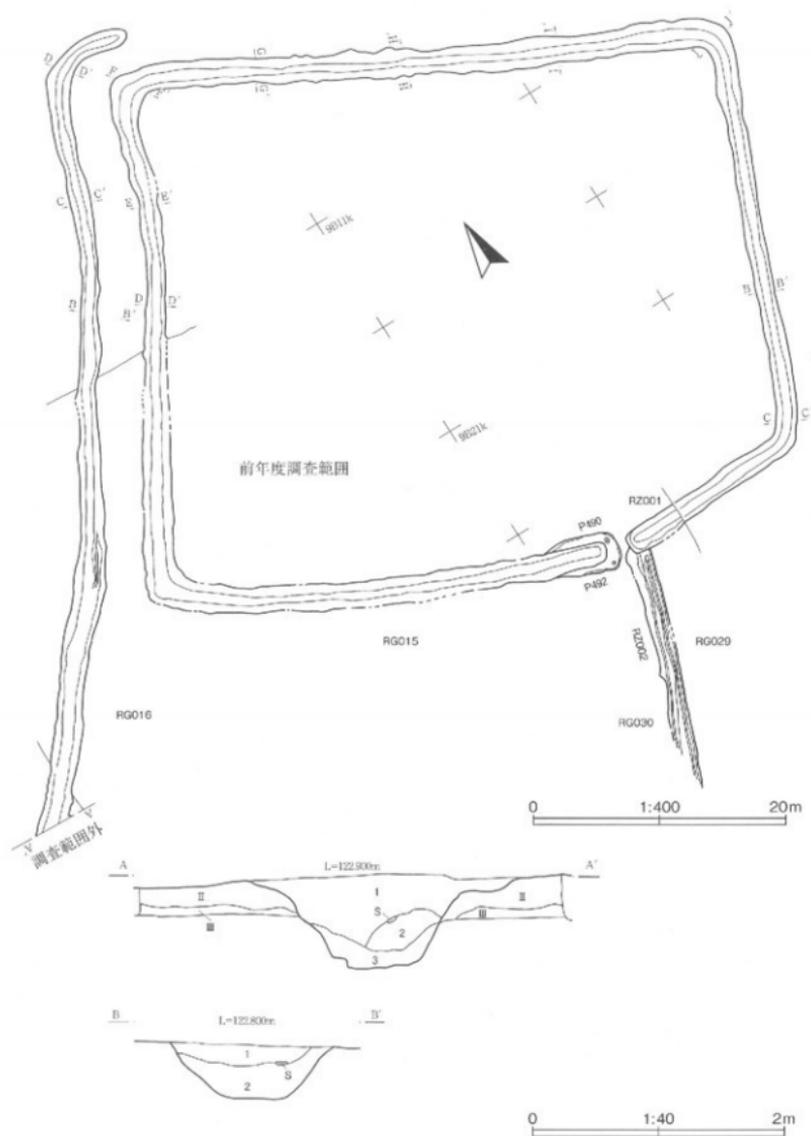


<RF006カマド状遺構>

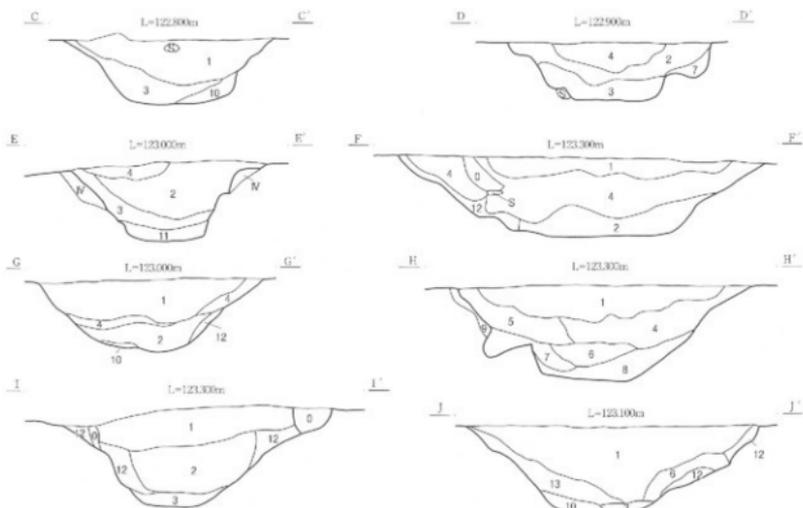


第72図 RF004~006カマド状遺構

<RG015・016堀跡>

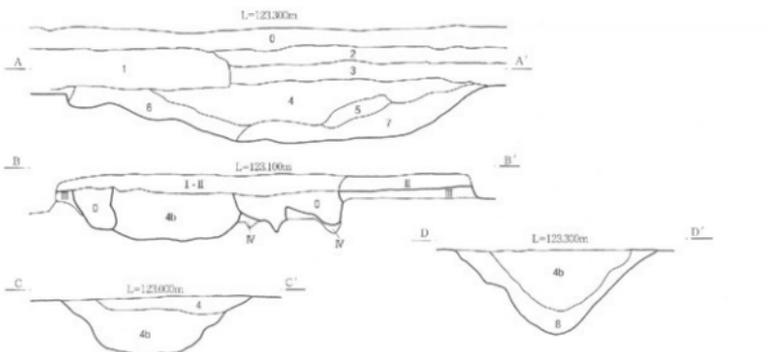


第73図 RG015・016堀跡(1)



RG015線

1. HVC2-1風乾色 シルト 上部より粗くて、I-2層に近い。
2. HVC2-1風乾 シルト 1層がほとんど同じだが、厚の異なる部分がある。
3. HVC2-1風乾色土にHVC5を混入したプロック シルト 階化が顕著。
4. HVC2-1風乾色土にHVC5を混入したプロック シルト 中、V(樹) 層がプロック状で、部分的な風乾土I-2層。
5. HVC2-1風乾色土に粗かいHVC5を混入したプロック シルト 粗かい中、V(樹) 層がプロック状で、部分的な風乾土I-2層。未定時のスケッチを受けている。
6. HVC2-1風乾 シルト やや細かい、中、V(樹) 層が粗い。I-2層より粗く混入している。
7. HVC2-1風乾色土とHVC5を混入した粗かい風乾土。粗かい中、V(樹) 層が粗い。
8. HVC2-1風乾色土とHVC5を混入した粗かい風乾土。粗かい中、V(樹) 層が粗い。
9. 粗かい風乾土のスケッチによって作られたもの。
10. HVC2-1風乾色土、HVC5を混入した粗かい風乾土の風乾土。粗かい中、V(樹) 層が粗い。
11. HVC5を混入した粗かいHVC2-1風乾色土。粗かい中、V(樹) 層が粗い。
12. HVC2-1風乾色土にHVC5を混入した粗かい風乾土。粗かい中、V(樹) 層が粗い。
13. HVC2-1風乾色 シルト やや粗く混入。中層が粗い。粗化層が粗い。



RG016線

1. 2-3層の法上で、埋め戻しと混雑。
2. HVC1風乾色 中、下部に粗化層。赤土の混入。
3. HVC1風乾色 中、下部に粗化層。
4. HVC2-1風乾 シルト 粗化プロック状に含む。I-2層が粗化土に近い。
5. HVC2-1風乾色土にHVC5を混入したプロック シルト 粗かい中層プロック状で含む。
6. HVC2-1風乾色土で粗かい中にHVC5を混入した粗かい中層プロック状で含む。粗化層が粗い。
7. HVC2-1風乾色土で粗かい中にHVC5を混入した粗かい中層プロック状で含む。粗化層が粗い。
8. HVC2-1風乾色土にHVC5を混入した粗かい中層プロック状で含む。粗化層が粗い。



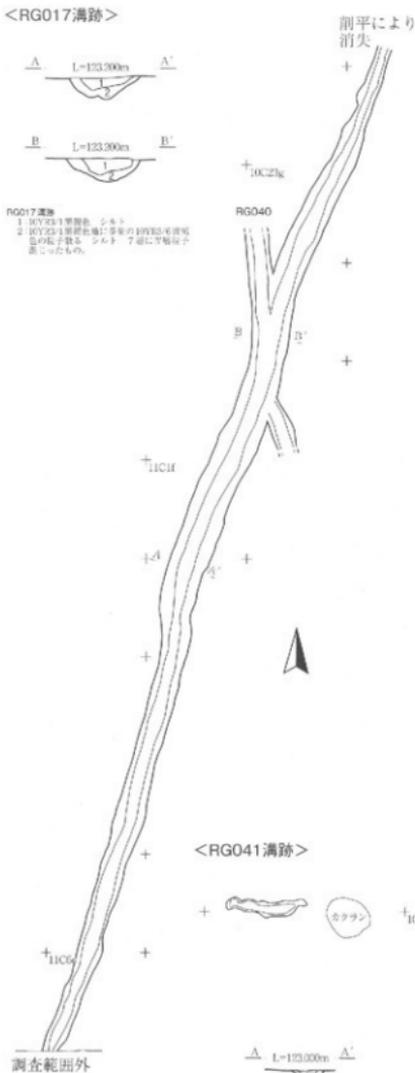
第74図 RG015-016掘跡(2)

<RG017溝跡>

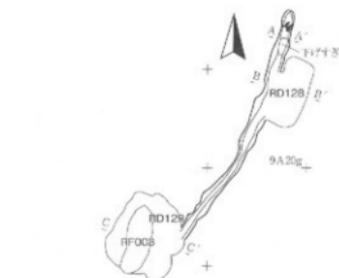


RG017溝跡

- 1: IY 041 溝跡部 シルト
- 2: IY 021 溝跡部に多数のIYR25を伴った色の付いたシルト 7段に厚板が重なったもの。

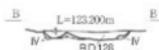


<RG042溝跡>



RG042溝跡 (重複なし)

- 1: IY R21 溝跡部と IY R25 溝跡部のアソック シルト 上面を中心とした凹凸あり。
- 2: 溝跡が浅く IY R21 のもの。
- 3: 地盤不明



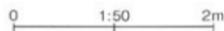
RG042溝跡 (RD128土状と重複部分)

- 1-3: RD128 土状層上。
- 4: IY R21 溝跡部 シルト 空層アソックあり。3段と同じと違って深い。

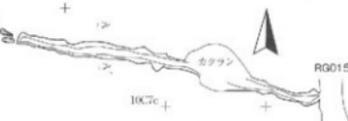


RG042溝跡 (RF003カマド跡部、RD129土状との重複部分)

- 1-6: IY R21 カマド跡部
- 7: RD129 土状層上。
- 8: IY R21 溝跡部と IY R25 溝跡部のアソック シルト 空層アソックあり。7層とはほとんど同一。

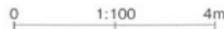


<RG041溝跡>



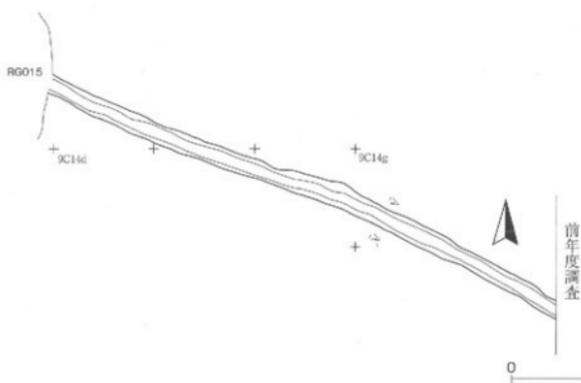
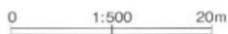
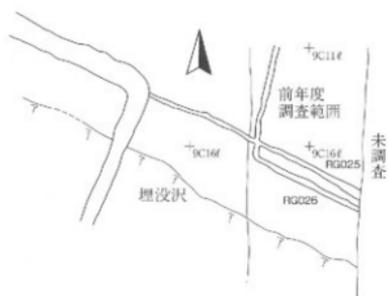
RG041溝跡

- 1: IY R21 溝跡部と IY R25 溝跡部のアソック シルト 空層あり。アソックあり。溝跡部のカタワンに同じ。
- 2: IY R25 溝跡部と IY R21 溝跡部のアソック シルト 重複あり。溝跡部のカタワンに同じ。



第75図 RG017・041・042溝跡

<RG025溝跡>



$$\frac{A}{2} \quad L=123.100m \quad \frac{A'}{2}$$

- RG025溝跡
- 1 1975年調査範囲に1975年前年度のアロック シルト 岩盤アロック含む。
 - 2 1975年調査範囲に1975年前年度の黄土 シルト ややもろい。



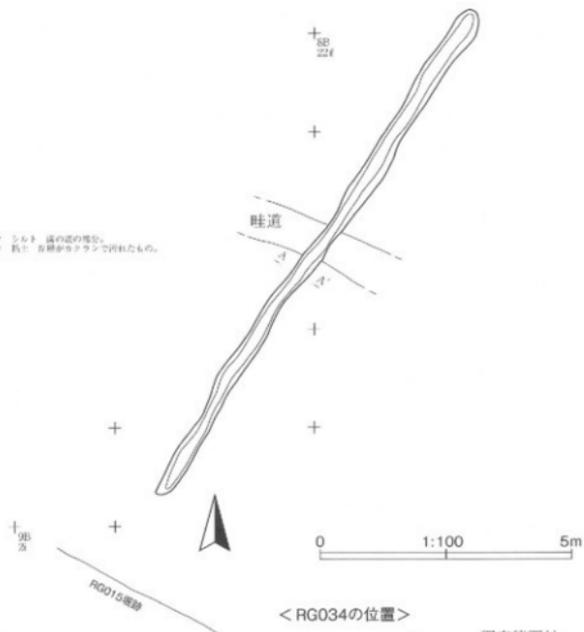
第76図 RG025溝跡

<RG034溝跡>

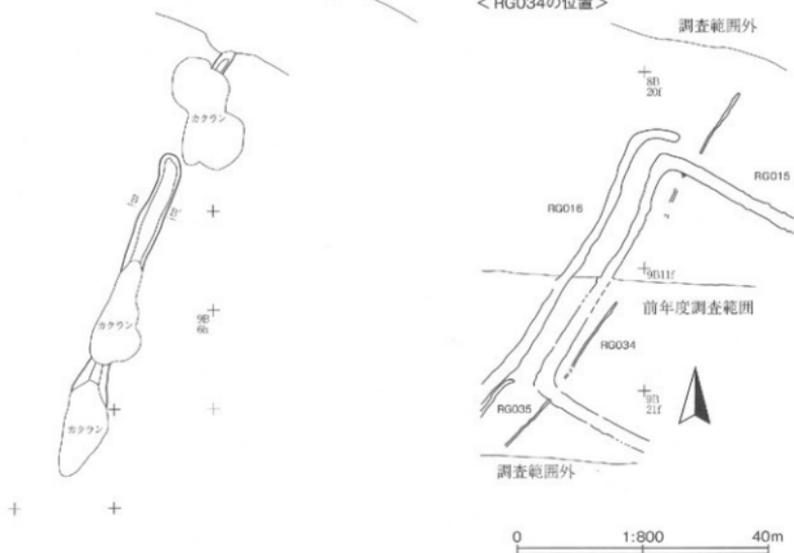


RG034遺跡

- 1: 1974年調査時埋没のRG034を調査したアプロック シルト 溝の遺存部分。
- 2: 1975年調査時埋没のRG034を調査したアプロック シルト 溝跡がカタランで埋れたもの。



<RG034の位置>

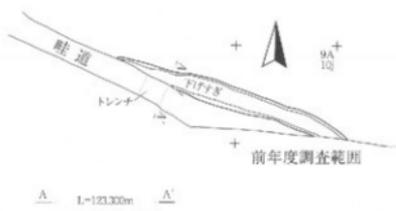


第77図 RG034溝跡

<RG036・038溝跡>

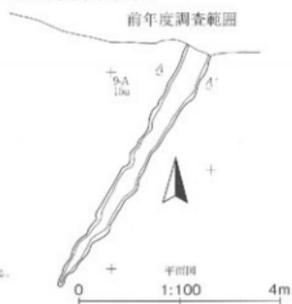


<RG036溝跡(東地点)>



RG036溝跡
 1: 19725-6表層色地: 19723-1見取色地の埋 シルト 緩く明する。砂質。
 2: 19722-1見取色地: 19723-1見取色地に19725-6表層色のブロック シルト 地点によりきむ傾斜あり。色調異なる。

<RG038溝跡(南地点)>



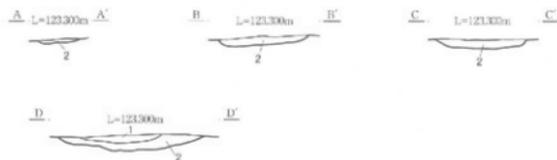
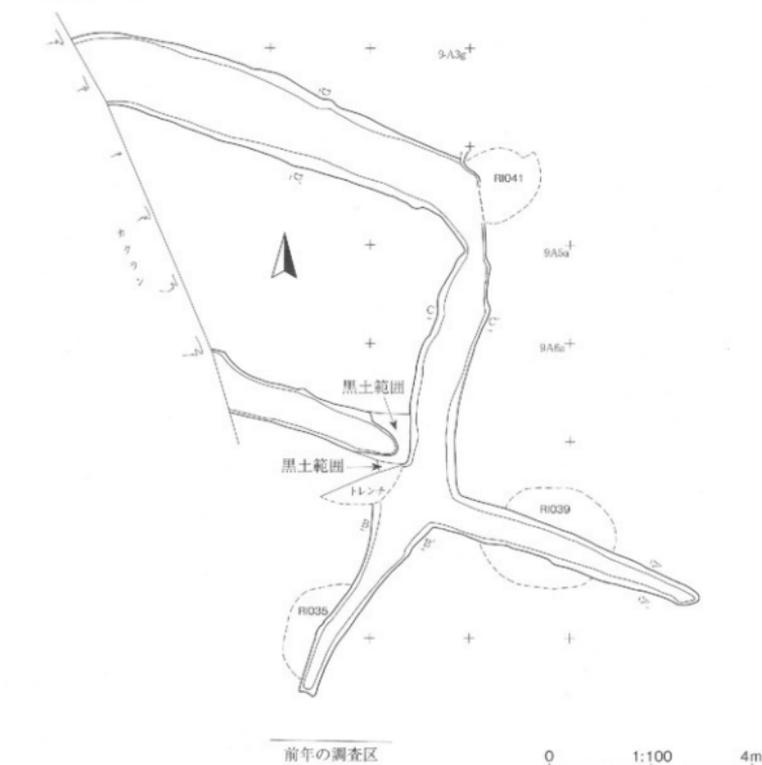
RG038溝跡
 1: 19725-6表層色地: 19715-6表層色のブロック 砂質シルト
 V層がアゴクシ層に存在。
 2: 19725-6表層色地: 19723-1見取色のブロック 砂質シルト
 V層の存在不明。

<RG043・044溝跡>



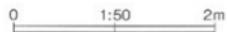
RG043溝跡、RG044溝跡
 1: 19721-1見取色地 シルト V層がアゴクシ層に存在。RG043溝跡上。
 2: 19721-2見取色地 砂質シルト RG044溝跡上。

<RG038溝跡(北地点)>

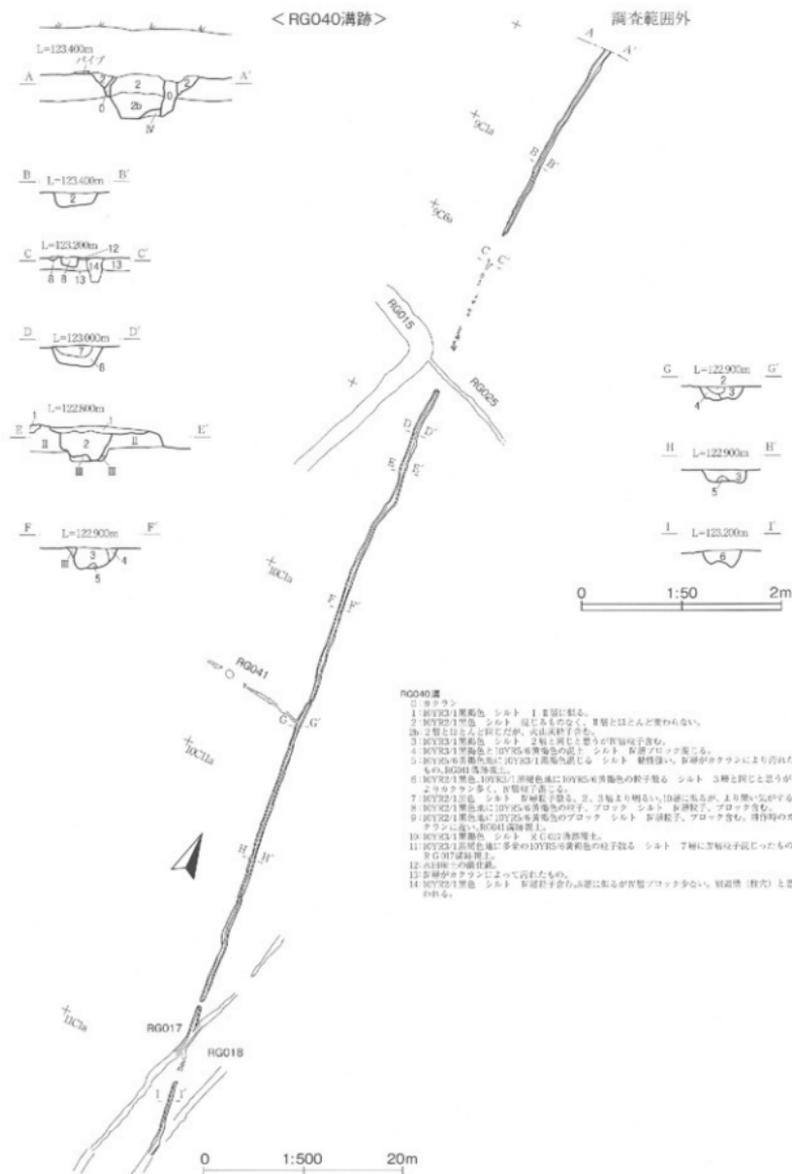


RG036? 溝跡

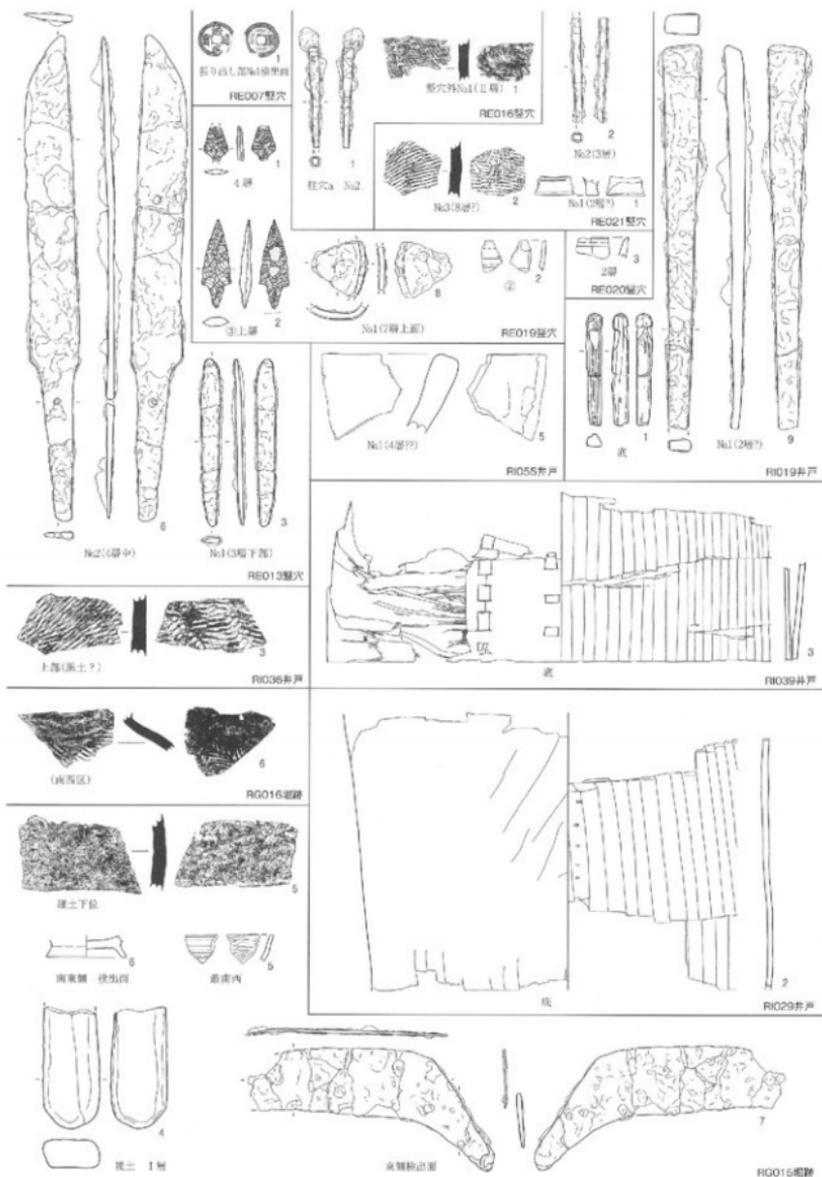
- 0 10YR5/6黄褐色土に10YR3/1黄褐色土の混 シメト 細く穿る。経過。
 1 10YR2/1黒色 シメト
 2 10YR2/1黒色-10YR3/1黄褐色土に10YR5/6黄褐色土のフック シメト 地質により含む割合が異なり、色も異なる。
 黒土(黒溝)の1層。



第79図 RG038(2)溝跡



第80図 RG040溝跡

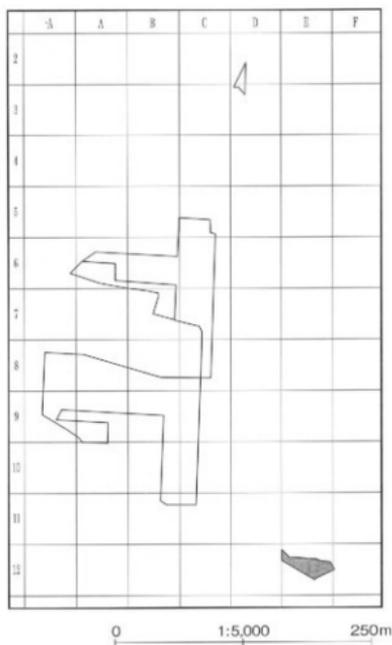


第81図 遺構内遺物集成図(土器類・礫石器は1/5、剥片石器・鉄製品・銭貨は1/3、木製品は1/6)

6 南 区

調査面積637㎡（都市再生機構分）。北南区と並行して調査を開始した。調査区の現況は休耕田であるが、近年の当開発工事に伴い周辺に設けられた土捨て場までの搬入路として、一部碎石が敷かれている状況である。また、耕作時の廃材等が放置されており、これらの撤去に多少手間取った。

トレンチ掘削により土層の堆積状況の確認を行ったが、表土直下に遺構検出面が確認できる。地形的には概ね平坦であるが、水田造成時の改変に伴い削平を受けているようである。出土遺物もないことから、重機により表土を除去、その後遺構検出を行った。多くのプランが検出され、精査を行ったが、ビニール等が混入するものや不整なものなど、遺構として成立するものではなく、すべてカクラン痕と判断した。遺物も全く出土しなかった。



第82図 南区調査位置

V 遺 物

今回の調査で出土した遺物は、非常に少なく点数にして100点に満たない。出土遺物は、土師器21点187.9g、土師質土器1点0.5g、須恵器10点878.0g、陶器13点139.1g、磁器25点137.9g、焼粘土塊3点75.2g、石器・石製品5点(石鏃3、砥石?1、容器?1)、木製品7点(陽物形?1、曲物3、板材など3)、鉄製品10点(釘2、刀子3?、刀1、鎌1、不明3=容器状、鉄鋌状、鉄滓?)、銭貨1点(洪武通寶)である。

検出された遺構は、前年度に推測された時期(僅かな出土陶磁器片と類例による)により中世の終わり～近世の初め(16世紀中心)を主体とすると考えられるが、この時期に相当する物は少なく、木製品と鉄製品と銭貨のみで(石製容器も?)、遺構群より古いもの(土師器、須恵器、焼粘土塊、石鏃、砥石?)、新しいもの(土師質土器、陶器、磁器)が多数を占める。

観察表は全て写真図版の方にある。本章では、遺構出土の遺物も含めているが、それぞれ、その種類の遺物の中で冒頭に掲げている。遺構出土品は、第IV章の中に遺構ごとの集成図を掲げているので参照していただきたい(第81図)。遺物は基本的に表に記載しているが、出土位置の欄の住居の後のQ1～4は、住居を4等分した区画を意味し、上層ベルトを基準に、北内区画が1、北東が2、南西が3、南東が4になる。

1 土師器・土師質土器(第83図、写真図版67)

土師器21点187.9g、土師質土器1点0.5g出土した。小コンテナ(32×42×10cm)1/4にも満たない。掲載基準。土師質土器は掲載した1点のみの出土である。土師器は、器形を復元できるほど残りの良いものはない。そこで、遺構内出土品(および当初そう考えられていたもの)を掲載することにしたが、R G015堀跡(最南西)から出土した1点(2.1×1.5cm、2.5g、内面黒色処理の坏の胴部小片)、R G016堀跡(最北)から出土した1点(1.4×1.4cm、1.4g、甕?胴部小片)は、あまりに小さな胴部破片なので割愛した。逆に、9は、6に次いで残りが良かったので、遺構外ではあるが掲載することにした。図化は、復元実測できないものについては、あまり積極的に行わなかった。不掲載土師器は、全部で12点、57.5gである。その内訳は、前述分を除くと、北区・黒色土層(Ⅲ層)から出土した同一個体・ほぼ同じ部位3点(全部で8×3cm程度、24.5g、甕胴部)を最大にして、北区・表土1点2.5g、北区・撓乱層(3×2cm、5.0g、甕胴部)、中央区8Aグリッド木根1点(3×2cm、4.7g、かわらけにやや似る歪んだ硬質の坏山縁部)、9Bグリッド・I・II層5点(1点2×2cm、他はそれ未満、10.2g)、9Bグリッド・II層1点(3×3cm、6.7g、甕胴部?、縄文土器に色調似て黒っぽい)。2×2cm未満の小片は、大きさを割愛。

時期。ほとんどが9世紀中～10世紀初頭前後に位置づけられ、明らかにこの時期を逸脱するものは認められないようである。

観察表の調整は、工具よりも“効果”に重きを置いて表現していることをお断りしておく。

分布。北区と中央区から出土しており、特に中央区では、南部を除き、ほぼ満遍なく散在している。これは、次の須恵器も同様である。

以下、表の補足。

9は、焼成温度が低く、外面だけが硬質化し一部が灰色がかかるとして終わってしまっている。須恵器に含めた方が混乱が少なかったかも知れないが、11のような土師質の不明土器も含めているため

本節で扱うことにした。

11は、識者に見ていただいたがわからなかったものである。土師質の色調をしているがずっと緻密で、最近のものである可能性も高い。

引用・参考文献

八木光則 1993 「古代新渡部と彌生体の上器様相」『第18回古代城郭官衙検討会 特集シンポジウム北日本における律令期の土器様相』同春書大会事務局(青森専門文センター)(1992年開催のシンポジウム結果をまとめたもの)

2 須 惠 器(第83図、写真図版67)

破片ばかり、10点878.0g出土している。小コンテナ(32×42×10cm)1/4程度である。掲載基準。須惠器は図化しやすいので、ほとんどを図で示した。写真も割愛したのは、1点のみで、“9BグリッドI層”から出土した大甕の胴部破片(9.3×6cm、912g)、外面に平行タタキ目、内面も平行タタキ目状の当て具痕が認められ、内外に酸化鉄が付着している。

土師器9(第83図)は、焼成温度が低く、外面だけが硬質化し一部が灰色がかかる程度で終わってしまっているが、成形等は須惠器のそれである。

分布。北区と中央区から出土しており、特に中央区では、南部を除き、ほぼ満遍なく散在している。前述の土師器と同様である。

3 陶 器(第83図、写真図版68)

回収してきた遺物139.1gは全て掲載した。ただし近現代に属すると思われたものの中には回収しなかったものがある。小コンテナ(32×42×10cm)1/4にも満たない。

1点だけ遺構内から出土しているが、他は全て表土からの出土で新しく、遺構の時期に符合するものはなさそうである。また小片ばかりで、はっきり言って報告者の鑑定力を越えている。そこで、当センターの杉沢昭太郎氏に鑑定をお願いして、それを聞き取りすることにした。したがって、写し間違いが存在すれば、それは報告者の責任である。

今回は遺跡の主たる時期の遺物は出土していないが、前年度には16世紀ころの瀬戸美濃産陶器碗の破片が出土している。

4 磁 器(第84図、写真図版68)

回収してきた遺物25点137.9gのうち、右記の近代もの3点15.7gは掲載しなかった。掲載しなかったのは、“北区5Cグリッド配水管埋設部分(カクラン)”で出土した急須、碗の破片である。また、近現代に属すると思われたものの中には回収しなかったものがある。なお、石製と考えられる容器が本遺跡から出土している(第86図=写真図版69の5)。全て合わせても小コンテナ(32×42×10cm)1/4にも満たない。

全て遺構外から、それも表土あるいはそれに近い場所からの出土で、新しく、遺構の時期に符合するものはなさそうである。また小片ばかりで、はっきり言って報告者の鑑定力を越えている。そこで、陶器と同様、当センターの杉沢昭太郎文化財専門員に鑑定をお願いして、それを聞き取りすることにした。

今回は遺跡の主たる時期の遺物は出土していないが、前年度には16世紀ころの中国産染付皿の破片が出土している。

5 土製品(写真図版70)

焼粘土塊が3点出土した。焼粘土塊は、縄文時代の遺跡ではしばしば出土するものである。筆者は、これまで形状から大きく5種類に分けてきた(金子 2004, 2006)。粘土をそのまま手の中でひねったような形で(人糞状と仮称)、表面は割とザラザラしており、やや重く橙色を呈するもの(手びねりと仮称)、方形を基本としたブロック状で軽く表面が滑らかで朱〜クリーム色(白色基調)を呈するもの(軽石状と仮称)、橙色で薄く粘土の圧痕がはっきりしない土器破片状、表面の凸凹著しく(ギザギザ)金平糖のような形状で、やや重め、土器破片(が摩耗した)のように見える場合もあるもの(金平糖状と仮称)、橙色で土器破片状に似るが(薄く表面ツルツル)ねじれているもの(樹皮状と仮称)。しかし、金平糖状、樹皮状は、遺跡によっては見られず、また、それぞれ手びねりあるいは土器破片状の変形と捉えることもできるので、ほとんどが前の3種類のいずれか、あるいは折衷的なものとしてとることができる。

縄文時代に特有なものではなく、素焼きの土器を持つ時代には存在するようで、筆者も花巻市穂貫田遺跡で平安時代のものを確認している(報告書は当センターから平成20年度刊行予定)。

1(写真図版70)は、2.5×2.5cm程度の三角形の土師器の破片らしきものを含む。断面形や内面らしき面がツルツルしている点などから土師器の可能性が高いが、これがまさに他の焼粘土塊をそのまま焼いたような胎土と色調をしている。火が通っているためか、より緻密であるが、焼粘土塊は、5×3.1×2.3cmと4.4×4×1.9cmの塊が最も大きい。いずれも不整形だが、一部何かに覆われていたかのように滑らかな面を持つ。

参考文献

- 金子昭彦 2004 「V 3(4) 焼粘土塊」『平清水遺跡発掘調査報告書』 鹿角市県文化振興事業団埋蔵文化財センター
2005 「VI 4(7) 焼粘土塊」『余附遺跡発掘調査報告書』 鹿角市県文化振興事業団埋蔵文化財センター

6 石器・石製品(第86図、写真図版69)

石鏃3点、砥石?1点、容器?1点出土し、全点掲載した。

石鏃について。3は、グリッドで取り上げられているが、日付から、RE019堅穴建物跡付近の黒土(Ⅱ層)を取り上げていた時期に相当し、3点はほぼ同じ場所から出土していると言って良い。ただし、石質は同じでも色調ははっきり異なっており、2は黒っぽい。

“砥石?”としたものは、あまりそれらしくない石質ではあるが、溝状の使用痕跡から判断した。平安時代の可能性が高い。

“容器?”としたものは、複数の陶磁器の研究者から「石製」と指摘されたが、石質鑑定者から「石でない」とされてしまったものである。割口を見ると緻密・均質であり、石の可能性が高く、泥岩かその仲間かと思われるが、断面形から容器状を呈するように思われるが、“正体”は定かでない。表面にスス状の物質が付着しており、黒ずんでいる。

7 木製品(第84図、写真図版70~72)

陽物形? 1点、曲物3点、板材など3点出土し、全点掲載した。ただし、図化は比較的残りの良い3点にとどめた。全て井戸の底付近からの出土である。材質から当然のことではあるが、今回調査した井戸跡は、秋の稲刈り後屢に水が流れなくなる頃には、ほぼ完全に干上がってしまうため、少なくとも近年は常時冠水していたわけではなく、全体的に残りが悪い。なお、樹種鑑定の詳細は、第V章を参照していただきたい。

1は、5の中に含まれていたものである。3は、図化、撮影後保存処理に出した際に、内側に重なっていた上段部分がくっつき、若干形が変わっている。7は、葉が含まれているとして井戸底付近を土ごと取り上げたものだが、室内に帰って見ると葉は含まれておらず、この木片だけがかった。

8 鉄製品(第85図、写真図版72~73)

10点出土した。内訳は、釘2点、刀子3点?、刀1点、鎌1点、不明3点(容器状、鉄鋌状、鉄滓?)で、全て掲載した(他に、近現代と判断して割愛したものが数点あった)。出土位置から判断して、今回の出土遺物の中で最も居館跡および集落の中心時期に近いころのものである可能性が高い。

9は、類例を見つけれないでいたが、「青森県史 資料編 考古4 中世・近世」(青森県史編さん考古部会編 2003)に似たものを見つけたので指摘しておく(pp.607~610)。「鉄鋌状鉄器」の名が与えられた青森県浪岡城出土品は15~16世紀の資料と推定され、本遺跡跡とも符合し、岩手県盛岡城跡でも発見されていると言う(p.609)。10は、「鉄滓ではないか」との指摘を受け、メタル・チェッカーを影れている部分に当ててみたところ磁着は弱かった。

9 銭貨(第86図、写真図版70)

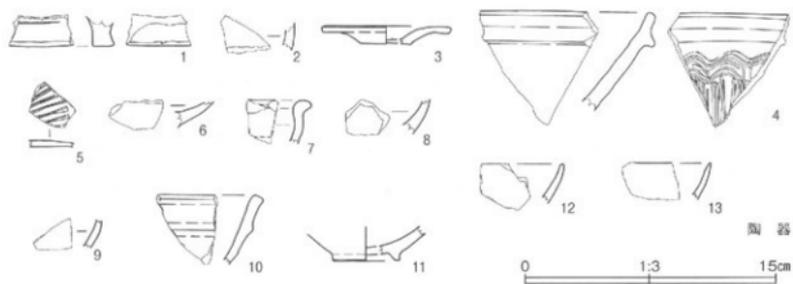
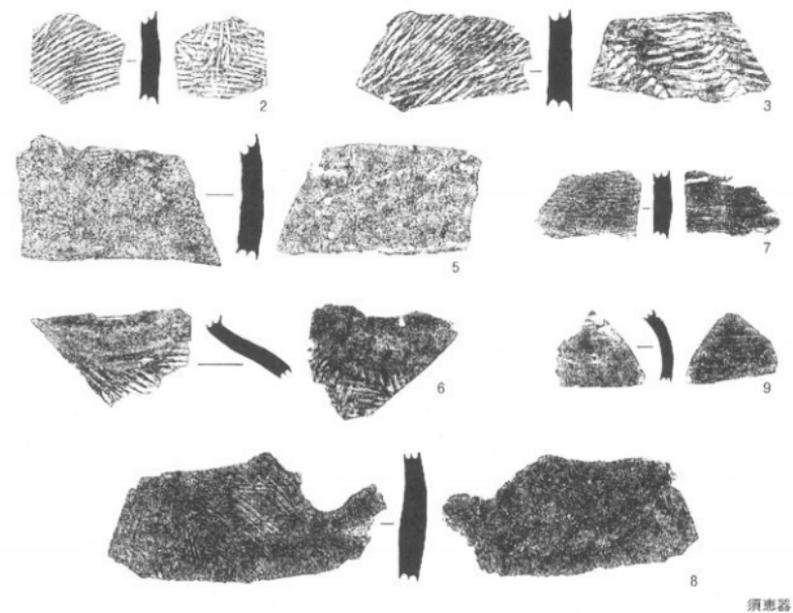
1点のみ、洪武通寶のみの出土である。堅穴建物跡からの出土で、数少ない、同遺標、集落跡の時期推定の材料となりうる。

参考文献

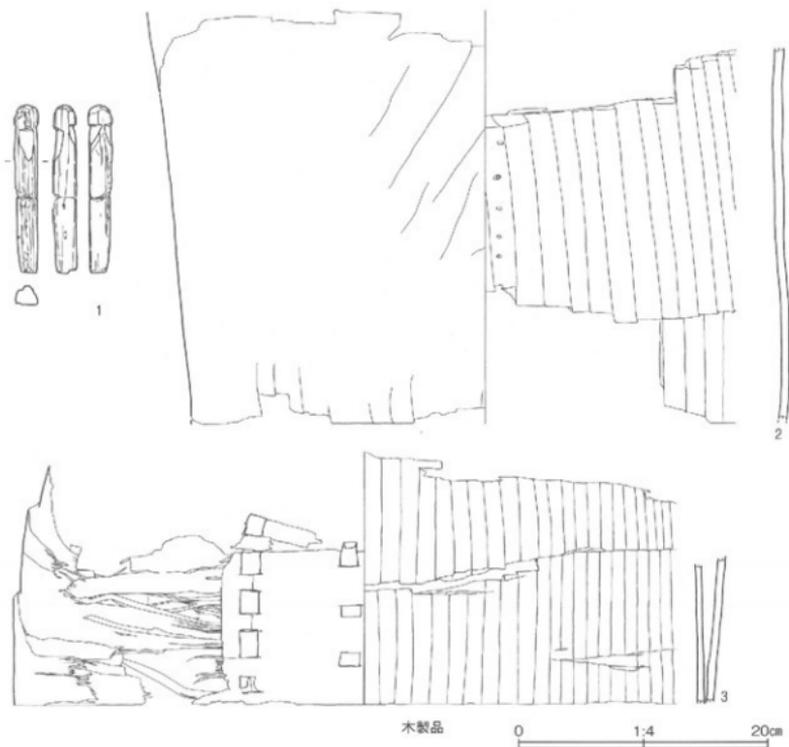
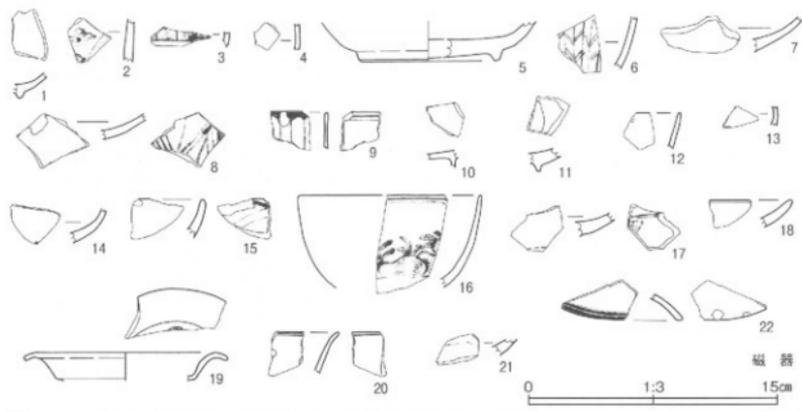
永井久夫男 1996 『日本出土銭総覧 1996年版』兵庫歴史学会

10 その他自然遺物

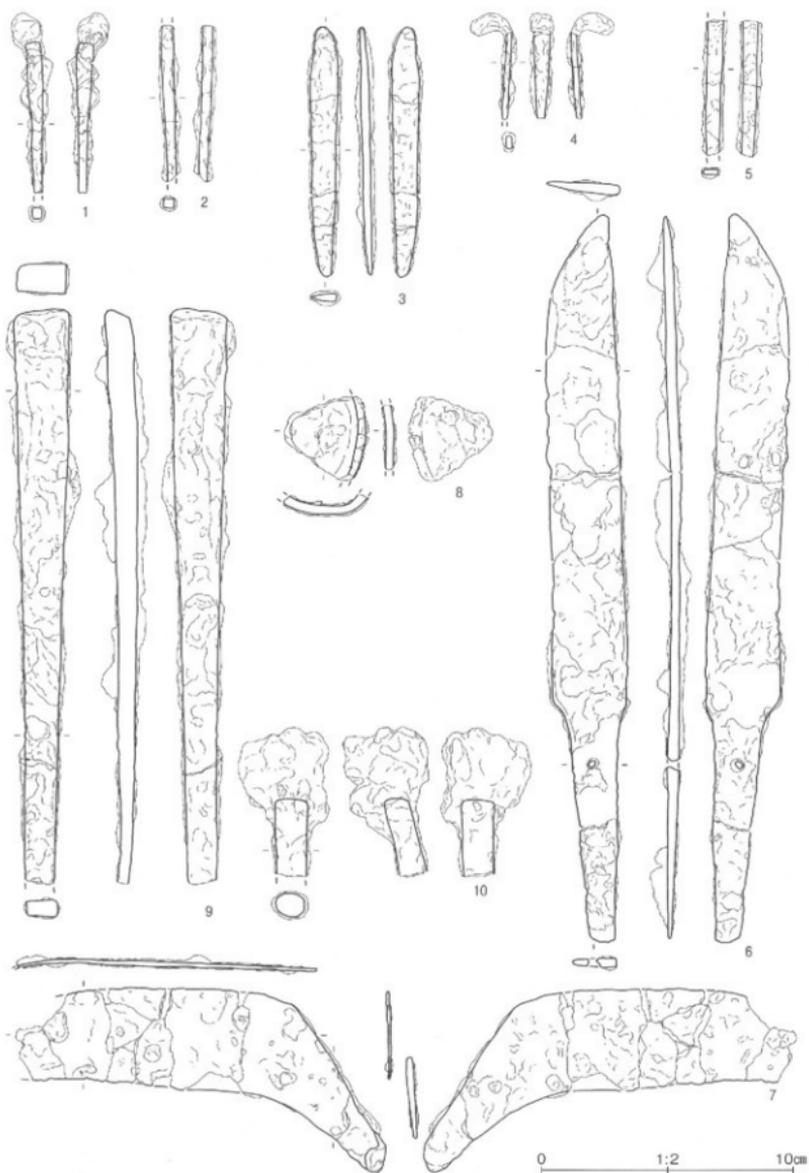
R I 024井戸跡ではホオノキの種、R I 047井戸跡から桃の種?出土。遺構から出土した炭化材の樹種は、各遺構で記しているが、R E 015堅穴建物跡・4層上面から出土した炭化材はクリ、R E 019堅穴建物跡No. 1炭化物はクリ、No. 2炭化物もクリ、No. 3炭化物はクリ、R I 014井戸跡・2層から出土したのはアカマツ、R D 124土坑・最下層から出土した炭化材はクリ、R G 042溝跡北端検出面で出土したのはアカマツ。なお、親指以下の微量な炭化材については取り上げてきていない。



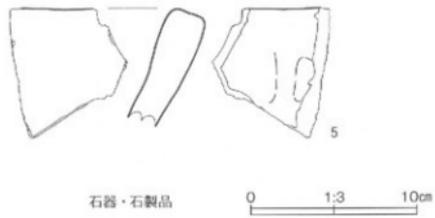
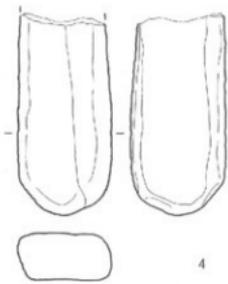
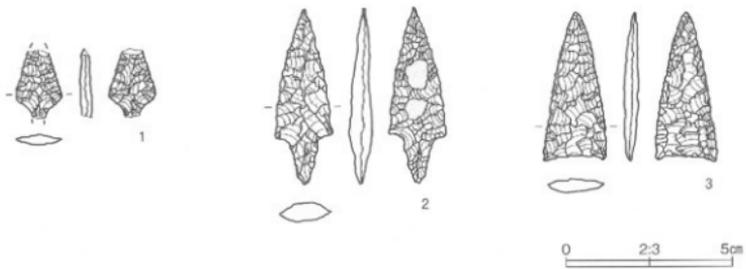
第83図 土師器、土師質土器、須惠器、陶器



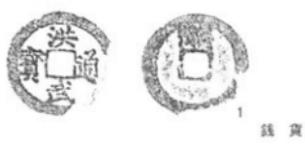
第84回 磁器、木製品



第85図 鉄製品



石器・石製品



錢貨



第86図 石器、石製品、錢貨

VI 考 察

今回の調査で主体となる中近世について若干考察することにした。

1 掘立柱建物跡

中央区の柱穴群から掘立柱建物25棟、柱穴列3条を想定した。使用した柱穴は199個で(検出総数の25.0%)、多くの柱穴を余してしまった。したがって、抽出できなかった掘立柱建物が未だ相当数存在している可能性がある。かかる状態で検出建物の比較検討を加えることに妥当性があるものか疑問ではあるが、現時点での見解として建物属性およびその配置・変遷について一応のまとめを行うこととする。なお、R B042については近代以降のものとなし、対象から除外する。

検出した建物の平面形態について次の5類型に分ける。

I類 梁行2間以上のもの

- I-1類 梁行2間以上で、間仕切柱を有するもの 2棟：R B020・032
- I-2類 梁行2間以上で、間仕切柱がないもの 5棟：R B023・027・030・035・041
- I-3類 梁行2間以上で、総柱のもの 1棟：R B033

II類 梁行1間のもの

- II-1類 梁間に柱穴がないもの。 9棟：R B022・024~026・034・036・038・043・044
- II-2類 片側梁間にのみ柱穴あるもの。 7棟：R B021・028・029・031・037・039・040

上の分類によれば、今回調査における掘立柱建物の2/3は梁行1間の側柱建物ということになる。

底はR B020・021・027・029・032・036に見られる。

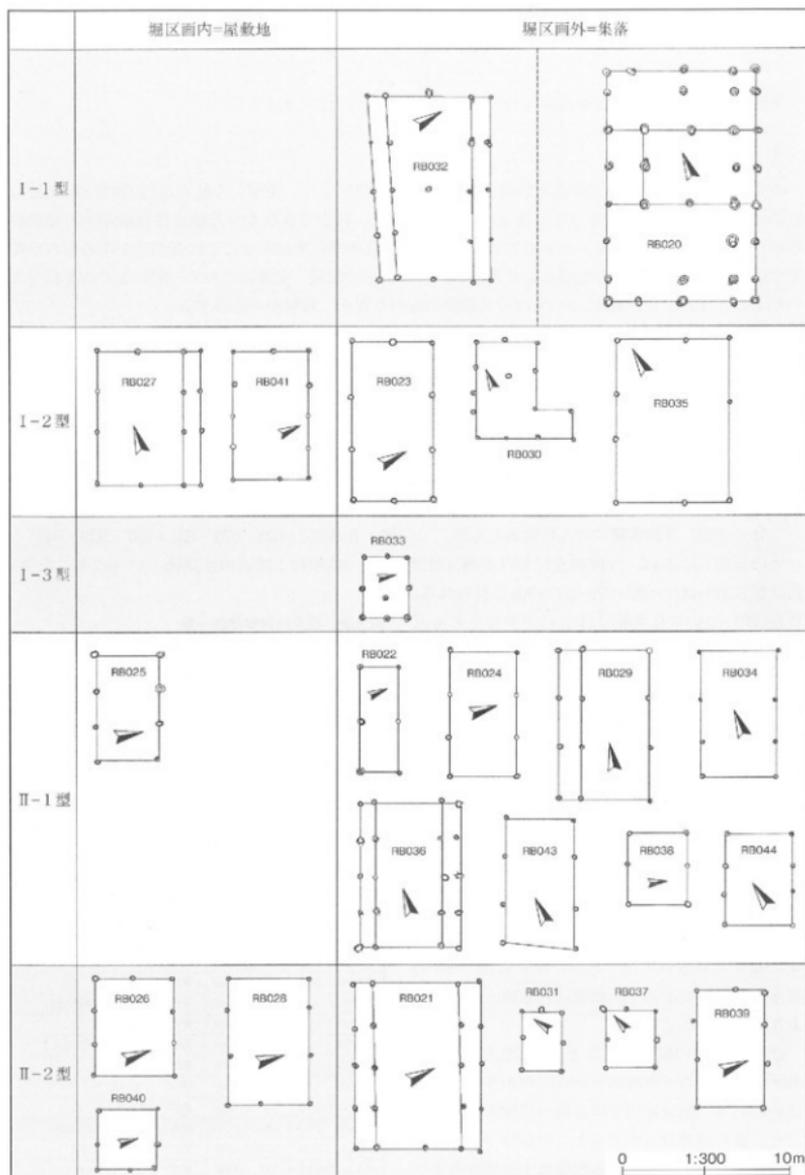
R B020については明確ではないが少なくとも五間一面(五間三面?)、他はR B027・029が三間一面、R B021・032・036が四間二面である。建物面積を見ると、最大23.3坪(R B020)、最小2.7坪(R B031)で、その分布は20坪超4棟(R B020・021・032・035)、10坪以上20坪未満8棟、10坪未満13棟となっている。

平面形式II類の側柱建物は一般に付属屋に多い形態であるが、建物の桁行軸線については、個々の建物でズレはあるが、北東-南西をとるもの、南東-北西をとるもの、の2種が見られる。前者はややバラついているが東 20° ~ 30° 傾き、北北東に軸をとるものが主である。後者は 70° ~ 80° の傾きを示すものが主で、軸線は西北西~西の間でままとまっている。

掘立柱建物の配置を見ると、R G015による方形区画内と、西~南西部という二つのまとまりが認められる。掘区画内では6棟の建物を検出しており、前回調査分を含めるとこの部分で17棟が確認されたこととなる。建物配置は中央部から東へ

第3表 掘立柱建築物跡一覧

遺構名	桁行尺	梁行尺	面積坪	傾主軸	分類	備 考
R B020	46.5	18.0	23.29	東23°	I-1	西面側に庇
R B021	34.0	24.5	23.17	西66°	II-2	四間二面
R B022	21.0	7.5	5.25	西69°	II-1	
R B023	32.0	16.0	14.28	西92°	I-2	
R B024	25.5	13.0	9.22	西73°	II-1	壁ともなう?
R B025	21.0	12.0	7.01	西81°	II-1	
R B026	19.5	15.5	8.42	西71°	II-2	
R B027	27.0	16.5	15.02	東18°	I-2	東面庇
R B028	25.5	16.0	11.35	西75°	II-2	壁ともなう?
R B029	30.0	13.5	15.03	東10°	II-1	西面庇
R B030	19.5	12.0	7.68	東23°	I-2?	南側に樋出部
R B031	12.0	8.0	2.67	東55°	II-2	
R B032	37.5	24.0	23.99	西61°	I-1	頂み。四間二面
R B033	12.5	9.0	3.13	西77°	I-3	
R B034	25.5	14.5	10.29	東20°	II-1	
R B035	33.0	22.5	20.66	東29°	I-2	
R B036	29.0	13.0	16.13	東18°	II-1	四間二面
R B037	11.5	10.0	3.20	東42°	II-2	
R B038	14.5	12.0	4.84	西85°	II-1	壁ともなう?
R B039	23.5	13.0	8.50	西69°	II-2	
R B040	12.0	11.5	3.84	西74°	II-2	
R B041	26.0	15.0	10.85	西67°	I-2?	
R B042	20.0	19.8	11.02	東22°?		近代以降
R B043	26.5	13.5	9.85	東24°	II-1	13次
R B044	18.5	13.0	6.69	東32°	II-1	13次



第87図 獨立柱建物形態分類

と偏る傾向を示し、西側では掘立柱建物は検出されず、柱穴自体も疎らな状態であった。建物屋敷地の使われ方の違いが反映しているのであろうが、具体的にこの部分が何に使われた場なのか不明である。一方、中央から東側では複数の掘立柱建物が重複しており、数段階の変遷が想定される。前回調査報告では、堀内部の建物についてその主軸線と規模・配置により、居館成立以前の1～3期、環濠屋敷(居館)が成立・機能した4～6期、という変遷を想定している(杉沢2008)。今回調査分については、堀に切られているR B024が1～3期のいずれかに該当することは確かであるが、それ以外の建物については判断材料が少ないためあえて段階分けしなかった。一方、方形区画＝屋敷地の外側では、概ね基点7-8-10-2を結んだ範囲に掘立柱建物14棟が配置されている。この地区には堅穴建物・井戸等も掘立柱建物と重なり合って分布しており、堀区画内と同様、数時期の変遷が存在している。規模や構造から見て居住施設と推測されるのは5棟で、屈曲する溝を挟んで、東側のR B020・021、西側のR B032・035・036の二群に分かれる。この二群建物間の前後関係については判断材料がないため不明であるが、それぞれの群内では新旧関係が存在することが明らかである。前者についてはR B020がおそらく近世まで下るものと推測されることから、R B021(およびR B022)→R B020と変遷するものと捉えられる。一方、後者については前後関係ははっきりしないが、少なくともR B035とR B032・036は共存しないことから、最低2時期の変遷が存在するはずである。これら主屋建物の所属時期は、近世のR B020を除いて、他の4棟は中世に位置づけられるものと捉えれば、中世期に少なくとも2～3期(具体的新旧は不明)→近世(R B020)、という変遷が想定される。環濠屋敷と西側の掘立柱建物群の関連性については、西側の建物群が環濠屋敷の土壕により統率された「在家」(半独立農民)の住居であると想定できるが、その中には環濠屋敷に先行する建物も含まれていると思われる。



第88図 掘立柱建物配置

とまれ環濠屋敷とそれにとまう(あるいは先行・後続する)農村集落の具体については、主たる居住施設である掘立柱建物跡のみならず、工房・物置と思われる堅穴建物、井戸などとの関連を含めて検討することが必要である。

2 中近世の矢盛遺跡

(a) 矢盛遺跡の解釈

掘立柱建物以外の中近世の遺構については、第IV章各遺構冒頭でまとめた以上の所見はほとんどない。次は、時期ごとの遺構の構成を考えるのが手順だが、出土遺物が少なく、また重複等で新旧の相対的時期が確定した遺構も少ない。構成の基本となる遺構の掘立柱建物跡も、前述のように、復元できたのは検出柱穴数の25%にとどまり、その変遷はほとんど捉えられていない。

こうした事情は、隣接する前岡調査でも同様だが、それでも堀内部について六期の変遷を推測し、1～3期までは居館がなく、4～6期に築かれたと考えている(杉沢 2008:p.61)。遺跡の時期については、遺構外から出土した16世紀頃の中国産染付皿と瀬戸美濃産陶器碗から、16世紀を主体とする(同:p.60)。ただし、C14年代測定によって、土坑から出土した炭粒が13世紀末～14世紀後半、井戸跡から出土した木片が12世紀頃という結果が出ていることから、もっと広く捉えるべきかと考えている(p.63)。おそらく、出土遺物、特に陶磁器が少ないので、遺跡の時期を占い方に持っていった方が「整合的」との判断もあると思われる。しかし、今回の調査では、その構成等から近世の可能性が高い掘立柱建物跡(RB020)も確認されている。軸方向は他の中世と推測されるものほとんどと変わらないことから、この集落とは無関係な孤立的な存在とすることもできない。

注意されるのは、その位置である。遺跡の南限とされる堀のすぐ北側に面しているのである。ここで思い出したのが、野村一寿氏が注目した中世遺跡の立地である(野村 1998)。野村氏は、長野県松本市内を中心とした当該期の遺跡が、地形的に高い、低い場所の繰り返して移動していることを明らかにし、これを「狭い範囲で微起伏状がいくつもあるところでは、地下水位の上下運動に従って住む場所を高め・低みと移動しているのではないか」(同:p.545)と推定した。そして、「16世紀前半か半ばあたりで、今まで湿地帯だったところが初めて居住域になったところがあります」、「16世紀半ば以降はさらに地下水位が下がり、新たに出現した広い低みを利用して行ったんじゃないかと思います」(同:p.546)と述べている。水田耕作、井戸にとって、地下水位の問題は重要である。当然水位の高さは意識して立地していたと思われる。

ただし、松本市内の傾向が、矢盛遺跡にどの程度当てはまるかは不明である。気候的には、西暦1296～1900年(ほぼ室町～明治時代)は、大きく「小水期」と捉えられているようだ(阪川 1995)。寒冷期と一括されてしまうが、降水あるいは地下水位には細かい変化があったのだろう。阪川豊氏が示した縄文時代早期から現代までの古気温曲線(同:図1)で注目されるのは、江戸時代後期の変化である。長期的には「小水期」と一括されているが、このころ短期間の温暖期も認められるのである。矢盛遺跡周辺の江戸時代後半の集落は、段丘上に見られ、現在の集落と重なるようだが、これは、この短期間の温暖期に水位が上がり、低地は洪水などにさらされる危険が出てきたためではないだろうか。今のところ単なる憶測でしかないが、16世紀から17世紀頃までは新しくなるほど低い方に建物が進出しているという仮説が得られる。ただし、近世とされたRB020掘立柱建物跡があった辺りは、9月17日の記録的大雨(第三章参照)の後でも、比較的早い段階で干上がっており、鳥状の微高地であった可能性もあるので、単純に堀に近い方が低いとするわけにはいかないが、また、堅穴建物の一部が近世まで残る可能性は、寛永通宝(寛永)が埋土(埋め戻されている)から出土した岩手県田代法寺町五塚Ⅱ遺跡のⅢI13住居跡例から示唆される(岩手県文化振興事業団 1985)。

もちろん本集落が中世にも存在していたことは、洪武通宝等の遺物などからも推測できる。また、残存状況が悪くて単なる想像でしかないが、堀跡の西側に溝による方形区画があった可能性も窺われる(第12図)。このような点からも、集落跡は比較的時期幅があったかと思われるが、裏付けがない。今回調査の一つの特徴として、井戸跡の多さを指摘できるが、その浅さが気になる。現在では湧水ぎりぎりの、検出面から約1.5m程度の深さしかなく、崩れやすい砂礫層のため、長期間の使用に耐えられたか疑問である。したがって、その数から想像されるほどの期間集落が存続していたかどうか。

この集落の疑問点は、まだある。農村であったはずなのに、水田を至上とする村落構成を採っているようには見えないのである。地形から考えると、堀の南側の方が低そうなので、そちらに水田が広がっていたものと思うが、そうすると、堰を必ず渡らなければ水田には行けない。一見、方形の堀の南東から堰に向かって堀が伸びているように見えるが(第89図)、これは両側を側溝に挟まれた道であり、堰と方形の堀とは通じておらず、もちろん流水はなく、土層断面からは常時滞水していたかも疑問で、雨のあとにたまる程度ではなかったか。農業とは関係のない堀であることは確かであろう。

方形居館から堰に向かって道が続くことから、堰を意識していることは確実である。そして、集落跡も堀に沿って東西に延び、2007年度の盛岡市教育委員会の調査結果から、第89図の南北に延びる現在の道路を超えて、さらに西側に集落跡が広がっていることがわかった。このような集落跡は、農村ではなく、むしろ町に近く(佐久間 1994)、鎌倉時代における東国武士の堀ノ内と村落の位置関係に通じるところもある(海津 1990)。いずれにしろ“流通”を前提とした村落構成と言える。葛らしい遺構がない点も不思議である。どこかに台太郎遺跡のような共同墓地が存在する可能性が高いが(第II章参照)、台太郎遺跡のそれは、14~15世紀が中心と考えられている(杉沢 2003)。

(b) 地域の中で(第II章参照)

矢盛遺跡から約1km北東にある台太郎遺跡でも、環濠を持つ屋敷跡など中世の遺構が多く発見されているが、14~15世紀を主体とし、より古いようである(杉沢 2003)。約600m離れる向中野館遺跡は、中世城館であり、16世紀頃に機能していたと考えられ(杉沢 2008: p.61)、矢盛遺跡と重なる。杉沢昭太郎氏は、本遺跡の居館との差を階層差と捉え、矢盛遺跡は村落領主、向中野館はその上と考えている(杉沢 2008: p.62)。向中野館は、小規模ながら立派な堀と土塁を持つが、平地にありながら遺構や遺物など居住痕跡をほとんど持たない不思議な館である。

参考文献

- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1985 『15世紀遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第94集
- 海津 朗 1990 『Ⅲ』: 東国・九州の郷と村『日本村落史講座第2巻 景観1〔原始・古代・中世〕』雄山閣
- 阪口 典 1995 『総論1 過去1万3000年間の気候の変化と人間の歴史』『講座「文明と環境」6 歴史と気候』朝倉書店
- 佐久間貴士 1994 『発掘された中世の村と町』『岩波講座日本通史第9巻 中世3』岩波書店
- 杉沢昭太郎 2003 『中世の盛岡市向中野』『紀要』X X II 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
2008 『IV 6 まとめ』『矢盛遺跡第10・11次・向中野館遺跡第9次・台太郎遺跡第58次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第516集
- 野村一寿 1998 『掘り出された中世から』『信濃』第50巻第8号 信濃史学会



第89図 中央区の調査結果と現在の地形 (S=1/2,000)

Ⅶ ま と め

(a) 今回の調査のまとめ

- ・今回の調査区は、最北区、北北区、北南区、中央区、南区に分かれる(第4図)。最北区は遺跡の北端、中央区南端と南区は、南端に位置し、最北区と南区は飛び地で過年度までの調査の残りである。
- ・遺跡は、複雑に入り組む自然堤防状の段丘とその周囲の低地からなっており、最北区、南区はほぼ低地に相当する。北北区と北南区は、その両方、中央区は、北側に東西に連なる比較的大きな段丘があるため、北端は段丘上に位置するが、大部分は低地である。
- ・最北区では、陥し穴状遺構(RD141土坑)が1基検出されているが、遺物は出土していない。北北区と南区では、遺構は検出されていない。南区では、遺物も出土していない。北南区では、時期不明の土坑(RD117土坑)が1基検出されている。
- ・中央区は、今回の主体となる調査区で、中近世の居館跡および集落跡が検出され、遺跡の南限である塚に沿う(第89図)。
- ・第89図には示していないが、この集落跡は、南北に延びる現在の道路を超えてさらに西側まで広がることが、盛岡市教育委員会の調査で判明している(2007年調査)。
- ・中央区で検出された遺構は、縄文時代のフラスコ状土坑3基、平安時代の溝跡1条、中近世の堅穴建物跡16棟、カマド状遺構5基、焼土2基、掘立建物跡17棟、柱穴85個、井戸跡42基、土坑17基、堀跡2条、溝跡12条である。土坑、溝跡には平安時代のものが含まれている可能性がある。
- ・RE013堅穴建物跡床面からは、刀と刀子、RI019井戸跡底からは、陽物形木製品が出土している。井戸跡には、直径4mを超えるものがあり、曲げ物や井戸枠が出土したものもある。
- ・今回の調査で出土した遺物は、非常に少なく100個に満たない。出土遺物は、土師器21点、土師質土器1点、須恵器10点、陶器13点、磁器25点、焼粘土塊3点、石器・石製品5点(石鏃3、砥石?1、容器?1)、木製品7点(陽物形?1、曲物3、板材など3)、鉄製品10点(釘2、刀子3?、刀1、鎌1、不明3=容器状、鉄錠状、鉄滓?)、銭貨1点(洪武通寶)である。遺構は、中世の終わり～近世の初め(16世紀中心)を主体とすると考えられるが、この時期に相当する物は少なく、木製品と鉄製品と銭貨のみである(石製容器も?)。石臼など“生活”を窺わせる遺物は出土していない。

(b) 遺跡の時代別変遷

・縄文時代

最北区で陥し穴状遺構、中央区でフラスコ状土坑が検出され、石鏃も出土し、当時狩猟採集の場であった可能性が高い。陥し穴は、規模の大きな旧河道に沿って構築され、細谷地遺跡に続く。細谷地、台太郎、本宮熊堂A遺跡で集落跡が発見されている(第II章参照)。

・平安時代

今回の調査では中央区の溝跡のみだが、過去の調査や出土遺物から、段丘上を中心に集落が営まれていたらしい。ただし、周囲の細谷地遺跡ほどは大規模でなかったようである(第II章参照)。

・中近世

16世紀を中心に、南端の塚に沿った低地に集落が営まれ、ある時点で東端に塚を巡らせた村落領主?の居館が作られた。本遺跡から約600mと近距離にある向中野館という城館も(第II章参照)、ほぼ同じところに機能していたらしい(第VI章参照)。

VII 自然科学的分析

1 矢盛遺跡第12次調査区で検出された火山灰の分析調査

パリオ・サーヴェイ株式会社

はじめに

岩手県盛岡市矢盛遺跡は、北上川支流の半石川右岸に分布する低位段丘上に立地する。これまでの発掘調査では、遺跡の北部で多数の縄文時代の陥穴や近世の集落跡が確認され、中央部では平安時代の竪穴住居跡が検出されている。今回発掘調査が行われた第12次調査区では、中世とされる竪穴建物跡や戦国～江戸時代とされる堀や掘立柱建物跡などの遺構が検出され、同時期の陶磁器片や縄文時代の鉄、平安時代の土器片などの遺物が出土している。

今回の分析調査では、本調査区で検出された遺構のうち、溝跡の覆土で火山灰（テフラ）とされる堆積物が認められたことから、その碎屑物の性状を明らかにする。テフラである場合には、噴出年代の明らかにされている指標テフラとの対比を行い、溝跡の年代に関わる資料を作成する。

1 試料

試料は、本遺跡第12次調査区の北東隅付近で検出された1号溝の覆土より採取された土壌1点である。試料の採取された断面では、1号溝の深さは検出面から約45cmあり、覆土の上半部は2層、下半部は2b層とされている。火山灰とされた試料は、2b層上面より採取された。なお、溝に伴う遺物等は検出されていないが、発掘調査所見では中世～近世の遺構である可能性があるとされている。

試料の外見は、黒色を呈する黒ボク土中に褐灰～灰黄色を呈する砂質シルト塊の小片（最大径5mm程度）が混在した状態である。

2 分析方法

試料は、その外見上の特徴から、火山ガラス質テフラのブロックと考えられるため、ここでは火山ガラス比を求め、さらに火山ガラスについては屈折率の測定を行う。処理手順は以下の通りである。試料約40gに水を加え超音波洗浄装置により分散、250メッシュの分析篩を用いて水洗し、粒径1/16mm以下の粒子を除去する。乾燥の後、篩別し、得られた粒径1/4mm-1/8mmの砂分をポリタングステン酸ナトリウム（比重約2.96に調整）により重液分離、軽鉱物分における砂粒を250粒数え、その中の火山ガラスの量比を求める。火山ガラスは、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の3タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破砕片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた繊維束状のものとす。

また、屈折率の測定は、古澤(1995)のMAIOTを使用した温度変化法を用いた。

3 結果

分析結果を表1、図1に示す。試料には、約40%の火山ガラスが含まれる。火山ガラスの形態の内訳は、軽石型がほとんどを占め、微量のバブル型および中間型が混在する。軽石型の中では、塊状が多く、繊維束状も少量混在する。なお、分析処理時に篩別した中粒粒径以上の碎屑物の中には、径1mm程

度の白色軽石が多量含まれていた。

火山ガラスの屈折率測定結果を図2に示す。レンジは $n_{1.504} \sim 1.508$ 、モードは $n_{1.505} \sim 1.507$ である。

4 考 察

火山ガラス比分析の結果により、褐灰～灰黄色を呈する砂質シルト塊の小片は、細粒の軽石型火山ガラスを主体とするテフラであると考えられる。上述した火山ガラスの形態の特徴および本遺跡の地理的位置と、これまでに研究された東北地方におけるテフラの産状(町田ほか(1981,1984), Arai et al.(1986), 町田・新井(2003)など)との比較から、検出されたテフラは十和田aテフラ(To-a)の降下堆積物に由来すると思われる。To-aは、平安時代に十和田カルデラから噴出したテフラであり、給源周辺では火砕流堆積物と降下軽石からなるテフラとして、火砕流の及ばなかった地域では軽石質テフラとして、さらに給源から離れた地域では細粒の火山ガラス質テフラとして、東北地方のはほぼ全域で確認されている(町田ほか,1981)。前述したように、試料には細粒ではあるが軽石が多量含まれていたことから、本遺跡の位置する盛岡市付近は、To-aが軽石質テフラとして分布する範囲に入っているといえる。また、町田ほか(1981)は、淡緑色・淡褐灰色を呈する $n_{1.502}$ 以下の低い屈折率の火山ガラスを主体とするTo-aの上部火山灰層は、南方へは広がらず十和田周辺とその東方地域に分布が限られるとしている。今回の試料では、屈折率測定結果から、低屈折率の火山ガラスは含まれていないことがわかる。なお、To-aの噴出年代については、早川・小山(1998)による詳細な調査によれば、西暦915年とされている。

発掘調査所見によれば、今回試料とした褐灰～灰黄色を呈する砂質シルト塊の小片は、溝の覆土2b層の上面付近で採取されているが、それよりも下位の覆土中への火山灰粒子の拡散も指摘されている。したがって現時点では、To-aが溝内に降下堆積したものか、周囲の土壌とともに溝内に再堆積したものかについては、検討の余地が残されており、溝の年代を10世紀以前と断定するには至らない。今後、溝周囲の土壌層および人為的攪乱の少ない調査区域外の土壌層におけるTo-aの産状を確認した上で、堆積過程を検討することが望まれる。

引用文献

- Arai, F., Machida, H., Okumura, K., Miyauchi, T., Soda, T., Yamagata, K. 1986, Catalog for late quaternary marker-tephras in Japan II - Tephras occurring in Northeast Honshu and Hokkaido -. Geographical reports of Tokyo Metropolitan University No.21, 223-250.
- 占澤 明, 1995, 火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別. 地質学雑誌, 101, 123-133.
- 早川由紀夫・小山真人, 1998, 日本海をはさんで10世紀に相次いで起こった二つの大噴火の年月日—十和田湖と白頭山—. 火山, 43, 403-407.
- 町田 洋・新井房夫, 2003, 新編 火山灰アトラス. 東京大学出版会, 336p.
- 町田 洋・新井房夫・森脇 広, 1981, 日本海を渡ってきたテフラ. 科学, 51, 562-569.
- 町田 洋・新井房夫・杉原重夫・小田静夫・遠藤邦彦, 1984, テフラと日本考古学—考古学研究と関連するテフラのカタログ—. 渡辺直経(編)古文化財に関する保存科学と人文・自然科学. 同朋舎, 865-928.

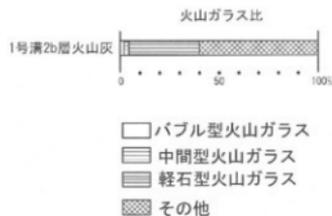


図1. 火山ガラス比

表1 火山ガラス比分析結果

試料名	バブル型火山ガラス	中間型火山ガラス	軽石型火山ガラス	その他	合計
1号溝2b層火山灰	5	6	90	149	250

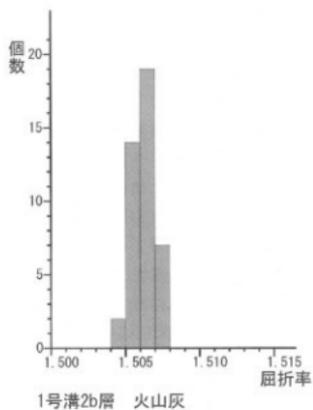
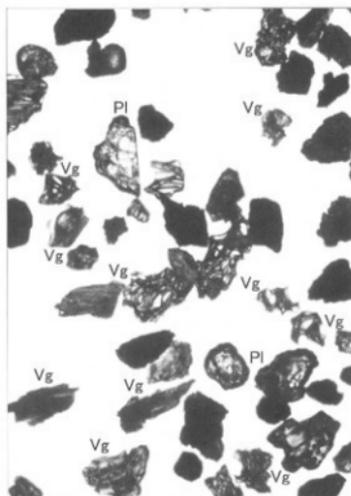


図2. 火山ガラスの屈折率測定結果

図版1 軽石・火山ガラ



1.To-aの軽石(1号溝2b層火山灰)



2.To-aの火山ガラス(1号溝2b層火山灰)

Vg:火山ガラス, Pl:斜長石.



2 矢盛遺跡より出土した木製品の樹種

吉川純子(古代の森研究所)

1 はじめに

矢盛遺跡は盛岡市の南西の小河川が入り込む台地上に位置する、中世の集落跡を主体とする遺跡である。本遺跡からは井戸跡が30基以上確認され、井戸内からは曲げ物や加工材が発見された。当時の木材利用を検討するためこれら木製品7点の樹種を調査した。木製品からは剃刀で横断面、放射断面、接線断面を採取し、ガムクロラールでプレバートを作成した。

2 同定結果と考察

同定結果を表1に示す。3分類群が確認され、スギが5点と最も多く、ほかにヤナギ属とコナラ節が確認された。曲げ物4点がスギで、板破片もスギであった。スギは東北で様々な用途に利用されており、曲げ物の出現とともに確認数上位を占める。近隣の向中野館遺跡でも中世の溝跡から出土した板材2点にスギが使われており、曲げ物や板の用材として一般的だったと考えられる。ヤナギ属は彫刻加工のある棒に使われており、河川沿いなどに普通に生育することから、ごく近隣で調達したとみられる。木片はコナラ節で、用途は不明であるが建築材や杭などに多用されることから、井戸構築材の一部あるいは土木材などの端材を井戸内に廃棄した可能性もある。

以下に同定された分類群の木材解剖学的記載を行う。

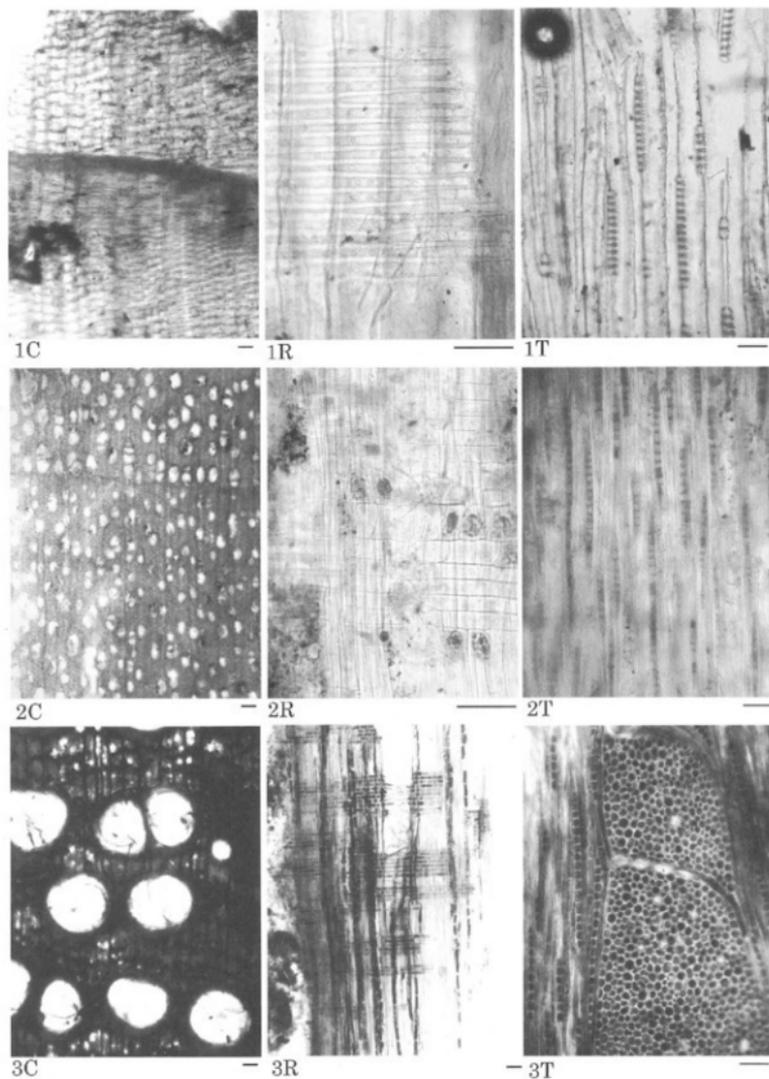
スギ (*Cryptomeria japonica* (Linn.fil.) D.Don) : 早材から晩材への移行は急で晩材部が厚い。分野壁孔はスギ型で横に長い楕円形となり、1分野に2~3個ある。

ヤナギ属 (*Salix*) : 年輪内に小さな管孔が単独ないし2、3個放射方向に複合して均一に分布する散孔材で、晩材部で管孔が小さくなる。道管放射組織間壁孔は中型のふりい状ではっきりしている。放射組織は単列で異性である。

コナラ属コナラ節 (*Quercus* sect. *Prinus*) 年輪のはじめに大きな道管が2-3列集合し、その後径が急減して波状に薄壁で角張った小管孔が配列する環孔材。道管の穿孔板は単一で放射組織は同性で単列と広放射組織があり、横断面で広放射組織が目立つ。

表1 矢盛遺跡出土製品の樹種

試料番号	遺構	種類	分類群
1	15号井戸	曲げ物側板	スギ
2	38号井戸	曲げ物側板	スギ
3	24号井戸	曲げ物破片	スギ
4	5号井戸	加工棒	ヤナギ属
5	5号井戸	板破片	スギ
6	3号井戸	曲げ物破片	スギ
7	38号井戸	木片	コナラ節



図版1 矢盛遺跡より出土した木製品の顕微鏡写真

1.スギ(No.2, 38号井戸 曲げ物側板) 2.ヤナギ属(No.4, 5号井戸 加工材)

3.コナラ節(No.7, 38号井戸 木片)

C:横断面、R:放射断面、T:接線断面、スケールは0.1mm

3 矢盛遺跡第12次調査区出土種実遺体の同定調査

バリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

岩手県盛岡市矢盛遺跡は、北上川支流の宇石川右岸に分布する低位段丘上に立地する。これまでの発掘調査により、遺跡の北部には多数の縄文時代の陥穴や近世の集落跡が確認され、中央部には平安時代の竪穴住居跡が検出されている。今回発掘調査行われた第12次調査区では、中世とされる竪穴建物跡や戦国～江戸時代とされる堀や掘立柱建物跡などの遺構が検出され、同時期の陶磁器片や縄文時代の石織、平安時代の土器片などの遺物が出土している。

今回の分析調査では、第12次調査区で検出された井戸跡から出土した種実遺体の同定を実施する。特にその採取時には、試料が井戸内の湧水面に浮いていたとのことであり、種類の確認とともに混入の可能性についても可能な限り検討を行う。

1 試料

試料は4号井戸から出土した種実1点で、袋に入っている。試料は調査時に水に浮いた状態のものを採取したとのことである。

2 分析方法

試料を双眼実体顕微鏡下で観察する。現生標本および石川(1994)、中山ほか(2000)等との対照から、種実の種類と部位を同定し、個数を数えて表示する。分析後は、種実を袋に戻し、容器に入れて返却する。

3 結果

落葉広葉樹のホオノキの種子に同定された。以下に、形態的特徴を記す。

・ホオノキ (*Magnolia obovata* Thunb.) モクレン科モクレン属

種子は、灰褐色、長さ9mm、幅7mm、厚さ3mm程度の萼でやや扁平な三角状広卵体。頂部は尖る。背面は丸く、腹面正中線上は幅広い縦溝と基部に臍がある。種皮は硬く、表面には浅く細い縦溝がある。

4 考察

ホオノキは北海道から九州の山地、丘陵に生育する落葉高木で、現在本遺跡が位置する岩手県盛岡市周辺域にも生育している種類であるところから、現生のもが混入したことも想定される。しかし、ホオノキは中～近世当時も本遺跡周辺域に生育していたものと考えられることから、当時の種実に由来するとしてもななら矛盾はない。なお、この種実は種皮が堅くて残りやすいことから、古くは鮮新世、更新世の地層などからも出土例が報告されている。上述の通り中～近世以降本遺跡周辺域では永続的に生育していた可能性があることから、後代混入したとした場合、その外観からいつ土壤中に混入したかは判断しにくい。この点については、本試料を対象とした年代測定の実施とともに、試料採取地点の地山土壌を含めた観察所見や有機物包含状況の調査等の検討が望まれる。

引用文献

石川茂雄 1994 原色日本植物種子写真図鑑, 石川茂雄図鑑刊行委員会, 328p.

中山至大・井之口希秀・南谷忠志 2000 日本植物種子図鑑, 東北大学出版会, 642p.

図版1 種実遺体



1. ホオノキ 種子(4号井戸)

写 真 图 版



遺跡遠景(東側上空から)



遺跡遠景(南側上空から)



最北区調査状況



RD141土坑



現地説明会(中央区)



調査前風景(東から)



調査後風景(中央～西側)



調査後風景(北側)



調査後風景(南側)



現地説明会(中央区)



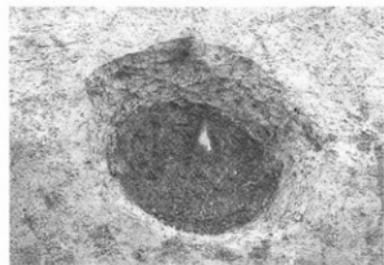
北区・南区通景(東から)



北南区(西から)



南区(東から)



RD117土坑

写真図版4 北南区・南区(1)



北南区 終了全景



南区 終了全景



中央区全景(工事開始後に南から)



調査前風景(南西から)

写真図版6 中央区全景・調査前風景



第一次検出面(東から)



水没後風景



積雪時風景



柱穴群①中央区西部(直上;下が北)



柱穴群②中央区東部(直上;右が北)

写真図版8 中央区柱穴群



RB020 掘立柱建物跡(北東から)



RB021 掘立柱建物跡(南東から)



RB022掘立柱建物跡(南東から)



RB023掘立柱建物跡(北西から)



RB024掘立柱建物跡(北西から)



8Bグリッド柱穴群(RB025~028・040, RC005:西から)



RB030掘立柱建物跡(南西から)



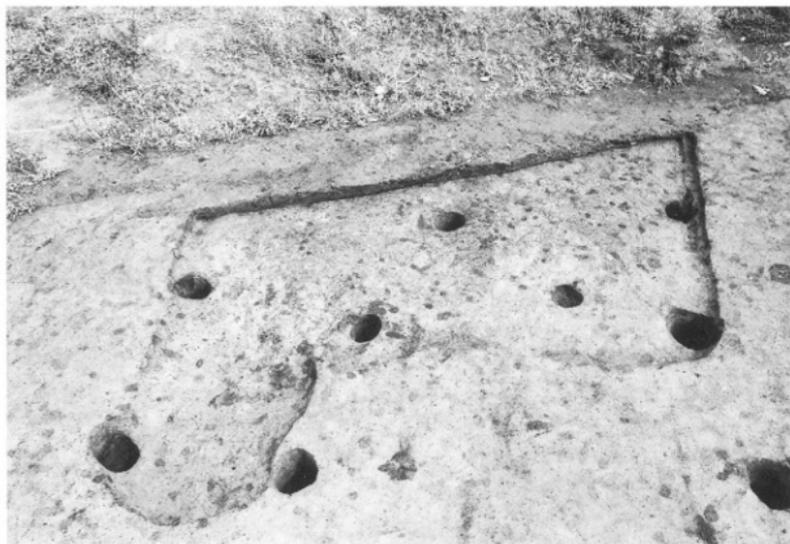
RB033掘立柱建物跡(南東から)



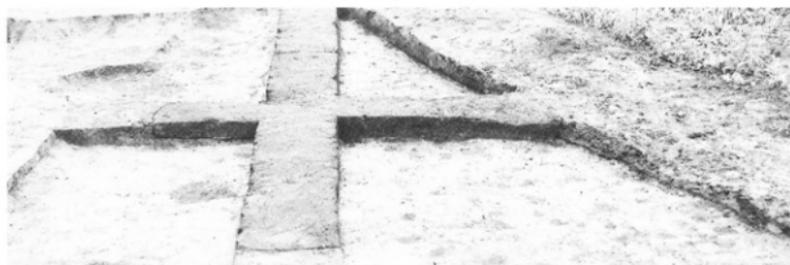
RB043掘立柱建物跡(南西から)



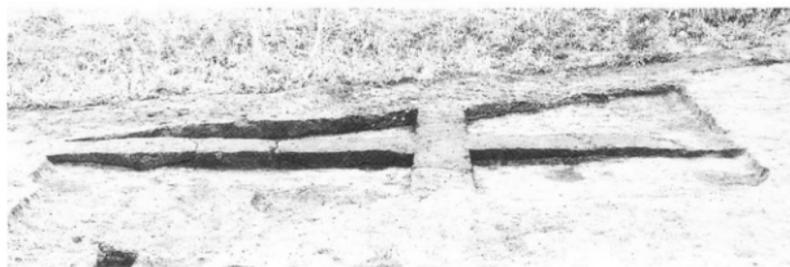
RB044掘立柱建物跡(東から)



RE005竪穴建物跡全景(南から)



覆土断面(南北)



覆土断面(東西)

写真図版14 RE005竪穴建物跡(1)



張り出し部覆土断面



調査状況



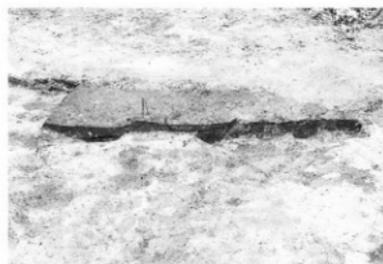
RE007竪穴建物跡全景(南から)



覆土断面(南北)



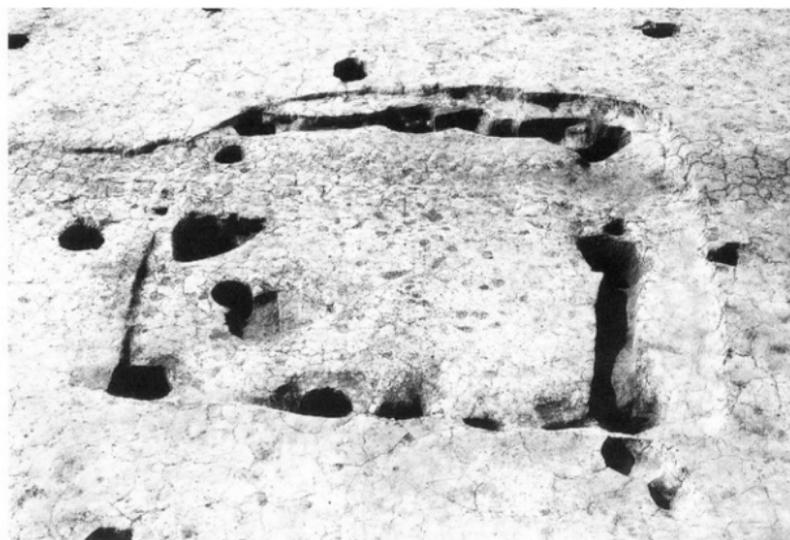
覆土断面(東西)



張り出し部覆土断面



調査状況

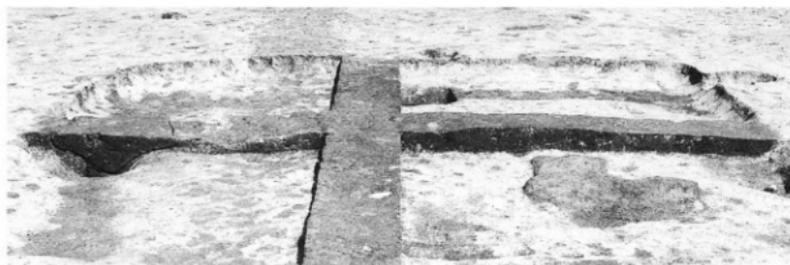


RE008竪穴建物跡全景(東から)

写真図版16 RE007(2)・RE008(1)竪穴建物跡



覆土断面(南北)



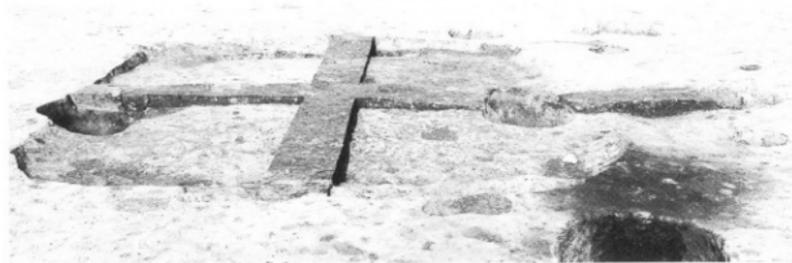
覆土断面(東西)



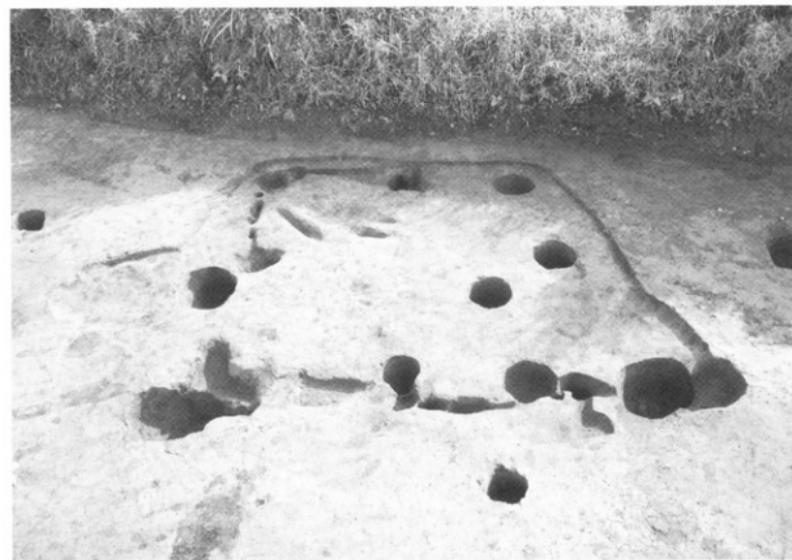
RE009竪穴建物跡全景(西から)



覆土断面(南北)



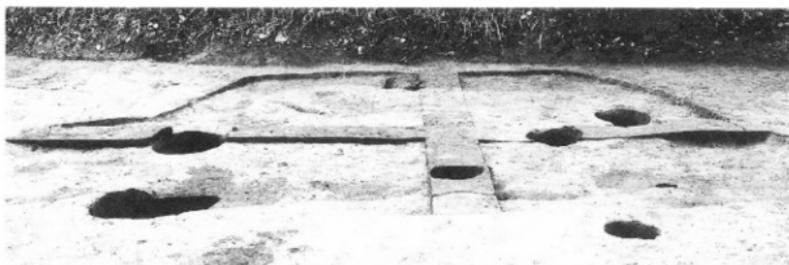
覆土断面(東西)



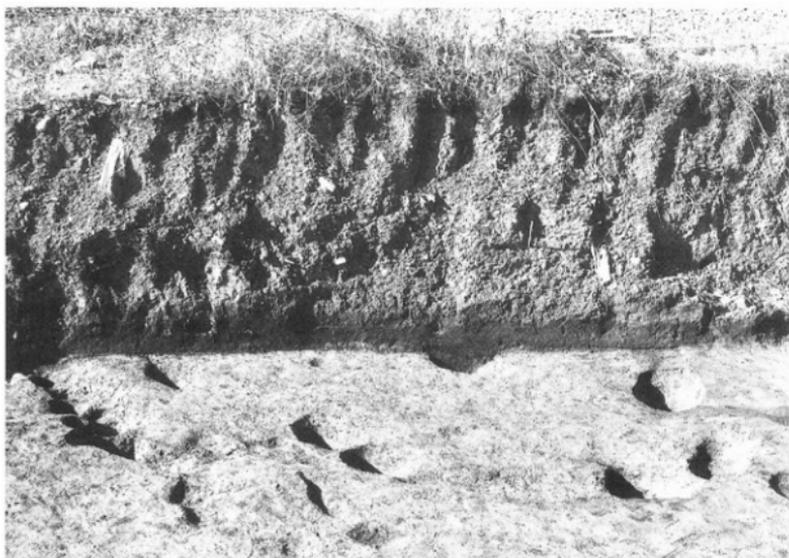
RE010竪穴建物跡全景(北から)



覆土断面(南北)



覆土断面(東西)



RE011竪穴建物跡全景(東から)



覆土断面



RE012竪穴建物跡全景(北から)



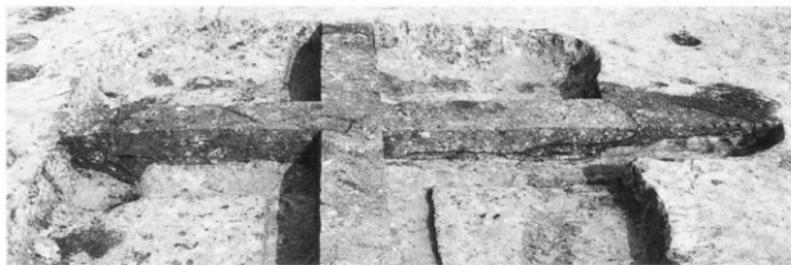
覆土断面



RE013竪穴建物跡全景(西から)



覆土断面(南北)



覆土断面(東西)



No 1 遺物出土状況



No 2 遺物出土状況



RE014 竪穴建物跡全景(西から)



竪土断面(南北)

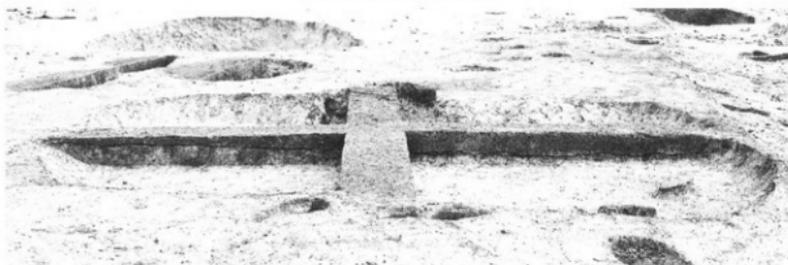
写真図版22 RE013(2)・RE014(1) 竪穴建物跡



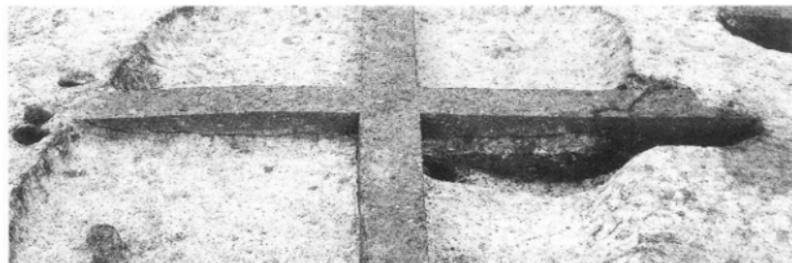
覆土断面(東西)



RE015竪穴建物跡全景(西から)



覆土断面(南北)



覆土断面(東西)

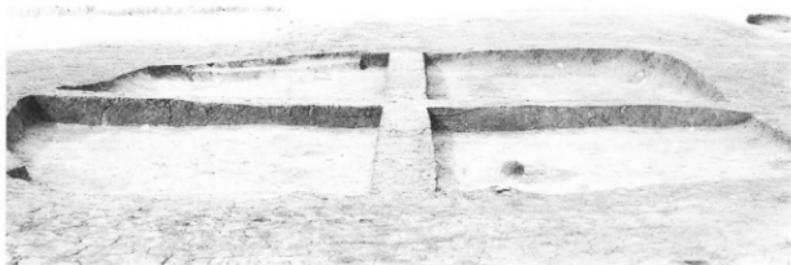


RE016竪穴建物跡全景(南から)

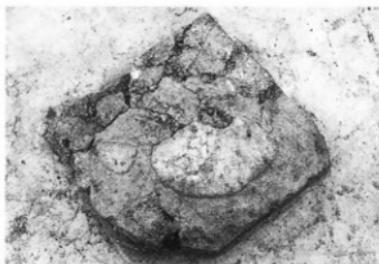


覆土断面(南北)

写真図版24 RE015(2)・RE016(1)竪穴建物跡



覆土断面(東西)



覆土中焼土



釘出土状況



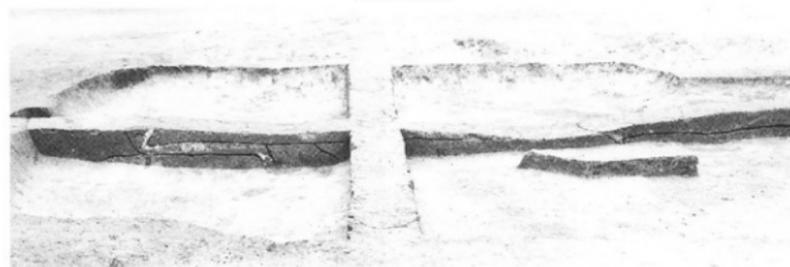
遺構周辺の地形



RE017竪穴建物跡全景(南から)



覆土断面(南北)



覆土断面(東西)

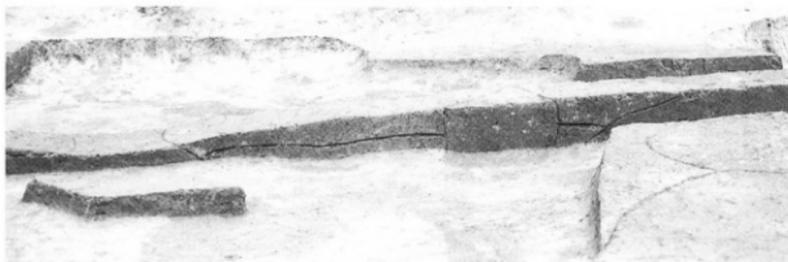
写真図版26 RE017竪穴建物跡(1)



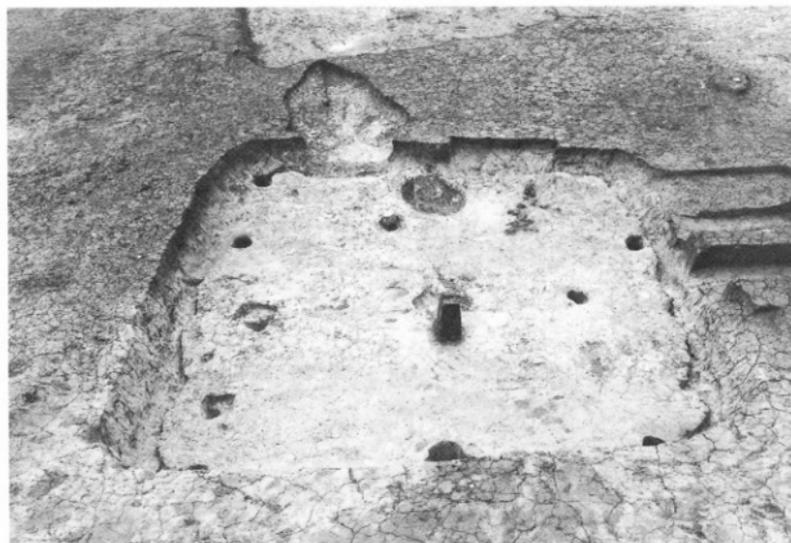
覆土中焼土



RE018竪穴建物跡全景(南から)



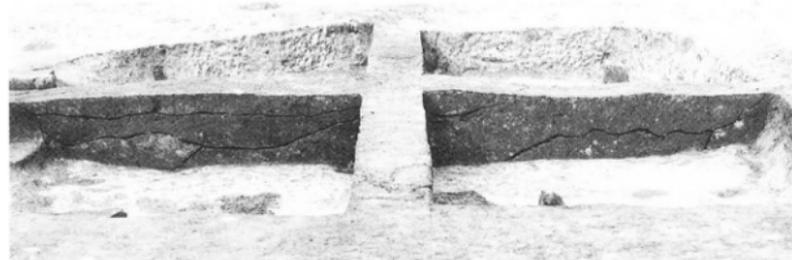
覆土断面



RE019竪穴建物跡全景(北から)

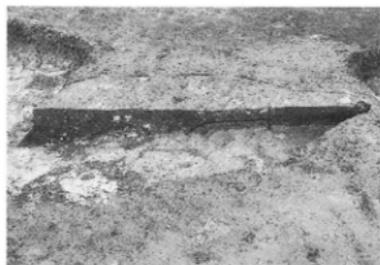


覆土断面(南北)



覆土断面(東西)

写真図版28 RE019竪穴建物跡(1)



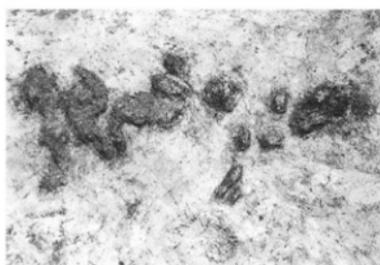
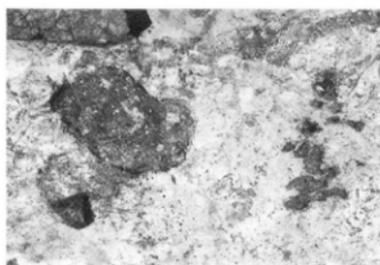
南側張り出し部



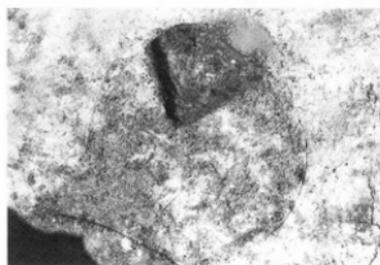
西側張り出し部



鉄製品出土状況



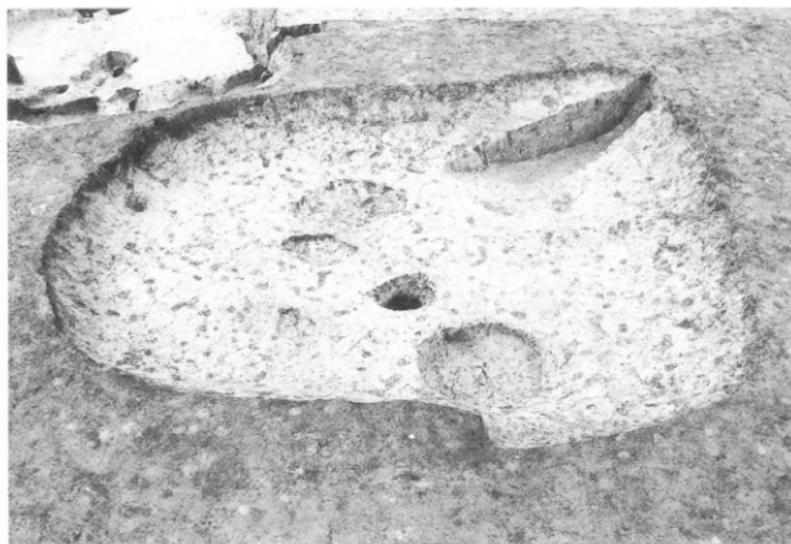
炭化材検出状況



同



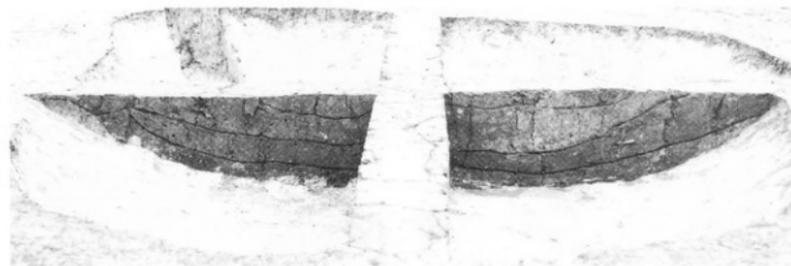
遺構周辺の地形



RE020竪穴建物跡全景(東から)



覆土断面(南北)



覆土断面(東西)

写真図版30 RE020竪穴建物跡(1)



柱穴覆土断面



調査状況



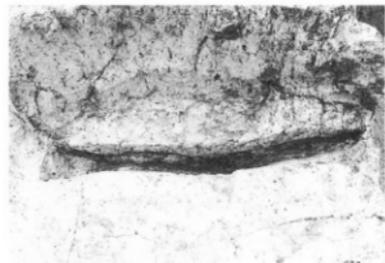
RE021 竪穴建物跡全景(南から)



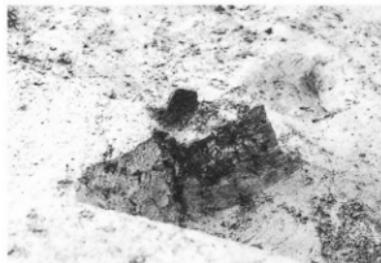
覆土断面(南北)



覆土断面(東西)



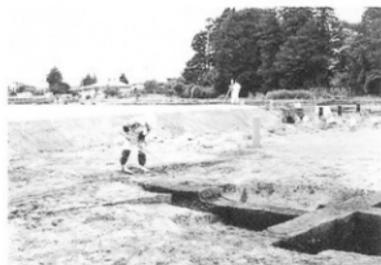
土坑覆土断面



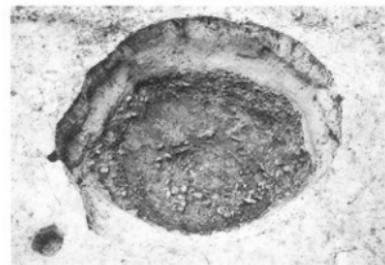
須恵器出土状況



釘出土状況

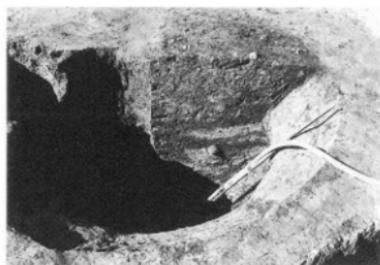
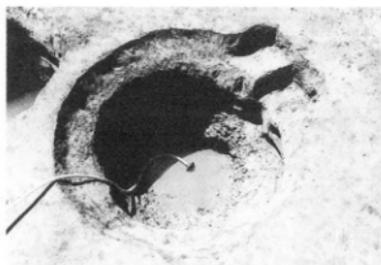


調査状況

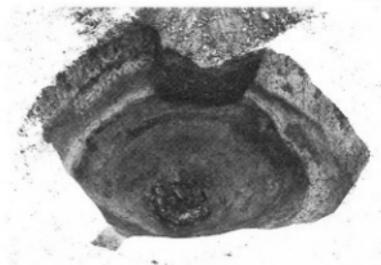


RI010井戸跡





RI011井戸跡

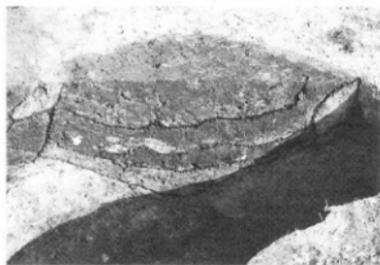


RI014井戸跡

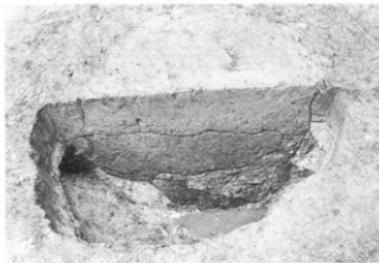


同 焼土検出状況

遺構周辺の地形



RI016井戸跡



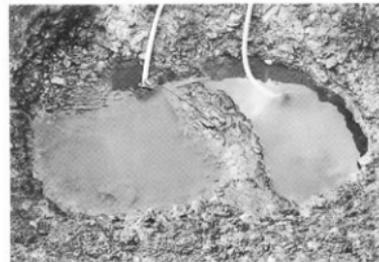
RI018井戸跡



RI019井戸跡(東から)



覆土断面



底面出土木製品



RI020井戸跡



RI021井戸跡



調査状況

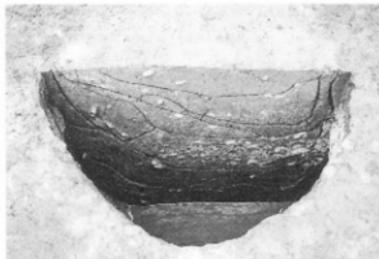
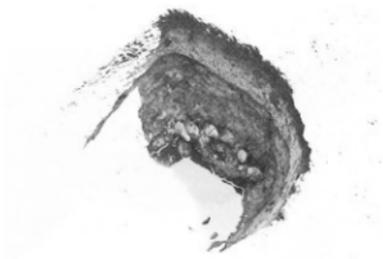


RI022井戸跡

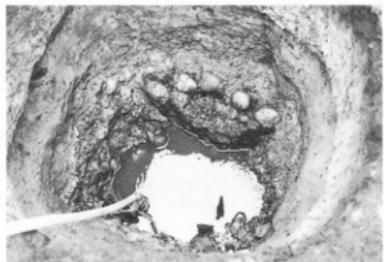


RI023井戸跡





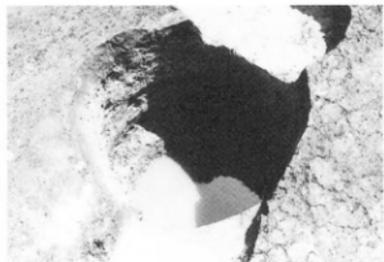
RI024井戸跡



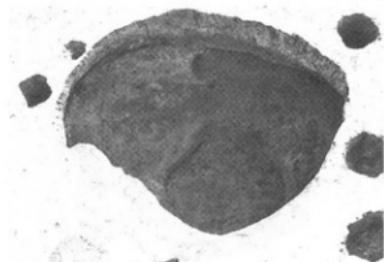
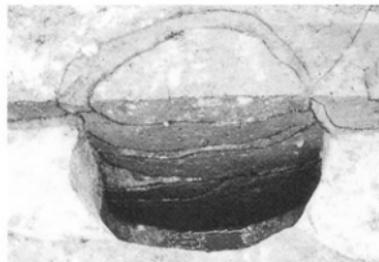
同 井戸底



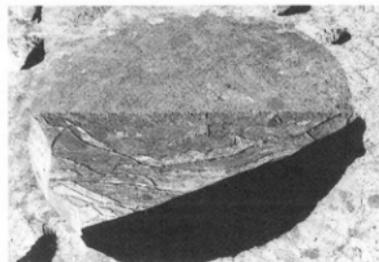
同 遺構周辺の地形



RI025井戸跡

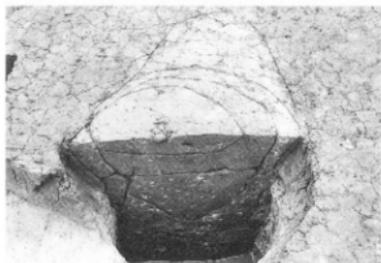


RI026井戸跡

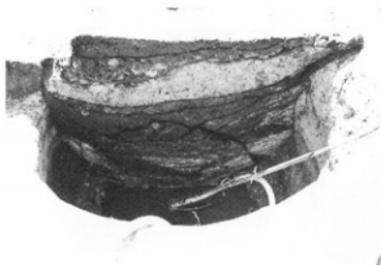
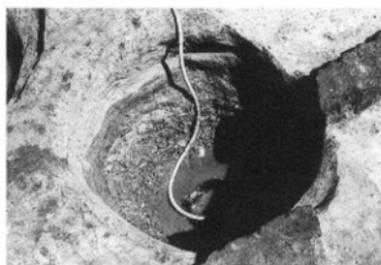




RI027井戸跡



RI028井戸跡



RI029井戸跡



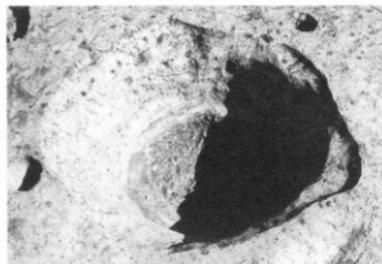
同 曲げ物出土状況



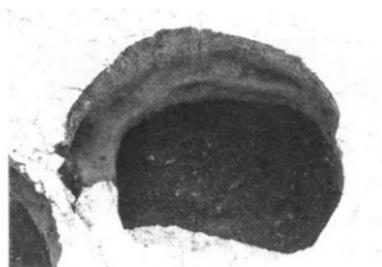
同 覆土崩落状況



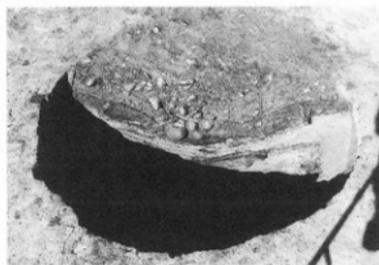
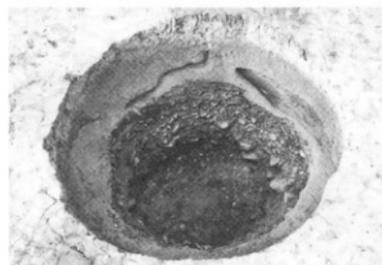
Ri030井戸跡



Ri031井戸跡



Ri032井戸跡



Ri033井戸跡

写真図版38 Ri030~033井戸跡



RI034井戸跡



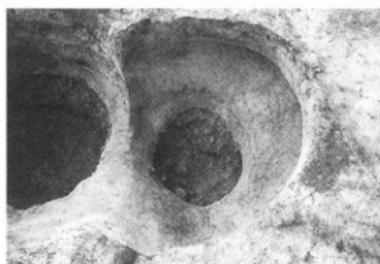
RI035井戸跡



RI035検出状況



RI036~038検出状況

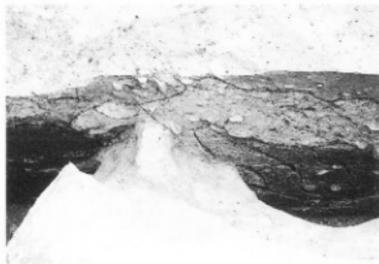


RI036井戸跡

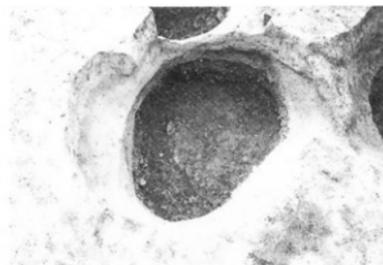




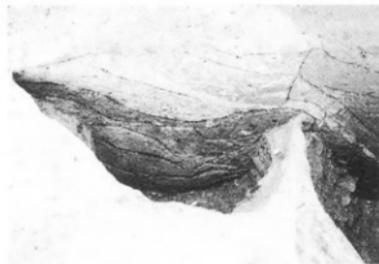
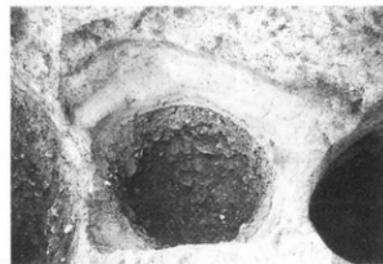
RI037井戸跡



RI036、037重複状況



RI038井戸跡



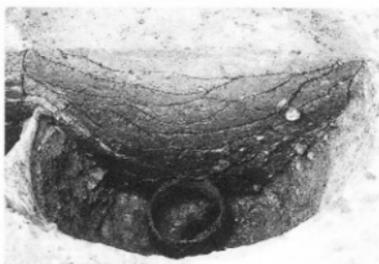
RI040井戸跡



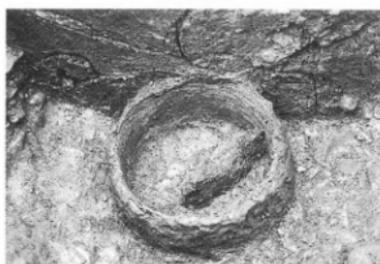
RI039井戸跡



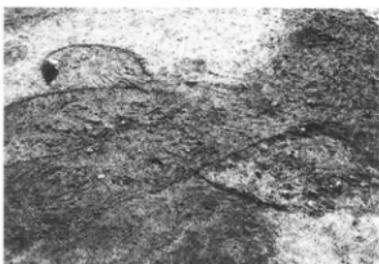
同 曲げ物



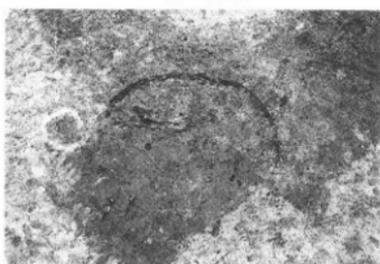
同 覆土断面



同 覆土と曲げ物



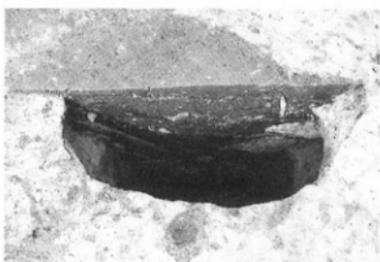
RI039、040井戸跡、RD131土坑検出状況

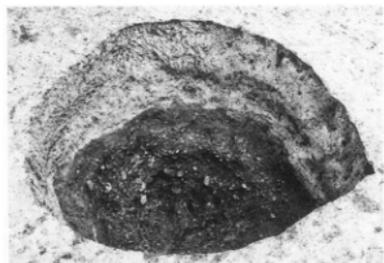


RI041井戸跡検出状況

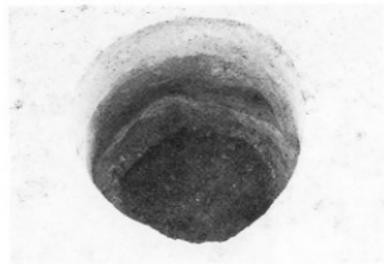


RI041検出状況

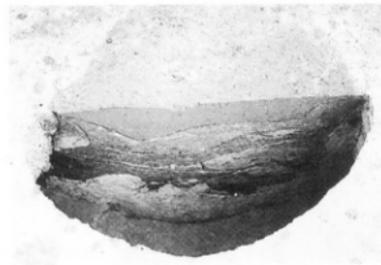
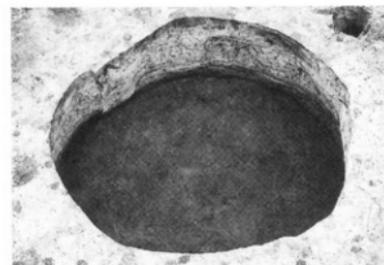




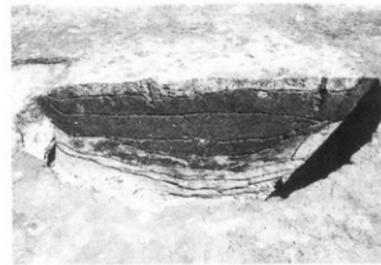
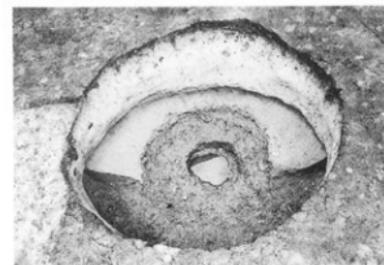
RI042井戸跡



RI043井戸跡



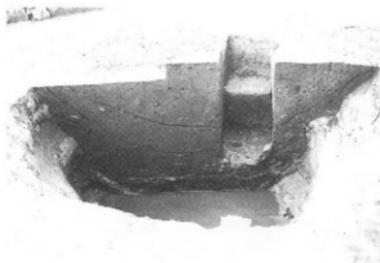
RI044井戸跡



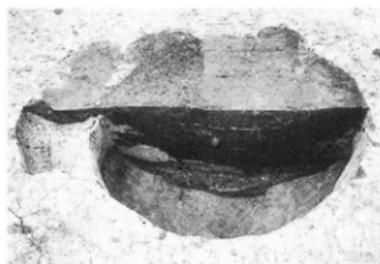
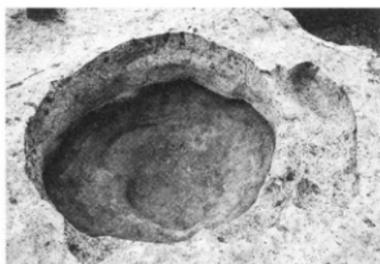
RI045井戸跡



RI046井戸跡



RI047井戸跡

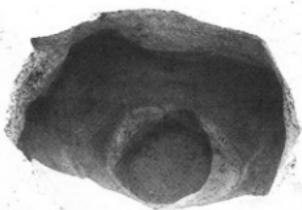


RI048井戸跡



RI049井戸跡

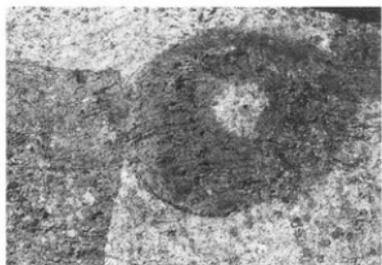
写真図版43 RI046～049井戸跡



RI050井戸跡

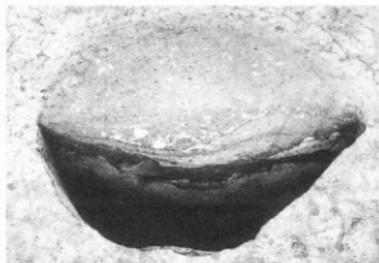


RI051井戸跡



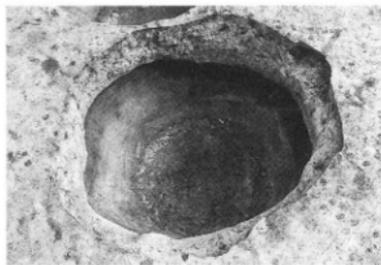
RI051井戸跡検出状況

RI045~047井戸群

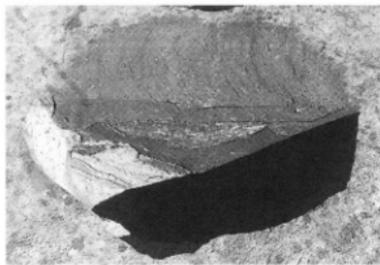


RI052井戸跡

写真図版44 RI050~052井戸跡



RI053井戸跡



RI053井戸跡焼土検出状況



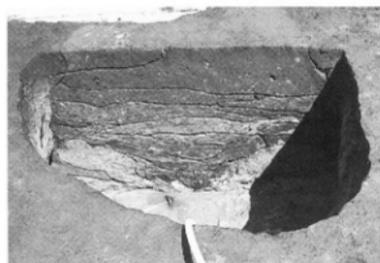
四 遺構周辺の地形

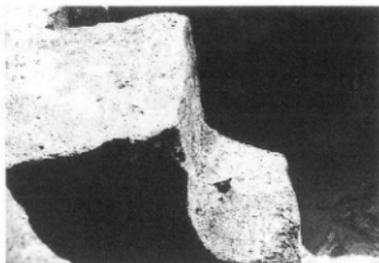
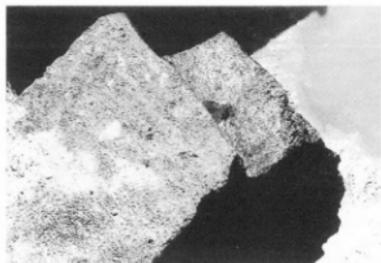


RI054井戸跡



RI055井戸跡

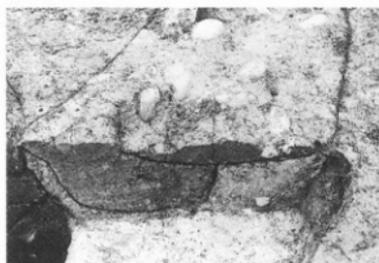
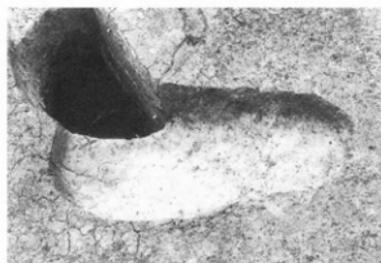




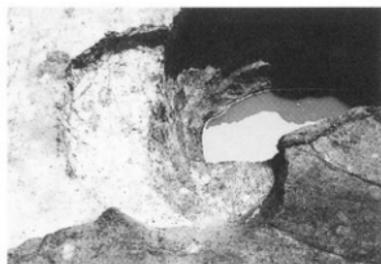
同 遺物出土状況



RD118土坑

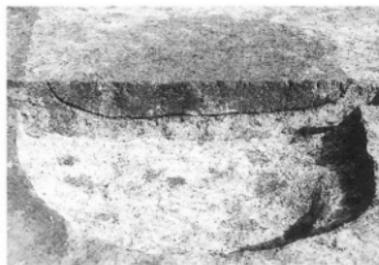
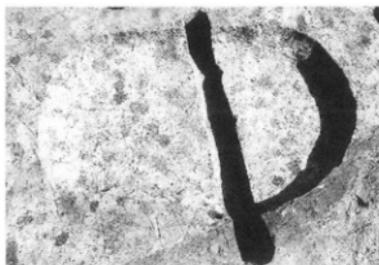


RD119土坑

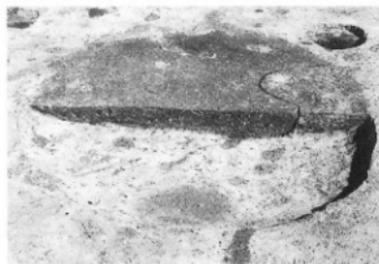
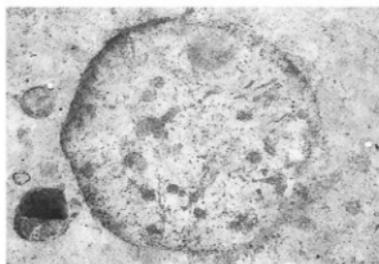


RD120土坑

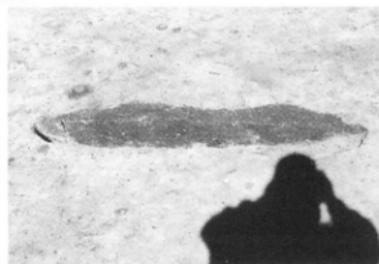
写真図版46 RI055井戸跡(2)、RD118~120土坑



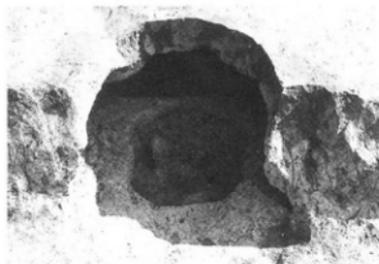
RD121土坑



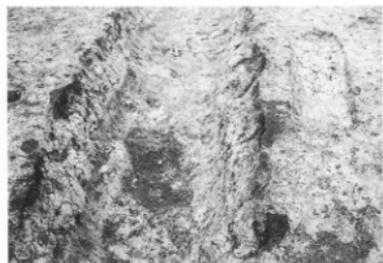
RD122土坑



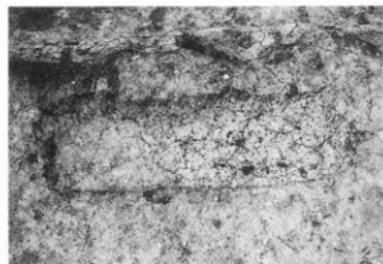
RD123土坑



RD124土坑



RD125土坑

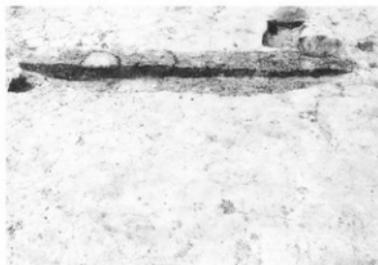


同

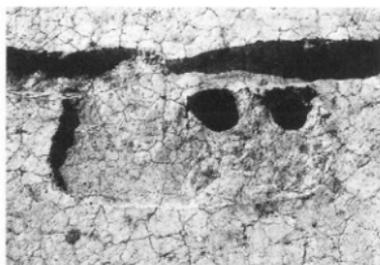
同 遺構周辺の地形



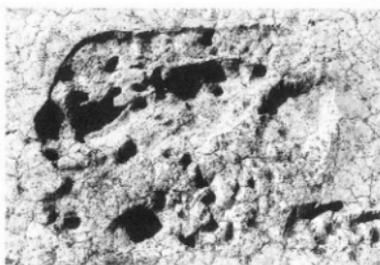
RD126土坑



RD127土坑



RD128土坑



RD129土坑



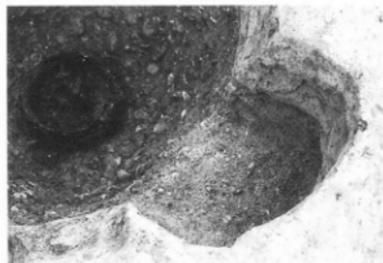
同 覆土東西断面



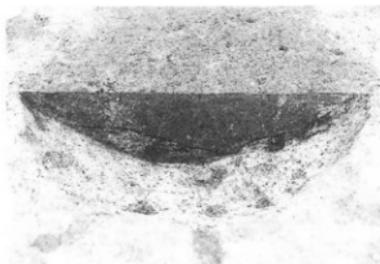
同 遺構周辺の地形



RD130土坑



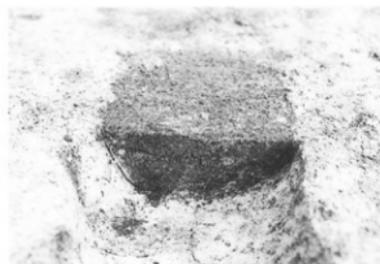
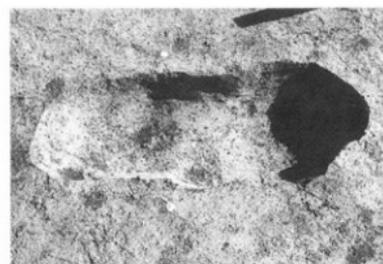
RD131土坑



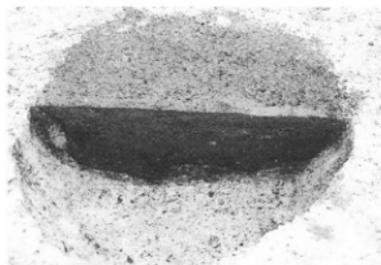
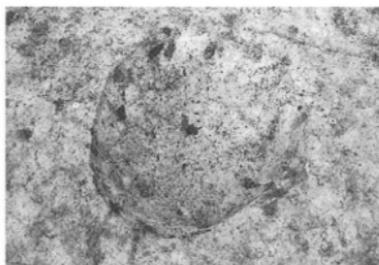
RD132土坑



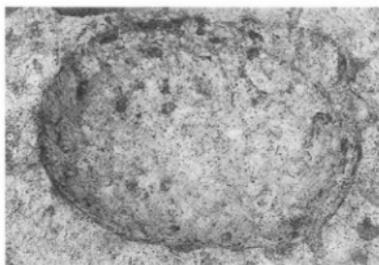
RD133土坑



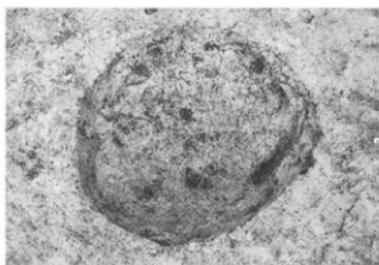
RD134土坑



RD135土坑



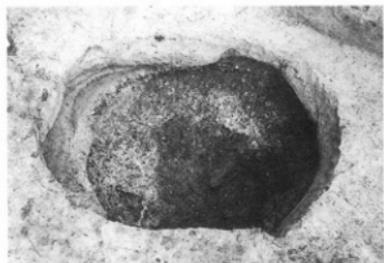
RD136土坑



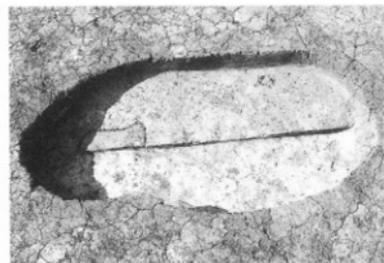
RD137土坑



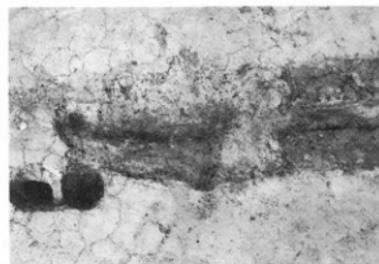
RD138土坑



RD139土坑



RD140土坑



RF002カマド状遺構

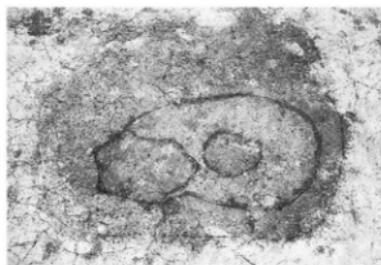


同



同 遺構周辺の地形

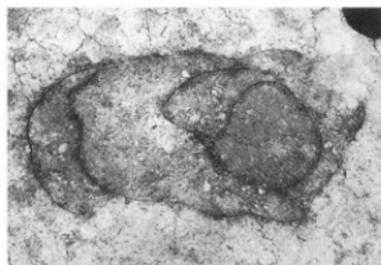
写真図版52 RD139・140土坑, RF002カマド状遺構



RF003カマド状遺構



同



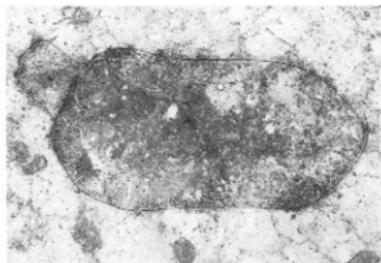
RF004カマド状遺構



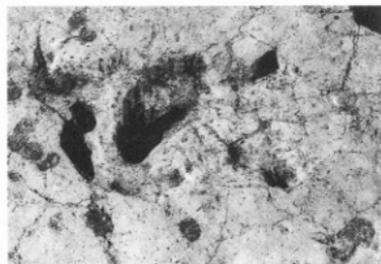
同



同 遺構周辺の地形



RF005カマド状遺構



同

RF006カマド状遺構



中央区南部

中央区北部



中央区東部

中央区西部

写真図版54 RF005・006カマド状遺構、中央区地形



RG015堀跡完掘後



同 検出時



A-A断面



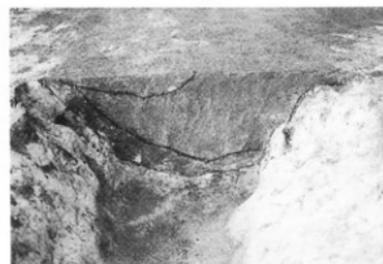
B-B断面



C-C断面



D-D断面



E-E断面



F-F断面



G-G断面

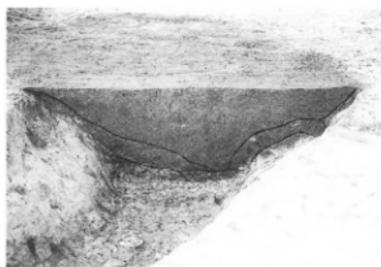


H-H断面

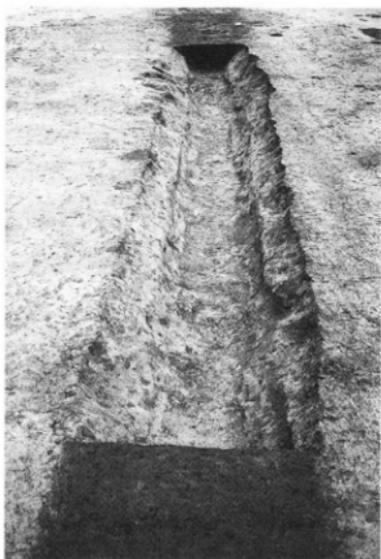
写真図版56 RG015堀跡(2)



I-I断面



J-J断面



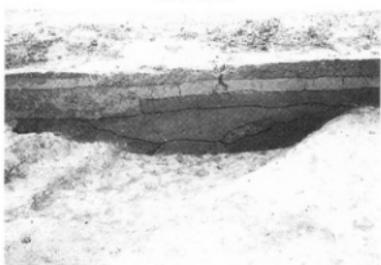
H-H断面付近



RG016堀跡

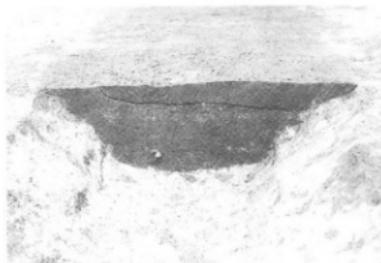


A-A断面

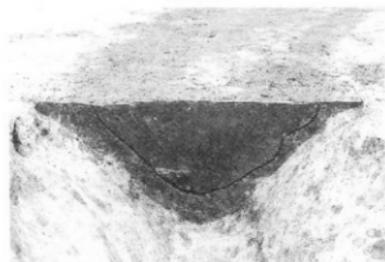




B-B断面



C-C断面



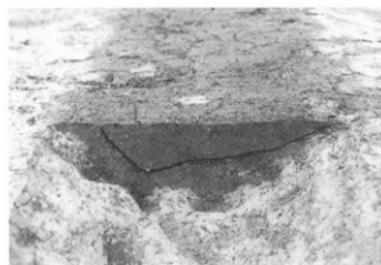
D-D断面



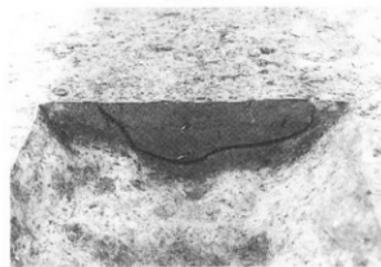
同 遺構周辺の地形



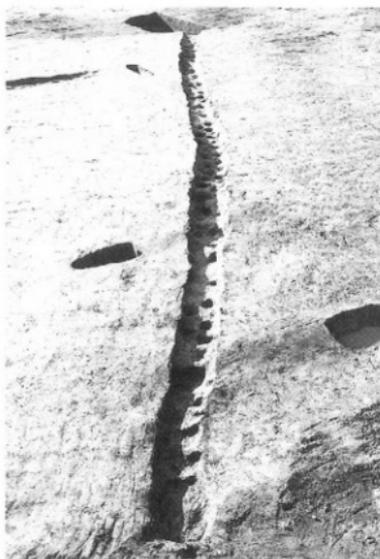
RG017溝跡



A-A断面



B-B断面



RG025溝跡



同 覆土断面



調査風景



RG034溝跡



A-A断面



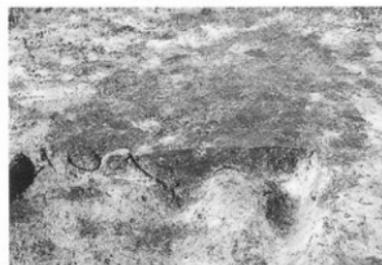
B-B断面



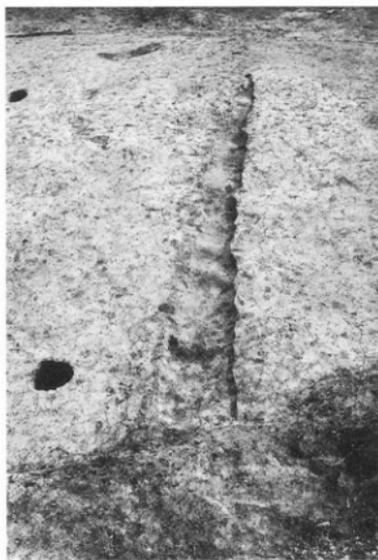
RG036.038?溝跡(西から)

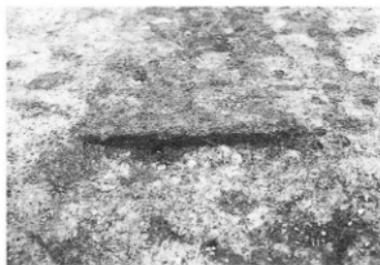


RG036溝跡覆土断面

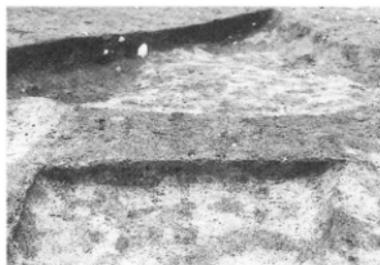


RG038溝跡

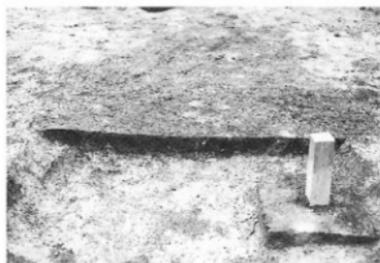




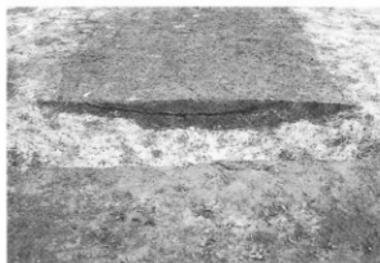
RG038溝跡A-A断面



同 B-B断面



同 C-C断面



同 D-D断面



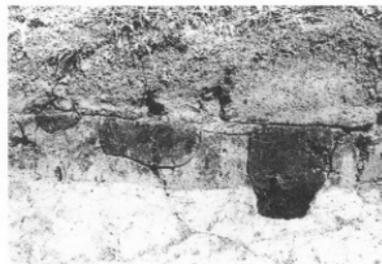
RG040溝跡



A-A断面



B-B断面



C-C断面



D-D断面



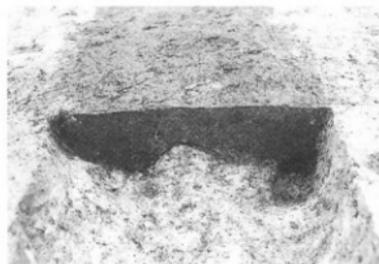
E-E断面



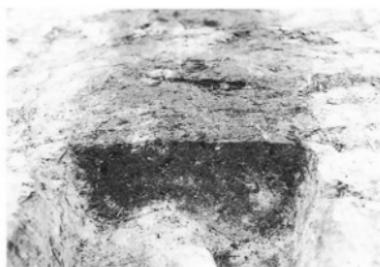
F-F断面



G-G断面



H-H断面



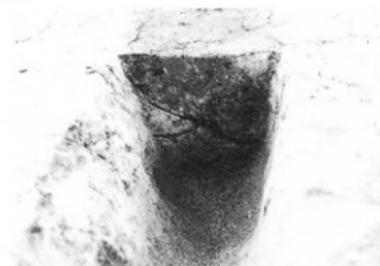
I-I断面



RG041溝跡



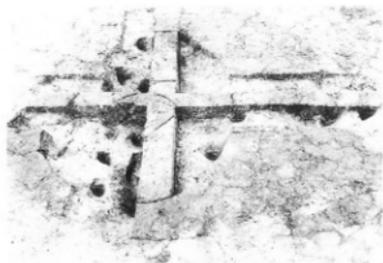
RG042溝跡



A-A断面



B-B断面



C-C断面



RG043, 044溝跡



RG044溝跡



RG043溝跡



調査風景



排土運搬



中央区西側Ⅱ層調査状況



同



中央区東側Ⅱ層調査状況



前年度調査区の状況



中央区北東端



中央区南東端



中央区中央北



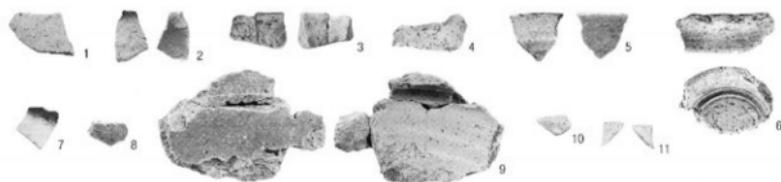
中央区中央南



中央区北西端

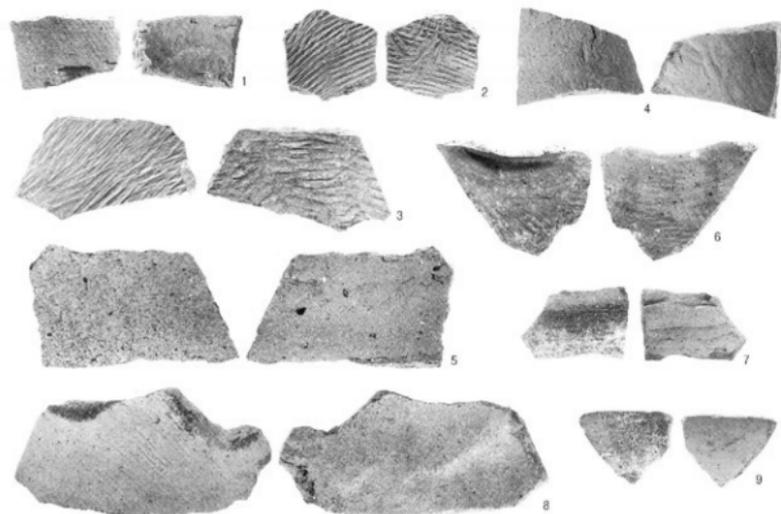


井戸跡調査状況



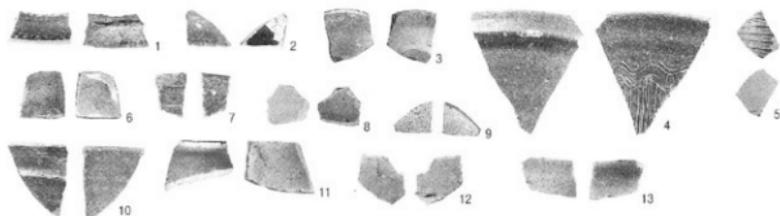
土師器・土師質土器類表

No.	出土地点・層位	器種・形状	残存状況	外面 (口縁部/肩部/底部)	内面 (口縁部/肩部/底部)	備考	図の有無	本文記載
1	RF019段穴建物跡 柱穴11層土上部	小皿・碗形	小片	ヘラミナ?	摩滅			
2	RF019段穴建物跡C2	杯・口縁部	小片	摩滅	ヘラミナ?	内面黒色染付・筋土跡多	833c	
3	RF005段穴建物跡・中層	甕・口縁部	小片	ヘラミナ?	ヘラミナ?	内外やや摩滅	833c	
4	RF047段 壺・口	甕・胴部	小片	ヘラミナ?	(面石か)			
5	RF015築跡 甕・口	杯・口縁部	小片	ヘラミナ?	ヘラミナ?	内面黒色染付・筋土・中や摩滅	833c	
6	RF015築跡 甕・口	高台付杯・底	1/4弱以下	ロクロナ?	摩滅	筋土跡多い	833c	
7	RF016築 甕・口	杯・口縁部	小片	摩滅(ヘラミナ?)	ヘラミナ?	内面黒色染付		
8	RF025築	甕・口縁部	小片	摩滅	摩滅			
9	平水(原道)1106-6段建物跡(中層) 柱脚跡	甕・口縁部	1/5弱未満	ヘラミナ?	ロクロナ?	染付は外は底面	833c	p.189
10	中央区 西馬場穴窯跡(遺土)	不明	取崩小片	摩滅			833c	p.142
11	春日ダリッド・1・B層	水溝・口縁部	1/4弱未満				833c	p.142



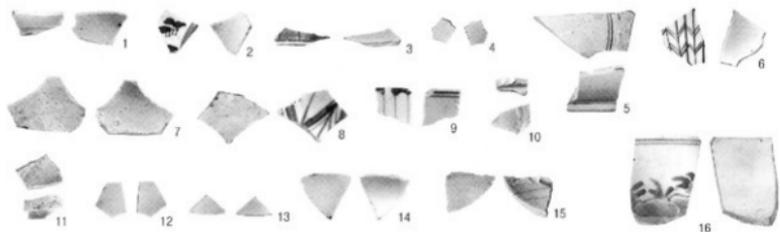
須恵器観察表

No.	出土地点・層位	器種・形状	残存状況	外面 (口縁部/肩部/底部)	内面 (口縁部/肩部/底部)	備考	図の有無	本文記載
1	RF016段穴建物跡外 No.1(Ⅱ層)	甕・胴部	小片	平行タタキ目(取崩等)	当て具痕(遺土下)		833c	
2	RF021段穴建物跡 No.3(8段?)	甕・胴部	小片	平行タタキ目	当て具痕(平行タタキ目)	内外向輪化焼付着	833c	
3	RF006段穴跡 甕土上部(Ⅱ土?)	甕・胴部	小片	平行タタキ目	当て具痕(平行タタキ目)		833c	
4	RF050段穴跡-1段?	甕・胴部	1/5弱未満	平行タタキ目?	当て具痕	外面多量鉄痕的		
5	RF015築跡 甕土下部	甕・胴部	小片	平行タタキ目?	当て具痕?	外面自然焼・筋土跡多い	833c	
6	RF016築 (南西)	甕・胴部	1/4弱未満	溝口タタキ目/順口タタキ目	順口タタキ目/順口タタキ目	跡跡(平行タタキ目)状赤て具痕	833c	
7	北文・甕土	甕・胴部	小片	ヘラミナ?	ヘラミナ?	外面自然焼	833c	
8	春日町5丁目 西馬場 甕土上部(後書面)	甕・胴部	1/5弱未満	平行タタキ目	当て具痕	外面自然焼?	833c	
9	RF015築跡 甕 甕土上部(取崩)	甕・胴部	小片	ヘラミナ?	ロクロナ?	外面自然焼	833c	



真器観察表

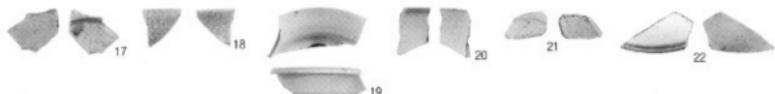
No	出土地点・層位	器種・部位	残存状況	動土・埋藏、給付など	製作地・年代	備考	図の名称	本文記載
1	R1001(宮穴雑物土 北1区層?)	釜・煎鍋の高台?	小片		釜、煎鍋の台台なら13~14世紀??		830a	
2	北1区・表土	器底不明	小片		産地不明・19C以降		830b	
3	北1区・表土	皿	小片	内面釉施	産地不明・時期不明		830c	
4	北1区・6C・I層	器底・口縁	1/8割?		産地不明・19C以降か		830d	
5	6A~B・表土(耕作土)	煎鍋(或鍋蓋)	小片		大船橋馬?・18C後~19C前?		830e	
6	6A~B・表土(耕作土)	鍋	小片		大船橋馬?・18C		830f	
7	6A~B・表土(耕作土)	碗、皿等	小片		産地不明・時期不明	中世ではない	830g	
8	6A~B・表土(耕作土)	碗、皿等	小片		産地不明・時期不明	中世ではない	830h	
9	6A~B・表土(耕作土)	碗、皿等	小片		産地不明・時期不明	中世ではない	830i	
10	9B・I層(水田耕作土)	漆器	小片		産地不明・19C以降		830j	
11	9B・I層(水田耕作土)	皿	小片		大船橋馬?・18C		830k	
12	9B・I層(水田耕作土)	碗・口縁	小片		大船橋馬?・19世紀		830l	
13	9B・I層(水田耕作土)	皿	小片		大船橋馬?・18C		830m	



磁器観察表

No	出土地点・層位	器種・部位	残存状況	動土・埋藏、給付など	製作地・年代	備考	図の名称	本文記載
1	6A~B・表土(耕作土)	皿	小片		伊前か?・18C後半以降		840a	
2	北1区・表土	器底不明	小片		伊前?・18C頃か?	天城も不明	840b	
3	北1区・表土	器底不明	小片		伊前?・18~19C頃か		840c	
4	北1区・表土	碗小皿	小片		大船橋馬?・19C(1750前後?)		840d	
5	北1区・6C・I層	皿・底	小片		肥前・吉野(1750~1800)	伊前系か	840e	
6	9B・I層(水田耕作土)	碗	小片	矢羽根文	肥前・吉野(1800~1740)		840f	
7	9B・I層(水田耕作土)	皿	小片	内面、底・目輪刺文	肥前・吉野(18世紀後半)		840g	
8	9B・I層(水田耕作土)	皿	小片		肥前・吉野(1740~1800)		840h	
9	9B・I層(水田耕作土)	碗・口縁	小片	垂文文	肥前・IV~V期(18C中~19C初)		840i	
10	9B・I層(水田耕作土)	煎鍋・底	小片		産地不明・滑気以降		840j	
11	9B・I層(水田耕作土)	皿・底	小片		伊前・吉野(18世紀後半)		840k	
12	9B・I層(水田耕作土)	碗、蓋等	小片		産地不明・年代		840l	
13	9B・I層(水田耕作土)	碗、蓋等	小片		産地不明・年代		840m	
14	9B・I層(耕作土)・表土10cm	碗	小片	染付	産地不明・19C以降		840n	
15	9B・I層	皿	小片		肥前・V期(1850~1800)		840o	
16	9B・I層(表土)	碗	1/8割		肥前・吉野(1600~1740)		840p	

写真図版68 陶器、磁器(1)(S-1/3)



磁器観察表

No	出土地点・層位	器種・形状	瓦状 状況	割上・母須・絵付など	製作期・年代	備考	図の 右側	本文 記載
17	9B・I-E層(上部)	皿	小片		肥前・古期か?		86図	
18	9B・I-E層	皿・口縁	小片		肥前・古期?(不詳)		86図	
19	中央区段13区上段の西に置いてあった	皿・口縁	1/5割上		産地不明・古代以降		86図	
20	中央区段13区上段の西に置いてあった	皿・口縁	小片		肥前・18C前半?		86図	
21	中央区段13区上段の西に置いてあった	皿・口縁	小片		肥前・18C前半		86図	
22	中央区段13区上段の西に置いてあった	皿	1/6割上		肥前・18C前半以降		86図	



石器観察表

No	出土地点・層位	器種	最大寸測値(cm)			重量 (g)	石質 (産地)	磨石 状況	備考	図の右側
			長さ	幅	厚さ					
1	9E019層穴礎物座・4層	石函	12.1	1.6	0.35	57	頁岩(徳司山脈?・新生代新第三紀)	両面欠損	凸差	86図
2	9E019層穴礎物座Q3 上層	石函	5.3	1.7	0.7	4.5	頁岩(徳司山脈?・新生代新第三紀)	片面欠損?	凸差	86図
3	9E019層穴礎物座	石函	4.4	2.8	0.4	3.9	頁岩(徳司山脈?・新生代新第三紀)	欠損?	凹差	86図
4	9E015層床	砥石?	11.8	5.7	2.8	376.2	砂岩(奥山山脈・新生代新第三紀)	欠損	両面平削	86図
5	9E105層片 No.1(4層?)	砥石?				172	不明	破片	表面スス状物質と本文参照	86図



埴物土塊観察表

No.	出土地点・層位	種類	保存状況	重量(g)	特徴	図の有無	本文記載
1	KE014堀穴遺物群 検出層	埴石片	破片集合	70.4	5つの異なる小片の集合。他に、1点土師器小片らしきものを含む。		p.141
2	KE016堀穴遺物群 柱穴16	土器破片-金平胎	2片	4.1	表面は比較的滑らかで取みがある。		
3	KE019堀穴遺物群Q3上層	土器破片-金平胎	摩耗ひどい	0.7	表面は平滑して非常に滑らか		

銭貨観察表

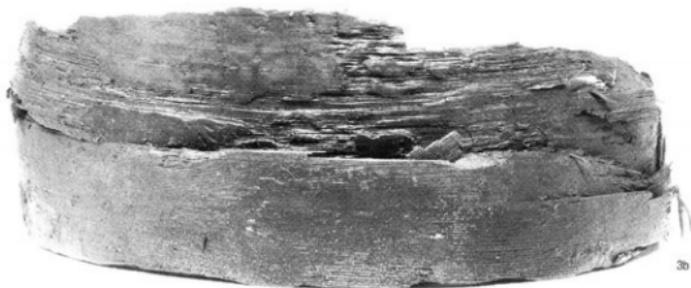
No.	出土地点・層位	種類	金属の種類	保存状況	直径(cm)	重量(g)	流通年代	特徴	図の有無
1	KE007堀穴遺物群 張り出し部No.11(検出層)	流銭通貨	銅	短冊欠損(調査時?)	22	15	1368年以降	背に「背文字(右)「一銭」?	86回



木製品観察表

No.	出土地点・層位	種類	保存状況	物尺寸(単位)(cm)			材質	備考	図の有無	本文記載
				長さ(単位)	幅	厚さ				
2	KE029井戸跡・堀	円筒容器	欠損	直径不明	不明	不明			84回	

写真図版70 土製品、銭貨、木製品(1)(土製品 S=1/2、銭貨 1/1、木製品の2a S=1/8、2b S=1/4)



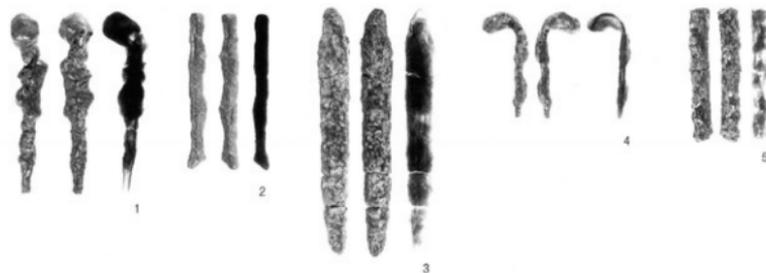
木製品観察表

No.	出土地点・層位	種類	残存状況	最大寸法値(cm)			材質	備考	図の 頁数	本文 記数
				長さ(直線)	幅	厚さ				
1	京田19号戸跡・痕	障物形?	二本に分かれて	137	19	16	ヤナギ属	接合部奇みか(切跡?)・年輪方向不明→太 いのが一部?	84回	p.142
3	京田28号戸跡・痕	円形函物	欠損	直径不明			スギ		84回	p.142
4	京田14号戸跡・痕	遺物	ボロボロは割れ打ちかけ				スギ	濡りかかっているものも外面様子目、内面 紋ヤギキ		



木製品観察表

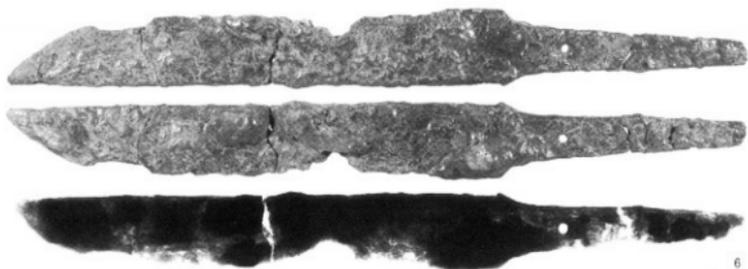
No.	出土地点・層位	種類	残存状況	最大寸測値(cm)			材質	備考	図の 番号	本文 記載
				長さ(直径)	幅	厚さ				
5	R3019井戸跡・底	板の集合	欠損、一部小の端				スギ	板目付・最も残りの長いのは、幅8.8、厚さ0.7、長さ46cm以上		
6	R3025井戸跡	板材	小片(巻物?)	13.3	2.6	0.8	スギ			
7	R3029井戸跡	土器	欠損	10.1	1.2	0.5	ゴサツ新	土器と取り上げ・両面未加工(自然の皮?)		p.149



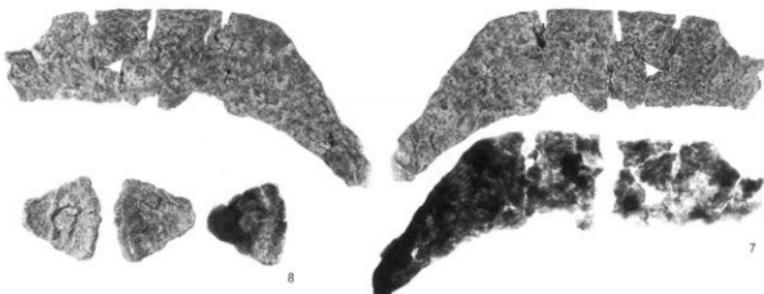
鉄製品観察表

No.	出土地点・層位	種類	残存状況	最大寸測値(cm)			重量 (g)	備考	図の 番号	本文 記載
				長さ	幅	厚さ				
1	R3016壺穴 母次10 No.2	釘	土結剥れひどい	7.3	1.8	0.9			85図	
2	R3021壺穴 No.2(3層)	釘	サビ剥れひどい	6.4	0.8	0.6	6.2		85図	
3	R3013壺穴 No.1(3層下部)	刀子	完形?	10.2	1.2	0.7	10.3		85図	
4	中央区 榎穴No.175南側の遺土	刀子	欠損	4.4	1.8	0.9	3.5	Sと同一物否?(適合し合い)	85図	
5	〃	刀子?	欠損	5.0	0.9	0.7	3.6	4と同一物否?(適合し合い)	85図	

写真図版72 木製品(3)、鉄製品(1)(木製品 S=1/4、鉄製品 S=1/2)

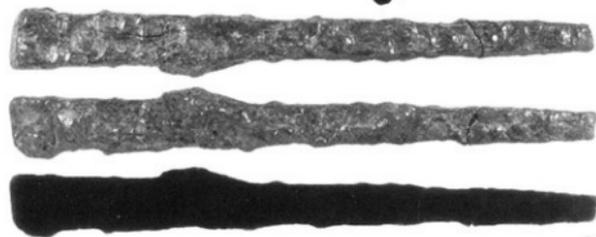


6

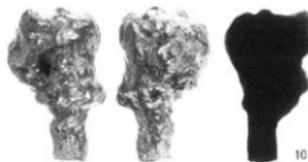


8

7



9



10

鉄製品観察表

No	出土地点・層位	種類	残存状況	最大寸法値(mm)			重量(g)	備考	国の 有様	本文 記載
				長さ	幅	厚さ				
6	K2013層位 No.2(4層中)	刀	欠先端	29.6	3	1.1	99		85図	
7	K2015層 重畳検出部	種	欠先端	15	4.1	0.8	50.7	断面角の錆がっている	85図	
8	K2019層位 No.1(9層上層)	小刀	破片?	3.6	3.4	0.8	8.9	形状あるいは用途不明	85図	
9	K2019層位 No.1(9層上)	小刀	欠先端	25.6	2.8	2	177.9	断面状・断面も欠損?	85図	p.142
10	堺東区 高麗層位No.201層上	不明	欠損	6	3.7	3	66.8	形が少しい一級鉄杖・鉄棒?	85図	p.142

写真図版73 鉄製品(2)(S-1/2)

報告書抄録

ふりがな	やもりいせきだいいじゅうに・じゅうさんじはくつちょうさほうこくしょ						
書名	矢盛遺跡第12・13次発掘調査報告書						
副書名	盛岡南新都市土地区画整理事業関連遺跡調査						
巻次							
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	第534集						
編著者名	金子昭彦・千葉正彦・小林弘卓・藤田 祐						
編集機関	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター						
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地 TEL (019)638-9001						
発行年月日	2009年2月27日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
矢盛遺跡 (第12・13次)	岩手県盛岡市飯岡 新田4地割 6-213か	03201 LE26- 0139	39度 40分 26秒	141度 08分 01秒	2007.05.01 ～ 2007.11.29	18,343㎡ (第12次) 1,040㎡ (第13次)	盛岡南新都市土地区画整理事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項	
矢盛遺跡 (第12・13次)	狩猟、 採集跡	縄文時代	袋状土坑 3基 陥し穴状遺構 1基	石鏃 3点		当時の立地から、 通常の集落とは考え にくい。	
	集落跡	平安時代	溝跡 1条	土師器21点 須恵器10点 焼粘土塊 3点 紙石 1点		周囲の微高地(現 在の集落)に当時の 集落があると推測さ れる。	
	居館 および 集落跡	中世 (16世紀?) ～近世	竪穴建物跡 16棟 掘立柱建物跡 25棟 井戸跡 42基 土坑 23基 カマド状遺構 5基 根張 2条 溝跡 10条	洪武通寶 1点 鉄製品10点(釘2、刀3、刀1、 鎌1、鉄鋌?1、容器?1、 鉄滓?1) 木製品7点(陽物形?1、 曲刀物3、板材など3) 中世陶器 1点 石製容器 1点 近世以降陶器 12点 近世以降磁器 25点		方角の居館跡。 居館跡の南側に、 水路に沿って集落跡 が順に延びる。 鉄製品は、竪穴建 物を中心とした遺構 から出土。 木製品は、全て井 戸跡から出土。	
要約	<p>遺跡範囲は、東側に底辺を持つ二等辺三角形に近い形をしている。これまでの、主として南北斜辺、底辺と、各辺に沿って調査が進められてきた(今回の城北、南調査区も)。</p> <p>今回初めて遺跡の中心部を比較的広く調査したが(北調査区)、低地が中心で削平されていたこともあって遺構は検出されなかった。</p> <p>本遺跡は、根張の自然堤防状の段丘とその周囲の低地からなっており、地形によって異なった性格が認められるようだ。北斜辺の北半分は、大きな旧河道に面しており、縄文時代の狩猟場として多くの陥し穴状遺構が列をなす。最北調査区は、この傾向が顕著な陥し穴状遺構が1基発見された。</p> <p>東側の底辺に当たる部分は低地が中心なのか、遺構・遺物に乏しく近世後半以降が主体である。今回の南調査区も、やはり遺構・遺物は発見されなかった。</p> <p>最も広い中央調査区は、前年度の第10・11次調査の続きで、中近世(16世紀中心?)の居館跡、集落跡の全貌が明かになった。中央調査区は、遺跡の南限に接する低地である。</p> <p>遺跡の南限となる南斜辺は、現在の堰に沿っているが、集落跡もこれに沿って西側に延び、また居館跡や掘立柱建物跡、竪穴建物跡等の軸方内も、これに沿っている。</p> <p>中央区では、縄文時代の袋状土坑も発見されている。</p>						

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第534集

矢盛遺跡第12・13次発掘調査報告書

盛岡南新都市上地区面整理事業関連遺跡調査

印刷 平成21年2月24日

発行 平成21年2月27日

- 編集 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地
電話 (019) 638-9001
- 発行 独都市再生機構岩手都市開発事務所
〒020-0851 岩手県盛岡市向中野字向中野41番地9号
電話 (019) 636-1511
盛岡市都市整備部盛岡南整備課
〒020-8531 岩手県盛岡市津志田14地割37番地2号
電話 (019) 651-4111(代)
- 財団法人岩手県文化振興事業団
〒020-0023 岩手県盛岡市内丸13番1号
電話 (019) 654-2235
- 印刷 株式会社 栄興版社
〒020-0816 岩手県盛岡市中野1-4-14
電話 (019) 624-3456

